

平成30年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査
(平成30年度調査)

(2) 介護ロボットの効果実証に関する調査研究事業
報 告 書

目 次

1.	事業実施概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査検討組織の設置と開催状況.....	1
(3)	事業の対象	2
(4)	主な調査項目	4
(5)	調査方法	5
2.	調査結果	7
(1)	施設・事業所調査（郵送調査）	7
(2)	利用者調査（郵送調査）	47
(3)	職員調査（郵送調査）	64
(4)	施設・事業所調査（訪問調査）	82
(5)	利用者調査（訪問調査）	101
(6)	職員調査（訪問調査）	115
3.	参考資料	119
(1)	ヒアリング調査結果概要	119
(2)	調査票.....	127

介護ロボットの効果実証に関する調査研究事業の調査検討組織
設置要綱

1. 設置目的

有限責任監査法人トーマツは介護ロボットの効果実証に関する調査研究事業の調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計、分析、検証、報告書の作成等の検討を行うため、以下のとおり「介護ロボットの効果実証に関する調査研究事業の調査検討組織」（以下、「調査検討組織」という。）を設置する。

2. 実施体制

- (1) 本調査検討組織は、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 副院長 近藤 和泉を委員長とし、その他の委員は以下のとおりとする。
- (2) 委員長が必要があると認めるときは、本調査検討組織において、関係者から意見を聴くことができる。

3. 調査検討組織の運営

- (1) 調査検討組織の運営は、有限責任監査法人トーマツが行う。
- (2) 前号に定めるもののほか、本調査検討組織の運営に関する事項その他必要な事項については、本調査検討組織が定める。

介護ロボットの効果実証に関する調査研究事業の調査検討組織 委員等

委員長	近藤 和泉（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 副院長）
委員	五島 清国（公益財団法人テクノエイド協会 企画部長）
委員	新田 収（公益社団法人 日本理学療法士協会 日本支援工学理学療法学会 副代表運営幹事 首都大学東京 健康福祉学部 教授）
委員	舟田 伸司（公益社団法人日本介護福祉士会 前常任理事）
委員	本田 幸夫（大阪工業大学 工学部 教授）
委員	梶田 和平（公益社団法人全国老人福祉施設協議会 介護保険事業等経営委員会 委員長）
委員	渡邊 慎一（一般社団法人日本作業療法士協会 制度対策部福祉用具対策委員会 委員長）

（敬称略）

【オブザーバー】

○ 厚生労働省 老健局

介護ロボット開発・普及推進室 室長補佐 松本 琢磨
室 員 平嶋 由人
室 員 永田 拓磨

(2) 介護ロボットの効果実証に関する調査研究事業

1. 調査名

- 介護ロボットの効果実証に関する調査研究事業

2. 調査目的

- 平成30年度介護報酬改定では、見守り機器の導入により効果的に介護が提供できる場合について、夜勤職員配置加算の見直しを行うとしたところである。

あわせて、平成30年度介護報酬改定に関する審議報告では、今後の課題として、介護ロボットの幅広い活用に向けて、効果実証等を進めるべきといった内容が明記されたところである。

本事業においては、見守り機器をはじめとする介護ロボットの活用について、安全性の確保や介護職員の負担軽減・効率的な配置の観点も含めた効果の把握のほか、その幅広い活用に向けて調査を行う。

3. 検証のポイント

- ・ 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算の取得状況等の把握・検証
- ・ 介護ロボットの導入目的、導入に関する課題、活用効果等の把握・検証
- ・ 見守り機器の活用による長期的な効果の把握・検証 等

4. 調査対象

- 介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設（介護医療院）、特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護 等

【施設調査（ヒアリング調査を含む）、利用者調査、職員調査】

5. 調査項目

- ・ 介護施設等における介護ロボットの活用状況・活用効果（施設調査）
- ・ 介護ロボットの活用による利用者への効果（利用者調査）
- ・ 介護ロボットの活用による職員への効果（職員調査） 等

1. 事業実施概要

(1) 調査の目的

平成30年度介護報酬改定では、見守り機器の導入により効果的に介護が提供できる場合について、夜勤職員配置加算の見直しを行うとしたところである。

あわせて、平成30年度介護報酬改定に関する審議報告では、今後の課題として、介護ロボットの幅広い活用に向けて、効果実証等を進めるべきといった内容が明記されたところである。

本事業においては、見守り機器をはじめとする介護ロボットの活用について、安全性の確保や介護職員の負担軽減・効率的な配置の観点も含めた効果の把握のほか、その幅広い活用に向けて調査を行う。

(2) 調査検討組織の設置と開催状況

介護ロボットの効果実証に関する調査研究事業の調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計、分析、検証、報告書の作成等の検討を行うため、介護ロボットの効果実証に関する調査研究事業の調査検討組織（以下、「調査検討組織」という。）を設置した。

調査検討組織の運営は、有限責任監査法人トーマツが行った。

● 開催状況

<第1回>

○日時：平成30年9月13日（木）14:00～16:00

○場所：有限責任監査法人トーマツ 東京事務所

○議題：

1. あいさつ
2. 委員紹介
3. 本事業について
4. 調査概要について
 - 4.1 アンケート調査について
 - 4.2 訪問調査について
5. その他

<第2回>

○日時：平成31年1月29日（火）10:30～12:30

○場所：有限責任監査法人トーマツ 丸の内二重橋ビル

○議題：

1. あいさつ
2. 調査結果（速報）について
 - (ア) アンケート調査について

(イ)訪問調査について

3. 調査報告書案（骨子）について
4. 今後のスケジュール
5. その他

(3) 事業の対象

① 対象施設

ア 平成 28 年度「介護ロボット等導入支援特別事業」の対象施設

- ・ 介護老人福祉施設
- ・ 介護老人保健施設
- ・ 介護療養型医療施設または介護医療院
- ・ 特定施設入居者生活介護
- ・ 地域密着型介護福祉施設
- ・ 認知症対応型共同生活介護
- ・ 短期入所生活介護

イ ア以外の介護老人福祉施設及び地域密着型介護老人福祉施設（約 9,600 施設より無作為抽出）

ウ 平成 29 年度「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」の見守り機器導入施設

② 調査対象

調査は6種類あり、それぞれの対象は以下の通りである。

図表 1 調査対象

		調査方法	調査対象・回収状況
平成28年度「介護ロボット等導入支援特別事業」の対象施設並びに対象外の介護老人福祉施設及び地域密着型介護老人福祉施設調査	① 施設票 (01票)	各施設・事業所に紙の調査票を送付し、郵送にて回収した。 【母集団】11,261施設・事業所(平成30年10月時点) 【発出数】5,029施設・事業所	平成28年度「介護ロボット等導入支援特別事業」の対象施設(介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設入居者生活介護、地域密着型介護老人福祉施設、地域密着型特定施設入居者介護、認知症対応型共同生活介護、短期入所生活介護)並びに対象外の介護老人福祉施設及び地域密着型介護老人福祉施設を無作為抽出した。【回収数】1,845件【回収率】施設票36.7% 【有効回収率】施設票36.7%
	② 利用者票 (02票)	上記施設・事業所の利用者に紙の調査票を送付し、郵送にて回収した。 【母集団】11,261施設・事業所(平成30年10月時点) 【発出数】25,145件	上記施設・事業所の利用者を層化二段無作為抽出した。※協力施設に5票送付 【回収数】3,074件
	③ 職員票 (03票)	上記施設・事業所の職員に紙の調査票を送付し、郵送にて回収した。 【母集団】11,261施設・事業所(平成30年10月時点) 【発出数】25,145件	上記施設・事業所の職員を層化二段無作為抽出した。※協力施設に5票送付 【回収数】4,458件
平成29年度「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」の見守り機器導入施設調査	④ 施設票 (04票)	各施設・事業所に紙の調査票を事前送付し、訪問調査(ヒアリング)実施、調査票を回収した。 【母集団】30施設・事業所(平成30年10月時点) 【発出数】30施設・事業所	平成29年度「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」の見守り機器導入施設を対象とした。 【回収数】28件【回収率】93.3% 【有効回収率】93.3%
	⑤ 利用者票 (05票)	各施設・事業所に紙の調査票を事前送付し、訪問により調査票を回収した。 【母集団】30施設・事業所(平成30年10月時点)	上記施設・事業所の29年度調査対象利用者と同じ利用者を対象とした。【回収数】55件
	⑥ 職員票 (06票)	各施設・事業所に紙の調査票を事前送付し、訪問により調査票を回収した。 【母集団】30施設・事業所(平成30年10月時点)	上記施設・事業所の平成29年度調査の対象職員と同じ職員を対象とした。【回収数】191件

(4) 主な調査項目

調査項目は、調査目的をもとに調査対象者別に項目を設定し、調査票毎に以下の通り整理を行った。

図表 2 主な調査項目

		①アンケート調査 H27事業	②アンケート調査 特養 (無作為抽出)	③訪問調査 H29事業 (見守り機器)
施設・事業所	施設基本情報	01_問1	01_問1	04_問1(1) (2)
	介護ロボット導入状況	01_問2 (1)	01_問2 (1)	
	有			
	製品名、時期	01_問2 (2) ※1	01_問2 (2) ※1	04_問2 (1) ※1
	費用負担方法	01_問2 (3) ※2	01_問2 (3) ※2	04_問2 (2) ※2
	導入のきっかけ・目的	01_問2 (4) ※3	01_問2 (4) ※3	04_問2 (3) ※3
	導入時に配慮した点	01_問2 (5) ※4	01_問2 (5) ※4	04_問2 (4) ※4
	利用時に実施している点	01_問2 (6) ※5	01_問2 (6) ※5	04_問2 (5) ※5
	ヒヤリハット・介護事故	01_問2 (7)	01_問2 (7)	
	効果実証 (タイムスタディやアンケート)	01_問2 (8)	01_問2 (8)	
	有 効果実証事項	01_問2 (9)	01_問2 (9)	
	その他の実証方法	01_問2 (10)	01_問2 (10)	
	その他の実証データ	01_問2 (11)	01_問2 (11)	
	導入効果	01_問2 (12)	01_問2 (12)	
	見守り機器導入			
	対象利用者数	01_問2 (13) ※5	01_問2 (13) ※5	04_問3 (1) ※5
	導入前後での人員配置	01_問2 (13) ※5	01_問2 (13) ※5	04_問3 (1) ※5
	委員会設置状況	01_問2 (14) ※6	01_問2 (12) ※6	04_問3 (2) ※6
	人員配置状況	01_問2 (15) ※7	01_問2 (15) ※7	04_問3 (3) ※7
	夜勤職員配置加算の届出	01_問2 (16) ※8	01_問2 (16) ※8	04_問3 (4) ※8
	機器慣れ			04_問3 (5)
	介護負担の軽減			04_問3 (6)
	利用者の生活の質の維持・向上			04_問3 (7)
	施設運営・管理面の変化			04_問3 (8)
	利用促進に向けた課題			04_問3 (9)
	介護ロボットの課題・未導入事由	01_問2 (17)	01_問2 (17)	
	無			
	介護ロボットの課題・未導入事由		01_問2 (17)	
	ICT (情報通信技術) 等の導入・活用			
	導入機器	01_問3 (1) ※9	01_問3 (1) ※9	04_問4 (1) ※9
	有			
	介護ロボットとICT連携	01_問3 (2) ※10	01_問3 (2) ※10	04_問4 (2) ※10
	データ活用状況	01_問3 (3) ※11	01_問3 (3) ※11	04_問4 (3) ※11
満足度	01_問3 (4) ※12	01_問3 (4) ※12	04_問4 (4) ※12	
無				
導入していない理由	01_問3 (5) ※13	01_問3 (5) ※13	04_問4 (5) ※13	
介護の質向上、業務効率化	01_問3 (6) ※14	01_問3 (6) ※14	04_問4 (6) ※14	
今後のロボット導入意向	01_問4 ※15	01_問4 ※15	04_問5 ※15	
使用できなくなった場合 (介護ロボットの存在価値)			04_問6	
介護ロボットに関してご意見	01_問5 ※16	01_問5 ※16	04_問7 ※16	

		①アンケート調査 H27事業	②アンケート調査 特養 (無作為抽出)	③訪問調査 H29事業 (見守り機器)
利用者	利用者属性	02_問1	02_問1	
	介護ロボットのイメージ	02_問2※17	02_問2※17	05_1 (1) ※18
	継続意向 (利用者)			05_1 (2) ※19
	使用している機器	02_問3 (1)	02_問3 (1)	
	対象者への影響(聞き取り)			05_2 (1)
	対象者への影響(職員視点) 福祉用具審理評価スケール	02_問3 (2)	02_問3 (2)	05_2 (2)
	振返り			05_3
職員	職員属性	03_問1	03_問1	
	介護ロボット利用状況	03_問2 (1)	03_問2 (1)	
	介護ロボット利用者数	03_問2 (2) (3)	03_問2 (2) (3)	
	介護ロボット利用時間について	03_問2 (4)	03_問2 (4)	
	職員や施設業務の変化	03_問3	03_問3	
	ロボット導入について			06_1 (1) ※18
	継続意向 (職員)			06_1 (2) ※19
	仕事の状況			06_2 (1)
	自身の状況			06_2 (2)
	周囲の状況			06_2 (3)
	利用者の生活の変化 (職員視点)	03_問4	03_問5	
	満足度	03_問5	03_問5	06_2 (4)
		振返り		06_3
		介護ロボットに関してご意見	03_問6※16	03_問6※16

： 回答により記載の有無あり

※「※1～※19」は文意・文言が同一のものを示す

- 01 : 介護老人福祉施設等 (施設票)
- 02 : 介護老人福祉施設等 (利用者票)
- 03 : 介護老人福祉施設等 (職員票)
- 04 : 実証施設ヒアリング (施設票)
- 05 : 実証施設 (利用者票)
- 06 : 実証施設 (職員票)

(5) 調査方法

① 郵送調査

- 事業所に調査票 (施設調査票・利用者調査票・職員調査票) を郵送
- 事業所内で対象職員・利用者へ配布
- 事業所内で回収
- 事業所でまとめて郵送
- 事務局で回収

② 訪問調査

- 調査票 (訪問施設調査票 (ヒアリングシート)・訪問利用者調査票・訪問職員調査票) を郵送
- 調査対象施設と訪問日程の調整
- 事業所にて事前記入
- ヒアリングシートのみを事前 FAX にて事務局に送付
- 訪問調査 (ヒアリング)
- ヒアリング時に調査票回収 (利用者調査票・職員調査票)

③ 事業スケジュール

- 郵送調査：平成30年10月23日～11月30日（年内まではデータ提出を受付）
- 訪問調査：平成30年10月23日～12月14日（調査票送付は10月19日以降）

④ 調査票回収状況

図表 3 調査票回収状況

調査票名	母集団	発出数	回収数	回収率	有効回収率
介護老人福祉施設等（施設票）	11,261	5,029	1,845	36.7%	36.7%
介護老人福祉施設等（利用者票）	-	25,415	3,074	-	-
介護老人福祉施設等（職員票）	-	25,415	4,458	-	-
実証施設ヒアリング（施設票）	30	30	28	93.3%	93.3%
実証施設（利用者票）	-	-	55	-	-
実証施設（職員票）	-	-	191	-	-

（2月15日時点）

※介護老人福祉施設等（利用者票）、介護老人福祉施設等（職員票）、実証施設（利用者票）、実証施設（職員票）は、施設ごとに対象数が異なり、確定できないため、回収率等は記載していない。

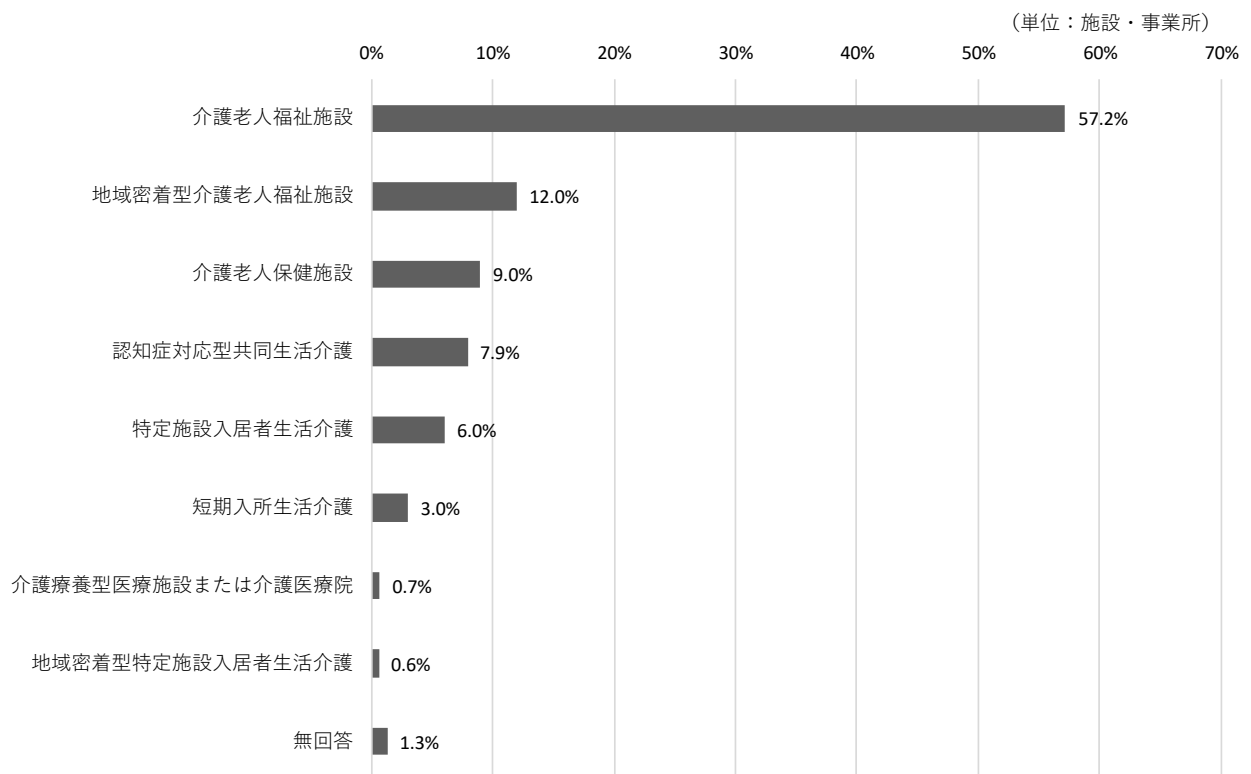
2. 調査結果

(1) 施設・事業所調査（郵送調査）

① 施設・事業所属性

- 施設種別について、「介護老人福祉施設」が57.2%と最も割合が高く、次いで「地域密着型介護老人福祉施設」が12.0%、「介護老人保健施設」が9.0%であった。【図表 4 01 票 問 1 (1) ③施設種別】

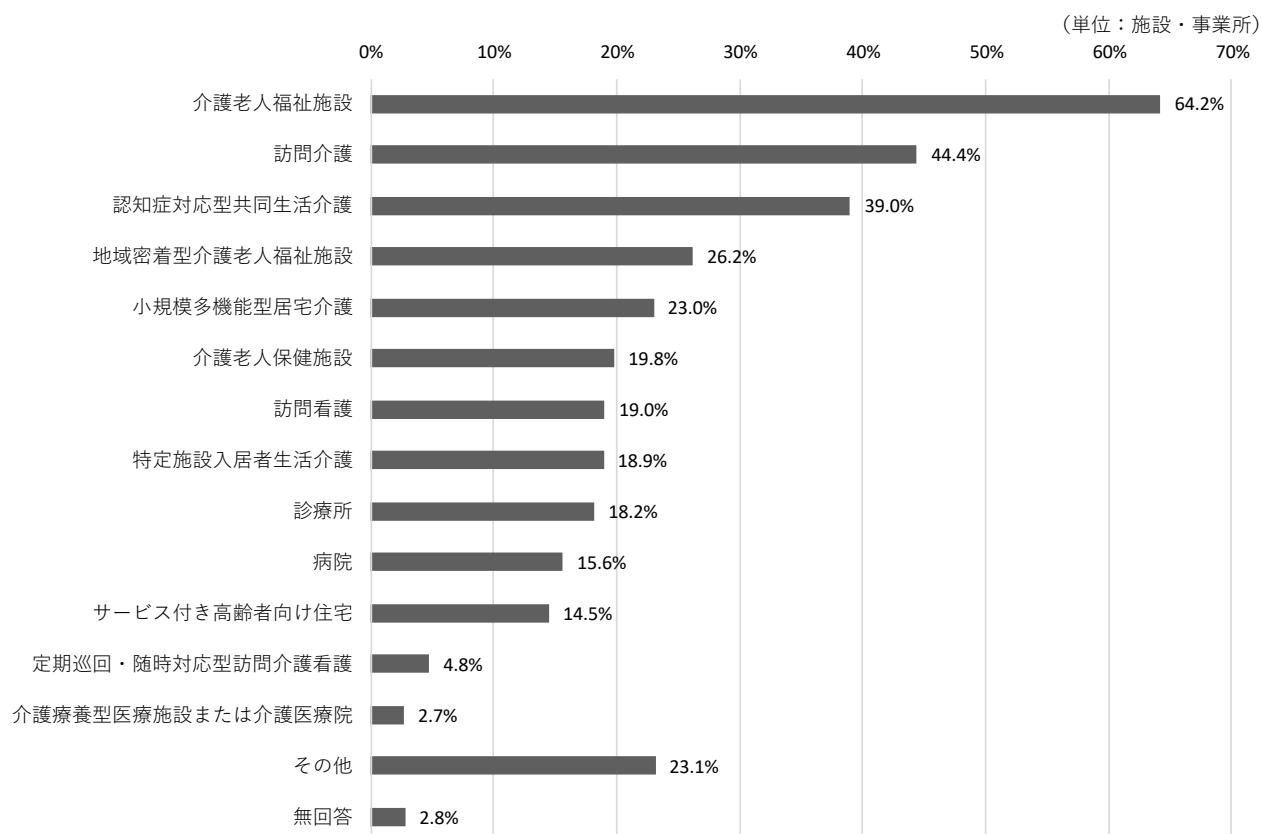
図表 4 施設種別（有効回答数=1,803）（単数回答）



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 開設主体／関連法人で経営している施設の有無について、「介護老人福祉施設」が 64.2%と最も割合が高く、次いで「訪問介護」が 44.4%、「認知症対応型共同生活介護」が 39.0%であった。【図表 5 01 票 問 1 (1) ④開設主体／関連法人で経営している施設の有無】

図表 5 開設主体／関連法人で経営している施設の有無（有効回答数=1,845）（複数回答）



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

※「病院」「訪問介護」「訪問看護」「介護老人福祉施設」「介護老人保健施設」「認知症対応型共同生活介護」「小規模多機能型居宅介護」「サービス付き高齢者向け住宅」「その他」については、無効回答があったため、有効回答数から減じた。

- 介護報酬上の届出について、介護老人福祉施設では「2. 多床室」の割合が最も高かった。
【図表 6 01 票 問 (1) ⑤ 介護報酬上の届出】

図表 6 介護報酬上の届出 (有効回答数=1,332) (複数回答)

(施設・事業所)					
	回答数	割合	無回答	割合	有効回答数
介護老人福祉施設					
1. 従来型個室	425	40.3%	11	1.0%	1,055
2. 多床室	642	60.9%			
3. 従来型個室	14	1.3%			
4. 多床室	20	1.9%			
5. ユニット型個室	424	40.2%			
6. ユニット型個室的多床室	4	0.4%			
7. ユニット型個室	28	2.7%			
8. ユニット型個室的多床室	1	0.1%			
地域密着型介護老人福祉施設					
9. 従来型個室	9	4.1%	3	1.4%	221
10. 多床室	10	4.5%			
11. 従来型個室	0	0.0%			
12. 多床室	1	0.5%			
13. ユニット型個室	204	92.3%			
14. ユニット型個室的多床室	0	0.0%			
15. ユニット型個室	3	1.4%			
16. ユニット型個室的多床室	0	0.0%			
短期入所生活介護					
17. 従来型個室	22	39.3%	0	0.0%	56
18. 多床室	19	33.9%			
19. 従来型個室	9	16.1%			
20. 多床室	11	19.6%			
21. ユニット型個室	10	17.9%			
22. ユニット型個室的多床室	0	0.0%			
23. ユニット型個室	7	12.5%			
24. ユニット型個室的多床室	0	0.0%			
合計			14	1.1%	1,332

※「介護老人福祉施設」「地域密着型介護老人福祉施設」「短期入所生活介護」の回答を有効回答数とした。

- 介護加算について、「介護福祉施設サービス」では「(Ⅱ)イ」の割合が最も高かった。【図表 7 01 票 問 1 (1) ⑥ 介護加算】

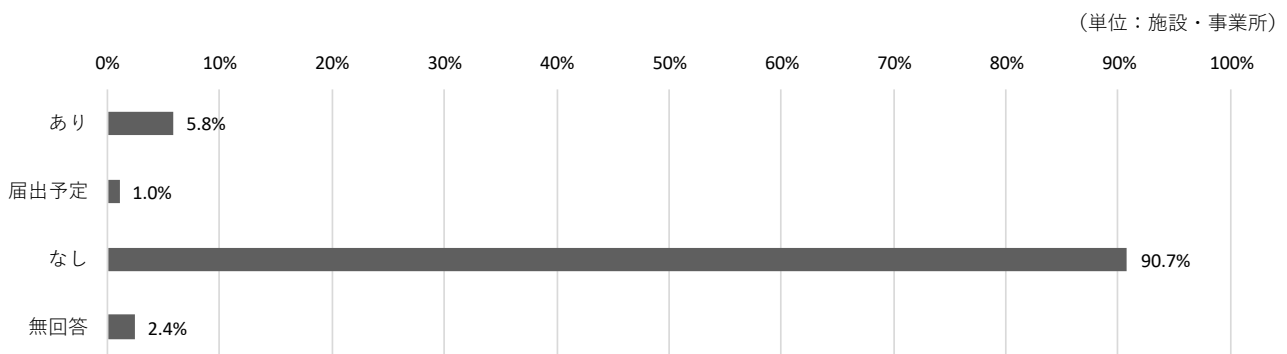
図表 7 介護加算（有効回答数=1,332）（複数回答）

(施設・事業所)								
	回答数	割合	無回答	割合	有効回答数			
1. 夜勤職員配置加算								
介護福祉施設サービス (Ⅰ) イ	10	0.9%	245	23.2%	1,055			
介護福祉施設サービス (Ⅰ) ロ	168	15.9%						
介護福祉施設サービス (Ⅱ) イ	211	20.0%						
介護福祉施設サービス (Ⅱ) ロ	75	7.1%						
介護福祉施設サービス (Ⅲ) イ	195	18.5%						
介護福祉施設サービス (Ⅲ) ロ	53	5.0%						
介護福祉施設サービス (Ⅳ) イ	103	9.8%						
介護福祉施設サービス (Ⅳ) ロ	42	4.0%						
短期入所生活介護費 (Ⅰ)	22	39.3%				23	41.1%	56
短期入所生活介護費 (Ⅱ)	8	14.3%						
短期入所生活介護費 (Ⅲ)	3	5.4%						
短期入所生活介護費 (Ⅳ)	1	1.8%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (Ⅰ) イ	20	9.0%	99	44.8%	221			
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (Ⅰ) ロ	1	0.5%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (Ⅱ) イ	89	40.3%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (Ⅱ) ロ	3	1.4%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (Ⅲ) イ	2	0.9%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (Ⅲ) ロ	0	0.0%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (Ⅳ) イ	9	4.1%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (Ⅳ) ロ	1	0.5%						
2. その他	10	0.8%						
合計						367	27.6%	1,332

※「介護老人福祉施設」「地域密着型介護老人福祉施設」「短期入所生活介護」の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出について、「あり」が5.8%であった。【図表 8 01 票 問 1 (1) ⑦見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出】

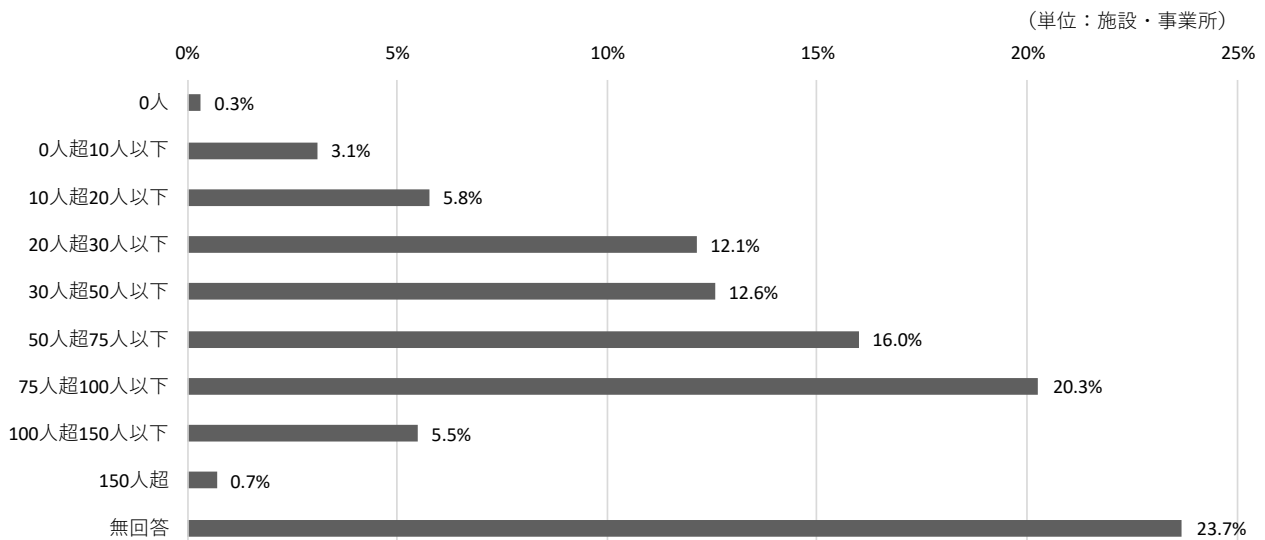
図表 8 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出（有効回答数=583）（単数回答）



※見守り機器を導入している「介護老人福祉施設」「地域密着型介護老人福祉施設」「短期入所生活介護」の回答を有効回答数とした。

- 入所者(入院者)数について、「75人超100人以下」が20.3%と最も割合が高く、次いで「50人超75人以下」が16.0%、「30人超50人以下」が12.6%であった。【図表9 01票 問1 (1) ⑧ 入所者(入院者)数】

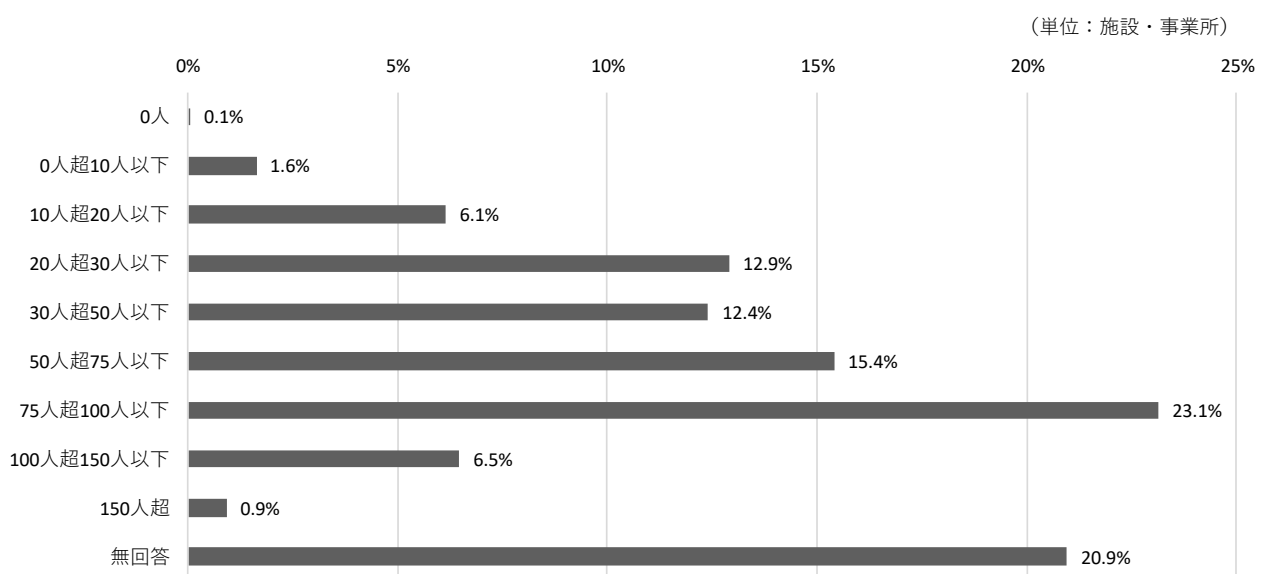
図表9 入所者(入院者)数(有効回答数=1,845)(単数回答)



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 定員数について、「75人超100人以下」が23.1%と最も割合が高く、次いで「50人超75人以下」が15.4%、「20人超30人以下」が12.9%であった。【図表10 01票 問1 (1) ⑨ 定員数】

図表10 定員数(有効回答数=1,845)(単数回答)



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 職種別の従事者数について、「介護福祉士」では「5人超」が90.4%と最も割合が高かった。
【図表 11 01 票 問 1 (2) 職種別の従事者数】

図表 11 職種別の従事者数(単数回答)

(単位：施設・事業所)

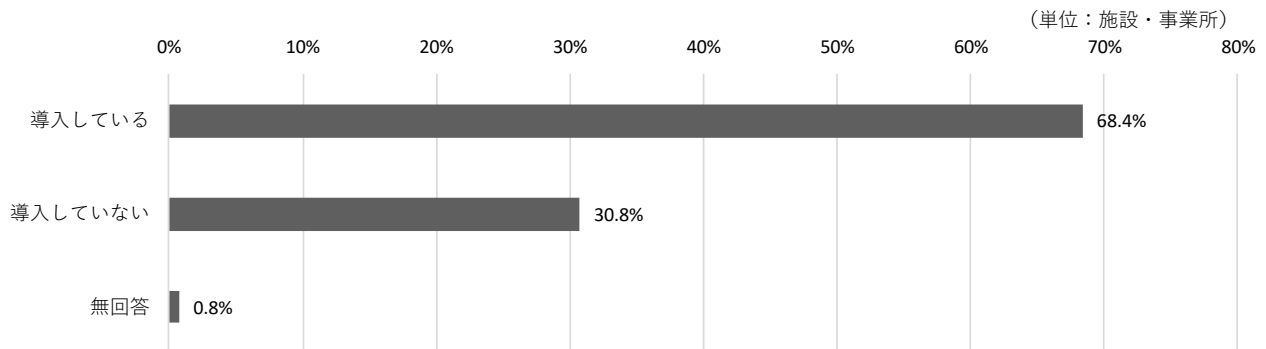
	医師	薬剤師	看護師	准看護師	社会福祉士	介護福祉士	介護職員 (介護福祉士 以外)	臨床検査技師	理学療法士
0人	141 10.6%	574 43.1%	23 1.7%	60 4.5%	279 20.9%	1 0.1%	5 0.4%	583 43.8%	423 31.8%
0人超1人以下	631 47.4%	3 0.2%	235 17.7%	294 22.1%	337 25.3%	6 0.5%	19 1.4%	0 0.0%	239 17.9%
1人超2人以下	140 10.5%	0 0.0%	298 22.4%	334 25.1%	144 10.8%	6 0.5%	33 2.5%	0 0.0%	36 2.7%
2人超3人以下	57 4.3%	0 0.0%	256 19.2%	245 18.4%	54 4.1%	15 1.1%	45 3.4%	0 0.0%	5 0.4%
3人超4人以下	18 1.4%	0 0.0%	168 12.6%	123 9.2%	26 2.0%	21 1.6%	56 4.2%	0 0.0%	4 0.3%
4人超5人以下	7 0.5%	0 0.0%	113 8.5%	54 4.1%	9 0.7%	19 1.4%	63 4.7%	0 0.0%	0 0.0%
5人超	6 0.5%	0 0.0%	153 11.5%	38 2.9%	9 0.7%	1,202 90.4%	1,033 77.7%	2 0.2%	0 0.0%
無回答	332 24.9%	755 56.7%	85 6.4%	184 13.8%	474 35.6%	60 4.5%	76 5.7%	747 56.1%	625 46.9%
有効回答数	1,332	1,332	1,331	1,332	1,332	1,330	1,330	1,332	1,332

	作業療法士	言語聴覚士	精神保健福祉士	介護支援専門員 (ケアマネジャー)	管理栄養士	栄養士	調理師	その他
0人	495 37.2%	559 42.0%	550 41.3%	11 0.8%	64 4.8%	408 30.6%	318 24.0%	78 5.9%
0人超1人以下	155 11.6%	44 3.3%	37 2.8%	684 51.4%	907 68.1%	274 20.6%	38 2.9%	94 7.1%
1人超2人以下	15 1.1%	3 0.2%	3 0.2%	311 23.3%	174 13.1%	44 3.3%	54 4.1%	48 3.6%
2人超3人以下	1 0.1%	0 0.0%	1 0.1%	105 7.9%	22 1.7%	15 1.1%	73 5.5%	50 3.8%
3人超4人以下	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	49 3.7%	0 0.0%	4 0.3%	55 4.2%	50 3.8%
4人超5人以下	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	34 2.6%	2 0.2%	4 0.3%	48 3.6%	44 3.3%
5人超	1 0.1%	0 0.0%	1 0.1%	44 3.3%	0 0.0%	3 0.2%	180 13.6%	280 21.0%
無回答	663 49.8%	726 54.5%	740 55.6%	94 7.1%	163 12.2%	580 43.5%	557 42.1%	688 51.7%
有効回答数	1,331	1,332	1,332	1,332	1,332	1,332	1,323	1,332

※「介護老人福祉施設」「地域密着型介護老人福祉施設」「短期入所生活介護」の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット導入の有無について、「導入している」が 68.4%であった。【図表 12 01 票問 2 (1) 導入の有無】

図表 12 介護ロボット導入の有無（有効回答数=1,845）（単数回答）

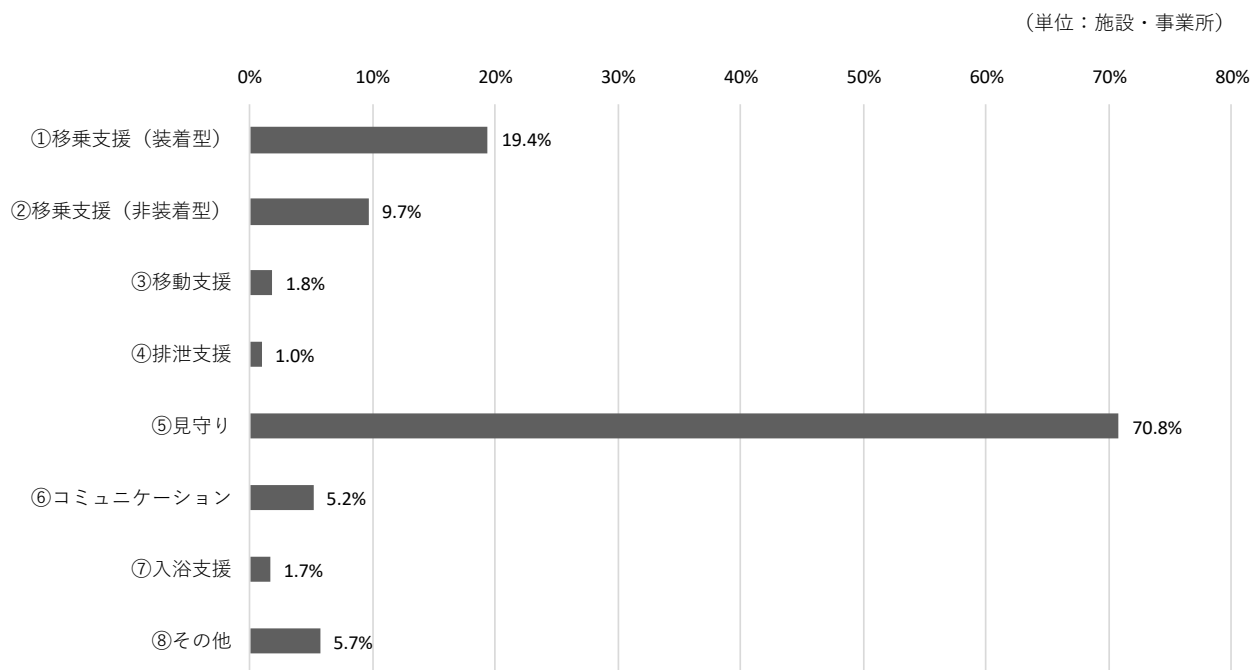


※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

※上記の回答施設・事業所は、平成 28 年度「介護ロボット等導入支援特別事業」の対象施設と無作為抽出の「介護老人福祉施設」及び「地域密着型介護老人福祉施設」を対象とした。

- 導入した介護ロボットの種類については、「⑤見守り」が 70.8%と最も割合が高かった。【図表 13 01 票問 2 (2) 導入した介護ロボットの種類】

図表 13 導入した介護ロボットの種類（有効回答数=1,262）（複数回答）



※介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット購入・リース時の費用負担方法については、「国・県・市町村の助成/補助」が48.4%であった。【図表 14 01 票 問 2 (2) 導入した介護ロボットの種類 (3) 介護ロボット購入・リース時の費用負担方法】

図表 14 介護ロボット購入・リース時の費用負担方法（複数回答）

	導入台数	自己負担	国・県・市町村の助成/補助	研究協力による助成/補助
① 移乗支援（装着型）	390	141	297	16
		36.2%	76.2%	4.1%
② 移乗支援（非装着型）	189	85	115	22
		45.0%	60.8%	11.6%
③ 移動支援	48	8	41	2
		16.7%	85.4%	4.2%
④ 排泄支援	45	31	18	0
		68.9%	40.0%	0.0%
⑤ 見守り	5,648	3,053	2,635	146
		54.1%	46.7%	2.6%
⑥ コミュニケーション	121	54	38	34
		44.6%	31.4%	28.1%
⑦ 入浴支援	30	19	10	0
		63.3%	33.3%	0.0%
⑧ その他	81	73	17	1
		90.1%	21.0%	1.2%
	6,552	3,464	3,171	221
		52.9%	48.4%	3.4%

※各割合は、各種別の導入台数で除した。

② 介護ロボット導入の動機と効果

- 介護ロボット導入のきっかけについて、ほとんどの介護ロボット種別では、「理事長（経営層）の判断」、「施設長（現場責任者）の判断」、「導入に関して助成・補助があった」の割合が高かった。（各種別ごとに比較）【図表 15 01 票 問 2 (4) 介護ロボット導入のきっかけ・目的】

図表 15 介護ロボット導入のきっかけ(複数回答)

(単位：施設・事業所)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
理事長（経営層）の判断	83 33.9%	29 24.0%	7 30.4%	6 50.0%	216 24.2%	17 26.6%	3 14.3%	2 2.8%
施設長（現場責任者）の判断	104 42.4%	57 46.7%	10 43.5%	5 41.7%	368 41.2%	24 36.9%	14 66.7%	4 5.6%
現場職員からの要望	36 14.7%	33 27.0%	5 21.7%	2 16.7%	287 32.1%	7 10.8%	9 42.9%	5 6.9%
導入に関して助成・補助があった	164 66.9%	60 49.2%	14 60.9%	6 50.0%	570 63.8%	22 33.8%	3 14.3%	2 2.8%
メーカーの営業活動	32 13.1%	8 6.6%	3 13.0%	0 0.0%	198 22.2%	4 6.2%	0 0.0%	0 0.0%
実証研究への協力	13 5.3%	7 5.7%	2 8.7%	1 8.3%	21 2.4%	4 6.2%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	12 4.9%	23 18.9%	0 0.0%	2 16.7%	36 4.0%	18 27.7%	5 23.8%	64 88.9%
有効回答数	245	122	23	12	893	65	21	72

※①～⑧の介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

※「②移乗支援（非装着型）」、「⑤見守り」、「⑥コミュニケーション」、「⑧その他」のうち「理事長（経営層）の判断」については、各1件ずつ無効回答があったため、有効回答数から減じた。

- 介護ロボット導入の目的について、ほとんどの介護ロボット種別では、「利用者の負担軽減」、「職員の負担軽減」の割合が高かった。(各種別ごとに比較)
- このほか、「①移乗支援(装着型)」、「②移乗支援(非装着型)」では、「職員の離職防止」の割合が高く、「⑤見守り」では、「ヒヤリハット・介護事故の防止」の割合が高かった。(各種別ごとに比較)【図表 16 01 票 問 2 (4) 介護ロボット導入のきっかけ・目的】

図表 16 介護ロボット導入の目的(複数回答)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
利用者の負担軽減	58 23.7%	61 50.0%	16 69.6%	6 50.0%	232 26.0%	15 23.1%	13 61.9%	5 6.9%
職員の負担軽減	232 94.7%	96 78.7%	8 34.8%	10 83.3%	758 84.9%	34 52.3%	18 85.7%	8 11.1%
職員の確保	49 20.0%	13 10.7%	2 8.7%	0 0.0%	65 7.3%	5 7.7%	2 9.5%	2 2.8%
職員の離職防止	78 31.8%	37 30.3%	3 13.0%	1 8.3%	122 13.7%	4 6.2%	3 14.3%	3 4.2%
ヒヤリハット・介護事故の防止	24 9.8%	33 27.0%	9 39.1%	3 25.0%	679 76.0%	4 6.2%	7 33.3%	3 4.2%
費用対効果	9 3.7%	5 4.1%	1 4.3%	1 8.3%	70 7.8%	5 7.7%	0 0.0%	0 0.0%
業務効率化	50 20.4%	27 22.1%	4 17.4%	4 33.3%	355 39.8%	13 20.0%	12 57.1%	3 4.2%
テスト導入	54 22.0%	17 13.9%	3 13.0%	3 25.0%	86 9.6%	16 24.6%	0 0.0%	2 2.8%
無回答	12 4.9%	24 19.7%	3 13.0%	2 16.7%	43 4.8%	14 21.5%	3 14.3%	63 87.5%
有効回答数	245	122	23	12	893	65	21	72

※①～⑧の介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット導入時に配慮した点について、すべての介護ロボット種別において、「職員を対象とした講習会やトレーニングの実施」の割合が高かった。(各種別ごとに比較)【図表 17 01 票 問 2 (5) 介護ロボット導入時に配慮した点】

図表 17 介護ロボット導入時に配慮した点(複数回答)

(単位：施設・事業所)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
課題分析と導入目的の明確化	78	47	12	6	371	17	7	6
	31.8%	38.5%	52.2%	50.0%	41.5%	26.2%	33.3%	8.3%
会議や委員会等を通じた職員への周知と合 意形成	108	64	8	5	303	12	7	6
	44.1%	52.5%	34.8%	41.7%	33.9%	18.5%	33.3%	8.3%
職員を対象とした講習会やトレーニングの実 施	176	79	13	5	318	20	10	7
	71.8%	64.8%	56.5%	41.7%	35.6%	30.8%	47.6%	9.7%
Wi-Fi環境などの物理的環境の配慮	3	0	0	0	267	25	0	2
	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	29.9%	38.5%	0.0%	2.8%
機器導入による業務見直しなどの業務環境 への配慮	62	36	3	5	349	13	9	2
	25.3%	29.5%	13.0%	41.7%	39.1%	20.0%	42.9%	2.8%
データの蓄積・分析	25	9	1	0	157	5	0	2
	10.2%	7.4%	4.3%	0.0%	17.6%	7.7%	0.0%	2.8%
ケアプランへの位置づけ	8	22	6	3	221	5	3	2
	3.3%	18.0%	26.1%	25.0%	24.7%	7.7%	14.3%	2.8%
機器導入・定着の効果検証	88	35	10	2	285	10	3	2
	35.9%	28.7%	43.5%	16.7%	31.9%	15.4%	14.3%	2.8%
無回答	14	20	0	3	37	17	3	63
	5.7%	16.4%	0.0%	25.0%	4.1%	26.2%	14.3%	87.5%
有効回答数	245	122	23	12	893	65	21	72

※①～⑧の介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット利用時に実施している点について、すべての介護ロボット種別において、「利用者の状態と介護ロボットの性能を踏まえた検討（マッチング）」の割合が高かった。（各種別ごとに比較）【図表 18 01 票 問 2 (6) 介護ロボット利用時に実施している点】

図表 18 介護ロボット利用時に実施している点(複数回答)

(単位：施設・事業所)

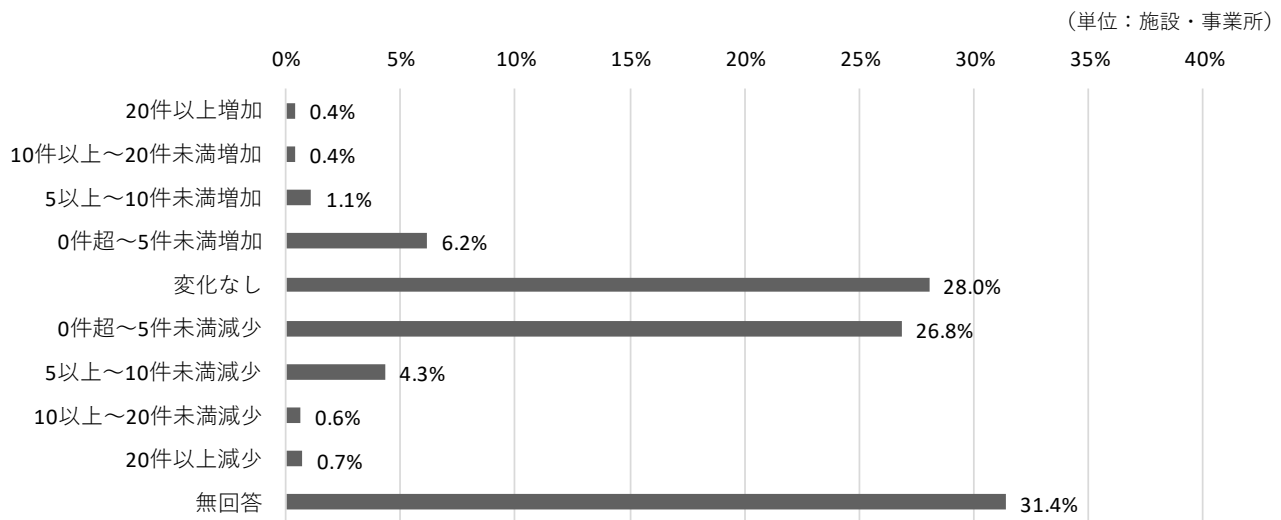
	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
利用者のアセスメント	50 20.4%	61 50.0%	12 52.2%	6 50.0%	517 57.9%	12 18.5%	11 52.4%	4 5.6%
利用者本人の意向確認	81 33.1%	67 54.9%	15 65.2%	9 75.0%	232 26.0%	19 29.2%	8 38.1%	1 1.4%
利用者の状態と介護ロボットの性能を踏まえた検討（マッチング）	111 45.3%	79 64.8%	16 69.6%	6 50.0%	603 67.5%	20 30.8%	12 57.1%	5 6.9%
利用者のロボット利用計画の策定・見直し	16 6.5%	27 22.1%	5 21.7%	3 25.0%	157 17.6%	5 7.7%	2 9.5%	2 2.8%
利用者へのテスト利用	64 26.1%	49 40.2%	12 52.2%	1 8.3%	261 29.2%	23 35.4%	2 9.5%	5 6.9%
無回答	62 25.3%	22 21.6%	1 5.0%	2 18.2%	66 7.8%	26 45.6%	3 30.0%	65 42.8%
有効回答数	245	122	23	12	893	65	21	72

※①～⑧の介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

③ ヒヤリハットの状況

- 介護ロボット導入前後のヒヤリハット・介護事故発生件数について、「変化なし」が28.0%と最も割合が高く、次いで「0件超～5件未満減少」が26.8%であった。【図表 19 01票 問2 (7) (ア) 導入前・導入後のヒヤリハット・介護事故発生件数 (1か月あたり)】

図表 19 導入前後のヒヤリハット・介護事故発生件数 (1ヶ月あたり) (有効回答数=1,252)
(単数回答)



※1ヶ月あたりの件数は、介護ロボット導入前後半年の状況を基に回答している。
 ※介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット導入前後のヒヤリハット・介護事故減少件数について、施設・事業所の規模別では、「50床未満」と比較して「50床以上～100床未満」、「100床以上」の方が、減少幅が大きい傾向にあった。(「導入前後のヒヤリハット・介護事故発生件数 (1ヶ月あたり)」、「定員数」の回答を基に分析) 【図表 21 01票 01票 問2 (2) 導入した介護ロボットの種類×01票 問1 (1) ⑨定員数】

図表 20 導入前後のヒヤリハット・介護事故発生減少件数 (1ヶ月あたり)

(単位：施設・事業所)

	50床未満	50床以上～100床未満	100床以上
0件超～5件未満減少	83 82.2%	99 70.7%	49 68.1%
5件以上～10件未満減少	16 15.8%	33 23.6%	15 20.8%
10件以上～20件未満減少	1 1.0%	5 3.6%	6 8.3%
20件以上減少	1 1.0%	3 2.1%	2 2.8%
	101	140	72

※1ヶ月あたりの件数は、介護ロボット導入前後半年の状況を基に回答している。

- 介護ロボット導入前後のヒヤリハット・介護事故発生件数について、「⑤見守り」では、「0件超～5件未満減少」が29.9%と最も割合が高かった。（「導入前後のヒヤリハット・介護事故発生件数（1ヶ月あたり）」、「導入した介護ロボットの種別が1つの施設・事業所」の回答を基に分析）【図表 21 01票 01票 問2（2）導入した介護ロボットの種類×問2（7）（ア）導入前・導入後のヒヤリハット・介護事故発生件数（1か月あたり）】

図表 21 機器別の導入前後のヒヤリハット・介護事故発生件数（1ヶ月あたり）（単数回答）

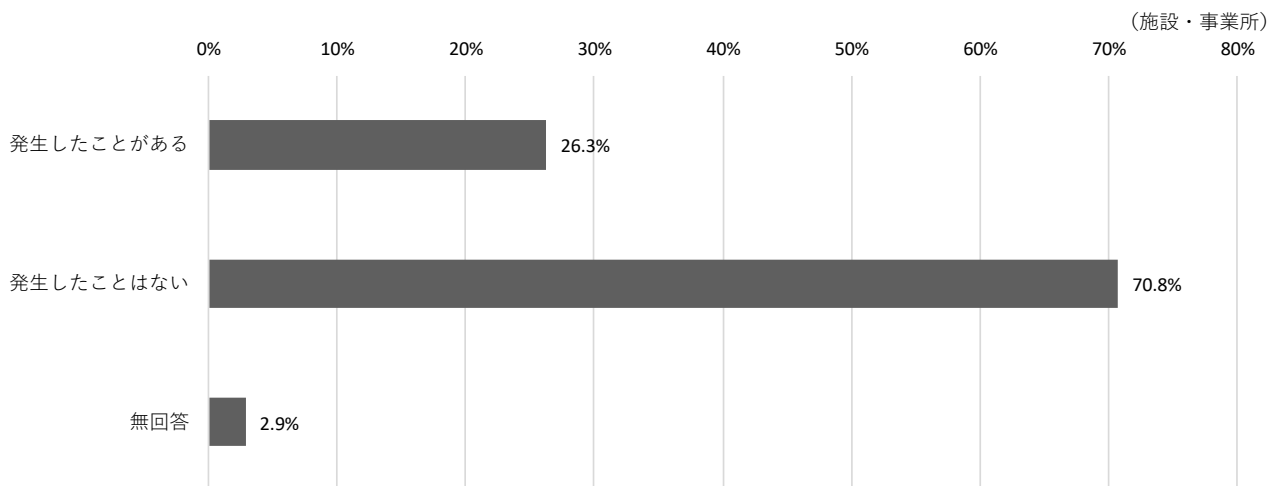
（単位：施設・事業所）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
20件以上増加	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.4%	1 4.3%	0 0.0%	0 0.0%
10件以上～20件未満増加	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%
5以上～10件未満増加	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%
0件超～5件未満増加	12 6.1%	3 4.5%	0 0.0%	3 33.3%	47 6.4%	2 8.7%	0 0.0%	2 14.3%
変化なし	74 37.8%	33 49.3%	6 66.7%	2 22.2%	167 22.7%	12 52.2%	4 100.0%	2 14.3%
0件超～5件未満減少	19 9.7%	11 16.4%	1 11.1%	1 11.1%	220 29.9%	3 13.0%	0 0.0%	0 0.0%
5以上～10件未満減少	6 3.1%	4 6.0%	0 0.0%	0 0.0%	59 8.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
10以上～20件未満減少	2 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20件以上減少	2 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	79 40.3%	15 22.4%	2 22.2%	3 33.3%	207 28.1%	5 21.7%	0 0.0%	8 57.1%
	196	67	9	9	737	23	4	14

※1ヶ月あたりの件数は、介護ロボット導入前後半年の状況を基に回答している。

- 介護ロボットに関連したヒヤリハット・介護事故の発生の有無について、「発生したことはない」が70.8%であった。【図表 22 01票 問2(7)(イ) 介護ロボットに関連したヒヤリハット・介護事故の発生の有無】

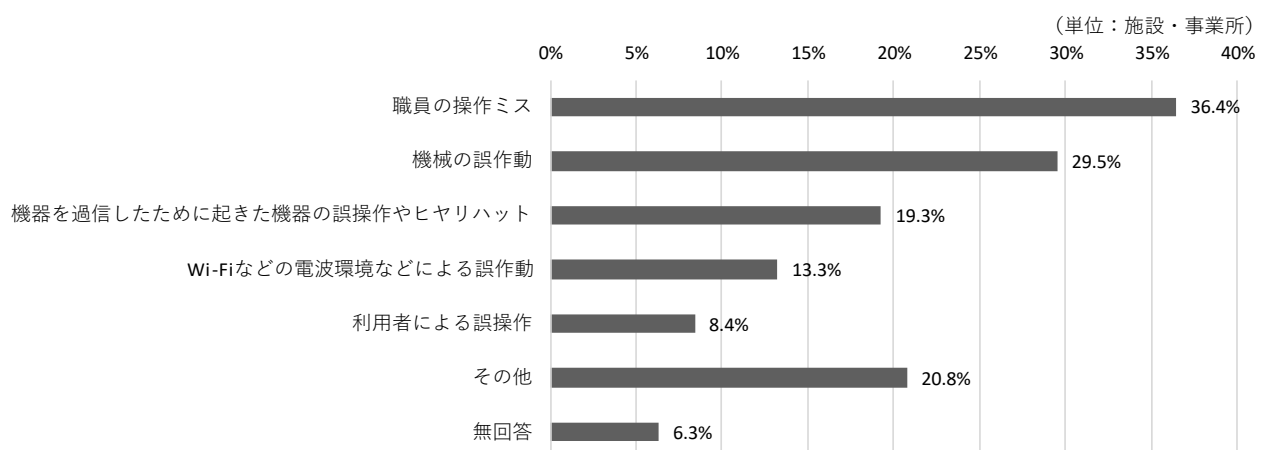
図表 22 介護ロボットに関連したヒヤリハット・介護事故の発生の有無（有効回答数=1,262）
（単数回答）



※介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 機器の誤操作やヒヤリハットなどの種類について、「職員の操作ミス」が36.4%と最も割合が高く、次いで「機械の誤作動」が29.5%であった。【図表 23 01票 問2(7)(ウ)② 機器の誤操作やヒヤリハットなどの種類】

図表 23 機器の誤操作やヒヤリハットなどの種類（有効回答数=332）（複数回答）

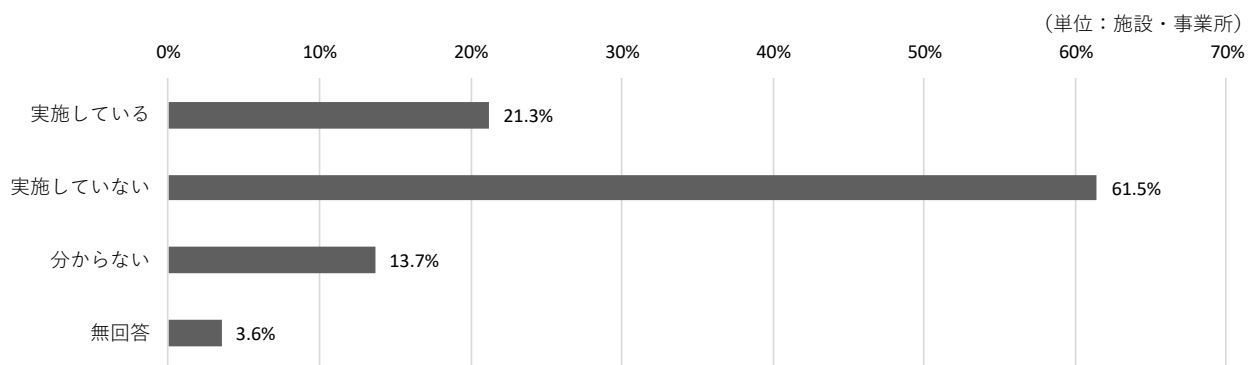


※介護ロボットに関連したヒヤリハット・介護事故が発生したと回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

④ 介護ロボット導入の効果実証

- 介護ロボット導入の効果実証について、「実施している」が 21.3%であった。【図表 24 01 票 問 2 (8) 介護ロボット導入の効果実証 (タイムスタディやアンケート等) について】

図表 24 介護ロボット導入の効果実証 (タイムスタディやアンケート等) (有効回答数=1,261)
(単数回答)



※介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット導入の効果実証方法について、「⑤見守り」では、「アンケート」が 37.2%、「タイムスタディによる導入前後での比較」が 26.1%であった。【図表 25 01 票 問 2 (9) 介護ロボット導入の効果実証】

図表 25 介護ロボット導入の効果実証 (実証方法) (複数回答)

(単位：施設・事業所)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
タイムスタディによる導入前後での比較	12 17.4%	10 28.6%	2 33.3%	2 66.7%	47 26.1%	1 7.1%	0 0.0%	2 15.4%
アンケート	56 81.2%	14 40.0%	1 16.7%	1 33.3%	67 37.2%	2 14.3%	2 40.0%	4 30.8%
その他	7 10.1%	6 17.1%	1 16.7%	1 33.3%	37 20.8%	1 7.1%	1 25.0%	1 7.7%
無回答	5 7.2%	9 25.7%	2 33.3%	1 33.3%	44 24.4%	11 78.6%	1 20.0%	9 69.2%
有効回答数	69	35	6	3	180	14	5	13

※①～⑧の介護ロボット導入の効果実証を実施していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

※「⑤見守り」のうち「その他」で 2 件、「⑦入浴支援」のうち「その他」で 1 件、無効回答があったため有効回答数から減じた。

- 介護ロボット導入の効果実証方法について、「⑤見守り」では、「職員の身体的・精神的負担の軽減」が65.5%、「ヒヤリハット・介護事故件数」が48.3%であった。【図表 26 01 票問 2 (9) 介護ロボット導入の効果実証】

図表 26 介護ロボット導入の効果実証（実証に用いたデータ）（複数回答）

（単位：施設・事業所）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
職員の身体的・精神的負担の軽減	62	26	3	2	116	1	3	3
	89.9%	74.3%	50.0%	66.7%	64.4%	7.1%	60.0%	23.1%
ヒヤリハット・介護事故件数	4	4	1	2	86	0	0	1
	5.8%	11.4%	16.7%	66.7%	47.8%	0.0%	0.0%	7.7%
夜間居室の訪問回数	1	0	0	0	81	0	1	0
	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	45.0%	0.0%	20.0%	0.0%
介護時間	24	10	1	2	27	2	0	3
	34.8%	28.6%	16.7%	66.7%	15.0%	14.3%	0.0%	23.1%
要介護状態	2	1	1	0	14	1	0	0
	2.9%	2.9%	16.7%	0.0%	7.8%	7.1%	0.0%	0.0%
障害高齢者の日常生活自立度	2	1	2	0	8	0	0	0
	2.9%	2.9%	33.3%	0.0%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%
認知症高齢者の日常生活自立度	1	1	0	0	13	1	0	0
	1.4%	2.9%	0.0%	0.0%	7.2%	7.1%	0.0%	0.0%
その他	1	1	0	0	12	0	0	1
	1.4%	2.9%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	7.7%
無回答	4	0	2	0	27	11	1	9
	5.8%	0.0%	33.3%	0.0%	15.0%	78.6%	20.0%	69.2%
有効回答数	69	35	6	3	180	14	5	13

※①～⑧の介護ロボット導入の効果実証を実施していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

※「①移乗支援（装着型）」のうち「要介護状態」で1件、「④排泄支援」のうち「要介護状態」「障害高齢者の日常生活自立度」「認知症高齢者の日常生活自立度」それぞれ1件、「⑤見守り」のうち「その他」で1件、「⑦入浴支援」のうち「その他」で1件、無効回答があったため有効回答数から減じた。

- 実証による導入効果について、「⑤見守り」では、「有」が81.7%であった。【図表 27 01 票問 2 (9) 介護ロボット導入の効果実証】

図表 27 実証による導入効果（単数回答）

（単位：施設・事業所）

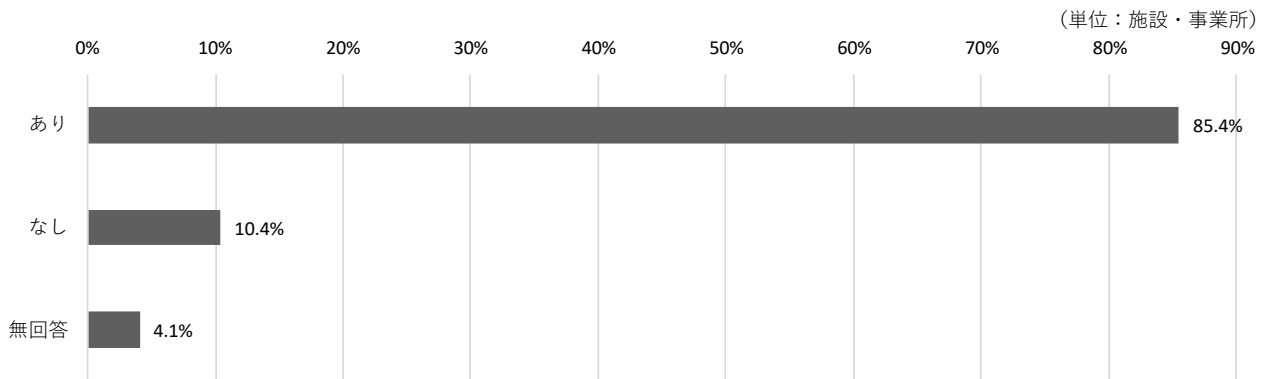
	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
有	32	24	4	1	147	0	4	2
	47.8%	68.6%	66.7%	33.3%	81.7%	0.0%	80.0%	16.7%
無	32	4	0	2	7	0	0	1
	47.8%	11.4%	0.0%	66.7%	3.9%	0.0%	0.0%	8.3%
無回答	3	7	2	0	26	14	1	9
	4.5%	20.0%	33.3%	0.0%	14.4%	100.0%	20.0%	75.0%
有効回答数	67	35	6	3	180	14	5	12

※①～⑧の介護ロボット導入の効果実証を実施していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

※「①移乗支援（装着型）」は2件、「⑧その他」は1件無効回答があったため、有効回答数から減じた。

- 効果実証結果の職員（外部者を含む）への共有状況について、「あり」が 85.4%であった。
【図表 28 01 票 問 2 (9) 介護ロボット導入の効果実証】

**図表 28 効果実証結果の職員（外部者を含む）への共有状況（有効回答数=268）
（単数回答）**

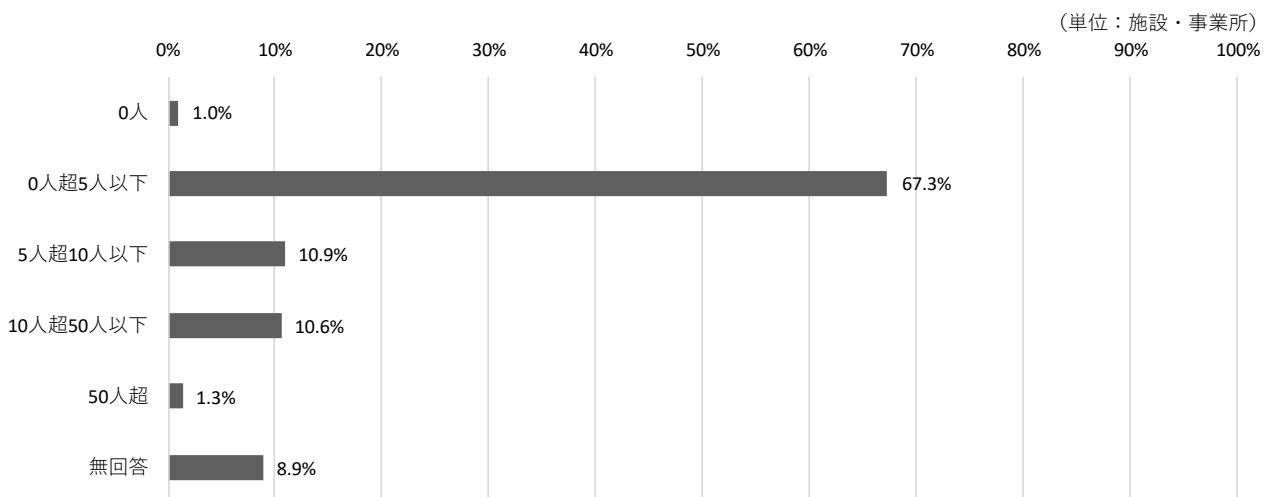


※介護ロボット導入の効果実証を実施していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

⑤ 見守り機器の活用

- 見守り機器の対象利用者数について、「0人超5人以下」が 67.3%と最も割合が高く、次いで「5人超10人以下」が 10.9%、「10人超50人以下」が 10.6%であった。【図表 29 01 票 問 2 (13) 見守り機器の対象利用者数】

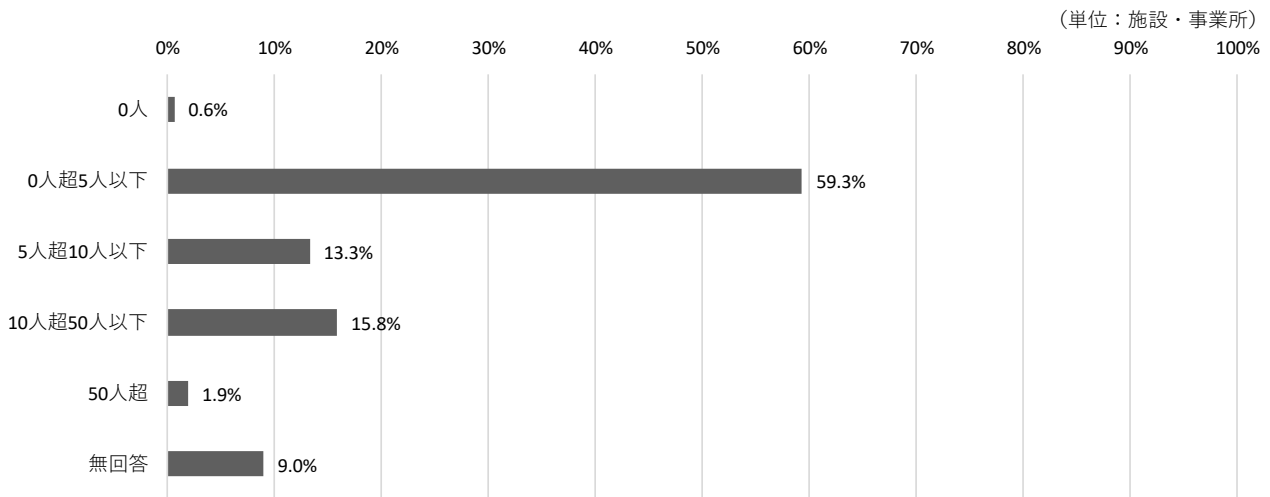
図表 29 見守り機器の対象利用者数（有効回答数=890）（単数回答）



※見守り機器を導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の対象利用者数（介護老人福祉施設）について、「0人超5人以下」が59.3%と最も割合が高かった。【図表 30 01票 問2(13) 見守り機器の対象利用者数】

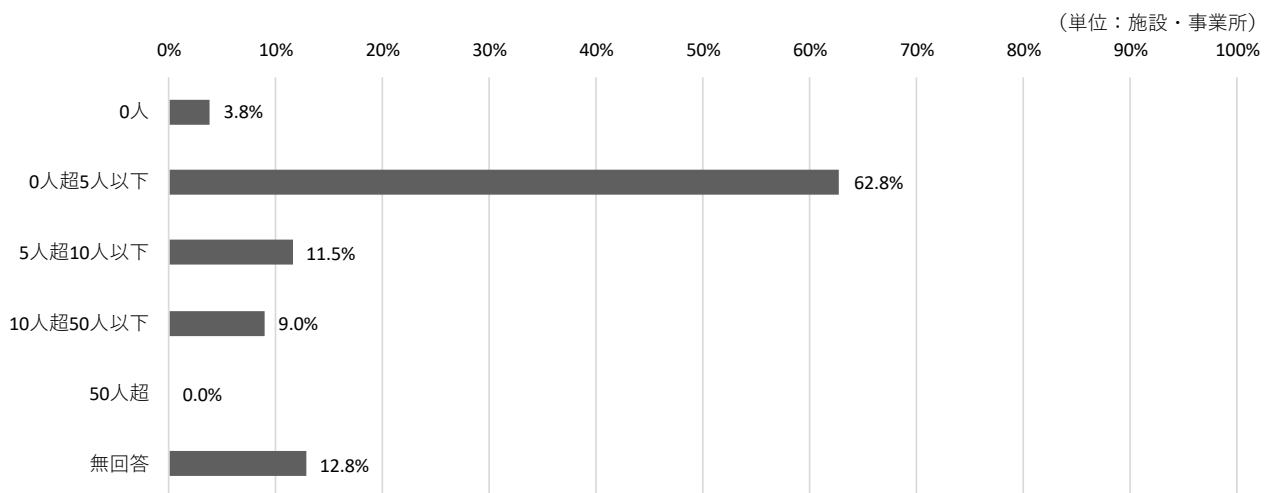
図表 30 見守り機器の対象利用者数（介護老人福祉施設）（有効回答数=467）（単数回答）



※見守り機器を導入している「介護老人福祉施設」の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の対象利用者数（地域密着型介護老人福祉施設）について、「0人超5人以下」が62.8%と最も割合が高かった。【図表 31 01票 問2(13) 見守り機器の対象利用者数】

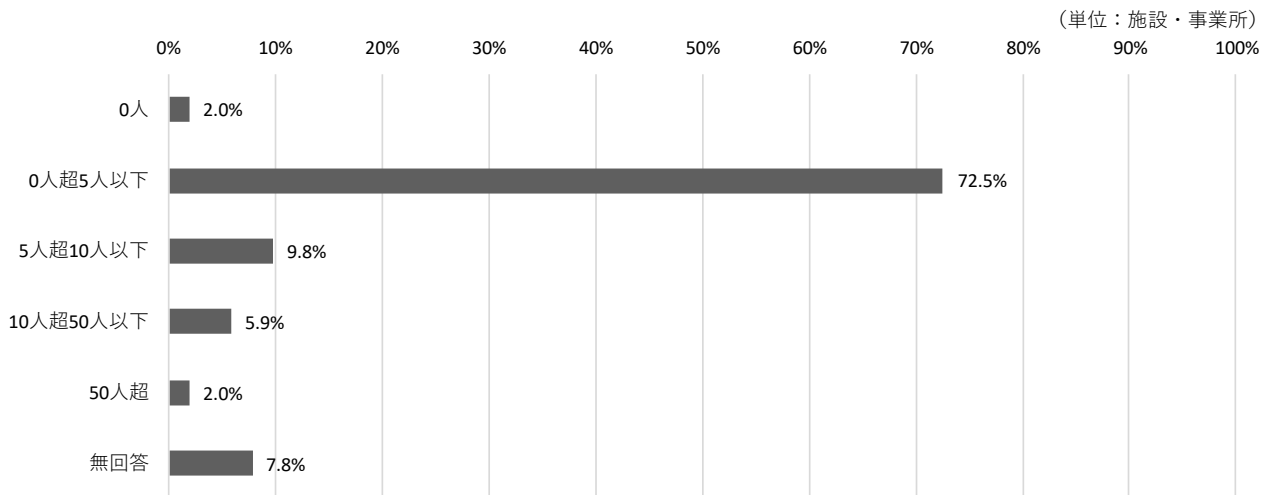
図表 31 見守り機器の対象利用者数（地域密着型介護老人福祉施設）（有効回答数=78）（単数回答）



※見守り機器を導入している「地域密着型介護老人福祉施設」の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の対象利用者数（介護老人保健施設）について、「0人超5人以下」が72.5%と最も割合が高かった。【図表 32 01票 問2（13）見守り機器の対象利用者数】

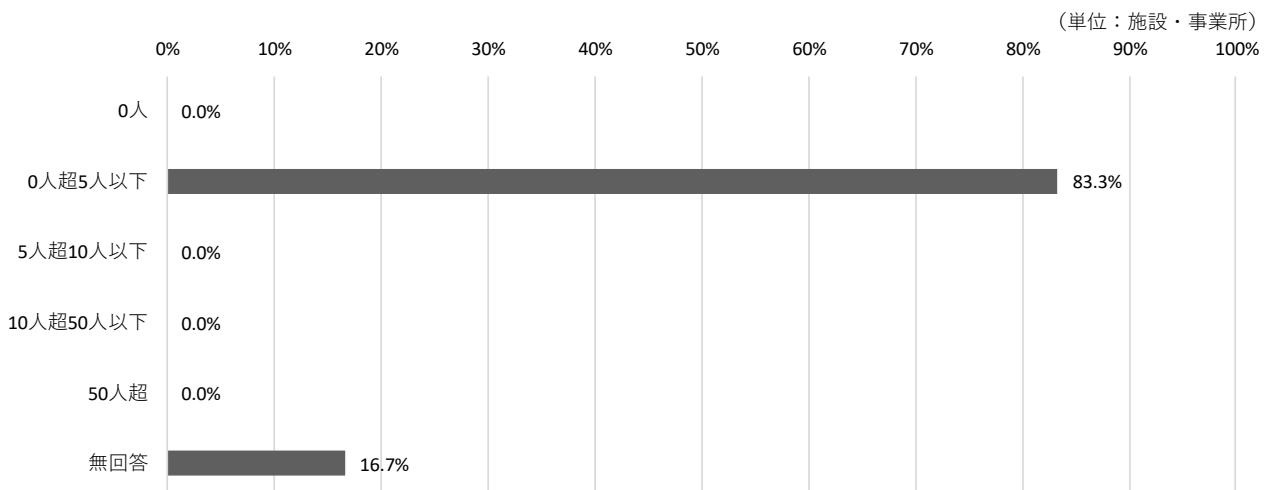
図表 32 見守り機器の対象利用者数（介護老人保健施設）（有効回答数=102）（単数回答）



※見守り機器を導入している「介護老人保健施設」の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の対象利用者数（介護療養型医療施設または介護医療院）について、「0人超5人以下」が83.3%と最も割合が高かった。【図表 33 01票 問2（13）見守り機器の対象利用者数】

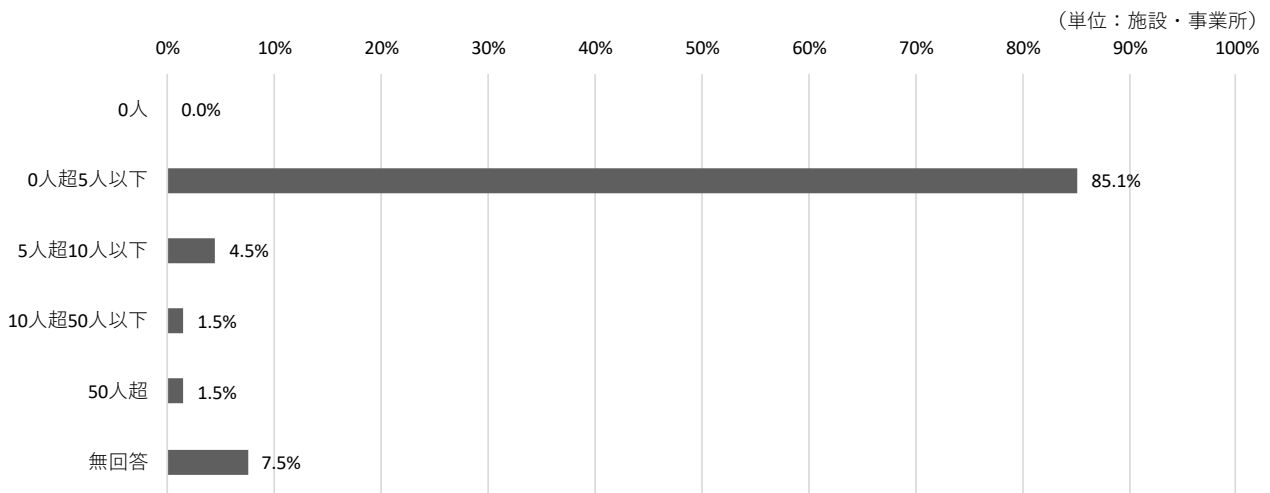
図表 33 見守り機器の対象利用者数（介護療養型医療施設または介護医療院）（有効回答数=12）（単数回答）



※見守り機器を導入している「介護療養型医療施設または介護医療院」の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の対象利用者数（特定施設入居者生活介護）について、「0人超5人以下」が85.1%と最も割合が高かった。【図表 34 01票 問2(13) 見守り機器の対象利用者数】

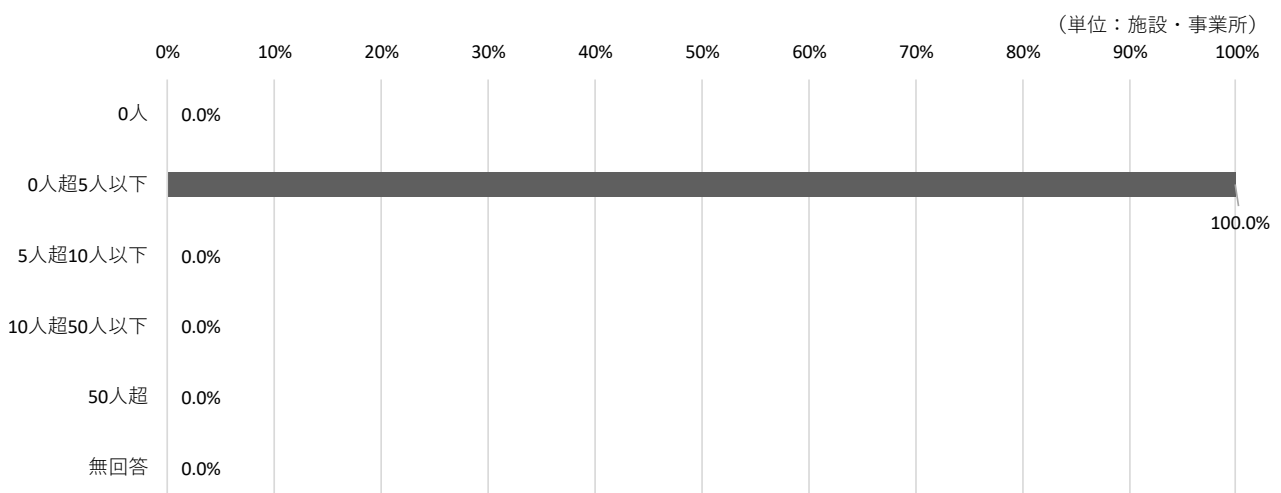
図表 34 見守り機器の対象利用者数（特定施設入居者生活介護）（有効回答数=67）（単数回答）



※見守り機器を導入している「特定施設入居者生活介護」の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の対象利用者数（地域密着型特定施設入居者生活介護）について、「0人超5人以下」が100.0%と最も割合が高かった。【図表 35 01票 問2(13) 見守り機器の対象利用者数】

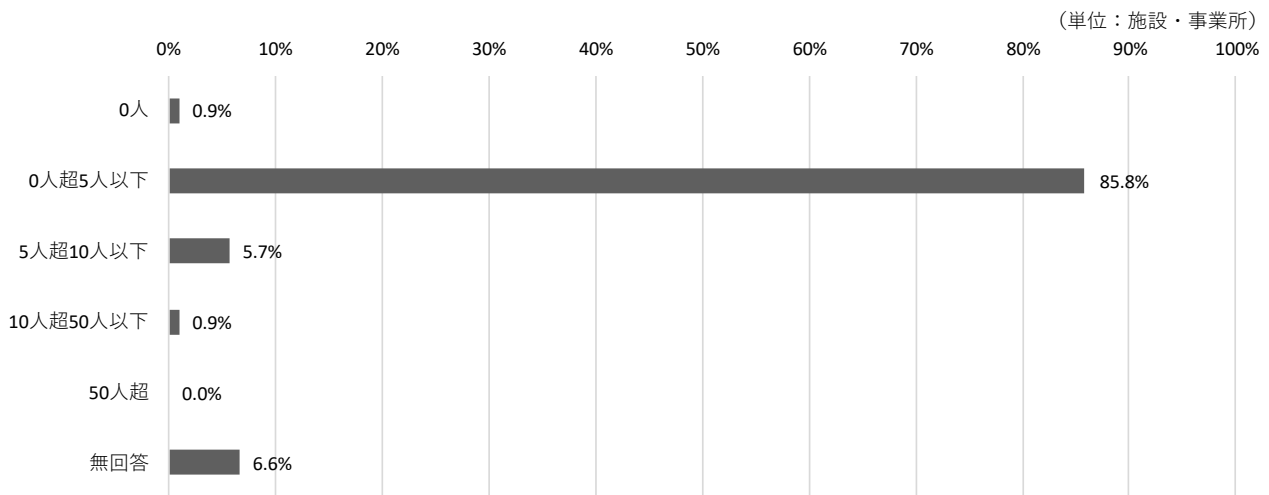
図表 35 見守り機器の対象利用者数（地域密着型特定施設入居者生活介護）（有効回答数=5）（単数回答）



※見守り機器を導入している「地域密着型特定施設入居者生活介護」の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の対象利用者数（認知症対応型共同生活介護）について、「0人超5人以下」が85.8%と最も割合が高かった。【図表 36 01票 問2(13) 見守り機器の対象利用者数】

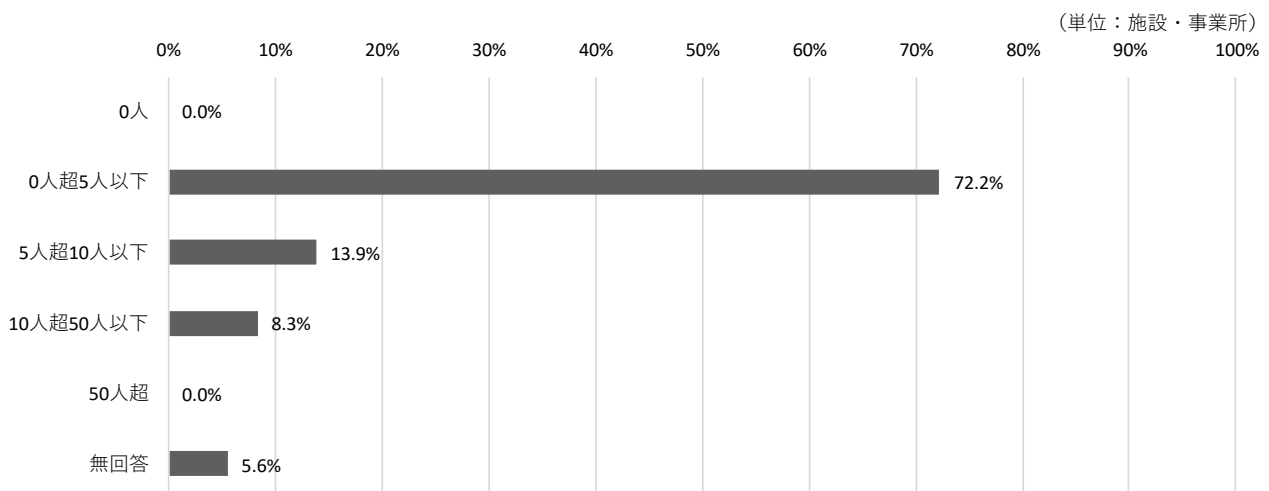
図表 36 見守り機器の対象利用者数（認知症対応型共同生活介護）（有効回答数=106）（単数回答）



※見守り機器を導入している「認知症対応型共同生活介護」の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の対象利用者数（短期入所生活介護）について、「0人超5人以下」が72.2%と最も割合が高かった。【図表 37 01票 問2(13) 見守り機器の対象利用者数】

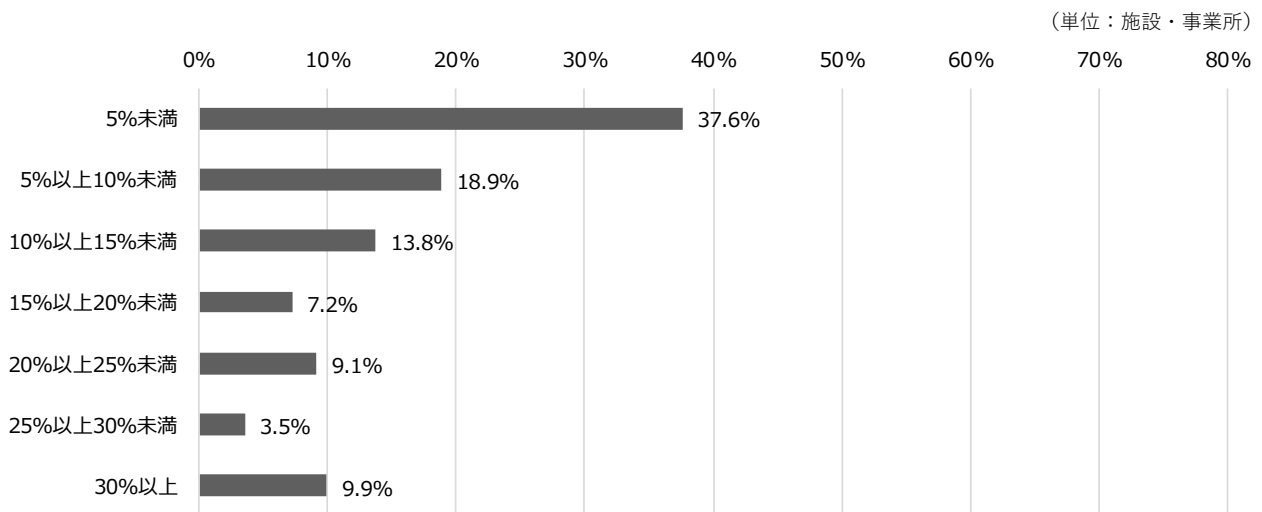
図表 37 見守り機器の対象利用者数（短期入所生活介護）（有効回答数=36）（単数回答）



※見守り機器を導入している「短期入所生活介護」の回答を有効回答数とした。

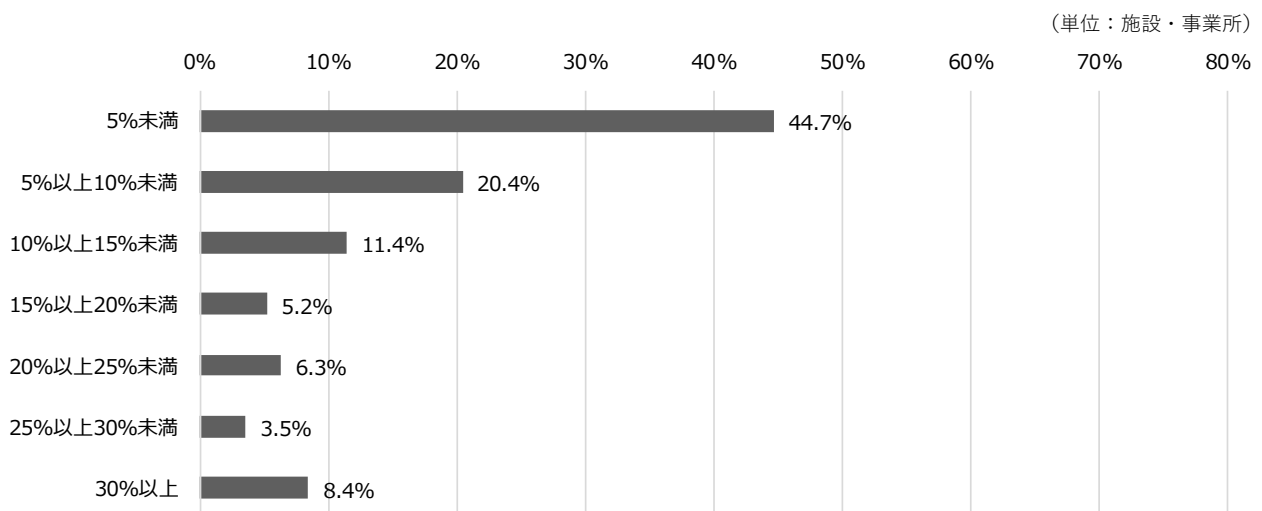
- 見守り機器の対象利用者数の割合について、「5%未満」が37.6%と最も割合が高く、次いで「5%以上10%未満」が18.9%であった（「見守り機器の対象利用者数」、「入所者数」の回答を基に分析）【図表 38 01票 問2（13）見守り機器の対象利用者数×問1（1）⑧入所者数】

図表 38 見守り機器の対象利用者数の割合（合計=625）



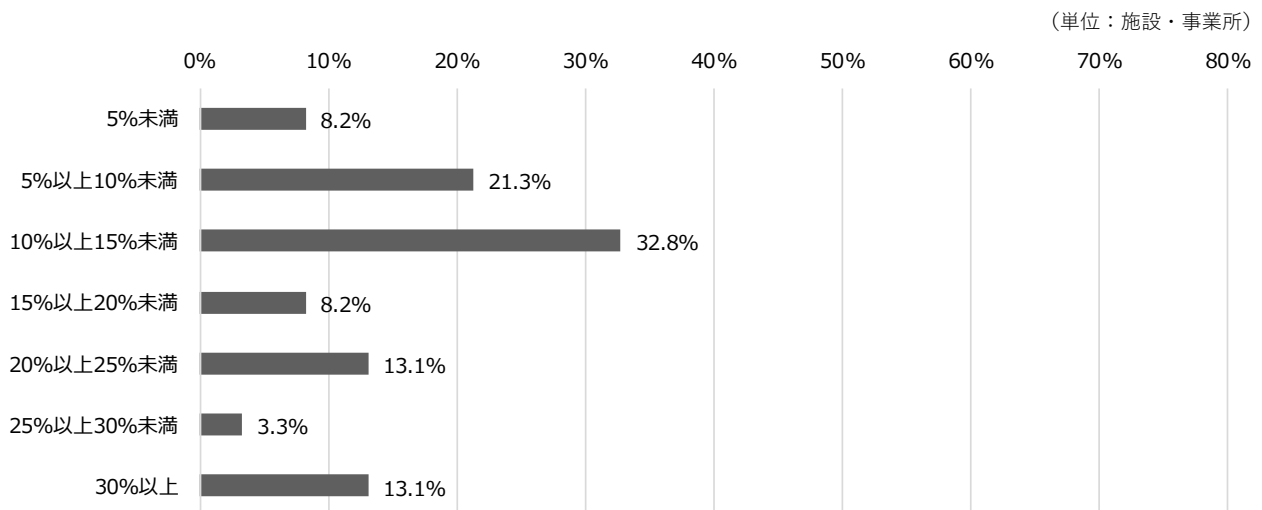
- 見守り機器の対象利用者数（介護老人福祉施設）の割合について、「5%未満」が44.7%と最も割合が高かった。（「見守り機器の対象利用者数」、「入所者数」の回答を基に分析）【図表 39 01票 問2（13）見守り機器の対象利用者数×問1（1）⑧入所者数】

図表 39 見守り機器の対象利用者数の割合（介護老人福祉施設）（合計=367）



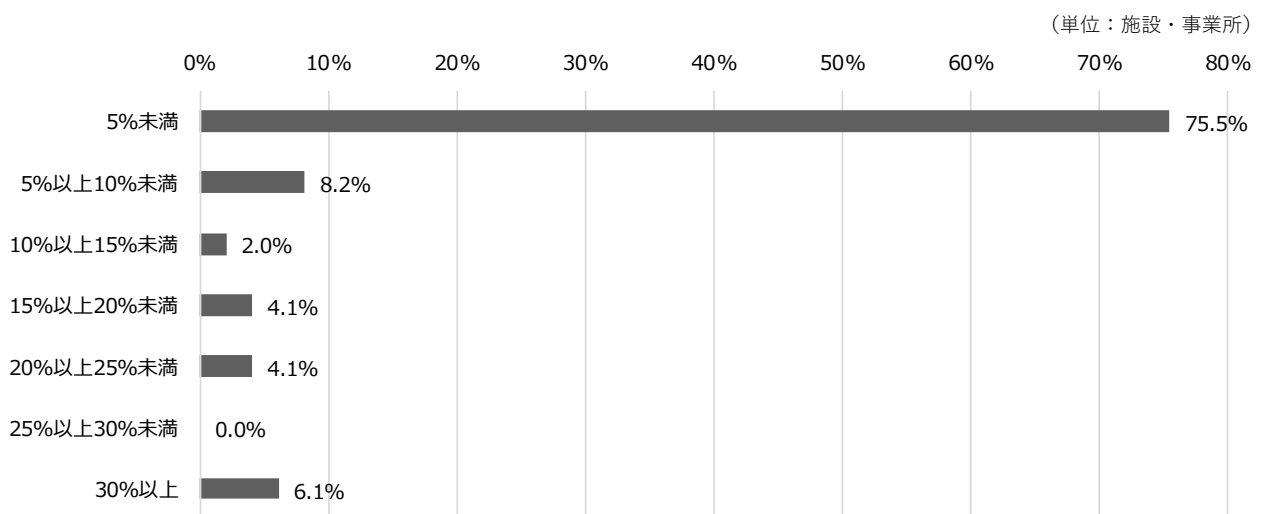
- 見守り機器の対象利用者数（地域密着型介護老人福祉施設）の割合について、「10%以上15%未満」が32.8%と最も割合が高かった。（「見守り機器の対象利用者数」、「入所者数」の回答を基に分析）【図表 40 01票 問2（13）見守り機器の対象利用者数×問1（1）⑧入所者数】

図表 40 見守り機器の対象利用者数の割合（地域密着型介護老人福祉施設）（合計=61）



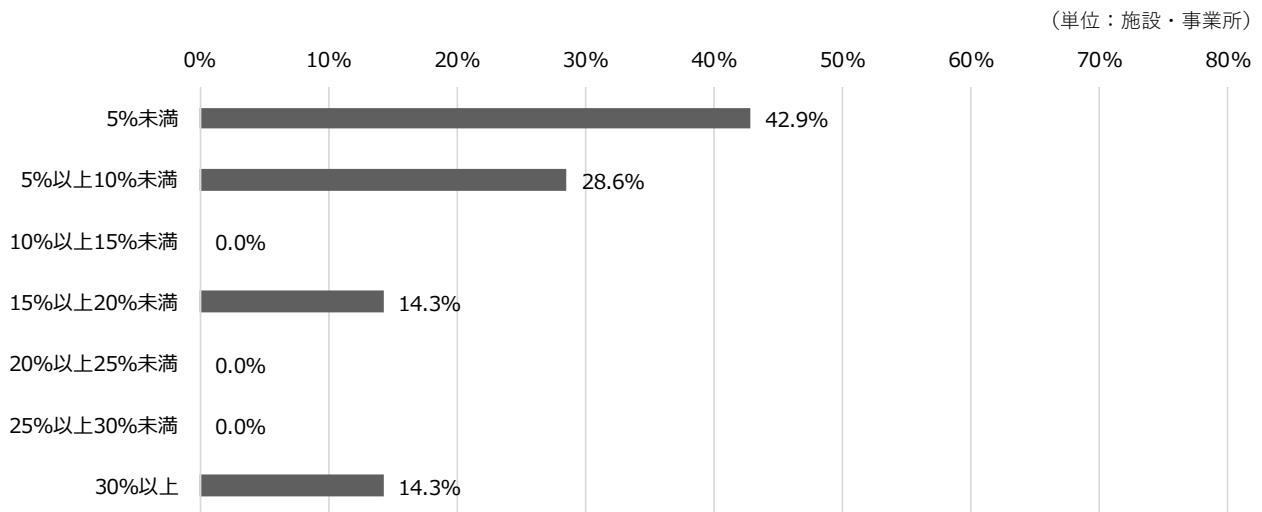
- 見守り機器の対象利用者数（介護老人保健施設）の割合について、「5%未満」が75.5%と最も割合が高かった。（「見守り機器の対象利用者数」、「入所者数」の回答を基に分析）【図表 41 01票 問2（13）見守り機器の対象利用者数×問1（1）⑧入所者数】

図表 41 見守り機器の対象利用者数の割合（介護老人保健施設）（合計=49）



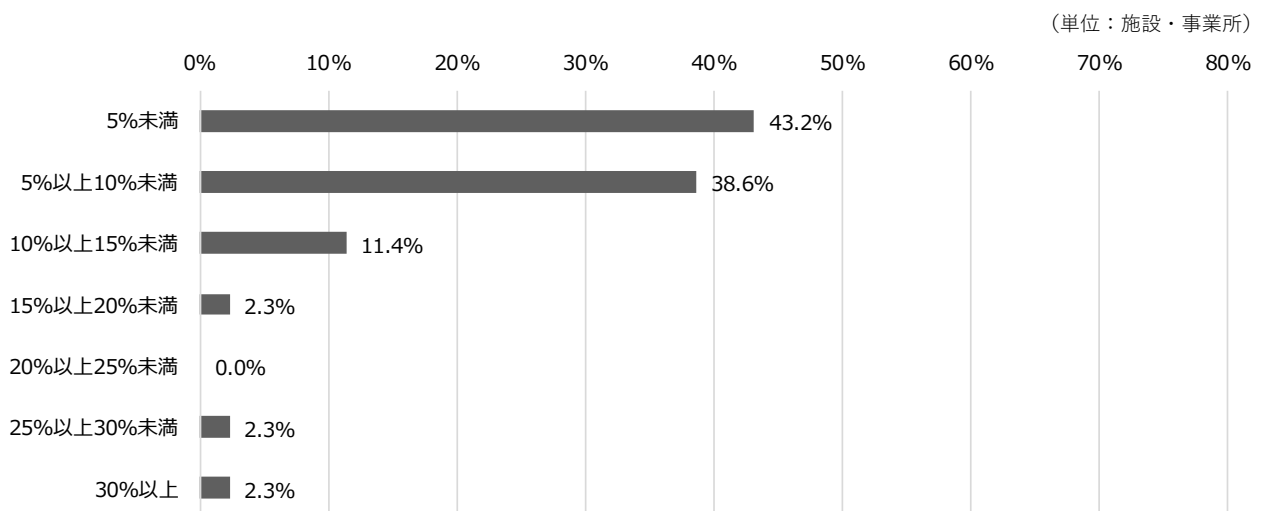
- 見守り機器の対象利用者数（介護療養型医療施設または介護医療院）の割合について、「5%未満」が42.9%と最も割合が高かった。（「見守り機器の対象利用者数」、「入所者数」の回答を基に分析）【図表 42 01票 問2(13) 見守り機器の対象利用者数×問1(1)⑧入所者数】

図表 42 見守り機器の対象利用者数の割合（介護療養型医療施設または介護医療院）（合計=7）



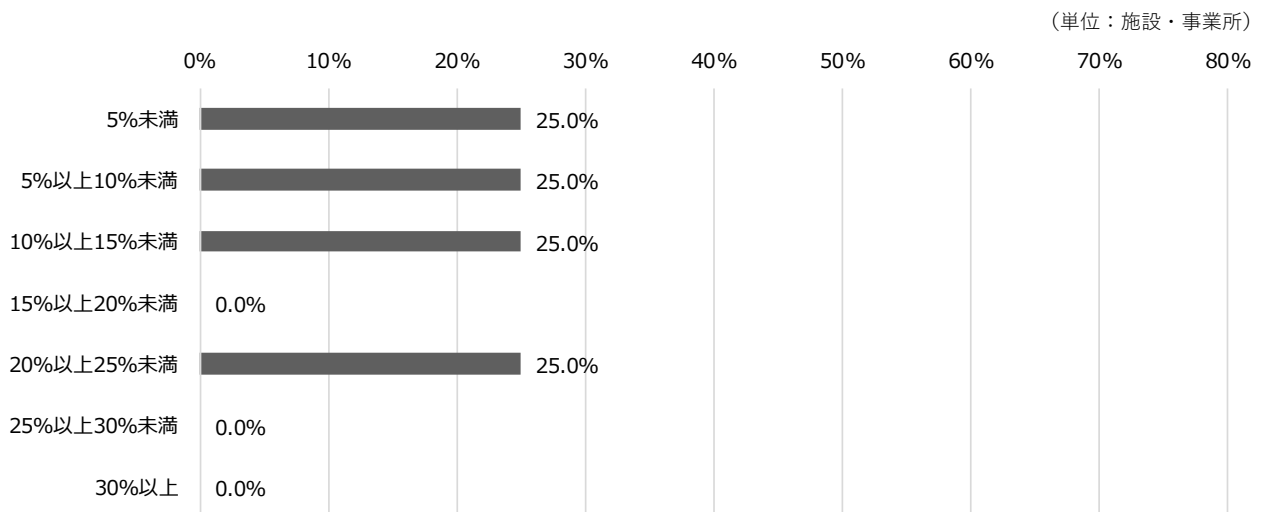
- 見守り機器の対象利用者数（特定施設入居者生活介護）の割合について、「5%未満」が43.2%と最も割合が高かった。（「見守り機器の対象利用者数」、「入所者数」の回答を基に分析）【図表 43 01票 問2(13) 見守り機器の対象利用者数×問1(1)⑧入所者数】

図表 43 見守り機器の対象利用者数の割合（特定施設入居者生活介護）（合計=44）



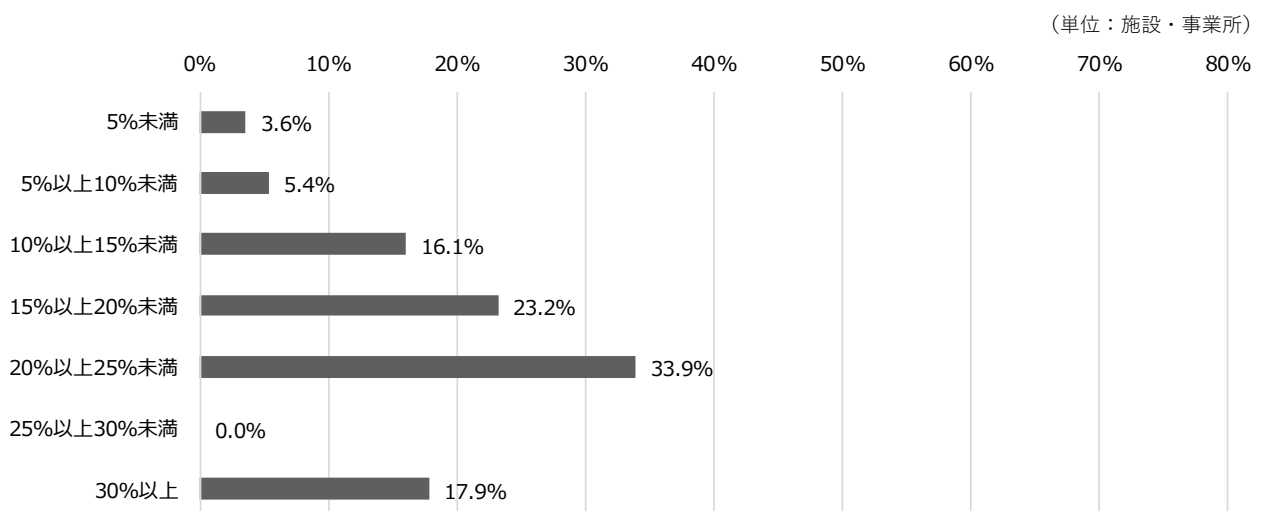
- 見守り機器の対象利用者数（地域密着型特定施設入居者生活介護）の割合について、「5%未満」、「5%以上10%未満」、「10%以上15%未満」、「20%以上25%未満」がそれぞれ25.0%であった。（「見守り機器の対象利用者数」、「入所者数」の回答を基に分析）【図表 44 01票 問2（13）見守り機器の対象利用者数×問1（1）⑧入所者数】

図表 44 見守り機器の対象利用者数の割合（地域密着型特定施設入居者生活介護）（合計=4）



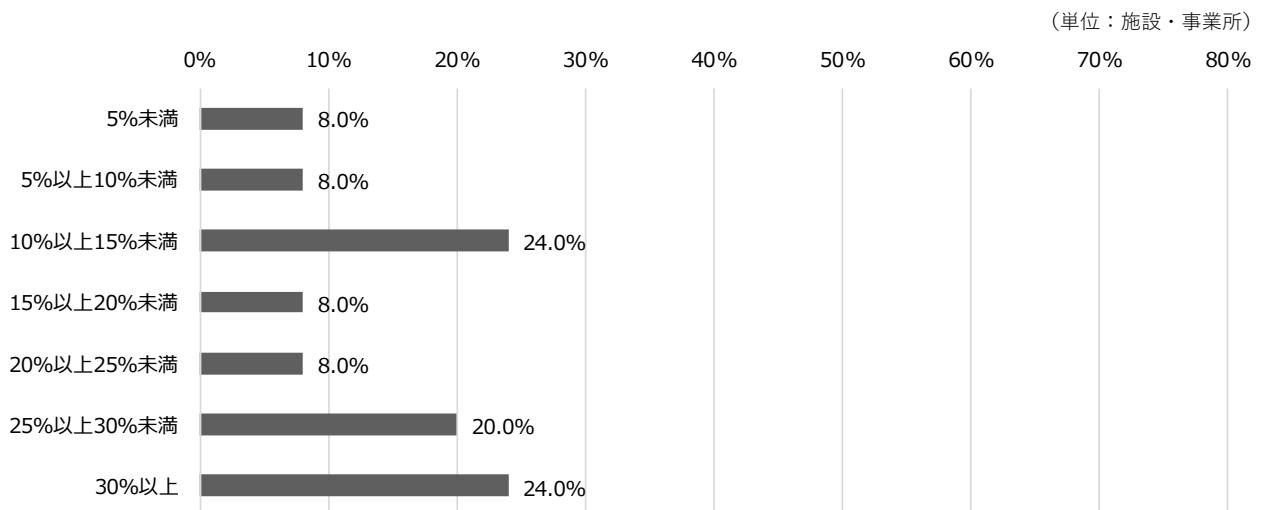
- 見守り機器の対象利用者数（認知症対応型共同生活介護）の割合について、「20%以上25%未満」が33.9%と最も割合が高かった。（「見守り機器の対象利用者数」、「入所者数」の回答を基に分析）【図表 45 01票 問2（13）見守り機器の対象利用者数×問1（1）⑧入所者数】

図表 45 見守り機器の対象利用者数の割合（認知症対応型共同生活介護）（合計=56）



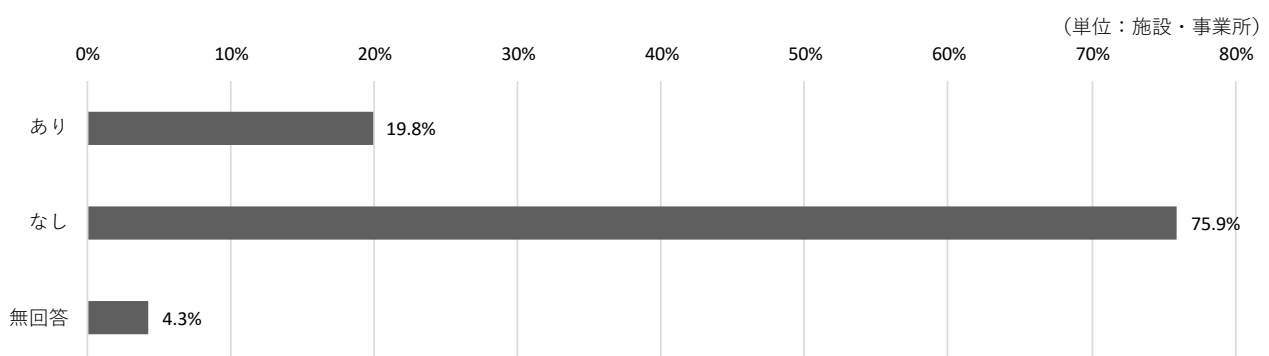
- 見守り機器の対象利用者数（短期入所生活介護）の割合について、「10%以上 15%未満」と「30%以上」が共に 24.0%と最も割合が高かった。（「見守り機器の対象利用者数」、「入所者数」の回答を基に分析）【図表 46 01 票 問 2 (13) 見守り機器の対象利用者数×問 1 (1) ⑧入所者数】

図表 46 見守り機器の対象利用者数の割合（短期入所生活介護）（合計=25）



- 見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会の設置状況について、「あり」が 19.8%であった。【図表 47 01 票 問 2 (14) ①見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会の設置】

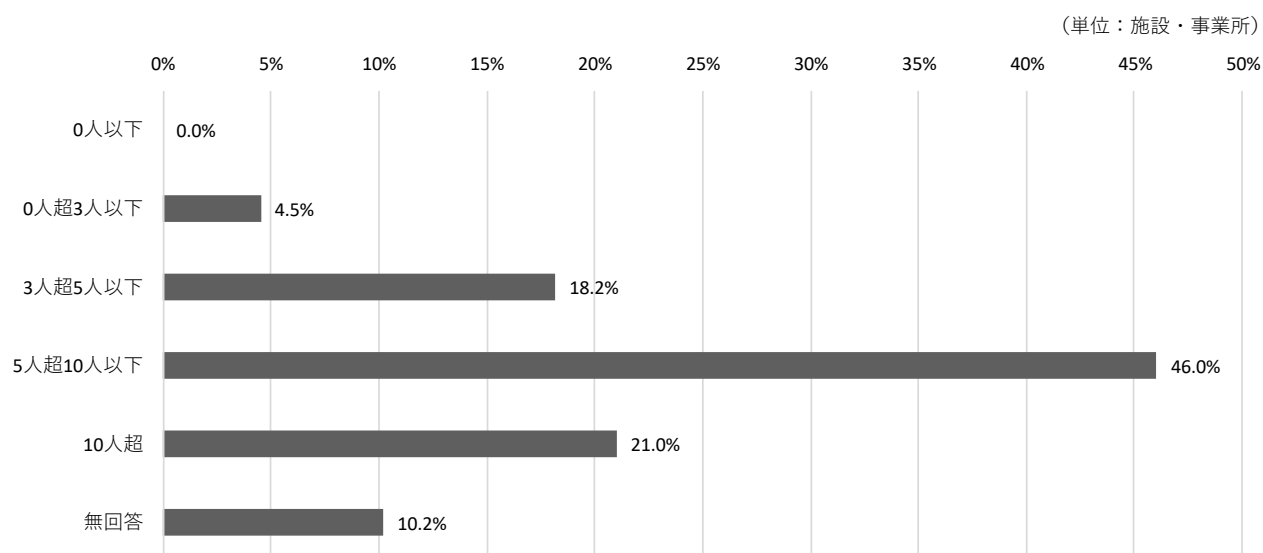
**図表 47 見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会設置状況（有効回答数=892）
（単数回答）**



※見守り機器を導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 委員会の構成員数について、「5人超 10人以下」が46.0%と最も割合が高く、次いで「10人超」が21.0%であった。【図表 48 01票 問2 (14) ②委員会の構成員数】

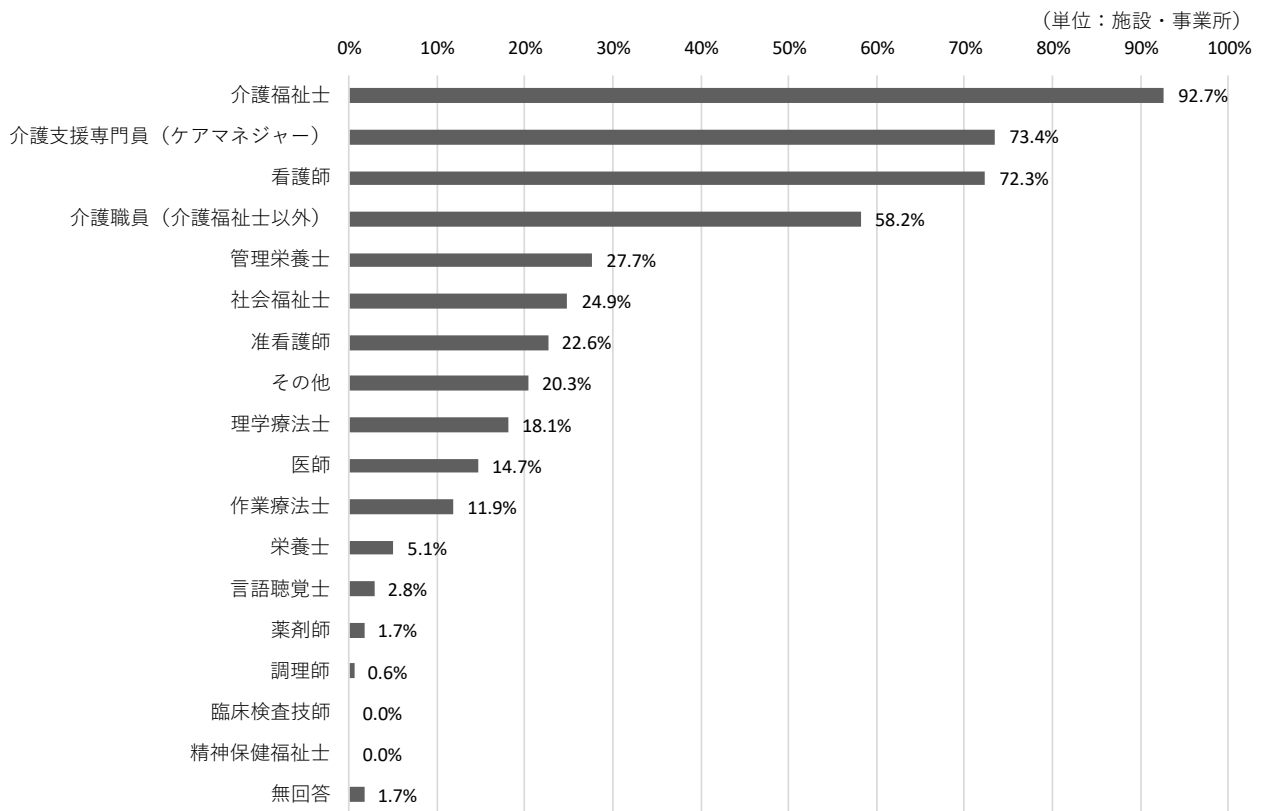
図表 48 委員会の構成員数（有効回答数=176）（単数回答）



※見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会を設置していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 委員会の構成員について、「介護福祉士」が92.7%と最も割合が高く、次いで「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が73.4%であった。【図表 49 01 票 問 2 (14) ③委員会の構成員】

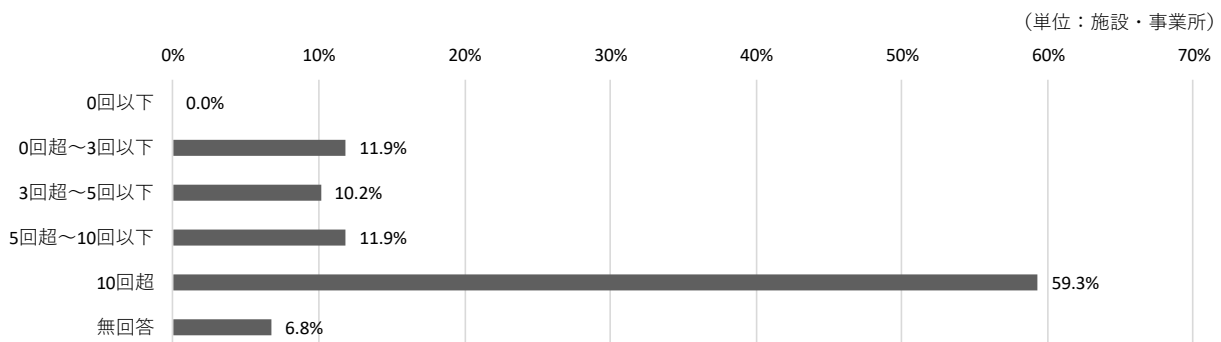
図表 49 委員会の構成員（有効回答数=177）（複数回答）



※見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会を設置していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 委員会の開催状況（年間）について、「10 回超」が59.3%と最も割合が高かった。【図表 50 01 票 問 2 (14) ④委員会の開催状況】

図表 50 委員会の開催状況（年間）（有効回答数=177）（単数回答）

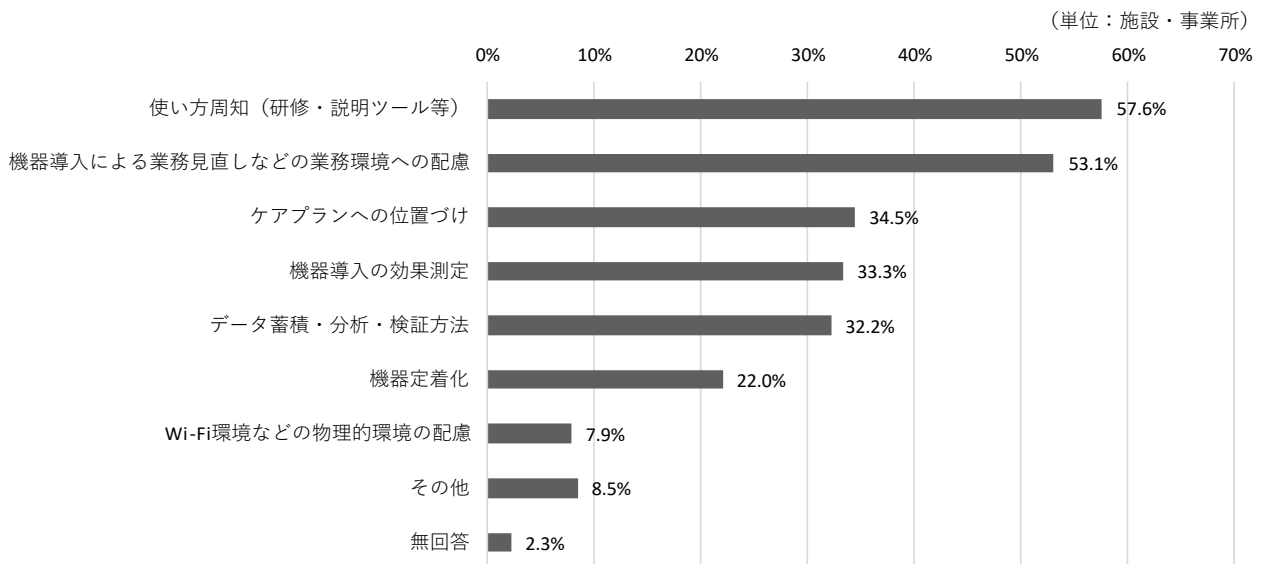


※見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会を設置していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 委員会での協議内容について、「使い方周知（研修・説明ツール等）」が 57.6%と最も割合が高く、次いで「機器導入による業務見直しなどの業務環境への配慮」が 53.1%であった。

【図表 51 01 票 問 2 (14) ⑤委員会での協議内容】

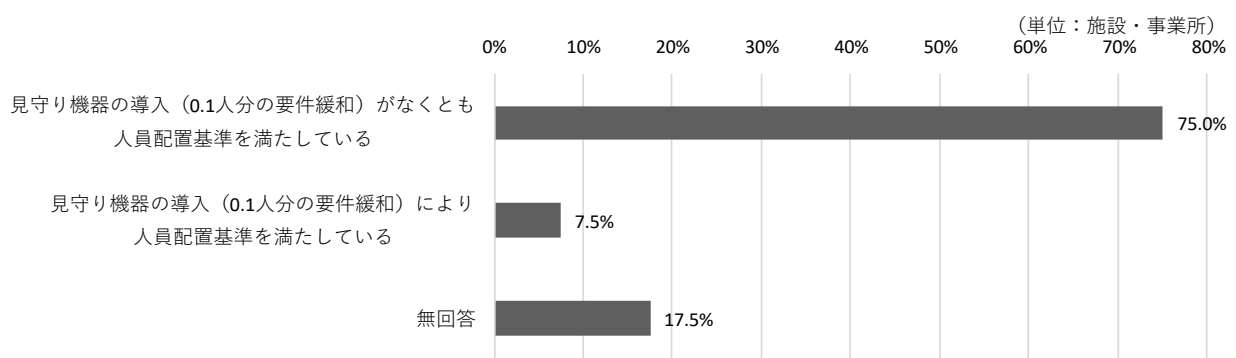
図表 51 委員会での協議内容（有効回答数=177）（複数回答）



※見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会を設置していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 人員配置状況について、「見守り機器の導入（0.1人分の要件緩和）がなくとも人員配置基準を満たしている」が 75.0%と最も割合が高かった。【図表 52 01 票 問 2 (15) 人員配置状況】

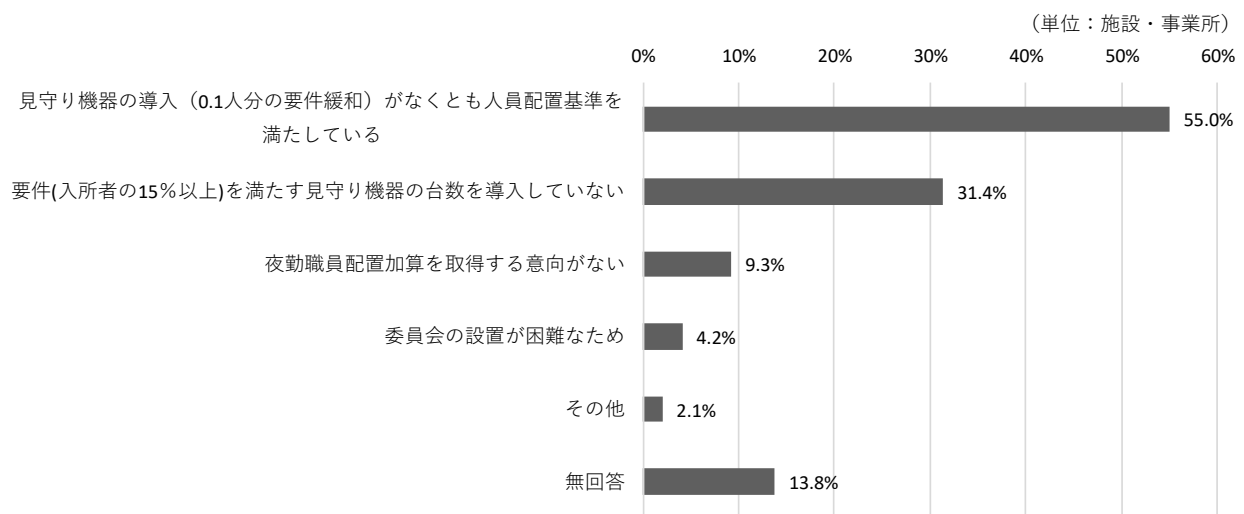
図表 52 人員配置状況（有効回答数=40）（複数回答）



※加算届出を「あり」「届出予定」と回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算の届出を出していない理由について、「見守り機器の導入（0.1人分の要件緩和）がなくとも人員配置基準を満たしている」が55.0%と最も割合が高く、次いで「要件(入所者の15%以上)を満たす見守り機器の台数を導入していない」が31.4%であった。【図表 53 01票 問2 (16) ①見守り機器の導入による夜勤職員配置加算の届出を出していない理由】

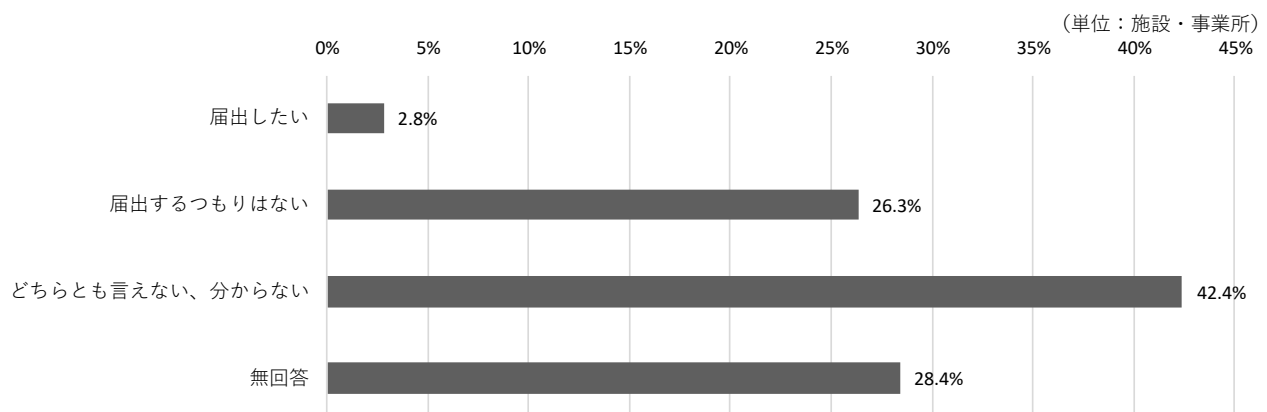
**図表 53 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算の届出を出していない理由（有効回答数=529）
（複数回答）**



※見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出「なし」を回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器導入による夜勤職員配置加算の今後の届出の意向について、「届出したい」が2.8%であった。【図表 54 01票 問2 (16) ②今後の届出の意向について】

**図表 54 見守り機器導入による夜勤職員配置加算の今後の届出の意向について（有効回答数=528）
（単数回答）**



※見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出「なし」を回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

⑥ 介護ロボット導入に関する課題

- 介護ロボットを導入している施設・事業所では、介護ロボットを導入して感じた課題について、すべての介護ロボット種別において、「導入費用が高額」の割合が高かったほか、ほとんどの介護ロボット種別において、「研修や使い方の周知が必要」の割合が高かった。(各種別ごとに比較) (「導入した介護ロボットの種類」、「介護ロボットを導入して感じた課題」の回答を基に分析)【図表 55 01票 01票 問2 (2) 導入した介護ロボットの種類×01票 問2 (17) 介護ロボットを導入して感じた課題、もしくは介護ロボットを導入していない理由】

図表 55 介護ロボットを導入して感じた課題(複数回答)

(単位：施設・事業所)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
導入費用が高額	159 64.9%	80 65.6%	17 73.9%	3 25.0%	494 55.3%	37 56.9%	10 47.6%	6 8.3%
有効性を感じない(期待できない)	109 44.5%	19 15.6%	2 8.7%	1 8.3%	60 6.7%	10 15.4%	1 4.8%	0 0.0%
利用者の安全面に不安	30 12.2%	21 17.2%	5 21.7%	1 8.3%	68 7.6%	1 1.5%	1 4.8%	0 0.0%
職員の安全面に不安	43 17.6%	6 4.9%	0 0.0%	0 0.0%	12 1.3%	1 1.5%	2 9.5%	0 0.0%
機器に関する情報が少ない	22 9.0%	11 9.0%	2 8.7%	0 0.0%	107 12.0%	8 12.3%	0 0.0%	1 1.4%
準備・片付けに時間がかかる	175 71.4%	45 36.9%	2 8.7%	1 8.3%	45 5.0%	7 10.8%	1 4.8%	0 0.0%
機器のメンテナンスが大変	61 24.9%	15 12.3%	1 4.3%	3 25.0%	133 14.9%	19 29.2%	2 9.5%	1 1.4%
機器を活用した業務改革が必要	51 20.8%	25 20.5%	2 8.7%	2 16.7%	131 14.7%	8 12.3%	0 0.0%	0 0.0%
機器の誤作動が不安	20 8.2%	15 12.3%	5 21.7%	0 0.0%	309 34.6%	9 13.8%	2 9.5%	1 1.4%
研修や使い方の周知が必要	104 42.4%	47 38.5%	7 30.4%	2 16.7%	279 31.2%	23 35.4%	6 28.6%	1 1.4%
機器の操作が難しい	53 21.6%	25 20.5%	2 8.7%	0 0.0%	95 10.6%	10 15.4%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	17 6.9%	23 18.9%	4 17.4%	6 50.0%	156 17.5%	17 26.2%	6 28.6%	65 90.3%
	245	122	23	12	893	65	21	72

- 介護ロボットを導入していない施設・事業所では、介護ロボットを導入していない理由について、すべての介護ロボット種別において、「導入費用が高額」、「研修や使い方の周知が必要」の割合が高かった。(各種別ごとに比較) (「導入した介護ロボットの種類」、「介護ロボットを導入して感じた課題」の回答を基に分析)
- このほか、介護ロボットを導入している施設・事業所と比較すると、「機器に関する情報が少ない」の割合が高かった。【図表 56 01票 問2(1) 導入の有無×問2(17) 介護ロボットを導入して感じた課題、もしくは介護ロボットを導入していない理由】

図表 56 介護ロボットを導入していない理由(複数回答)

(単位：施設・事業所)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
導入費用が高額	390 68.7%	333 58.6%	299 52.6%	294 51.8%	317 55.8%	273 48.1%	310 54.6%	64 11.3%
有効性を感じない(期待できない)	107 18.8%	58 10.2%	69 12.1%	93 16.4%	39 6.9%	111 19.5%	56 9.9%	22 3.9%
利用者の安全面に不安	90 15.8%	124 21.8%	150 26.4%	78 13.7%	64 11.3%	40 7.0%	116 20.4%	20 3.5%
職員の安全面に不安	90 15.8%	49 8.6%	37 6.5%	22 3.9%	14 2.5%	11 1.9%	42 7.4%	13 2.3%
機器に関する情報が少ない	141 24.8%	140 24.6%	145 25.5%	176 31.0%	132 23.2%	139 24.5%	146 25.7%	35 6.2%
準備・片付けに時間がかかる	200 35.2%	114 20.1%	60 10.6%	81 14.3%	25 4.4%	21 3.7%	52 9.2%	16 2.8%
機器のメンテナンスが大変	171 30.1%	130 22.9%	111 19.5%	142 25.0%	96 16.9%	84 14.8%	120 21.1%	23 4.0%
機器を活用した業務改革が必要	126 22.2%	117 20.6%	97 17.1%	115 20.2%	110 19.4%	86 15.1%	112 19.7%	25 4.4%
機器の誤作動が不安	114 20.1%	110 19.4%	103 18.1%	92 16.2%	104 18.3%	54 9.5%	102 18.0%	23 4.0%
研修や使い方の周知が必要	213 37.5%	198 34.9%	165 29.0%	170 29.9%	169 29.8%	146 25.7%	154 27.1%	36 6.3%
機器の操作が難しい	73 12.9%	58 10.2%	52 9.2%	56 9.9%	53 9.3%	37 6.5%	48 8.5%	19 3.3%
無回答	78 13.7%	116 20.4%	132 23.2%	124 21.8%	130 22.9%	154 27.1%	138 24.3%	477 84.0%
	568	568	568	568	568	568	568	568

- 特定の種別のロボットを導入している施設・事業所のうち、その他の種別の介護ロボットを導入していない理由について、すべての介護ロボット種別において、「導入費用が高額」、「研修や使い方の周知が必要」の割合が高かった。(各種別ごとに比較)
- ただし、介護ロボットを導入していない施設・事業所と比較すると、「有効性を感じない」、「利用者の安全面に不安」、「機器に関する情報が少ない」、「機器の操作が難しい」の割合は低かった。(「導入した介護ロボットの種類」、「介護ロボットを導入して感じた課題」の回答を基に分析)【図表 56 01 票 問 2 (1) 導入の有無×問 2 (17) 介護ロボットを導入して感じた課題、もしくは介護ロボットを導入していない理由】

図表 57 特定の種別のロボットを導入している施設・事業所のうち、その他の種別の介護ロボットを導入していない理由(複数回答)

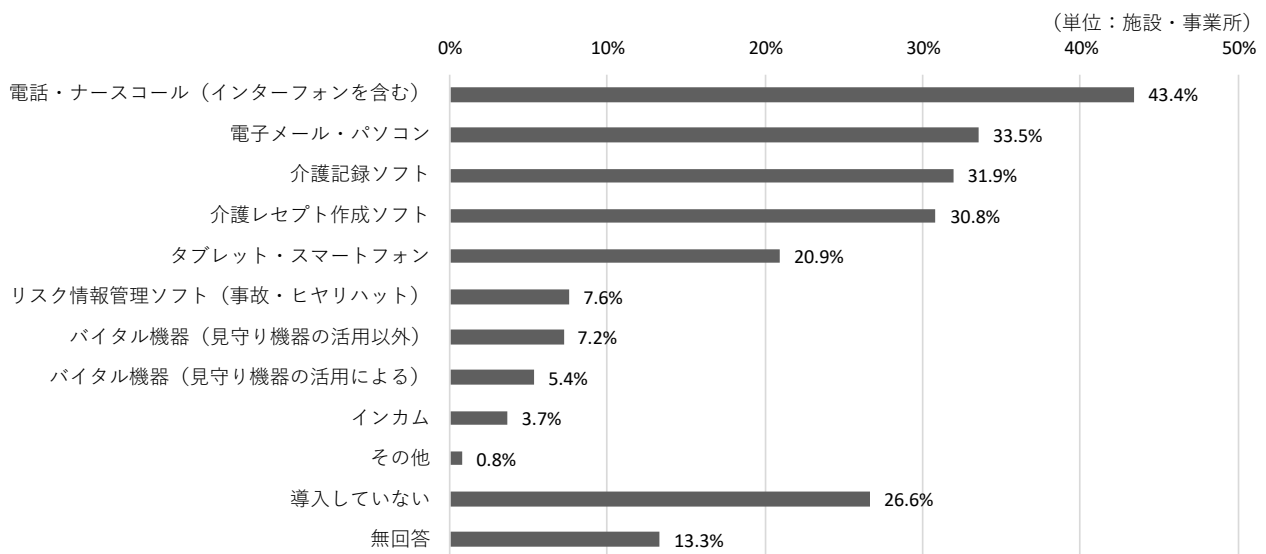
(単位：施設・事業所)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
導入費用が高額	322 31.7%	280 24.6%	221 17.8%	206 16.5%	140 37.9%	218 18.2%	251 20.2%	32 2.7%
有効性を感じない(期待できない)	105 10.3%	68 6.0%	61 4.9%	88 7.0%	12 3.3%	76 6.3%	43 3.5%	2 0.2%
利用者の安全面に不安	74 7.3%	76 6.7%	102 8.2%	53 4.2%	18 4.9%	12 1.0%	60 4.8%	1 0.1%
職員の安全面に不安	65 6.4%	35 3.1%	17 1.4%	11 0.9%	2 0.5%	4 0.3%	22 1.8%	1 0.1%
機器に関する情報が少ない	109 10.7%	93 8.2%	106 8.6%	127 10.2%	27 7.3%	93 7.8%	96 7.7%	10 0.8%
準備・片付けに時間がかかる	208 20.5%	116 10.2%	58 4.7%	65 5.2%	11 3.0%	20 1.7%	44 3.5%	4 0.3%
機器のメンテナンスが大変	127 12.5%	87 7.6%	65 5.2%	93 7.4%	46 12.5%	45 3.8%	86 6.9%	7 0.6%
機器を活用した業務改革が必要	79 7.8%	77 6.8%	57 4.6%	60 4.8%	36 9.8%	55 4.6%	47 3.8%	3 0.3%
機器の誤作動が不安	92 9.0%	68 6.0%	63 5.1%	50 4.0%	62 16.8%	27 2.3%	49 3.9%	4 0.3%
研修や使い方の周知が必要	186 18.3%	168 14.7%	128 10.3%	129 10.3%	75 20.3%	115 9.6%	138 11.1%	13 1.1%
機器の操作が難しい	83 8.2%	59 5.2%	41 3.3%	37 3.0%	16 4.3%	32 2.7%	30 2.4%	6 0.5%
無回答	711 69.9%	860 75.4%	962 77.6%	966 77.3%	293 79.4%	952 79.5%	967 77.9%	1,161 97.5%
	1,017	1,140	1,239	1,250	369	1,197	1,241	1,191

⑦ ICT（情報通信技術）等の導入・活用

- 現在施設で使用している ICT（情報通信技術）を活用した機器について、「電話・ナースコール（インターフォンを含む）」が 43.4%と最も割合が高く、次いで「電子メール・パソコン」が 33.5%であった。【図表 58 01 票 問 3 (1) 現在施設で使用している ICT（情報通信技術）を活用した機器（介護ロボットと連動し得るもの）】

図表 58 現在施設で使用している ICT（情報通信技術）を活用した機器（介護ロボットと連動し得るもの）（有効回答数=1,845）（複数回答）



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

※「タブレット・スマートフォン」、「電子メール・パソコン」、「電話・ナースコール」、「導入していない」、については、無効回答があったため、有効回答数から減じた。

- 介護ロボットと連動しているものについて、「⑤見守り」では、「電話・ナースコール（インターフォンを含む）」の割合が高かった。【図表 59 01 票 問 3 (2) 介護ロボットと連動しているもの】

図表 59 介護ロボットと連動しているもの(複数回答)

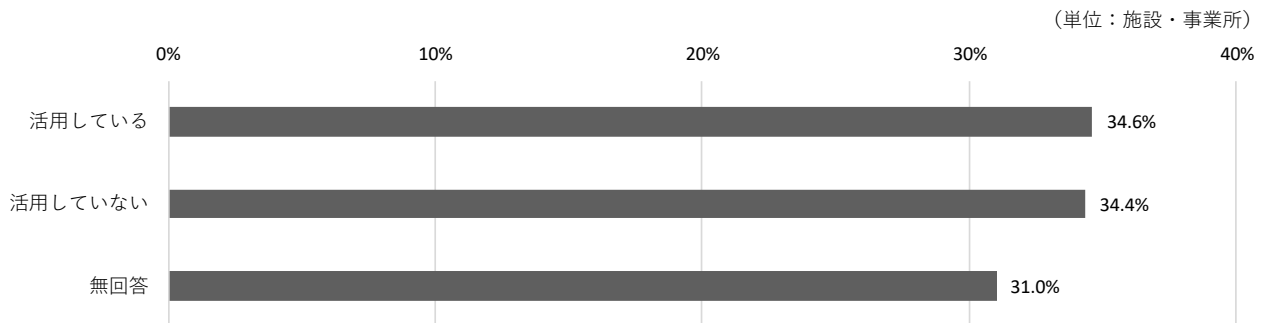
(単位：施設・事業所)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
介護記録ソフト	2 1.7%	2 2.9%	0 0.0%	1 12.5%	20 3.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.2%
介護レセプト作成ソフト	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.2%
リスク情報管理ソフト(事故・ヒヤリハット)	1 0.8%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	6 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
タブレット・スマートフォン	2 1.7%	2 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	129 20.9%	4 8.0%	0 0.0%	0 0.0%
電子メール・パソコン	1 0.8%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	91 14.8%	9 18.0%	0 0.0%	0 0.0%
インカム	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	5 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
バイタル情報(見守り機器の活用による)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
バイタル情報(見守り機器の活用以外)	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	8 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
電話・ナースコール(インターフォンを含む)	1 0.8%	2 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	269 43.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	1 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.5%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	113 94.2%	64 94.1%	14 100.0%	7 87.5%	184 29.9%	38 76.0%	16 100.0%	45 97.8%
有効回答数	120	68	14	8	616	50	16	46

※該当する種別の介護ロボットを導入している施設・事業所のうち、ICT（情報通信技術）を活用した機器を1つでも導入していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- ICT 機器から得られたデータの活用状況について、「活用している」が 34.6%であった。【図表 60 01 票 問 3 (3) ICT 機器から得られたデータの活用状況】

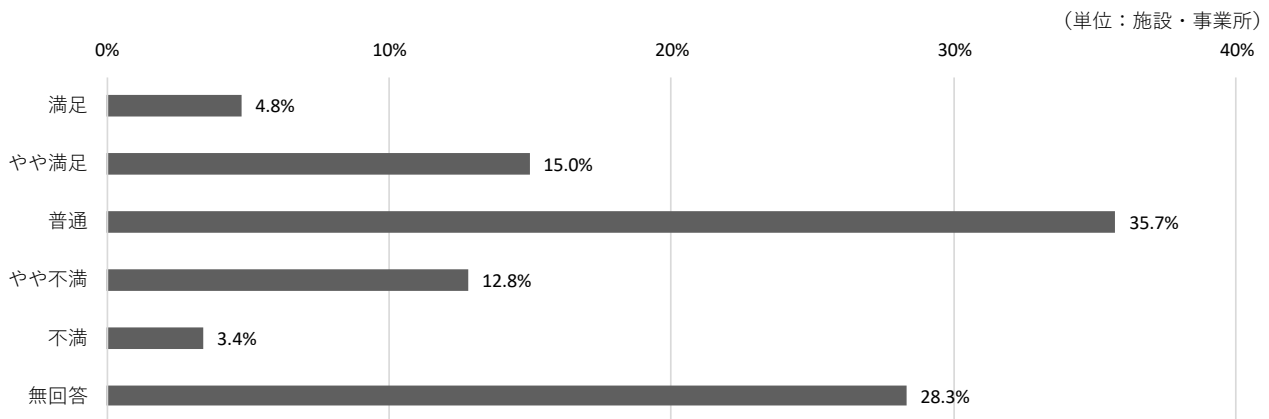
図表 60 ICT 機器から得られたデータの活用状況（有効回答数=1,109）（単数回答）



※ICT（情報通信技術）を活用した機器を1つでも導入していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- ICT（情報通信技術）の活用に対する満足度について、「普通」が 35.7%と最も割合が高かった。【図表 61 01 票 問 3 (4) ICT（情報通信技術）の活用について、あなたの満足度に最もあてはまるもの】

図表 61 ICT（情報通信技術）の活用に対する満足度（有効回答数=1,109）（単数回答）



※ICT（情報通信技術）を活用した機器を1つでも導入していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- ICT（情報通信技術）を活用した機器を導入していない理由について、すべての ICT 機器において、「導入費用が高額」の割合が高かった。（各 ICT 機器ごとに比較）【図表 62 01 票問 3 (5) ICT（情報通信技術）を活用した機器を導入していない理由】

図表 62 ICT（情報通信技術）を活用した機器を導入していない理由（複数回答）

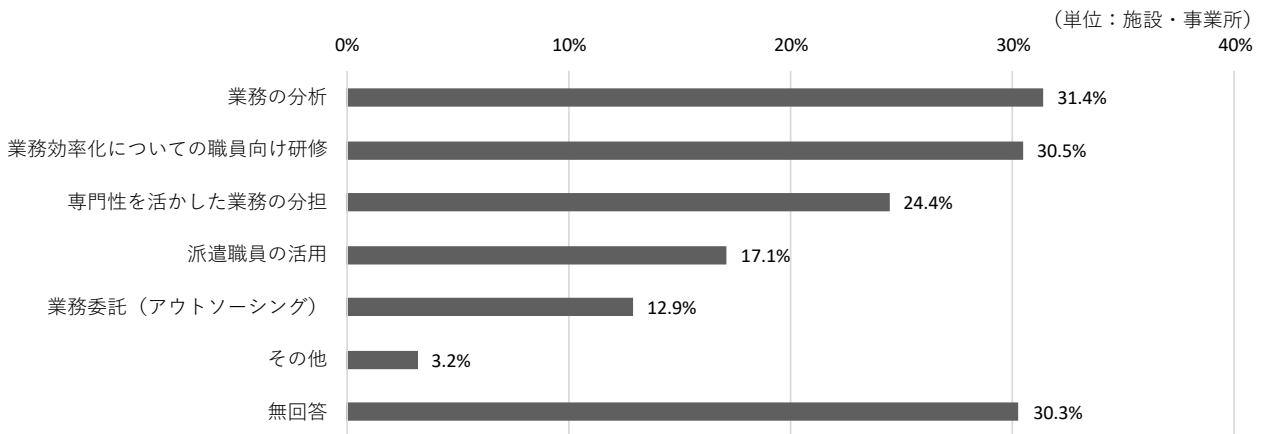
（単位：施設・事業所）

	①介護記録ソフト	②介護セプト作成ソフト	③リスク情報管理ソフト	④タブレット・スマートフォン	⑤電子メール・パソコン	⑥インカム	⑦バイタル情報（見守り機器の活用による）	⑧バイタル情報（見守り機器の活用以外）	⑨電話・ナースコール	⑩その他
導入費用が高額	237 48.8%	195 39.7%	195 39.7%	218 44.4%	171 34.8%	166 33.8%	208 42.4%	185 37.7%	177 36.0%	19 3.9%
有効性を感じない(期待できない)	29 5.9%	29 5.9%	31 6.3%	25 5.1%	26 5.3%	42 8.6%	24 4.9%	23 4.7%	21 4.3%	6 1.2%
利用者の安全面に不安	3 0.6%	1 0.2%	2 0.4%	2 0.4%	1 0.2%	1 0.2%	10 2.0%	6 1.2%	2 0.4%	2 0.4%
職員の安全面に不安	2 0.4%	1 0.2%	1 0.2%	4 0.8%	3 0.6%	0 0.0%	2 0.4%	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%
機器に関する情報少ない	84 17.2%	79 16.1%	91 18.5%	74 15.1%	68 13.8%	81 16.5%	98 20.0%	92 18.7%	61 12.4%	11 2.2%
準備・片付けに時間がかかる	4 0.8%	1 0.2%	1 0.2%	5 1.0%	2 0.4%	5 1.0%	2 0.4%	3 0.6%	1 0.2%	0 0.0%
機器のメンテナンスが大変	38 7.8%	32 6.5%	30 6.1%	38 7.7%	29 5.9%	32 6.5%	39 7.9%	30 6.1%	26 5.3%	5 1.0%
機器を活用した業務改革が必要	84 17.2%	58 11.8%	59 12.0%	72 14.7%	49 10.0%	48 9.8%	67 13.6%	53 10.8%	42 8.6%	7 1.4%
機器の誤作動が不安	25 5.1%	25 5.1%	23 4.7%	28 5.7%	18 3.7%	17 3.5%	30 6.1%	23 4.7%	22 4.5%	5 1.0%
研修や使い方の周知が必要	150 30.7%	113 23.0%	116 23.6%	139 28.3%	99 20.2%	90 18.3%	109 22.2%	97 19.8%	82 16.7%	12 2.4%
機器の操作が難しい	59 12.0%	43 8.8%	43 8.8%	53 10.8%	34 6.9%	36 7.3%	40 8.1%	38 7.7%	24 4.9%	3 0.6%
無回答	163 33.2%	219 44.6%	205 41.8%	185 37.7%	249 50.7%	233 47.5%	193 39.3%	224 45.6%	254 51.7%	22 4.5%
有効回答数	491	491	491	491	491	491	491	491	491	491

※ICT（情報通信技術）を活用した機器を導入していないと回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット・ICT の活用以外に介護の質の向上や業務効率化に取り組んでいることについて、「業務の分析」が 31.4%と最も割合が高く、次いで「業務効率化についての職員向け研修」が 30.5%であった。【図表 63 01 票 問 3 (6) 介護ロボット・ICT の活用以外に介護の質の向上や業務効率化に取り組んでいることについて教えてください】

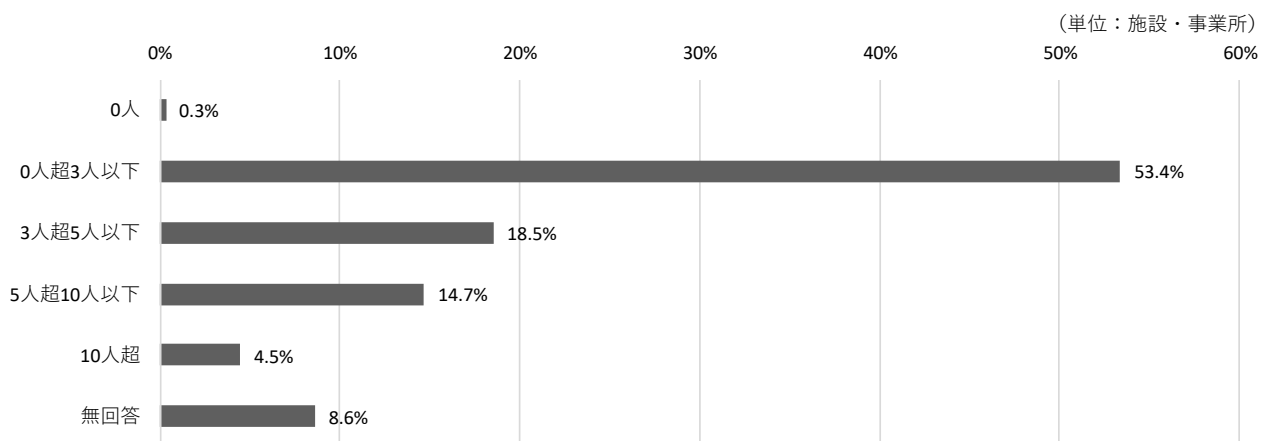
図表 63 介護ロボット・ICT の活用以外に介護の質の向上や業務効率化に取り組んでいること
(有効回答数=1,845) (複数回答)



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 派遣職員の活用人数について、「0 人超 3 人以下」が 53.4%と最も割合が高く、次いで「3 人超 5 人以下」が 18.5%であった。【図表 64 01 票 問 3 (6) 派遣職員の活用人数】

図表 64 派遣職員の活用人数 (有効回答数=313) (単数回答)



※「派遣社員の活用」を回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

⑧ 今後の介護ロボットのさらなる導入について

- 今後の介護ロボットのさらなる導入について、「導入したい」との回答では、「⑤見守り」が30.8%と最も多く、次いで「②移乗支援（非装着型）」が16.8%であった。【図表 65 01 票 問4 今後の介護ロボットのさらなる導入について】

図表 65 今後の介護ロボットのさらなる導入について(複数回答)

(単位：施設・事業所)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着 型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケー ション	⑦入浴支援	⑧その他
導入したい	216 11.7%	310 16.8%	199 10.8%	206 11.2%	568 30.8%	227 12.3%	281 15.2%	—
検討中	284 15.4%	304 16.5%	267 14.5%	256 13.9%	379 20.5%	293 15.9%	278 15.1%	—
導入しない	381 20.7%	311 16.9%	329 17.8%	341 18.5%	173 9.4%	309 16.7%	294 15.9%	23 1.2%
無回答	963 52.3%	923 50.1%	1,054 57.1%	1,043 56.5%	737 40.0%	1,021 55.3%	997 54.0%	1,787 96.9%
有効回答数	1,845	1,845	1,845	1,845	1,845	1,845	1,845	1,845

※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

※「②移乗支援（非装着型）」のうち「導入したい」に1件、「⑤見守り」のうち「導入したい」に1件、「①移乗支援（装着型）」のうち「導入しない」に2件無効回答があったため、有効回答数から減じた。

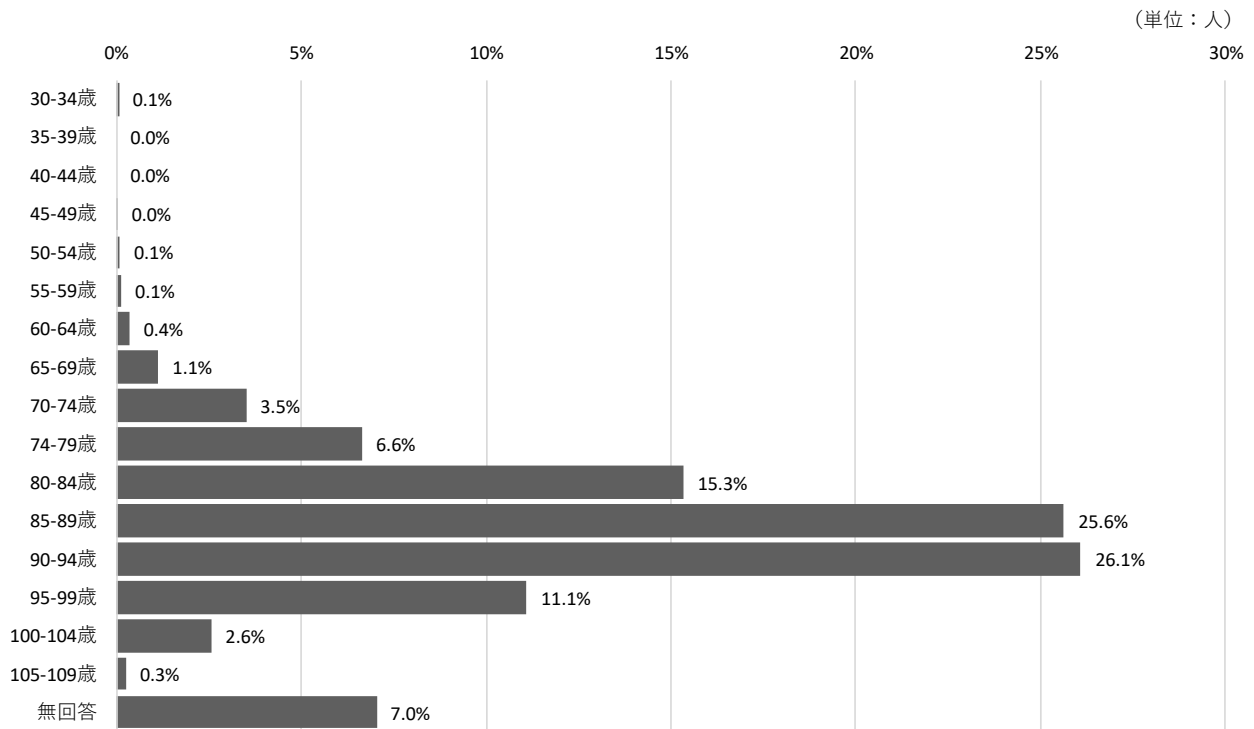
※「⑧その他」のうち「導入したい」、「検討中」については、非選択式の設問のため集計しない。

(2) 利用者調査（郵送調査）

① 利用者属性

- 利用者の年齢について、「90-94歳」が26.1%と最も割合が高く、次いで「85-89歳」が25.6%であった。【図表 66 02票 問1 年齢】

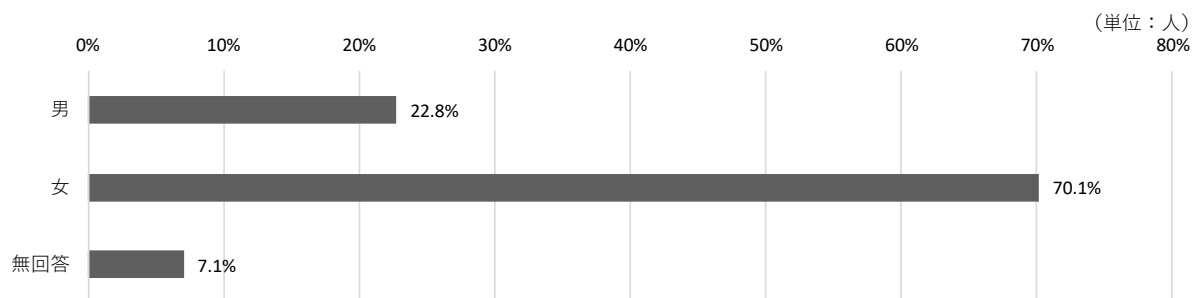
図表 66 利用者の年齢（有効回答数=3,071）（単数回答）



※全利用者の回答を有効回答数とした。

- 利用者の性別について、「男性」が22.8%、「女性」が70.1%であった。【図表 67 02票 問1 性別】

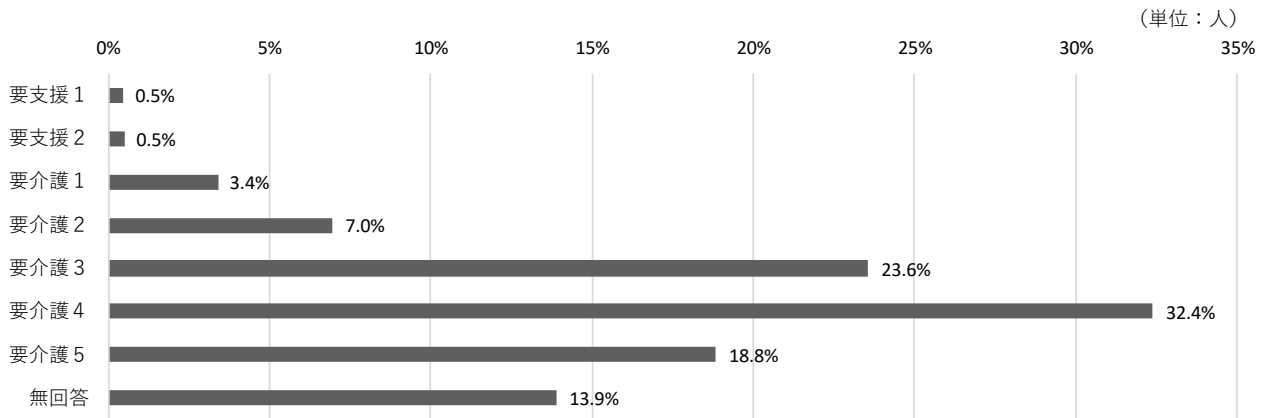
図表 67 利用者の性別（有効回答数=3,074）（単数回答）



※全利用者の回答を有効回答数とした。

- 利用者の要介護状態について、「要介護 4」が 32.4%と最も割合が高く、次いで「要介護 3」が 23.6%であった。【図表 68 02 票 問 1 要介護状態】

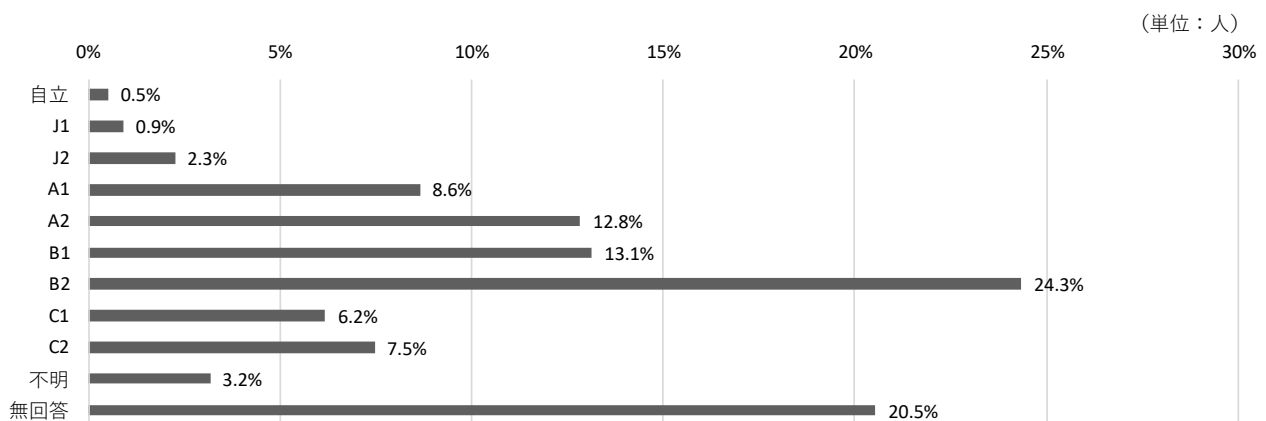
図表 68 利用者の要介護状態（有効回答数=3,072）（単数回答）



※全利用者の回答を有効回答数とした。

- 障害高齢者の日常生活自立度について、「B2」が 24.3%と最も割合が高く、次いで「B1」が 13.1%であった。【図表 69 02 票 問 1 障害高齢者の日常生活自立度】

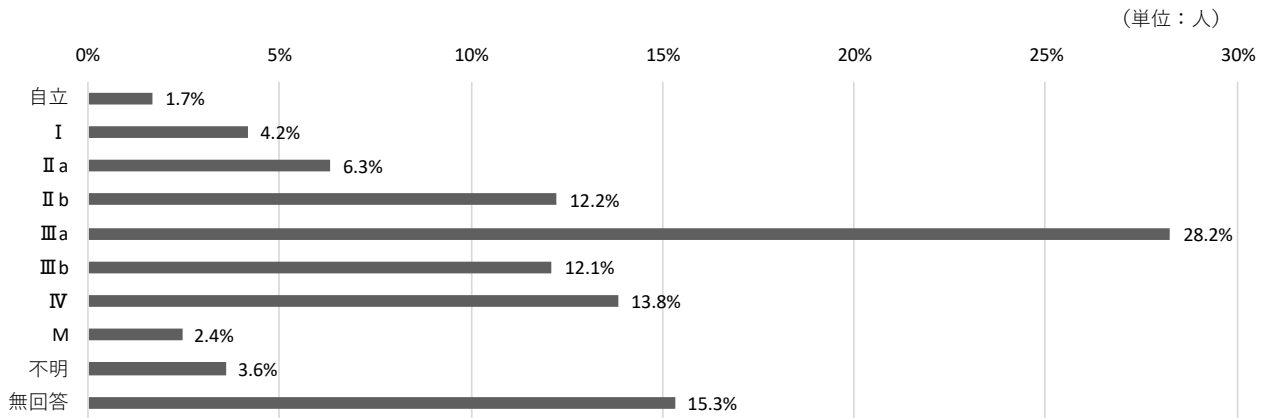
図表 69 障害高齢者の日常生活自立度（有効回答数=3,054）（単数回答）



※全利用者の回答を有効回答数とした。

- 認知症高齢者の日常生活自立度について、「Ⅲa」が28.2%と最も割合が高く、次いで「Ⅳ」が13.8%であった。【図表 70 02 票 問1 認知症高齢者の日常生活自立度】

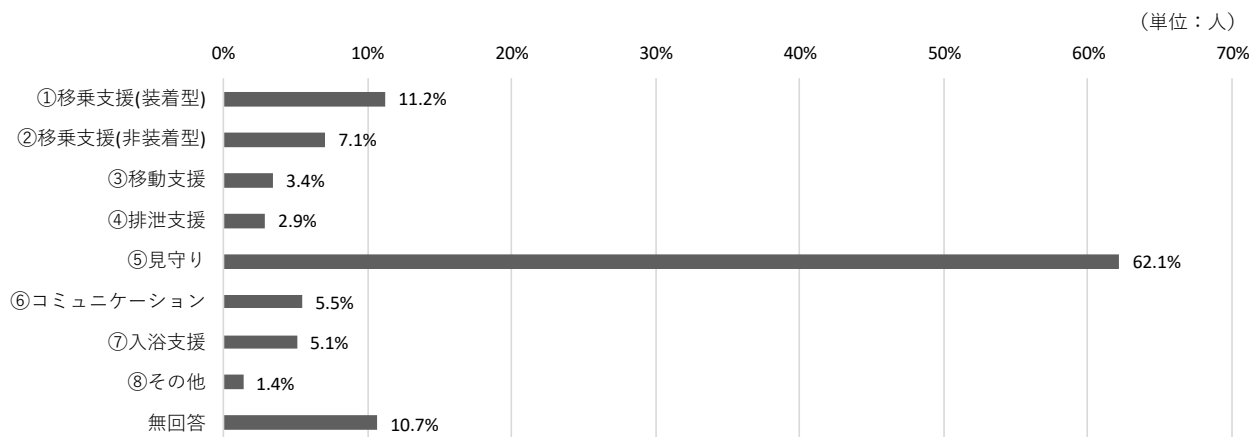
図表 70 認知症高齢者の日常生活自立度（有効回答数=3,063）（単数回答）



※全利用者の回答を有効回答数とした。

- 利用者が使用している機器について、「⑤見守り」が61.6%と最も割合が高く、次いで「①移乗支援(装着型)」が11.2%であった。【図表 71 02 票 問1 利用者が使用している機器】

図表 71 利用者が使用している機器（有効回答数=3,074）（複数回答）



※全利用者の回答を有効回答数とした。

② 利用者に対する効果

- 使用している介護ロボットを利用者がどのように感じているかについて、ほとんどの介護ロボット種別では、「自分が介護者に気を遣わなくても良い」の割合が高かった。(各種別ごとに比較)
- 「⑤見守り」では、「転倒が減る」が37.1%と最も割合が高く、次いで「緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある」が28.6%であった。【図表 72 02票 問2 使用している介護ロボットについて、利用者はどのように感じていますか】

図表 72 利用者が使用している機器に感じること（複数回答）

(単位：人)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケー ション	⑦入浴支援	⑧その他
自分が介護者に気を遣わなくても良い	60 17.4%	58 26.7%	31 29.2%	17 19.1%	259 13.6%	36 21.4%	54 34.4%	5 11.9%
自分の心身の衰えの防止につながる	22 6.4%	22 10.1%	31 29.2%	16 18.0%	134 7.0%	42 25.0%	32 20.4%	6 14.3%
転倒が減る（しりもち、座り込み等のヒヤリハット含む）	37 10.7%	61 28.1%	36 34.0%	12 13.5%	708 37.1%	7 4.2%	42 26.8%	10 23.8%
睡眠の質が高まる（まとまった睡眠、寝覚め、眠剤減）	1 0.3%	10 4.6%	2 1.9%	5 5.6%	229 12.0%	9 5.4%	11 7.0%	6 14.3%
排泄の失敗が減る	5 1.4%	12 5.5%	4 3.8%	15 16.9%	324 17.0%	3 1.8%	3 1.9%	3 7.1%
人による介護よりも安全性が高い	43 12.5%	78 35.9%	17 16.0%	8 9.0%	138 7.2%	5 3.0%	58 36.9%	2 4.8%
職員から見守られている安心感が高まる	16 4.6%	25 11.5%	12 11.3%	11 12.4%	445 23.3%	12 7.1%	44 28.0%	3 7.1%
緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある	10 2.9%	23 10.6%	11 10.4%	8 9.0%	547 28.6%	5 3.0%	33 21.0%	4 9.5%
最先端の機器を用いた介護を受けられる	44 12.8%	27 12.4%	13 12.3%	10 11.2%	130 6.8%	22 13.1%	25 15.9%	5 11.9%
職員からの干渉・制止が減る	5 1.4%	6 2.8%	3 2.8%	2 2.2%	256 13.4%	19 11.3%	16 10.2%	1 2.4%
見張られているようで何となく嫌である	5 1.4%	8 3.7%	2 1.9%	2 2.2%	267 14.0%	6 3.6%	5 3.2%	0 0.0%
見慣れないものが設置されていて違和感がある	77 22.3%	26 12.0%	6 5.7%	14 15.7%	167 8.7%	14 8.3%	14 8.9%	0 0.0%
準備・片付けに時間がかかる	45 13.0%	27 12.4%	10 9.4%	7 7.9%	19 1.0%	6 3.6%	8 5.1%	1 2.4%
その他	12 3.5%	3 1.4%	2 1.9%	2 2.2%	30 1.6%	8 4.8%	0 0.0%	0 0.0%
特にない	63 18.3%	5 2.3%	6 5.7%	7 7.9%	157 8.2%	31 18.5%	10 6.4%	3 7.1%
わからない	140 40.6%	59 27.2%	13 12.3%	19 21.3%	703 36.8%	40 23.8%	26 16.6%	17 40.5%
無回答	25 7.2%	34 15.7%	30 28.3%	27 30.3%	158 8.3%	34 20.2%	37 23.6%	0 0.0%
有効回答数	345	217	106	89	1,910	168	157	42

※①～⑧の介護ロボットを利用している利用者の回答を有効回答数とした。

※「②移乗支援（非装着型）」のうち「その他」、「⑤見守り」のうち「特にない」については、各1件ずつ無効回答があったため、有効回答数から減じた。

- 使用している介護ロボットを利用者がどのように感じているか（介護老人福祉施設）について、「⑤見守り」では、「転倒が減る」が 38.9%と最も割合が高く、次いで「緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある」が 29.2%であった。【図表 73 02 票 問 2 使用している介護ロボットについて、利用者はどのように感じていますか】

図表 73 利用者が使用している機器に感じること（介護老人福祉施設）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケー ション	⑦入浴支援	⑧その他
自分が介護者に気を遣わなくても良い	37 18.9%	35 26.7%	14 25.5%	8 14.5%	136 13.4%	24 24.2%	29 28.7%	2 11.1%
自分の心身の衰えの防止につながる	14 7.1%	15 11.5%	13 23.6%	9 16.4%	78 7.7%	20 20.2%	21 20.8%	2 11.1%
転倒が減る（しりもち、座り込み等のヒヤリハット含む）	20 10.2%	45 34.4%	19 34.5%	4 7.3%	396 38.9%	2 2.0%	34 33.7%	4 22.2%
睡眠の質が高まる（まとまった睡眠、寝覚め、眠剤減）	1 0.5%	6 4.6%	0 0.0%	3 5.5%	118 11.6%	5 5.1%	6 5.9%	3 16.7%
排泄の失敗が減る	3 1.5%	11 8.4%	1 1.8%	7 12.7%	198 19.5%	0 0.0%	2 2.0%	0 0.0%
人による介護よりも安全性が高い	25 12.8%	54 41.2%	8 14.5%	2 3.6%	82 8.1%	0 0.0%	41 40.6%	1 5.6%
職員から見守られている安心感が高まる	10 5.1%	17 13.0%	7 12.7%	3 5.5%	232 22.8%	6 6.1%	31 30.7%	1 5.6%
緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある	6 3.1%	22 16.8%	8 14.5%	3 5.5%	297 29.2%	1 1.0%	25 24.8%	1 5.6%
最先端の機器を用いた介護を受けられる	28 14.3%	22 16.8%	5 9.1%	4 7.3%	69 6.8%	16 16.2%	16 15.8%	1 5.6%
職員からの干渉・制止が減る	2 1.0%	3 2.3%	2 3.6%	0 0.0%	150 14.7%	9 9.1%	13 12.9%	0 0.0%
見張られているようで何となく嫌である	3 1.5%	7 5.3%	2 3.6%	1 1.8%	135 13.3%	6 6.1%	3 3.0%	0 0.0%
見慣れないものが設置されていて違和感がある	47 24.0%	23 17.6%	3 5.5%	11 20.0%	88 8.7%	10 10.1%	7 6.9%	0 0.0%
準備・片付けに時間がかかる	23 11.7%	18 13.7%	3 5.5%	5 9.1%	12 1.2%	6 6.1%	6 5.9%	1 5.6%
その他	3 1.5%	2 1.5%	1 1.8%	2 3.6%	10 1.0%	4 4.0%	0 0.0%	0 0.0%
特にない	43 21.9%	2 1.5%	6 10.9%	4 7.3%	80 7.9%	19 19.2%	10 9.9%	2 11.1%
わからない	89 45.4%	32 24.4%	10 18.2%	19 34.5%	370 36.4%	25 25.3%	19 18.8%	9 50.0%
無回答	11 5.6%	14 10.7%	17 30.9%	12 21.8%	83 8.2%	18 18.2%	19 18.8%	0 0.0%
有効回答数	196	131	55	55	1,017	99	101	18

※①～⑧の介護ロボットを利用している利用者の回答を有効回答数とした。

- 使用している介護ロボットを利用者がどのように感じているか（地域密着型介護老人福祉施設）について、「⑤見守り」では、「転倒が減る」が39.4%と最も割合が高く、次いで「緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある」が30.6%であった。【図表 74 02票 問2 使用している介護ロボットについて、利用者はどのように感じていますか】

図表 74 利用者が使用している機器に感じる事（地域密着型介護老人福祉施設）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
自分が介護者に気を遣わなくても良い	4 22.2%	1 7.7%	3 42.9%	3 33.3%	24 15.0%	6 26.1%	9 56.3%	0 0.0%
自分の心身の衰えの防止につながる	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 6.9%	7 30.4%	4 25.0%	1 16.7%
転倒が減る（しりもち、座り込み等のヒヤリハット含む）	1 5.6%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	63 39.4%	3 13.0%	2 12.5%	3 50.0%
睡眠の質が高まる（まとまった睡眠、寝覚め、眠剤減）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 11.3%	3 13.0%	3 18.8%	1 16.7%
排泄の失敗が減る	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	1 11.1%	29 18.1%	2 8.7%	0 0.0%	1 16.7%
人による介護よりも安全性が高い	3 16.7%	2 15.4%	1 14.3%	1 11.1%	15 9.4%	1 4.3%	5 31.3%	0 0.0%
職員から見守られている安心感が高まる	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	35 21.9%	4 17.4%	0 0.0%	1 16.7%
緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	49 30.6%	2 8.7%	0 0.0%	2 33.3%
最先端の機器を用いた介護を受けられる	2 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 8.1%	2 8.7%	4 25.0%	1 16.7%
職員からの干渉・制止が減る	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19 11.9%	7 30.4%	0 0.0%	1 16.7%
見張られているようで何となく嫌である	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	21 13.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
見慣れないものが設置されていて違和感がある	2 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	17 10.6%	1 4.3%	2 12.5%	0 0.0%
準備・片付けに時間がかかる	1 5.6%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	2 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.3%	0 0.0%	0 0.0%
特になし	4 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	15 9.4%	4 17.4%	0 0.0%	0 0.0%
わからない	8 44.4%	6 46.2%	0 0.0%	0 0.0%	60 37.5%	8 34.8%	3 18.8%	0 0.0%
無回答	0 0.0%	5 38.5%	4 57.1%	5 55.6%	13 8.1%	5 21.7%	4 25.0%	0 0.0%
有効回答数	18	13	7	9	160	23	16	6

※①～⑧の介護ロボットを利用している利用者の回答を有効回答数とした。

- 使用している介護ロボットを利用者がどのように感じているか（介護老人保健施設）について、「⑤見守り」では、「転倒が減る」が 38.0%と最も割合が高く、次いで「緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある」が 27.9%であった。【図表 75 02 票 問 2 使用している介護ロボットについて、利用者はどのように感じていますか】

図表 75 利用者が使用している機器に感じること（介護老人保健施設）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケー ション	⑦入浴支援	⑧その他
自分が介護者に気を遣わなくても良い	1 2.2%	15 51.7%	2 20.0%	2 25.0%	34 16.3%	4 17.4%	12 60.0%	1 50.0%
自分の心身の衰えの防止につながる	2 4.4%	5 17.2%	2 20.0%	2 25.0%	14 6.7%	9 39.1%	5 25.0%	0 0.0%
転倒が減る（しりもち、座り込み等のヒヤリハット含む）	1 2.2%	6 20.7%	3 30.0%	2 25.0%	79 38.0%	0 0.0%	4 20.0%	0 0.0%
睡眠の質が高まる（まとまった睡眠、寝覚め、眠剤減）	0 0.0%	2 6.9%	0 0.0%	2 25.0%	30 14.4%	0 0.0%	2 10.0%	0 0.0%
排泄の失敗が減る	0 0.0%	1 3.4%	0 0.0%	4 50.0%	23 11.1%	0 0.0%	1 5.0%	0 0.0%
人による介護よりも安全性が高い	5 11.1%	15 51.7%	0 0.0%	0 0.0%	5 2.4%	3 13.0%	6 30.0%	0 0.0%
職員から見守られている安心感が高まる	1 2.2%	5 17.2%	2 20.0%	4 50.0%	43 20.7%	2 8.7%	9 45.0%	0 0.0%
緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある	0 0.0%	0 0.0%	2 20.0%	3 37.5%	58 27.9%	1 4.3%	3 15.0%	0 0.0%
最先端の機器を用いた介護を受けられる	2 4.4%	1 3.4%	1 10.0%	3 37.5%	11 5.3%	4 17.4%	4 20.0%	0 0.0%
職員からの干渉・制止が減る	0 0.0%	1 3.4%	0 0.0%	2 25.0%	24 11.5%	1 4.3%	3 15.0%	0 0.0%
見張られているようで何となく嫌である	0 0.0%	1 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	34 16.3%	0 0.0%	2 10.0%	0 0.0%
見慣れないものが設置されていて違和感がある	9 20.0%	1 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	7 3.4%	1 4.3%	3 15.0%	0 0.0%
準備・片付けに時間がかかる	4 8.9%	3 10.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	1 2.2%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	2 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特にない	4 8.9%	2 6.9%	0 0.0%	0 0.0%	13 6.3%	4 17.4%	0 0.0%	1 50.0%
わからない	19 42.2%	4 13.8%	2 20.0%	0 0.0%	79 38.0%	1 4.3%	1 5.0%	1 50.0%
無回答	11 24.4%	5 17.2%	4 40.0%	4 50.0%	14 6.7%	7 30.4%	5 25.0%	0 0.0%
有効回答数	45	29	10	8	208	23	20	2

※①～⑧の介護ロボットを利用している利用者の回答を有効回答数とした。

- 使用している介護ロボットを利用者がどのように感じているか（介護療養型医療施設または介護医療院）について、「⑤見守り」では、「職員から見守られている安心感が高まる」「緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある」が共に 33.3%と最も割合が高かった。
【図表 76 02 票 問 2 使用している介護ロボットについて、利用者はどのように感じていますか】

図表 76 利用者が使用している機器に感じること（介護療養型医療施設または介護医療院）
(複数回答)

(単位：人)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
自分が介護者に気を遣わなくても良い	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
自分の心身の衰えの防止につながる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
転倒が減る（しりもち、座り込み等のヒヤリハット含む）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
睡眠の質が高まる（まとまった睡眠、寝覚め、眠剤減）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
排泄の失敗が減る	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
人による介護よりも安全性が高い	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
職員から見守られている安心感が高まる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
最先端の機器を用いた介護を受けられる	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
職員からの干渉・制止が減る	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
見張られているようで何となく嫌である	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
見慣れないものが設置されていて違和感がある	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
準備・片付けに時間がかかる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特になし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
わからない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
有効回答数	0	0	1	0	18	0	0	0

※①～⑧の介護ロボットを利用している利用者の回答を有効回答数とした。

- 使用している介護ロボットを利用者がどのように感じているか（特定施設入居者生活介護）について、「⑤見守り」では、「転倒が減る」、「緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある」が共に26.7%と最も割合が高かった。【図表 77 02 票 問2 使用している介護ロボットについて、利用者はどのように感じていますか】

図表 77 利用者が使用している機器に感じる事（特定施設入居者生活介護）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケー ション	⑦入浴支援	⑧その他
自分が介護者に気を遣わなくても良い	10 33.3%	2 66.7%	6 35.3%	1 33.3%	20 15.3%	0 0.0%	2 18.2%	2 22.2%
自分の心身の衰えの防止につながる	3 10.0%	1 33.3%	13 76.5%	2 66.7%	9 6.9%	2 33.3%	2 18.2%	3 33.3%
転倒が減る（しりもち、座り込み等のヒヤリハット含む）	3 10.0%	1 33.3%	11 64.7%	2 66.7%	35 26.7%	0 0.0%	2 18.2%	3 33.3%
睡眠の質が高まる（まとまった睡眠、寝覚め、眠削減）	0 0.0%	0 0.0%	1 5.9%	0 0.0%	17 13.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%
排泄の失敗が減る	1 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	17 13.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%
人による介護よりも安全性が高い	4 13.3%	1 33.3%	6 35.3%	2 66.7%	14 10.7%	0 0.0%	6 54.5%	1 11.1%
職員から見守られている安心感が高まる	2 6.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	33 25.2%	0 0.0%	4 36.4%	1 11.1%
緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある	3 10.0%	1 33.3%	1 5.9%	0 0.0%	35 26.7%	0 0.0%	4 36.4%	1 11.1%
最先端の機器を用いた介護を受けられる	5 16.7%	1 33.3%	2 11.8%	1 33.3%	8 6.1%	0 0.0%	1 9.1%	3 33.3%
職員からの干渉・制止が減る	2 6.7%	0 0.0%	1 5.9%	0 0.0%	13 9.9%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%
見張られているようで何となく嫌である	2 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 16.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
見慣れないものが設置されていて違和感がある	5 16.7%	1 33.3%	2 11.8%	1 33.3%	12 9.2%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%
準備・片付けに時間がかかる	5 16.7%	0 0.0%	7 41.2%	2 66.7%	4 3.1%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%
その他	3 10.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 3.1%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
特になし	4 13.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	7 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
わからない	8 26.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	46 35.1%	1 16.7%	1 9.1%	3 33.3%
無回答	3 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 13.7%	1 16.7%	4 36.4%	0 0.0%
有効回答数	30	3	17	3	131	6	11	9

※①～⑧の介護ロボットを利用している利用者の回答を有効回答数とした。

- 使用している介護ロボットを利用者がどのように感じているか（地域密着型特定施設入居者生活介護）について、「⑤見守り」では、「緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある」が57.1%と最も割合が高かった。【図表 78 02票 問2 使用している介護ロボットについて、利用者はどのように感じていますか】

図表 78 利用者が使用している機器に感じる事（地域密着型特定施設入居者生活介護）
（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケー ション	⑦入浴支援	⑧その他
自分が介護者に気を遣わなくても良い	1 25.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
自分の心身の衰えの防止につながる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
転倒が減る（しりもち、座り込み等のヒヤリハット含む）	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 42.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
睡眠の質が高まる（まとまった睡眠、寝覚め、眠剤減）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
排泄の失敗が減る	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%
人による介護よりも安全性が高い	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
職員から見守られている安心感が高まる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 57.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
最先端の機器を用いた介護を受けられる	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
職員からの干渉・制止が減る	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
見張られているようで何となく嫌である	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
見慣れないものが設置されていて違和感がある	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
準備・片付けに時間がかかる	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特にない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
わからない	1 25.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
有効回答数	4	5	0	0	7	0	0	2

※①～⑧の介護ロボットを利用している利用者の回答を有効回答数とした。

- 使用している介護ロボットを利用者がどのように感じているか（認知症対応型共同生活介護）について、「⑤見守り」では、「転倒が減る」が34.7%と最も割合が高く、次いで「緊急時にすぐ対応してもらえる安心感がある」が28.0%であった。【図表 79 02 票 問2 使用している介護ロボットについて、利用者はどのように感じていますか】

図表 79 利用者が使用している機器に感じること（認知症対応型共同生活介護）（複数回答）

(単位：人)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
自分が介護者に気を遣わなくても良い	2 8.3%	0 0.0%	4 33.3%	2 28.6%	32 13.6%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
自分の心身の衰えの防止につながる	1 4.2%	0 0.0%	3 25.0%	2 28.6%	17 7.2%	4 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
転倒が減る（しりもち、座り込み等のヒヤリハット含む）	4 16.7%	2 33.3%	2 16.7%	3 42.9%	82 34.7%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
睡眠の質が高まる（まとまった睡眠、寝覚め、眠剤減）	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	34 14.4%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%
排泄の失敗が減る	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	2 28.6%	37 15.7%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%
人による介護よりも安全性が高い	0 0.0%	1 16.7%	1 8.3%	1 14.3%	16 6.8%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%
職員から見守られている安心感が高まる	0 0.0%	1 16.7%	2 16.7%	3 42.9%	62 26.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	66 28.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%
最先端の機器を用いた介護を受けられる	1 4.2%	1 16.7%	3 25.0%	1 14.3%	16 6.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
職員からの干渉・制止が減る	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	33 14.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%
見張られているようで何となく嫌である	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	30 12.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
見慣れないものが設置されていて違和感がある	7 29.2%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	25 10.6%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
準備・片付けに時間がかかる	9 37.5%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	1 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特になし	2 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	26 11.0%	4 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
わからない	10 41.7%	1 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	87 36.9%	5 31.3%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	0 0.0%	3 50.0%	4 33.3%	3 42.9%	18 7.6%	2 12.5%	1 100.0%	0 0.0%
有効回答数	24	6	12	7	236	16	1	1

※①～⑧の介護ロボットを利用している利用者の回答を有効回答数とした。

- 使用している介護ロボットを利用者がどのように感じているか（短期入所生活介護）について、「⑤見守り」では、「転倒が減る」が 34.7%と最も割合が高く、次いで「職員から見守られている安心感が高まる」が 28.0%であった。【図表 80 02 票 問 2 使用している介護ロボットについて、利用者はどのように感じていますか】

図表 80 利用者が使用している機器に感じること（短期入所生活介護）（複数回答）

（単位：人）

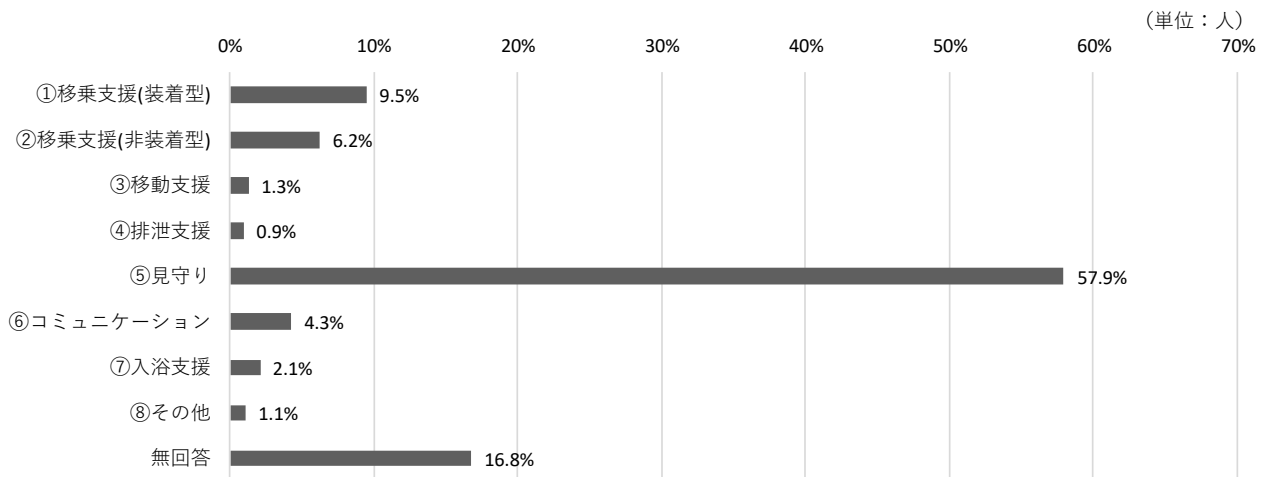
	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
自分が介護者に気を遣わなくても良い	3 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 12.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
自分の心身の衰えの防止につながる	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
転倒が減る（しりもち、座り込み等のヒヤリハット含む）	4 30.8%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	26 34.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
睡眠の質が高まる（まとまった睡眠、寝覚め、眠剤減）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
排泄の失敗が減る	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 8.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
人による介護よりも安全性が高い	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
職員から見守られている安心感が高まる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	21 28.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 24.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
最先端の機器を用いた介護を受けられる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 12.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
職員からの干渉・制止が減る	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
見張られているようで何となく嫌である	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 17.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
見慣れないものが設置されていて違和感がある	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 9.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
準備・片付けに時間がかかる	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特になし	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 8.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
わからない	3 23.1%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	30 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	5 6.7%	1 100.0%	2 100.0%	0 0.0%
有効回答数	13	6	0	0	75	1	2	0

※①～⑧の介護ロボットを利用している利用者の回答を有効回答数とした。

○ 利用者が最もよく使用している機器について、「⑤見守り」が 57.9%と最も割合が高かった。

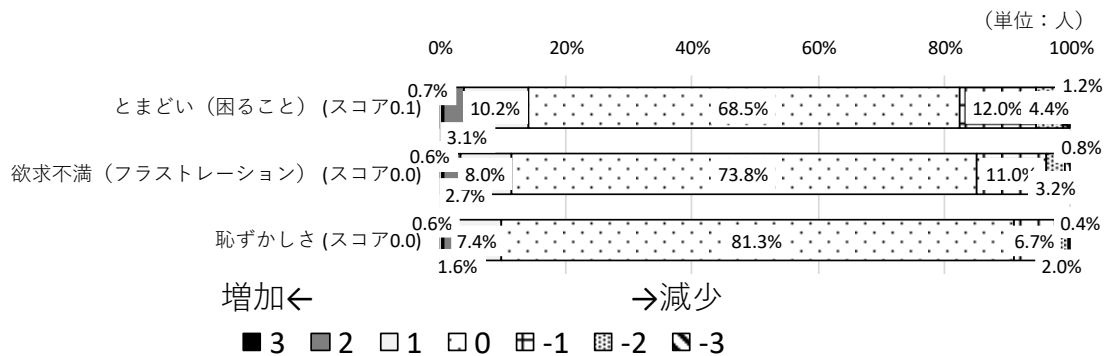
【図表 81 02 票 問 3 (1) 利用者が最もよく使用している機器】

図表 81 利用者が最もよく使用している機器（有効回答数=2,985）（単数回答）



※全利用者の回答を有効回答数とした。

【マイナス要素】



【有効回答数】

項目	-3~3の回答	無回答	有効回答数	項目	-3~3の回答	無回答	有効回答数
能力 (生活の大切なことをうまくできる)	2,338	146	2,484	もっといろいろなことができる(有能性)	2,327	158	2,485
生活の満足度(幸福感)	2,347	135	2,482	QOL(生活の質)	2,346	138	2,484
自立度	2,343	141	2,484	自分の能力を示すことができる (パフォーマンス)	2,329	156	2,485
様々な生活場面もどうにか対処できる	2,323	160	2,483	活力 (パワー)	2,330	155	2,485
日課を処理する効率	2,322	163	2,485	したいことが思い通りにできる	2,342	143	2,485
自分を好ましく感じる (自尊心)	2,324	159	2,483	チャレンジしたくなる	2,333	152	2,485
生産性 (たくさんのごとができる)	2,320	162	2,482	活動に参加できる	2,332	45	2,377
安心感	2,422	60	2,482	新しいことがしたくなる	2,330	155	2,485
自分が世の中の役に立つ (有用性)	2,329	155	2,484	日常生活行動の変化に適応できる	2,341	143	2,484
自信	2,332	153	2,485	チャンスを活かせる	2,338	146	2,484
知識を得ることができる	2,335	149	2,484	とまどい (困ること)	2,341	140	2,481
仕事や作業がうまくできる	2,337	148	2,485	欲求不満 (フラストレーション)	2,336	147	2,483
生活がとてうまくいっている	2,332	152	2,484	恥ずかしさ	2,345	140	2,485

※介護ロボットを利用している利用者の回答を有効回答数とした。

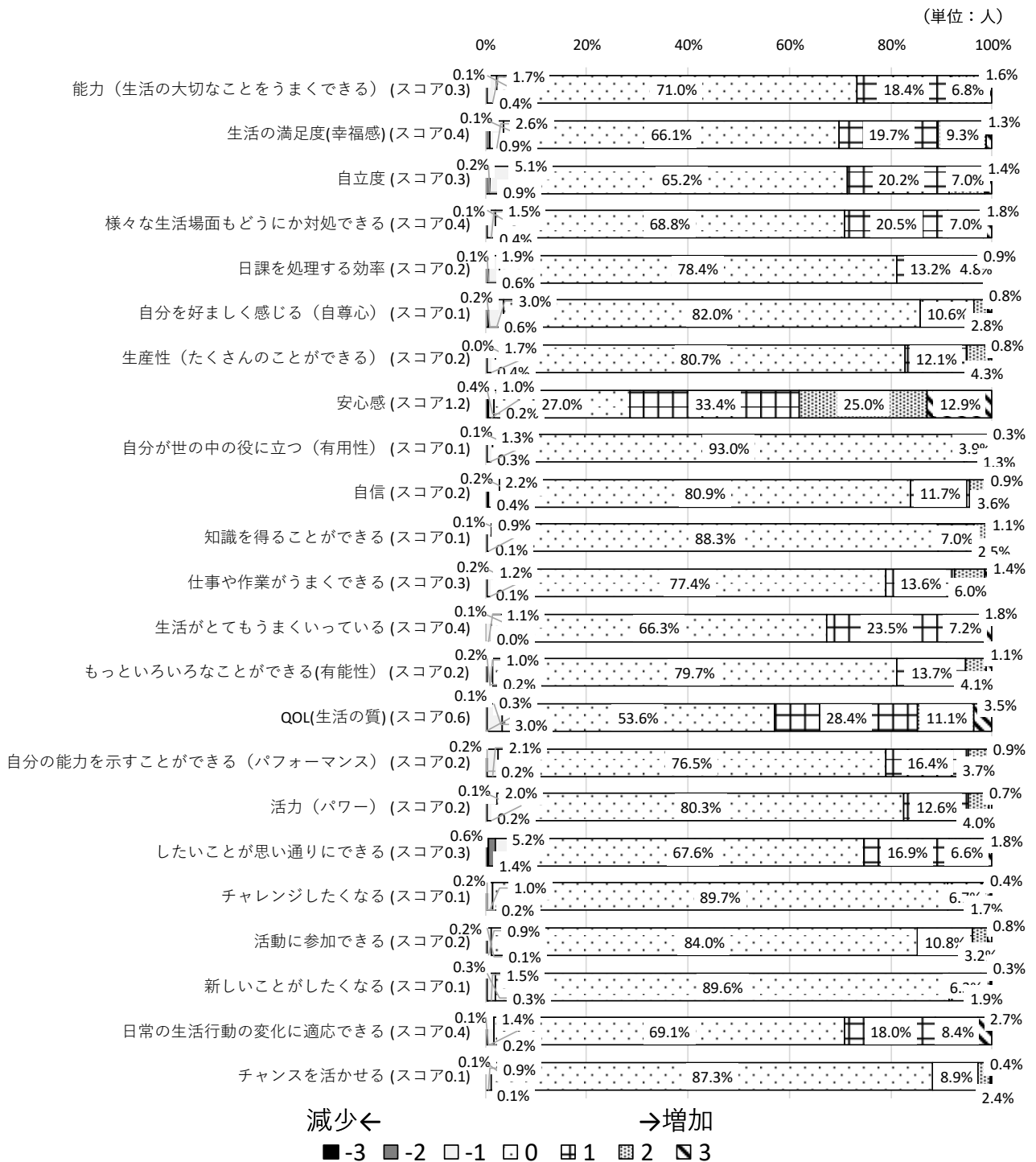
※各項目の割合は、無回答・無効回答を除く回答数 (-3~3 の回答) に対する割合を算出した。

※福祉用具心理評価スケール (PIADS 日本語版) : 福祉用具を使うことで利用者自身がどのように変化したかを 評価するスケール。26 項目で構成され各項目は-3 から+3 までの 7 段階のスケールで得点化される。

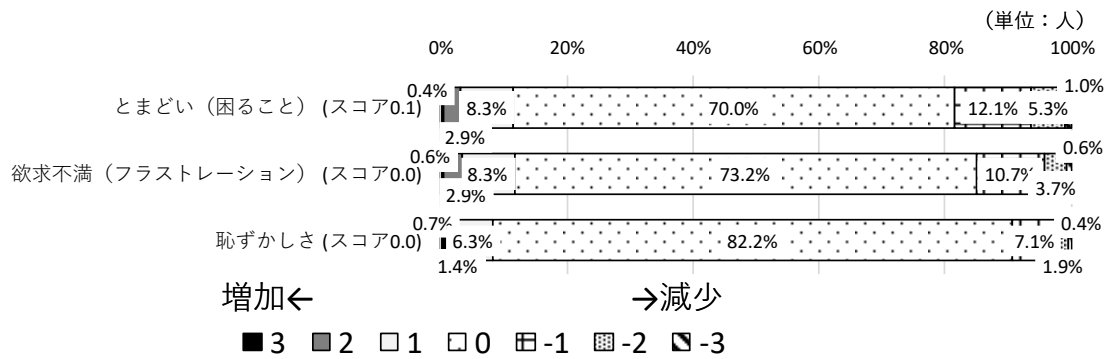
- 職員から見た介護ロボットを使うことによって利用者に与えた影響について、「⑤見守り」では、「図表 82 (全体)」と同様に「安心感」「QOL」のスコア (平均値) が高かった。【図表 83 02 票 問 3 (2) 職員から見て問 3 (1) で選択した機器を使うことによって、利用者に与えた影響】

図表 83 職員から見た介護ロボットを使うことによって利用者に与えた影響 (⑤見守り抽出)
(単数回答)

【プラス要素】



【マイナス要素】



【有効回答数】

項目	-3~3の回答	無回答	有効回答数	項目	-3~3の回答	無回答	有効回答数
能力 (生活の大切なことをうまくできる)	1,610	105	1,715	もっといろいろなことができる(有能性)	1,598	118	1,716
生活の満足度(幸福感)	1,614	100	1,714	QOL(生活の質)	1,615	101	1,716
自立度	1,611	104	1,715	自分の能力を示すことができる (パフォーマンス)	1,603	113	1,716
様々な生活場面もどうにか対処できる	1,597	117	1,714	活力 (パワー)	1,601	115	1,716
日課を処理する効率	1,598	118	1,716	したいことが思い通りにできる	1,611	105	1,716
自分を好ましく感じる (自尊心)	1,598	115	1,713	チャレンジしたくなる	1,604	112	1,716
生産性 (たくさんのごとができる)	1,594	119	1,713	活動に参加できる	1,602	113	1,715
安心感	1,669	45	1,714	新しいことがしたくなる	1,599	117	1,716
自分が世の中の役に立つ (有用性)	1,599	116	1,715	日常生活行動の変化に適応できる	1,613	102	1,715
自信	1,605	111	1,716	チャンスを活かせる	1,609	106	1,715
知識を得ることができる	1,604	111	1,715	とまどい (困ること)	1,610	103	1,713
仕事や作業がうまくできる	1,605	111	1,716	欲求不満 (フラストレーション)	1,610	104	1,714
生活がとてうまくいっている	1,603	113	1,716	恥ずかしさ	1,611	105	1,716

※見守り機器を利用している利用者の回答を有効回答数とした。

※各項目の割合は、無回答・無効回答を除く回答数 (-3~3 の回答) に対する割合を算出した。

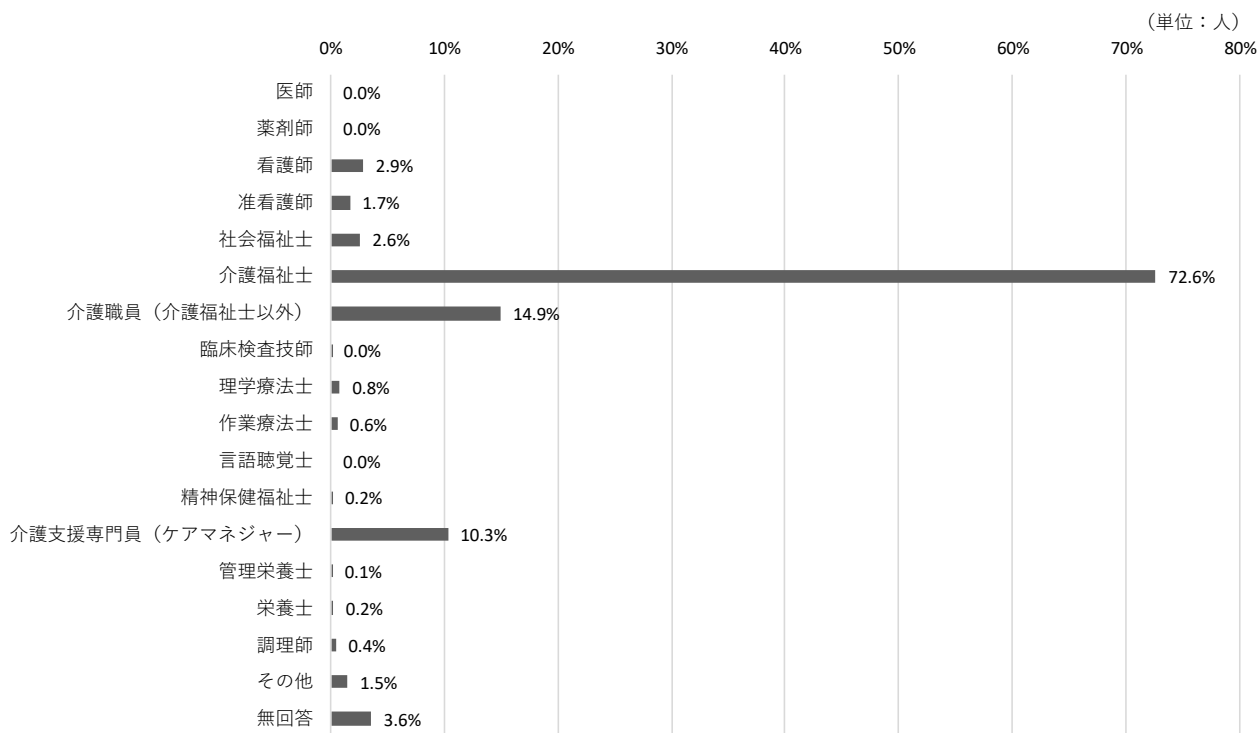
※福祉用具心理評価スケール (PIADS 日本語版) : 福祉用具を使うことで利用者自身がどのように変化したかを 評価するスケール。26 項目で構成され各項目は-3 から+3 までの 7 段階のスケールで得点化される。

(3) 職員調査（郵送調査）

① 職員属性

- 職員の有する資格について、「介護福祉士」が72.6%と最も割合が高く、次いで「介護職員（介護福祉士以外）」が14.9%であった。【図表 84 03 票 問1 資格】

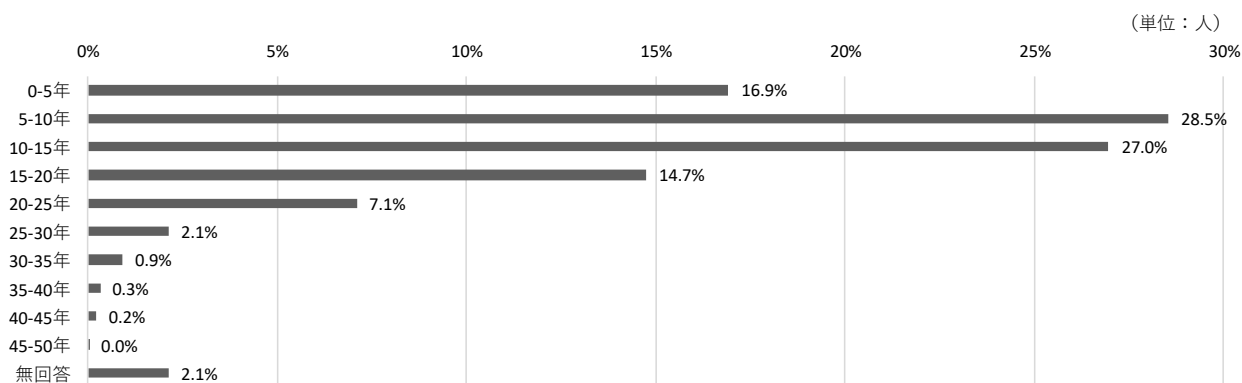
図表 84 職員の資格（有効回答数=4,458）（複数回答）



※全職員の回答を有効回答数とした。

- 職員の経験年数について、「5-10年」が28.5%と最も割合が高く、次いで「10-15年」が27.0%、「0-5年」が16.9%であった。【図表 85 03 票問1 経験年数】

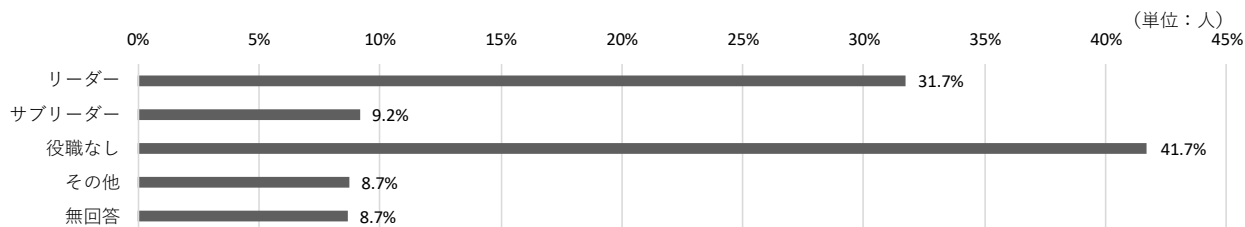
図表 85 職員の経験年数（有効回答数=4,455）（単数回答）



※全職員の回答を有効回答数とした。

- 職員の役職について、「役職なし」が41.7%と最も割合が高く、次いで「リーダー」が31.7%、「サブリーダー」が9.2%であった。【図表 86 03票 問1 役職】

図表 86 職員の役職（有効回答数=4,449）（単数回答）



※全職員の回答を有効回答数とした。

② 介護ロボット利用状況と継続意向

- 介護ロボットの導入状況について、「⑤見守り」が68.9%と最も多く、次いで「①移乗支援（装着型）」が15.6%、「②移乗支援（非装着型）」が10.4%であった。【図表 87 03票 問2 (1) 介護ロボットの導入状況】

図表 87 介護ロボットの導入状況（有効回答数=4,458）（複数回答）

	(単位：人)			有効回答数
	導入有	導入無	無回答	
①移乗支援(装着型)	696 15.6%	1,745 39.1%	2,017 45.2%	4,458
②移乗支援(非装着型)	465 10.4%	1,821 40.8%	2,172 48.7%	4,458
③移動支援	145 3.3%	2,008 45.0%	2,305 51.7%	4,458
④排泄支援	131 2.9%	2,025 45.4%	2,302 51.6%	4,458
⑤見守り	3,068 68.9%	631 14.2%	755 17.0%	4,454
⑥コミュニケーション	253 5.7%	1,933 43.4%	2,271 51.0%	4,457
⑦入浴支援	264 5.9%	1,892 42.5%	2,301 51.6%	4,457
⑧その他	72 1.6%	1,586 35.6%	2,798 62.8%	4,456

※全職員の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボットの利用頻度について、ほとんどの介護ロボット種別では、「利用頻度=1(高)」の割合が高かった。【図表 88 03 票 問 2 (1) 介護ロボットの利用頻度】

図表 88 介護ロボットの利用頻度 (単数回答)

(単位:人)

	1 (高)	2	3	4 (低)	その他	無回答	有効回答数
①移乗支援(装着型)	76	42	131	220	184	41	694
	11.0%	6.1%	18.9%	31.7%	26.5%	5.9%	
②移乗支援(非装着型)	207	34	51	85	59	29	465
	44.5%	7.3%	11.0%	18.3%	12.7%	6.2%	
③移動支援	63	15	24	23	13	7	145
	43.4%	10.3%	16.6%	15.9%	9.0%	4.8%	
④排泄支援	53	14	26	15	16	7	131
	40.5%	10.7%	19.8%	11.5%	12.2%	5.3%	
⑤見守り	2,504	110	135	96	110	107	3,062
	81.8%	3.6%	4.4%	3.1%	3.6%	3.5%	
⑥コミュニケーション	50	27	47	72	40	12	248
	20.2%	10.9%	19.0%	29.0%	16.1%	4.8%	
⑦入浴支援	130	42	55	16	12	9	264
	49.2%	15.9%	20.8%	6.1%	4.5%	3.4%	
⑧その他	54	1	4	3	4	6	72
	75.0%	1.4%	5.6%	4.2%	5.6%	8.3%	

※利用頻度の目安：1:ほぼ毎日使用 2:週に4~5日使用 3:週に2~3日使用 4:週に1日使用 5:その他
 ※①~⑧の介護ロボットを導入している施設の職員の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボットの継続利用状況について、すべての介護ロボット種別において、導入時から継続利用「有」の割合が高かった。(各種別ごとに比較)【図表 89 03 票 問 2 (1) 介護ロボットの導入時から継続利用状況】

図表 89 介護ロボットの継続利用状況 (単数回答)

(単位:人)

	有	無	無回答	有効回答数
①移乗支援(装着型)	382	278	36	696
	54.9%	39.9%	5.2%	
②移乗支援(非装着型)	336	90	38	464
	72.4%	19.4%	8.2%	
③移動支援	115	13	16	144
	79.9%	9.0%	11.1%	
④排泄支援	86	33	11	130
	66.2%	25.4%	8.5%	
⑤見守り	2,754	123	190	3,067
	89.8%	4.0%	6.2%	
⑥コミュニケーション	186	44	18	248
	75.0%	17.7%	7.3%	
⑦入浴支援	223	12	29	264
	84.5%	4.5%	11.0%	
⑧その他	62	3	7	72
	86.1%	4.2%	9.7%	

※①~⑧の介護ロボットを導入している施設の職員の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボットの今後の継続利用の意向について、すべての介護ロボット種別において、今後の継続利用「有」の割合が高かった。(各種別ごとに比較)【図表 90 03 票 問 2 (1) 介護ロボットの今後の継続利用の意向】

図表 90 介護ロボットの今後の継続利用の意向 (単数回答)

(単位:人)

	有	無	無回答	有効回答数
①移乗支援(装着型)	364	278	52	694
	52.4%	40.1%	7.5%	
②移乗支援(非装着型)	369	48	48	465
	79.4%	10.3%	10.3%	
③移動支援	111	16	17	144
	77.1%	11.1%	11.8%	
④排泄支援	91	25	15	131
	69.5%	19.1%	11.5%	
⑤見守り	2,761	79	225	3,065
	90.1%	2.6%	7.3%	
⑥コミュニケーション	190	31	27	248
	76.6%	12.5%	10.9%	
⑦入浴支援	225	8	31	264
	85.2%	3.0%	11.7%	
⑧その他	62	2	8	72
	86.1%	2.8%	11.1%	

※①～⑧の介護ロボットを導入している施設の職員の回答を有効回答数とした。

③ 業務実施状況

- 職員が担当するおおよその利用者数について、「日勤」では「10人以上-15人未満」が24.7%と最も割合が高く、「夜勤」では「20人以上-25人未満」が26.6%と最も割合が高かった。

【図表 91 03票 問2(2) あなたが担当するおおよその利用者数(1勤務あたり)(過去1ヶ月の状況)】

図表 91 職員が担当するおおよその利用者数(1勤務あたり・過去1カ月)(単数回答)

(単位:人)

	日勤	夜勤
0-5人未満	559 12.6%	553 14.2%
5人以上-10人未満	868 19.5%	476 12.2%
10人以上-15人未満	1,100 24.7%	197 5.0%
15人以上-20人未満	225 5.1%	435 11.1%
20人以上-25人未満	324 7.3%	1,041 26.6%
25人以上-30人未満	202 4.5%	314 8.0%
30人以上-35人未満	224 5.0%	271 6.9%
35人以上-40人未満	106 2.4%	116 3.0%
40人以上-60人未満	314 7.1%	357 9.1%
60人以上-80人未満	94 2.1%	110 2.8%
80人以上-100人未満	19 0.4%	21 0.5%
100人以上-120人未満	14 0.3%	9 0.2%
120人以上	2 0.0%	0 0.0%
無回答	397 8.9%	7 0.2%
有効回答数	4,448	3,907

※全職員の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボットの利用者数について、「⑤見守り」の「日勤」では「1人」が22.6%と最も割合が高く、「夜勤」では「2人」が21.7%と最も割合が高かった。【図表 92 03 票 問 2 (3) 上記 (問 2 (2)) のうち、介護ロボットの利用者数】

図表 92 介護ロボット利用者数 (1勤務あたり・過去1カ月) (単数回答)

(単位:人)

	①移乗支援 (装着型)		②移乗支援 (非装着型)		③移動支援		④排泄支援	
	日勤	夜勤	日勤	夜勤	日勤	夜勤	日勤	夜勤
0人	192	280	77	200	17	47	25	22
	27.7%	40.3%	16.6%	43.0%	11.7%	32.4%	19.1%	16.8%
1人	119	61	182	86	54	24	37	34
	17.2%	8.8%	39.1%	18.5%	37.2%	16.6%	28.2%	26.0%
2人	52	25	73	35	19	3	11	10
	7.5%	3.6%	15.7%	7.5%	13.1%	2.1%	8.4%	7.6%
3人	33	21	30	9	9	8	3	7
	4.8%	3.0%	6.5%	1.9%	6.2%	5.5%	2.3%	5.3%
4人	33	17	13	6	5	7	6	4
	4.8%	2.4%	2.8%	1.3%	3.4%	4.8%	4.6%	3.1%
5人	49	30	14	6	7	5	6	4
	7.1%	4.3%	3.0%	1.3%	4.8%	3.4%	4.6%	3.1%
6人以上	127	113	22	15	11	12	17	26
	18.4%	16.3%	4.7%	3.2%	7.6%	8.3%	13.0%	19.8%
無回答	87	148	54	108	23	39	26	24
	12.6%	21.3%	11.6%	23.2%	15.9%	26.9%	19.8%	18.3%
有効回答数	692	695	465	465	145	145	131	131

	⑤見守り		⑥コミュニケーション		⑦入浴支援		⑧その他	
	日勤	夜勤	日勤	夜勤	日勤	夜勤	日勤	夜勤
0人	284	87	29	124	14	148	7	12
	9.3%	2.8%	11.5%	49.0%	5.3%	56.1%	9.7%	16.7%
1人	691	631	32	11	10	5	21	13
	22.6%	20.6%	12.6%	4.3%	3.8%	1.9%	29.2%	18.1%
2人	624	665	10	4	18	0	12	11
	20.4%	21.7%	4.0%	1.6%	6.8%	0.0%	16.7%	15.3%
3人	431	497	17	3	14	2	6	6
	14.1%	16.2%	6.7%	1.2%	5.3%	0.8%	8.3%	8.3%
4人	237	302	7	1	19	0	4	3
	7.7%	9.9%	2.8%	0.4%	7.2%	0.0%	5.6%	4.2%
5人	126	156	26	3	25	0	1	1
	4.1%	5.1%	10.3%	1.2%	9.5%	0.0%	1.4%	1.4%
6人以上	375	466	84	7	132	5	5	6
	12.2%	15.2%	33.2%	2.8%	50.2%	1.9%	6.9%	8.3%
無回答	295	258	48	100	31	104	16	20
	9.6%	8.4%	19.0%	39.5%	11.8%	39.4%	22.2%	27.8%
有効回答数	3,063	3,062	253	253	263	264	72	72

※①～⑧の介護ロボットを導入している施設の職員の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボットを利用するおおよその時間について、「⑤見守り」の「日勤」では「5時間超-10時間以内」が37.0%と最も割合が高く、「夜勤」では「10時間超」が51.1%と最も割合が高かった。【図表 93 03 票 問 2 (4) 介護ロボットを利用するおおよその時間 (1勤務あたり) (過去1カ月の状況)】

図表 93 介護ロボットを利用するおおよその時間 (1勤務あたり・過去1カ月) (単数回答)

(単位:人)

	①移乗支援 (装着型)		②移乗支援 (非装着型)		③移動支援		④排泄支援	
	日勤	夜勤	日勤	夜勤	日勤	夜勤	日勤	夜勤
0時間	196	276	80	186	15	41	22	26
	28.5%	39.8%	17.4%	40.3%	10.4%	28.5%	16.8%	19.8%
0時間超-1時間以内	222	124	218	82	62	30	41	28
	32.3%	17.9%	47.4%	17.7%	43.1%	20.8%	31.3%	21.4%
1時間超-5時間以内	140	92	42	14	19	8	17	15
	20.3%	13.3%	9.1%	3.0%	13.2%	5.6%	13.0%	11.5%
5時間超-10時間以内	16	17	27	18	16	7	14	5
	2.3%	2.4%	5.9%	3.9%	11.1%	4.9%	10.7%	3.8%
10時間超-	9	9	16	23	7	9	6	27
	1.3%	1.3%	3.5%	5.0%	4.9%	6.3%	4.6%	20.6%
無回答	105	176	77	139	25	49	31	30
	15.3%	25.4%	16.7%	30.1%	17.4%	34.0%	23.7%	22.9%
有効回答数	688	694	460	462	144	144	131	131

	⑤見守り		⑥コミュニケーション		⑦入浴支援		⑧その他	
	日勤	夜勤	日勤	夜勤	日勤	夜勤	日勤	夜勤
0時間	354	123	40	113	19	147	12	13
	11.7%	4.0%	15.8%	44.7%	7.2%	55.7%	16.7%	18.1%
0時間超-1時間以内	201	57	109	9	46	0	18	4
	6.6%	1.9%	43.1%	3.6%	17.4%	0.0%	25.0%	5.6%
1時間超-5時間以内	641	50	44	3	154	1	11	0
	21.2%	1.6%	17.4%	1.2%	58.3%	0.4%	15.3%	0.0%
5時間超-10時間以内	1,120	889	11	10	18	0	9	9
	37.0%	29.3%	4.3%	4.0%	6.8%	0.0%	12.5%	12.5%
10時間超-	291	1,554	2	5	0	0	1	19
	9.6%	51.1%	0.8%	2.0%	0.0%	0.0%	1.4%	26.4%
無回答	423	366	47	113	27	116	21	27
	14.0%	12.0%	18.6%	44.7%	10.2%	43.9%	29.2%	37.5%
有効回答数	3,030	3,039	253	253	264	264	72	72

※①～⑧の介護ロボットを導入している施設の職員の回答を有効回答数とした。

④ 職員に対する効果

- 職員や施設業務の変化について、ほとんどの介護ロボット種別では、「身体的負担（体の痛みなど）の軽減」の割合が最も高かった。（各種別ごとに比較）
- 「⑤見守り」では、「利用者の行動パターンが把握できる」が67.8%と最も割合が高く、次いで「優先順位の判断ができる」が64.8%であった。【図表 94 03票 問3 職員や施設業務の変化（定性的な変化）について】

図表 94 職員や施設業務の変化（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
気持ちに余裕ができる	114	127	45	39	1,759	82	88	12
	16.4%	27.3%	31.0%	29.8%	57.3%	32.4%	33.3%	16.7%
身体的負担（体の痛みなど）の軽減	400	332	57	65	381	10	204	23
	57.5%	71.4%	39.3%	49.6%	12.4%	4.0%	77.3%	31.9%
精神的負担（ストレスなど）の軽減	62	99	33	28	1,285	53	72	10
	8.9%	21.3%	22.8%	21.4%	41.9%	20.9%	27.3%	13.9%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	17	48	26	17	381	108	51	8
	2.4%	10.3%	17.9%	13.0%	12.4%	42.7%	19.3%	11.1%
訪室しなくても利用者の状況が分かる（即時性）	9	14	10	11	1,965	10	2	27
	1.3%	3.0%	6.9%	8.4%	64.0%	4.0%	0.8%	37.5%
利用者の行動パターンが把握できる（排泄、夜間行動）	14	27	20	35	2,079	8	3	25
	2.0%	5.8%	13.8%	26.7%	67.8%	3.2%	1.1%	34.7%
事故原因分析の参考情報にできる	27	30	22	19	1,483	7	28	14
	3.9%	6.5%	15.2%	14.5%	48.3%	2.8%	10.6%	19.4%
優先順位の判断ができる（同時コールの発生、他の利用者の介護中）	28	53	33	25	1,985	10	15	16
	4.0%	11.4%	22.8%	19.1%	64.7%	4.0%	5.7%	22.2%
利用者のペースに合わせた介助ができる (予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	75	88	45	48	1,355	19	70	22
	10.8%	18.9%	31.0%	36.6%	44.2%	7.5%	26.5%	30.6%
訪室の前に心の準備ができる	47	35	17	24	1,126	11	5	7
	6.8%	7.5%	11.7%	18.3%	36.7%	4.3%	1.9%	9.7%
見守り以外の業務・休憩等が分断されない	8	10	6	8	332	11	6	2
	1.1%	2.2%	4.1%	6.1%	10.8%	4.3%	2.3%	2.8%
休憩時間を確保することができる	16	26	10	10	386	11	12	4
	2.3%	5.6%	6.9%	7.6%	12.6%	4.3%	4.5%	5.6%
走って訪室することが減る	35	20	15	16	785	7	3	2
	5.0%	4.3%	10.3%	12.2%	25.6%	2.8%	1.1%	2.8%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	25	35	17	17	548	23	10	6
	3.6%	7.5%	11.7%	13.0%	17.9%	9.1%	3.8%	8.3%
訪室回数合計が減る	13	8	13	16	965	3	1	11
	1.9%	1.7%	9.0%	12.2%	31.5%	1.2%	0.4%	15.3%
必要以上に利用者を見に行くことになる	4	6	6	5	643	8	2	0
	0.6%	1.3%	4.1%	3.8%	21.0%	3.2%	0.8%	0.0%
機器の初期設定・微調整が煩雑である	109	33	12	10	452	45	5	4
	15.7%	7.1%	8.3%	7.6%	14.7%	17.8%	1.9%	5.6%
複数端末の携帯が煩雑である	30	7	7	12	242	11	2	2
	4.3%	1.5%	4.8%	9.2%	7.9%	4.3%	0.8%	2.8%
無回答	228	98	44	32	127	84	39	10
	32.8%	21.1%	30.3%	24.4%	4.1%	33.2%	14.8%	13.9%
有効回答数	696	465	145	131	3068	253	264	72

※①～⑧の介護ロボットを利用している職員の回答を有効回答数とした。

※「③移動支援」のうち「気持ちに余裕ができる」で1件、「⑤見守り」のうち「気持ちに余裕ができる」で1件、「優先順位の判断ができる」で3件、「⑦入浴支援」のうち「優先順位の判断ができる」で1件無効回答があったため、有効回答数から減じた。

- 職員や施設業務の変化（介護老人福祉施設）について、「⑤見守り」では、「利用者の行動パターンが把握できる」が 68.8%と最も割合が高く、次いで「優先順位の判断ができる」が 68.4%であった。【図表 95 03 票 問 3 職員や施設業務の変化（定性的な変化）について】

図表 95 職員や施設業務の変化（介護老人福祉施設）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
気持ちに余裕ができる	71	90	30	22	917	56	61	6
	17.8%	29.2%	28.6%	24.4%	57.6%	32.7%	33.3%	13.0%
身体的負担（体の痛みなど）の軽減	225	222	39	40	207	5	145	17
	56.3%	72.1%	37.1%	44.4%	13.0%	2.9%	79.2%	37.0%
精神的負担（ストレスなど）の軽減	35	71	25	13	696	40	47	6
	8.8%	23.1%	23.8%	14.4%	43.7%	23.4%	25.7%	13.0%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	14	30	14	10	196	64	32	5
	3.5%	9.7%	13.3%	11.1%	12.3%	37.4%	17.5%	10.9%
訪室しなくても利用者の状況が分かる（即時性）	5	10	7	4	987	6	2	16
	1.3%	3.2%	6.7%	4.4%	62.0%	3.5%	1.1%	34.8%
利用者の行動パターンが把握できる（排泄、夜間行動）	7	19	12	17	1,096	4	3	13
	1.8%	6.2%	11.4%	18.9%	68.8%	2.3%	1.6%	28.3%
事故原因分析の参考情報にできる	17	21	15	11	787	3	24	11
	4.3%	6.8%	14.3%	12.2%	49.4%	1.8%	13.1%	23.9%
優先順位の判断ができる（同時コールの発生、他の利用者の介護中）	20	38	20	15	1,090	8	15	8
	5.0%	12.3%	19.0%	16.7%	68.4%	4.7%	8.2%	17.4%
利用者のペースに合わせた介助ができる (予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	48	54	27	26	712	16	54	12
	12.0%	17.5%	25.7%	28.9%	44.7%	9.4%	29.5%	26.1%
訪室の前に心の準備ができる	28	20	10	10	577	7	5	3
	7.0%	6.5%	9.5%	11.1%	36.2%	4.1%	2.7%	6.5%
見守り以外の業務・休憩等が分断されない	8	6	6	2	178	8	5	1
	2.0%	1.9%	5.7%	2.2%	11.2%	4.7%	2.7%	2.2%
休憩時間を確保することができる	6	12	6	4	203	9	11	3
	1.5%	3.9%	5.7%	4.4%	12.7%	5.3%	6.0%	6.5%
走って訪室することが減る	23	13	7	5	375	5	2	1
	5.8%	4.2%	6.7%	5.6%	23.5%	2.9%	1.1%	2.2%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	12	26	10	6	298	19	4	3
	3.0%	8.4%	9.5%	6.7%	18.7%	11.1%	2.2%	6.5%
訪室回数合計が減る	8	7	7	4	494	2	1	6
	2.0%	2.3%	6.7%	4.4%	31.0%	1.2%	0.5%	13.0%
必要以上に利用者を見に行くことになる	2	2	3	3	333	7	2	0
	0.5%	0.6%	2.9%	3.3%	20.9%	4.1%	1.1%	0.0%
機器の初期設定・微調整が煩雑である	68	26	4	2	217	24	4	1
	17.0%	8.4%	3.8%	2.2%	13.6%	14.0%	2.2%	2.2%
複数端末の携帯が煩雑である	20	5	4	3	127	3	2	0
	5.0%	1.6%	3.8%	3.3%	8.0%	1.8%	1.1%	0.0%
無回答	132	62	39	25	76	65	21	8
	33.0%	20.1%	37.1%	27.8%	4.8%	38.0%	11.5%	17.4%
有効回答数	400	308	105	90	1593	171	183	46

※①～⑧の介護ロボットを使用している職員の回答を有効回答数とした。

- 職員や施設業務の変化（地域密着型介護老人福祉施設）について、「⑤見守り」では、「訪室しなくても利用者の状況が分かる」が 66.4%と最も割合が高く、次いで「優先順位の判断ができる」が 64.0%であった。【図表 96 03 票 問 3 職員や施設業務の変化（定性的な変化）について】

図表 96 職員や施設業務の変化（地域密着型介護老人福祉施設）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
気持ちに余裕ができる	8 24.2%	6 14.0%	0 0.0%	1 33.3%	146 59.1%	5 33.3%	13 46.4%	2 40.0%
身体的負担（体の痛みなど）の軽減	26 78.8%	34 79.1%	0 0.0%	1 33.3%	19 7.7%	1 6.7%	24 85.7%	0 0.0%
精神的負担（ストレスなど）の軽減	2 6.1%	5 11.6%	0 0.0%	1 33.3%	101 40.9%	3 20.0%	11 39.3%	2 40.0%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	0 0.0%	2 4.7%	0 0.0%	0 0.0%	26 10.5%	8 53.3%	8 28.6%	1 20.0%
訪室しなくても利用者の状況が分かる（即時性）	2 6.1%	1 2.3%	1 33.3%	1 33.3%	164 66.4%	2 13.3%	0 0.0%	3 60.0%
利用者の行動パターンが把握できる（排泄、夜間行動）	4 12.1%	1 2.3%	1 33.3%	1 33.3%	151 61.1%	1 6.7%	0 0.0%	3 60.0%
事故原因分析の参考情報にできる	2 6.1%	5 11.6%	1 33.3%	1 33.3%	109 44.1%	2 13.3%	0 0.0%	1 20.0%
優先順位の判断ができる（同時コールの発生、他の利用者の介護中）	3 9.1%	5 11.6%	1 33.3%	1 33.3%	158 64.0%	2 13.3%	0 0.0%	1 20.0%
利用者のペースに合わせた介助ができる (予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	3 9.1%	15 34.9%	1 33.3%	1 33.3%	110 44.5%	3 20.0%	6 21.4%	2 40.0%
訪室の前に心の準備ができる	7 21.2%	7 16.3%	1 33.3%	1 33.3%	90 36.4%	2 13.3%	0 0.0%	1 20.0%
見守り以外の業務・休憩等が分断されない	0 0.0%	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	28 11.3%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%
休憩時間を確保することができる	2 6.1%	4 9.3%	1 33.3%	1 33.3%	27 10.9%	2 13.3%	1 3.6%	0 0.0%
走って訪室することが減る	2 6.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	68 27.5%	2 13.3%	0 0.0%	0 0.0%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	4 12.1%	3 7.0%	0 0.0%	1 33.3%	32 13.0%	3 20.0%	0 0.0%	1 20.0%
訪室回数合計が減る	1 3.0%	1 2.3%	1 33.3%	2 66.7%	79 32.0%	1 6.7%	0 0.0%	1 20.0%
必要以上に利用者を見に行くことになる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	48 19.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
機器の初期設定・微調整が煩雑である	4 12.1%	3 7.0%	0 0.0%	0 0.0%	36 14.6%	2 13.3%	0 0.0%	1 20.0%
複数端末の携帯が煩雑である	1 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	3 9.1%	7 16.3%	2 66.7%	1 33.3%	6 2.4%	4 26.7%	3 10.7%	1 20.0%
有効回答数	33	43	3	3	247	15	28	5

※①～⑧の介護ロボットを使用している職員の回答を有効回答数とした。

- 職員や施設業務の変化（介護老人保健施設）について、「⑤見守り」では、「利用者の行動パターンが把握できる」が 63.6%と最も割合が高く、次いで「優先順位の判断ができる」が 59.6%であった。【図表 97 03 票 問 3 職員や施設業務の変化（定性的な変化）について】

図表 97 職員や施設業務の変化（介護老人保健施設）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
気持ちに余裕ができる	10	16	5	6	184	9	8	0
	11.1%	38.1%	62.5%	75.0%	52.7%	36.0%	30.8%	0.0%
身体的負担（体の痛みなど）の軽減	49	36	6	6	46	1	17	1
	54.4%	85.7%	75.0%	75.0%	13.2%	4.0%	65.4%	20.0%
精神的負担（ストレスなど）の軽減	6	16	4	5	128	5	10	0
	6.7%	38.1%	50.0%	62.5%	36.7%	20.0%	38.5%	0.0%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	0	7	2	3	45	17	6	0
	0.0%	16.7%	25.0%	37.5%	12.9%	68.0%	23.1%	0.0%
訪室しなくても利用者の状況が分かる（即時性）	0	1	2	2	200	0	0	3
	0.0%	2.4%	25.0%	25.0%	57.3%	0.0%	0.0%	60.0%
利用者の行動パターンが把握できる（排泄、夜間行動）	0	1	1	4	222	0	0	3
	0.0%	2.4%	12.5%	50.0%	63.6%	0.0%	0.0%	60.0%
事故原因分析の参考情報にできる	1	2	1	2	169	0	2	0
	1.1%	4.8%	12.5%	25.0%	48.4%	0.0%	7.7%	0.0%
優先順位の判断ができる（同時コールの発生、他の利用者の介護中）	2	6	2	1	208	0	0	3
	2.2%	14.3%	25.0%	12.5%	59.6%	0.0%	0.0%	60.0%
利用者のペースに合わせた介助ができる (予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	7	8	3	5	124	0	6	0
	7.8%	19.0%	37.5%	62.5%	35.5%	0.0%	23.1%	0.0%
訪室の前に心の準備ができる	6	4	2	3	108	0	0	0
	6.7%	9.5%	25.0%	37.5%	30.9%	0.0%	0.0%	0.0%
見守り以外の業務・休憩等が分断されない	0	2	0	2	29	1	1	0
	0.0%	4.8%	0.0%	25.0%	8.3%	4.0%	3.8%	0.0%
休憩時間を確保することができる	1	4	0	2	31	0	0	0
	1.1%	9.5%	0.0%	25.0%	8.9%	0.0%	0.0%	0.0%
走って訪室することが減る	2	0	1	5	76	0	1	0
	2.2%	0.0%	12.5%	62.5%	21.8%	0.0%	3.8%	0.0%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	3	4	1	3	61	0	3	1
	3.3%	9.5%	12.5%	37.5%	17.5%	0.0%	11.5%	20.0%
訪室回数合計が減る	0	0	1	3	99	0	0	1
	0.0%	0.0%	12.5%	37.5%	28.4%	0.0%	0.0%	20.0%
必要以上に利用者を見に行くことになる	0	0	2	0	84	0	0	0
	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	24.1%	0.0%	0.0%	0.0%
機器の初期設定・微調整が煩雑である	18	3	2	1	64	7	0	0
	20.0%	7.1%	25.0%	12.5%	18.3%	28.0%	0.0%	0.0%
複数端末の携帯が煩雑である	0	0	1	0	29	0	0	0
	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	34	4	2	1	20	5	9	0
	37.8%	9.5%	25.0%	12.5%	5.7%	20.0%	34.6%	0.0%
有効回答数	90	42	8	8	349	25	26	5

※①～⑧の介護ロボットを使用している職員の回答を有効回答数とした。

- 職員や施設業務の変化（介護療養型医療施設または介護医療院）について、「⑤見守り」では、「気持ちに余裕ができる」が73.9%と最も割合が高く、次いで「利用者の行動パターンが把握できる」が67.4%であった。【図表 98 03 票 問 3 職員や施設業務の変化（定性的な変化）について】

図表 98 職員や施設業務の変化（介護療養型医療施設または介護医療院）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
気持ちに余裕ができる	0	0	0	0	34	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	73.9%	0.0%	0.0%	0.0%
身体的負担（体の痛みなど）の軽減	0	0	2	0	12	0	0	0
	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	26.1%	0.0%	0.0%	0.0%
精神的負担（ストレスなど）の軽減	0	0	0	0	24	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	52.2%	0.0%	0.0%	0.0%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	0	0	0	0	8	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%
訪室しなくても利用者の状況が分かる（即時性）	0	0	0	0	30	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	65.2%	0.0%	0.0%	0.0%
利用者の行動パターンが把握できる（排泄、夜間行動）	0	0	0	0	31	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	67.4%	0.0%	0.0%	0.0%
事故原因分析の参考情報にできる	0	0	0	0	26	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	56.5%	0.0%	0.0%	0.0%
優先順位の判断ができる（同時コールの発生、他の利用者の介護中）	0	0	0	0	26	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	56.5%	0.0%	0.0%	0.0%
利用者のペースに合わせた介助ができる (予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	0	0	0	0	26	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	56.5%	0.0%	0.0%	0.0%
訪室の前に心の準備ができる	0	0	0	0	15	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	32.6%	0.0%	0.0%	0.0%
見守り以外の業務・休憩等が分断されない	0	0	0	0	8	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%
休憩時間を確保することができる	0	0	0	0	10	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.7%	0.0%	0.0%	0.0%
走って訪室することが減る	0	0	0	0	11	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	23.9%	0.0%	0.0%	0.0%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	0	0	0	0	6	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%
訪室回数合計が減る	0	0	0	0	19	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	41.3%	0.0%	0.0%	0.0%
必要以上に利用者を見に行くことになる	0	0	0	0	17	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.0%	0.0%	0.0%	0.0%
機器の初期設定・微調整が煩雑である	0	0	0	0	13	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.3%	0.0%	0.0%	0.0%
複数端末の携帯が煩雑である	0	0	0	0	2	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
有効回答数	0	0	2	0	46	0	0	0

※①～⑧の介護ロボットを使用している職員の回答を有効回答数とした。

- 職員や施設業務の変化（特定施設入居者生活介護）について、「⑤見守り」では、「訪室しなくても利用者の状況が分かる」「利用者の行動パターンが把握できる」が共に71.0%と最も割合が高かった。【図表 99 03 票 問3 職員や施設業務の変化（定性的な変化）について】

図表 99 職員や施設業務の変化（特定施設入居者生活介護）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
気持ちに余裕ができる	10	3	6	5	111	4	2	4
	17.9%	23.1%	37.5%	41.7%	52.9%	17.4%	11.8%	44.4%
身体的負担（体の痛みなど）の軽減	39	10	6	7	22	1	14	5
	69.6%	76.9%	37.5%	58.3%	10.5%	4.3%	82.4%	55.6%
精神的負担（ストレスなど）の軽減	9	2	2	3	77	2	1	2
	16.1%	15.4%	12.5%	25.0%	36.7%	8.7%	5.9%	22.2%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	1	4	3	0	35	11	3	1
	1.8%	30.8%	18.8%	0.0%	16.7%	47.8%	17.6%	11.1%
訪室しなくても利用者の状況が分かる（即時性）	0	0	0	0	149	0	0	4
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	71.0%	0.0%	0.0%	44.4%
利用者の行動パターンが把握できる（排泄、夜間行動）	1	4	1	3	149	0	0	2
	1.8%	30.8%	6.3%	25.0%	71.0%	0.0%	0.0%	22.2%
事故原因分析の参考情報にできる	5	1	4	0	108	0	1	0
	8.9%	7.7%	25.0%	0.0%	51.4%	0.0%	5.9%	0.0%
優先順位の判断ができる（同時コールの発生、他の利用者の介護中）	1	1	3	1	120	0	0	4
	1.8%	7.7%	18.8%	8.3%	57.1%	0.0%	0.0%	44.4%
利用者のペースに合わせた介助ができる (予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	10	5	7	8	93	0	1	7
	17.9%	38.5%	43.8%	66.7%	44.3%	0.0%	5.9%	77.8%
訪室の前に心の準備ができる	2	1	1	4	82	2	0	3
	3.6%	7.7%	6.3%	33.3%	39.0%	8.7%	0.0%	33.3%
見守り以外の業務・休憩等が分断されない	0	0	0	0	24	1	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.4%	4.3%	0.0%	11.1%
休憩時間を確保することができる	5	2	3	0	37	0	0	1
	8.9%	15.4%	18.8%	0.0%	17.6%	0.0%	0.0%	11.1%
走って訪室することが減る	5	3	3	0	54	0	0	1
	8.9%	23.1%	18.8%	0.0%	25.7%	0.0%	0.0%	11.1%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	5	0	3	1	46	0	2	1
	8.9%	0.0%	18.8%	8.3%	21.9%	0.0%	11.8%	11.1%
訪室回数合計が減る	3	0	3	3	62	0	0	2
	5.4%	0.0%	18.8%	25.0%	29.5%	0.0%	0.0%	22.2%
必要以上に利用者を見に行くことになる	0	0	0	0	41	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	19.5%	0.0%	0.0%	0.0%
機器の初期設定・微調整が煩雑である	9	1	5	0	33	10	1	0
	16.1%	7.7%	31.3%	0.0%	15.7%	43.5%	5.9%	0.0%
複数端末の携帯が煩雑である	7	1	0	3	19	8	0	0
	12.5%	7.7%	0.0%	25.0%	9.0%	34.8%	0.0%	0.0%
無回答	13	2	1	2	9	5	2	0
	23.2%	15.4%	6.3%	16.7%	4.3%	21.7%	11.8%	0.0%
有効回答数	56	13	16	12	210	23	17	9

※①～⑧の介護ロボットを使用している職員の回答を有効回答数とした。

- 職員や施設業務の変化（地域密着型特定施設入居者生活介護）について、「⑤見守り」では、「訪室しなくても利用者の状況が分かる」が 56.3%と最も割合が高く、次いで「利用者の行動パターンが把握できる」が 50.0%であった。【図表 100 03 票 問 3 職員や施設業務の変化（定性的な変化）について】

図表 100 職員や施設業務の変化（地域密着型特定施設入居者生活介護）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
気持ちに余裕ができる	0	0	0	0	4	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
身体的負担（体の痛みなど）の軽減	6	5	0	1	2	0	0	0
	75.0%	35.7%	0.0%	100.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
精神的負担（ストレスなど）の軽減	0	0	0	0	7	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	43.8%	0.0%	0.0%	0.0%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
訪室しなくても利用者の状況が分かる（即時性）	0	0	0	0	9	0	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	56.3%	0.0%	0.0%	33.3%
利用者の行動パターンが把握できる（排泄、夜間行動）	0	0	0	0	8	0	0	3
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
事故原因分析の参考情報にできる	0	0	0	0	6	0	0	2
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	66.7%
優先順位の判断ができる（同時コールの発生、他の利用者の介護中）	1	0	0	0	6	0	0	0
	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%
利用者のペースに合わせた介助ができる (予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	0	0	0	0	7	0	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	43.8%	0.0%	0.0%	33.3%
訪室の前に心の準備ができる	0	0	0	0	6	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%
見守り以外の業務・休憩等が分断されない	0	0	0	0	2	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
休憩時間を確保することができる	0	0	0	0	2	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
走って訪室することが減る	0	0	0	0	3	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	0	0	0	0	2	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
訪室回数合計が減る	0	0	0	0	6	0	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	33.3%
必要以上に利用者を見に行くことになる	0	0	0	0	2	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
機器の初期設定・微調整が煩雑である	2	0	0	0	4	0	0	1
	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	33.3%
複数端末の携帯が煩雑である	0	0	0	0	4	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0	9	0	0	2	0	0	0
	0.0%	64.3%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
有効回答数	8	14	0	1	16	0	0	3

※①～⑧の介護ロボットを使用している職員の回答を有効回答数とした。

- 職員や施設業務の変化（認知症対応型共同生活介護）について、「⑤見守り」では、「訪室しなくても利用者の状況が分かる」が 72.4%と最も割合が高く、次いで「利用者の行動パターンが把握できる」が 69.9%であった。【図表 101 03 票 問 3 職員や施設業務の変化（定性的な変化）について】

図表 101 職員や施設業務の変化（認知症対応型共同生活介護）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
気持ちに余裕ができる	5	4	2	4	232	8	1	0
	8.6%	57.1%	25.0%	50.0%	62.9%	47.1%	100.0%	0.0%
身体的負担（体の痛みなど）の軽減	26	7	3	4	45	2	0	0
	44.8%	100.0%	37.5%	50.0%	12.2%	11.8%	0.0%	0.0%
精神的負担（ストレスなど）の軽減	5	1	2	4	152	3	0	0
	8.6%	14.3%	25.0%	50.0%	41.2%	17.6%	0.0%	0.0%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	0	5	5	4	40	8	0	0
	0.0%	71.4%	62.5%	50.0%	10.8%	47.1%	0.0%	0.0%
訪室しなくても利用者の状況が分かる（即時性）	2	0	0	4	267	2	0	0
	3.4%	0.0%	0.0%	50.0%	72.4%	11.8%	0.0%	0.0%
利用者の行動パターンが把握できる（排泄、夜間行動）	2	0	4	7	258	2	0	0
	3.4%	0.0%	50.0%	87.5%	69.9%	11.8%	0.0%	0.0%
事故原因分析の参考情報にできる	2	0	0	4	151	2	0	0
	3.4%	0.0%	0.0%	50.0%	40.9%	11.8%	0.0%	0.0%
優先順位の判断ができる（同時コールの発生、他の利用者の介護中）	0	1	7	5	242	0	0	0
	0.0%	14.3%	87.5%	62.5%	65.6%	0.0%	0.0%	0.0%
利用者のペースに合わせた介助ができる (予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	1	4	6	6	187	0	0	0
	1.7%	57.1%	75.0%	75.0%	50.7%	0.0%	0.0%	0.0%
訪室の前に心の準備ができる	4	3	2	5	158	0	0	0
	6.9%	42.9%	25.0%	62.5%	42.8%	0.0%	0.0%	0.0%
見守り以外の業務・休憩等が分断されない	0	1	0	4	38	0	0	0
	0.0%	14.3%	0.0%	50.0%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%
休憩時間を確保することができる	1	1	0	3	56	0	0	0
	1.7%	14.3%	0.0%	37.5%	15.2%	0.0%	0.0%	0.0%
走って訪室することが減る	0	3	2	4	127	0	0	0
	0.0%	42.9%	25.0%	50.0%	34.4%	0.0%	0.0%	0.0%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	1	2	2	4	65	1	0	0
	1.7%	28.6%	25.0%	50.0%	17.6%	5.9%	0.0%	0.0%
訪室回数合計が減る	1	0	0	4	129	0	0	0
	1.7%	0.0%	0.0%	50.0%	35.0%	0.0%	0.0%	0.0%
必要以上に利用者を見に行くことになる	2	0	0	1	66	1	0	0
	3.4%	0.0%	0.0%	12.5%	17.9%	5.9%	0.0%	0.0%
機器の初期設定・微調整が煩雑である	6	0	0	4	61	2	0	0
	10.3%	0.0%	0.0%	50.0%	16.5%	11.8%	0.0%	0.0%
複数端末の携帯が煩雑である	0	0	0	4	25	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	6.8%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	28	0	0	1	7	4	0	1
	48.3%	0.0%	0.0%	12.5%	1.9%	23.5%	0.0%	100.0%
有効回答数	58	7	8	8	369	17	1	1

※①～⑧の介護ロボットを使用している職員の回答を有効回答数とした。

- 職員や施設業務の変化（短期入所生活介護）について、「⑤見守り」では、「訪室しなくても利用者の状況が分かる」が 70.8%と最も割合が高く、次いで「利用者の行動パターンが把握できる」が 70.1%であった。【図表 102 03 票 問 3 職員や施設業務の変化（定性的な変化）について】

図表 102 職員や施設業務の変化（短期入所生活介護）（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
気持ちに余裕ができる	7 31.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	77 56.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
身体的負担（体の痛みなど）の軽減	9 40.9%	1 14.3%	0 0.0%	2 66.7%	15 10.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
精神的負担（ストレスなど）の軽減	3 13.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	60 43.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
訪室しなくても利用者の状況が分かる（即時性）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	97 70.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
利用者の行動パターンが把握できる（排泄、夜間行動）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	96 70.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
事故原因分析の参考情報にできる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	64 46.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
優先順位の判断ができる（同時コールの発生、他の利用者の介護中）	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	69 50.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
利用者のペースに合わせた介助ができる (予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	3 13.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	54 39.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
訪室の前に心の準備ができる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	42 30.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
見守り以外の業務・休憩等が分断されない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 8.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
休憩時間を確保することができる	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 5.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
走って訪室することが減る	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	39 28.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19 13.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
訪室回数合計が減る	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	49 35.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
必要以上に利用者を見に行くことになる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	26 19.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
機器の初期設定・微調整が煩雑である	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	14 10.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
複数端末の携帯が煩雑である	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 7.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	10 45.5%	6 85.7%	0 0.0%	1 33.3%	4 2.9%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%
有効回答数	22	7	0	3	137	0	4	0

※①～⑧の介護ロボットを使用している職員の回答を有効回答数とした。

- 職員からみた利用者の生活の変化について、「⑤見守り」では、「転倒が減る」が 71.2%と最も割合が高く、次いで「緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある」が 32.9%であった。【図表 103 03 票 問 4 職員からみた利用者の生活の変化（定性的な変化）について】

図表 103 職員からみた利用者の生活の変化（複数回答）

（単位：人）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニケーション	⑦入浴支援	⑧その他
介護者に気を遣わなくても良い	83 11.9%	89 19.1%	18 12.4%	22 16.8%	336 11.0%	22 8.7%	54 20.5%	7 9.7%
心身の衰えの防止につながる	53 7.6%	55 11.8%	39 26.9%	20 15.3%	220 7.2%	62 24.5%	25 9.5%	6 8.3%
転倒が減る(しりもち、座り込み等のヒヤリハット含む)	76 10.9%	109 23.4%	39 26.9%	19 14.5%	2,170 70.7%	13 5.1%	54 20.5%	23 31.9%
睡眠の質が高まる(まとまった睡眠、寝覚め、眠剤減)	4 0.6%	12 2.6%	5 3.4%	13 9.9%	624 20.3%	13 5.1%	13 4.9%	16 22.2%
排泄の失敗が減る	9 1.3%	11 2.4%	10 6.9%	34 26.0%	727 23.7%	9 3.6%	0 0.0%	8 11.1%
不穏行動が少なくなる	7 1.0%	15 3.2%	3 2.1%	6 4.6%	257 8.4%	63 24.9%	12 4.5%	2 2.8%
人による介護よりも安全性が高い	90 12.9%	219 47.1%	34 23.4%	13 9.9%	336 11.0%	3 1.2%	137 51.9%	16 22.2%
職員から見守られている安心感が高まる	20 2.9%	34 7.3%	11 7.6%	11 8.4%	551 18.0%	14 5.5%	24 9.1%	4 5.6%
緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある	18 2.6%	14 3.0%	11 7.6%	15 11.5%	1,002 32.7%	12 4.7%	8 3.0%	8 11.1%
最先端の機器を用いた介護を受けられる	113 16.2%	88 18.9%	22 15.2%	24 18.3%	358 11.7%	37 14.6%	48 18.2%	9 12.5%
職員からの干渉・制止が減る	14 2.0%	14 3.0%	14 9.7%	8 6.1%	757 24.7%	16 6.3%	8 3.0%	4 5.6%
見張られているようで何となく嫌そうである	11 1.6%	9 1.9%	6 4.1%	5 3.8%	534 17.4%	19 7.5%	6 2.3%	0 0.0%
見慣れない物が設置されていて違和感がある	145 20.8%	67 14.4%	16 11.0%	19 14.5%	418 13.6%	35 13.8%	17 6.4%	2 2.8%
準備に時間がかかる	246 35.3%	151 32.5%	18 12.4%	24 18.3%	96 3.1%	36 14.2%	35 13.3%	3 4.2%
その他	13 1.9%	5 1.1%	2 1.4%	1 0.8%	33 1.1%	11 4.3%	1 0.4%	0 0.0%
特にない	99 14.2%	16 3.4%	12 8.3%	11 8.4%	177 5.8%	22 8.7%	13 4.9%	15 20.8%
わからない	67 9.6%	21 4.5%	6 4.1%	6 4.6%	158 5.1%	16 6.3%	7 2.7%	4 5.6%
無回答	150 21.6%	91 19.6%	38 26.2%	34 26.0%	167 5.4%	80 31.6%	60 22.7%	16 22.2%
有効回答数	696	465	145	131	3,068	253	264	72

※①～⑧の介護ロボットを使用している職員の回答を有効回答数とした。

※「⑤見守り」のうち「介護者に気を遣わなくてもよい」で1件無効回答があったため、有効回答数から減じた。

- 使用している介護ロボットの満足度について、ほとんどの介護ロボット種別では、「やや満足」の割合が最も高かった。(各種別ごとに比較)【図表 104 03 票 問5 使用している介護ロボット導入の満足度について】

図表 104 使用しているロボットの満足度 (単数回答)

(単位:人)

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答	有効回答数
①移乗支援(装着型)	49	112	128	166	177	64	696
	7.0%	16.1%	18.4%	23.9%	25.4%	9.2%	
②移乗支援(非装着型)	103	114	93	56	38	61	465
	22.2%	24.5%	20.0%	12.0%	8.2%	13.1%	
③移動支援	27	36	34	11	8	29	145
	18.6%	24.8%	23.4%	7.6%	5.5%	20.0%	
④排泄支援	23	35	27	12	10	24	131
	17.6%	26.7%	20.6%	9.2%	7.6%	18.3%	
⑤見守り	691	1,143	742	247	51	194	3,068
	22.5%	37.3%	24.2%	8.1%	1.7%	6.3%	
⑥コミュニケーション	21	62	81	23	17	49	253
	8.3%	24.5%	32.0%	9.1%	6.7%	19.4%	
⑦入浴支援	70	76	66	15	7	30	264
	26.5%	28.8%	25.0%	5.7%	2.7%	11.4%	
⑧その他	14	22	20	5	2	9	72
	19.4%	30.6%	27.8%	6.9%	2.8%	12.5%	

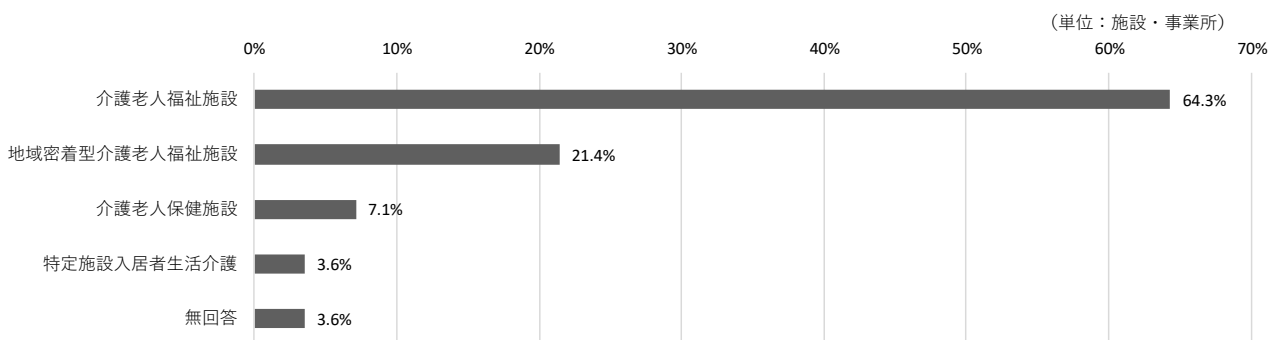
※①～⑧の介護ロボットを使用している職員の回答を有効回答数とした。

(4) 施設・事業所調査（訪問調査）

① 施設・事業所属性

- 施設種別について、「介護老人福祉施設」が64.3%と最も割合が高かった。【図表 105 04 票 問 1 (1) ③施設種別】

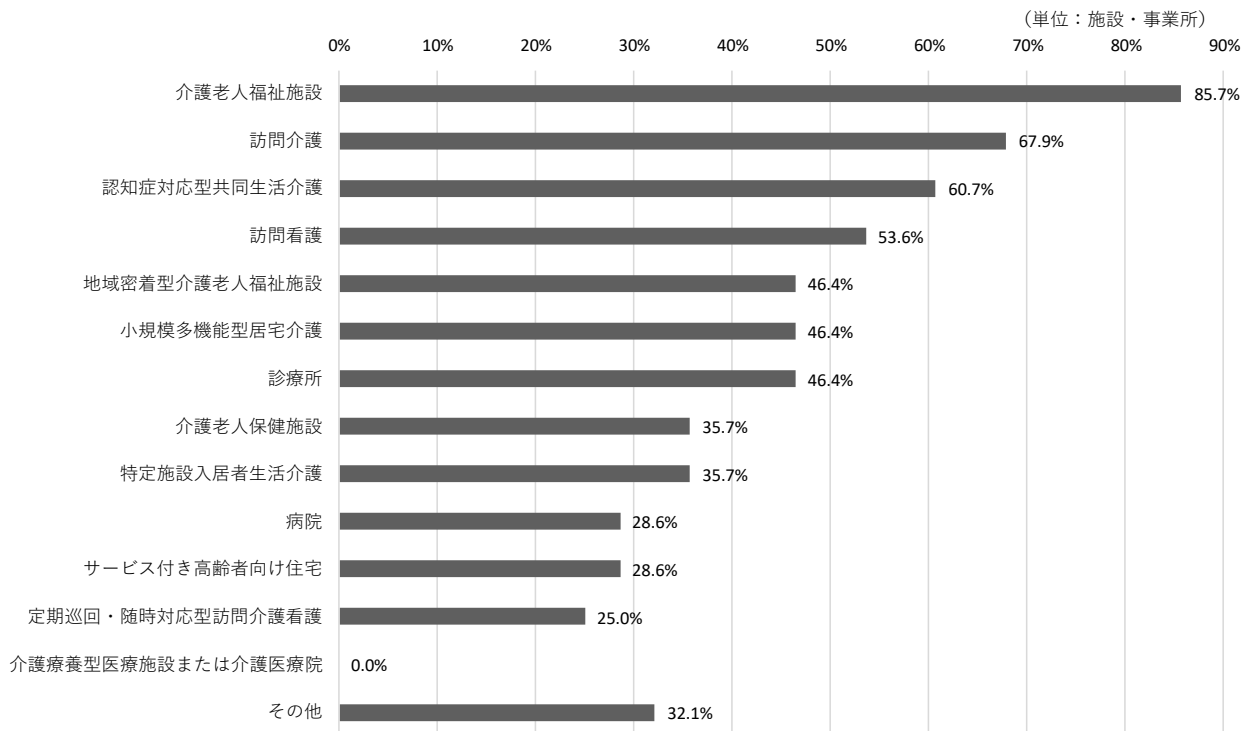
図表 105 施設種別（有効回答数=28）（単数回答）



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 開設主体／関連法人で経営している施設の有無について、「介護老人福祉施設」が85.7%と最も割合が高かった。【図表 106 04 票 問 1 (1) ④開設主体／関連法人で経営している施設の有無】

図表 106 開設主体／関連法人で経営している施設の有無（有効回答数=28）（複数回答）



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護報酬上の届出について、介護老人福祉施設では「2. 多床室」の割合が最も高かった。
【図表 107 04 票 問 1 (1) ⑤ 介護報酬上の届出】

図表 107 介護報酬上の届出（有効回答数=28）（複数回答）

(単位：施設・事業所)

	回答数	割合	無回答	割合	有効回答数
介護老人福祉施設					
1. 従来型個室	12	66.7%	1	5.6%	18
2. 多床室	13	72.2%			
3. 従来型個室	0	0.0%			
4. 多床室	0	0.0%			
5. ユニット型個室	5	27.8%			
6. ユニット型個室的多床室	0	0.0%			
7. ユニット型個室	0	0.0%			
8. ユニット型個室的多床室	0	0.0%			
地域密着型介護老人福祉施設					
9. 従来型個室	0	0.0%	0	0.0%	6
10. 多床室	0	0.0%			
11. 従来型個室	0	0.0%			
12. 多床室	0	0.0%			
13. ユニット型個室	6	100.0%			
14. ユニット型個室的多床室	0	0.0%			
15. ユニット型個室	0	0.0%			
16. ユニット型個室的多床室	0	0.0%			
短期入所生活介護					
17. 従来型個室	0	0.0%	7	38.9%	18
18. 多床室	0	0.0%			
19. 従来型個室	5	27.8%			
20. 多床室	7	38.9%			
21. ユニット型個室	0	0.0%			
22. ユニット型個室的多床室	0	0.0%			
23. ユニット型個室	3	16.7%			
24. ユニット型個室的多床室	0	0.0%			
合計					

※「介護老人福祉施設」「地域密着型介護老人福祉施設」「短期入所生活介護」の回答を有効回答数とした。

- 介護加算について、「介護福祉サービス」では「(I)イ」の割合が最も高かった。【図表 108 04 票 問 1 (1) ⑥ 介護加算】

図表 108 介護加算（有効回答数=28）（複数回答）

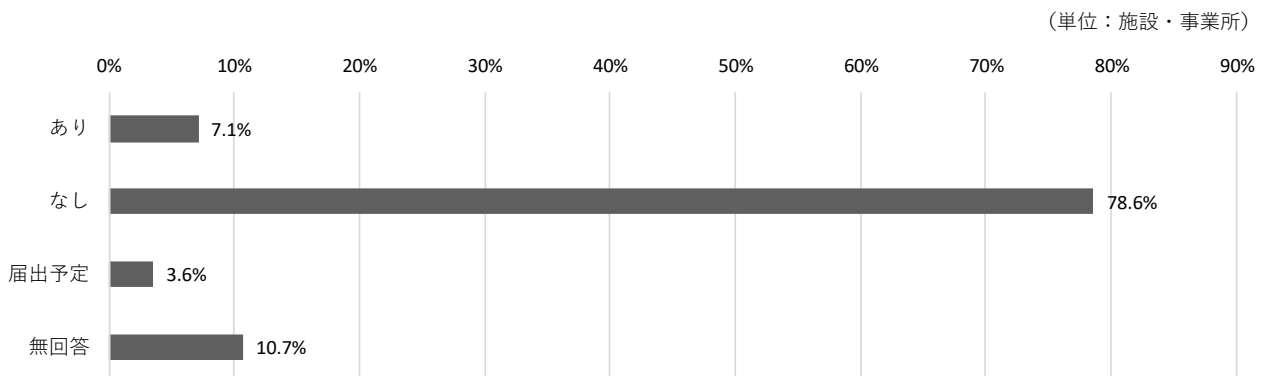
(単位：施設・事業所)

	回答数	割合	無回答	割合	有効回答数			
1. 夜勤職員配置加算								
介護福祉施設サービス (I) イ	8	44.4%	1	5.6%	18			
介護福祉施設サービス (I) ロ	3	16.7%						
介護福祉施設サービス (II) イ	2	11.1%	5	27.8%	18			
介護福祉施設サービス (II) ロ	2	11.1%						
介護福祉施設サービス (III) イ	0	0.0%						
介護福祉施設サービス (III) ロ	2	11.1%						
介護福祉施設サービス (IV) イ	0	0.0%						
介護福祉施設サービス (IV) ロ	1	5.6%						
短期入所生活介護費 (I)	9	50.0%						
短期入所生活介護費 (II)	3	16.7%						
短期入所生活介護費 (III)	1	5.6%						
短期入所生活介護費 (IV)	0	0.0%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (I) イ	0	0.0%				1	16.7%	6
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (I) ロ	0	0.0%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (II) イ	4	66.7%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (II) ロ	0	0.0%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (III) イ	0	0.0%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (III) ロ	0	0.0%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (IV) イ	1	16.7%						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (IV) ロ	0	0.0%						
2. その他	0	0.0%						
合計			7	16.7%	42			

※「介護老人福祉施設」「地域密着型介護老人福祉施設」「短期入所生活介護」の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出について、「あり」が7.1%であった。【図表 109 04 票 問 1 (1) ⑦見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出】

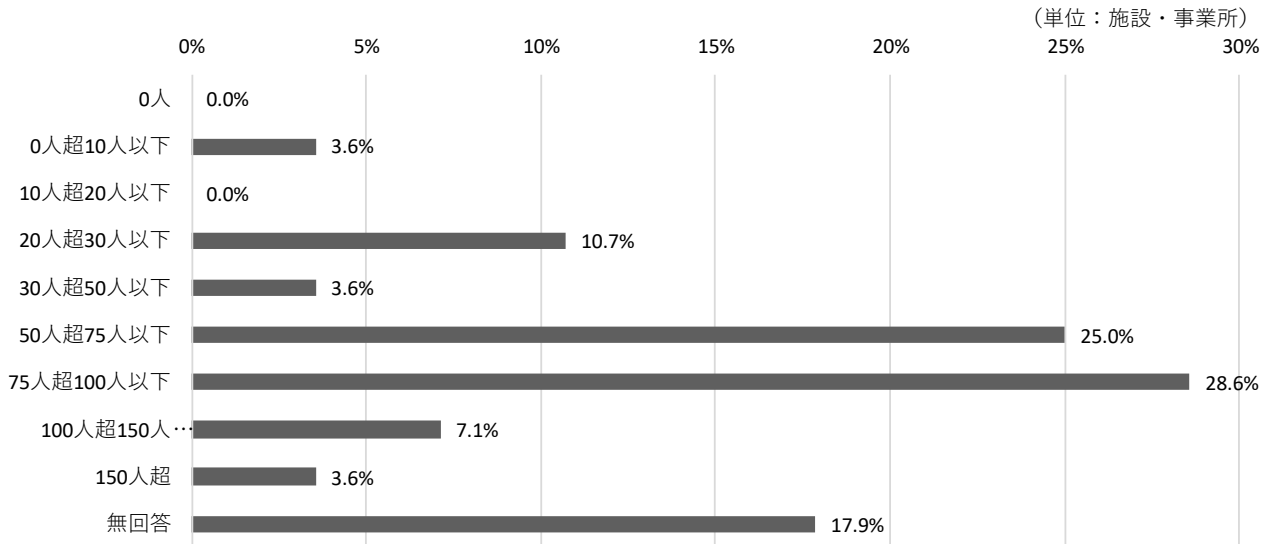
図表 109 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出（有効回答数=28）（単数回答）



※見守り機器を導入している「介護老人福祉施設」「地域密着型介護老人福祉施設」「短期入所生活介護」の回答を有効回答数とした。

- 入所者(入院者)数について、「75人超100人以下」が28.6%と最も割合が高く、次いで「50人超75人以下」が25.0%、「20人超30人以下」が10.7%であった。【図表 110 04票 問1(1) ⑧入所者(入院者)数】

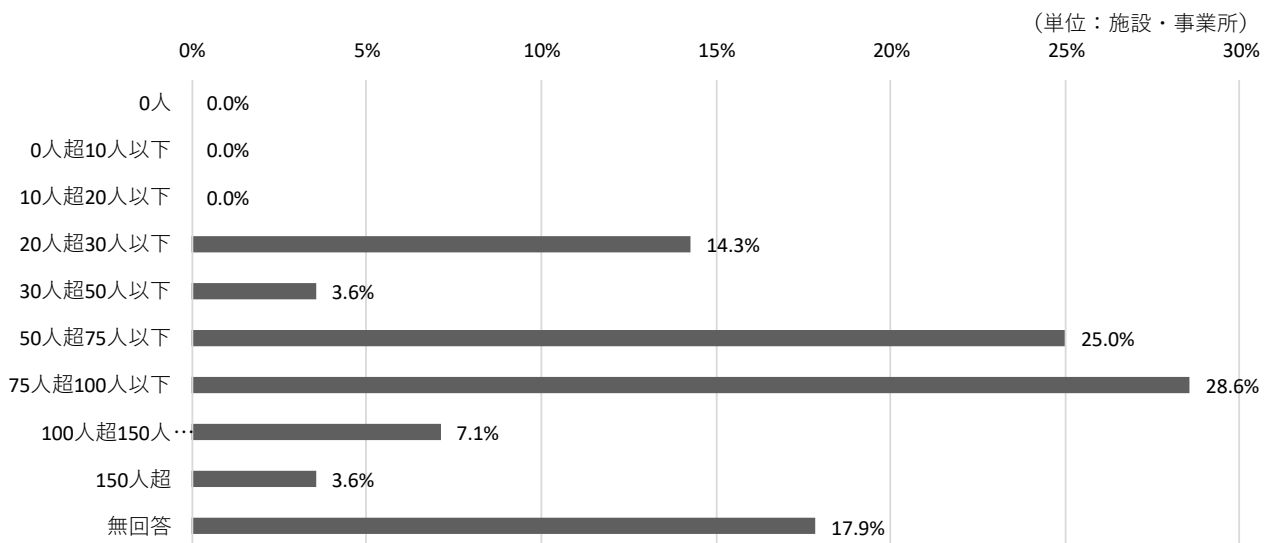
図表 110 入所者(入院者)数 (有効回答数=28) (単数回答)



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 定員数について、「75人超100人以下」が28.6%と最も割合が高く、次いで「50人超75人以下」が25.0%、「20人超30人以下」が14.3%であった。【図表 111 04票 問1(1) ⑨定員数】

図表 111 定員数 (有効回答数=28) (単数回答)



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

○ 職種別の従事者数について、「介護福祉士」では「5人超」が85.7%と最も割合が高かった。

【図表 112 04 票 問 1 (2) 職種別の従事者数】

図表 112 職種別の従事者数(単数回答)

(単位：施設・事業所)

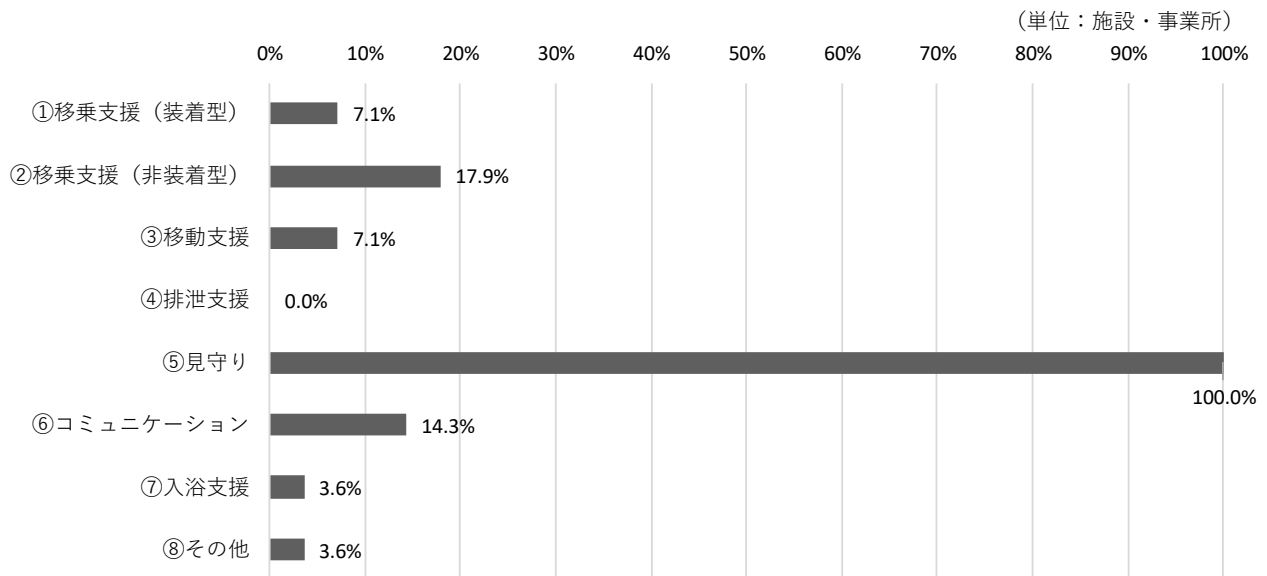
	医師	薬剤師	看護師	准看護師	社会福祉士	介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	臨床検査技師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	精神保健福祉士	介護支援専門員(ケアマネジャー)
0人	2 7.1%	11 39.3%	0 0.0%	2 7.1%	5 17.9%	0 0.0%	0 0.0%	10 35.7%	7 25.0%	9 32.1%	10 35.7%	9 32.1%	0 0.0%
0人超1人以下	14 50.0%	0 0.0%	2 7.1%	7 25.0%	7 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 17.9%	5 17.9%	0 0.0%	1 3.6%	15 53.6%
1人超2人以下	2 7.1%	0 0.0%	4 14.3%	3 10.7%	2 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 10.7%
2人超3人以下	0 0.0%	0 0.0%	3 10.7%	3 10.7%	2 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 7.1%
3人超4人以下	0 0.0%	0 0.0%	4 14.3%	2 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 10.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
4人超5人以下	0 0.0%	0 0.0%	3 10.7%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.6%
5人超	0 0.0%	0 0.0%	7 25.0%	1 3.6%	1 3.6%	24 85.7%	21 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 10.7%
無回答	10 35.7%	17 60.7%	5 17.9%	9 32.1%	11 39.3%	4 14.3%	4 14.3%	18 64.3%	16 57.1%	14 50.0%	18 64.3%	18 64.3%	4 14.3%
有効回答数	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28

	管理栄養士	栄養士	調理師	その他
0人	0 0.0%	9 32.1%	7 25.0%	3 10.7%
0人超1人以下	18 64.3%	3 10.7%	0 0.0%	3 10.7%
1人超2人以下	5 17.9%	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%
2人超3人以下	0 0.0%	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%
3人超4人以下	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
4人超5人以下	0 0.0%	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%
5人超	0 0.0%	0 0.0%	2 7.1%	5 17.9%
無回答	5 17.9%	16 57.1%	16 57.1%	17 60.7%
有効回答数	28	28	28	28

※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 導入した介護ロボットの種類については、「⑤見守り」が 100.0%と最も割合が高かった。
【図表 98 04 票 問 2 (1) 導入したロボットの種類】

図表 113 導入した介護ロボットの種類（有効回答数=28）（複数回答）



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット購入・リース時の費用負担方法については、「国・県・市町村の助成/補助」が 36.7%であった。【図表 114 04 票 問 2 (2) 導入した介護ロボットの種類 (3) 介護ロボット購入・リース時の費用負担方法】

図表 114 介護ロボット購入・リース時の費用負担方法（複数回答）

	導入台数	自己負担	国・県・市町村の助成/補助	研究協力による助成/補助	その他
①移乗支援（装着型）	13	11	0	2	0
		84.6%	0.0%	15.4%	0.0%
②移乗支援（非装着型）	6	1	3	1	0
		16.7%	50.0%	16.7%	0.0%
③移動支援	3	0	3	0	0
		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
④排泄支援	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
⑤見守り	191	35	68	31	0
		18.3%	35.6%	16.2%	0.0%
⑥コミュニケーション	31	4	13	1	0
		12.9%	41.9%	3.2%	0.0%
⑦入浴支援	1	0	1	0	0
		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
⑧その他	3	0	3	0	0
		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	248	51	91	35	0
		20.6%	36.7%	14.1%	0.0%

※各割合は、各種別の導入台数で除した。

② 介護ロボット導入の動機と効果

- 介護ロボット導入のきっかけについて、「⑤見守り」では、「導入に関して助成・補助があった」の割合が最も高かった。(各種別ごとに比較)【図表 115 04 票 問 2 (3) 介護ロボット導入のきっかけ・目的】

図表 115 介護ロボット導入のきっかけ(複数回答)

(単位：施設・事業所)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
理事長（経営層）の判断	1 50.0%	3 60.0%	2 100.0%	0 -	13 46.4%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%
施設長（現場責任者）の判断	1 50.0%	4 80.0%	2 100.0%	0 -	18 64.3%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
現場職員からの要望	0 0.0%	3 60.0%	1 50.0%	0 -	9 32.1%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
導入に関して助成・補助があった	2 100.0%	2 40.0%	2 100.0%	0 -	22 78.6%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
メーカーの営業活動	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 -	5 17.9%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
実証研究への協力	1 50.0%	2 40.0%	1 50.0%	0 -	16 57.1%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
有効回答数	2	5	2	0	28	4	1	1

※①～⑧の介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット導入の目的について、「⑤見守り」では、「職員の負担軽減」の割合が最も高かった。(各種別ごとに比較)【図表 116 04 票 問 2 (3) 介護ロボット導入のきっかけ・目的】

図表 116 介護ロボット導入の目的(複数回答)

(単位：施設・事業所)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
利用者の負担軽減	1 50.0%	4 80.0%	2 100.0%	0 -	9 32.1%	1 25.0%	0 0.0%	0 -
職員の負担軽減	2 100.0%	5 100.0%	1 50.0%	0 -	26 92.9%	2 50.0%	1 100.0%	0 -
職員の確保	1 50.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 -	7 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 -
職員の離職防止	1 50.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 -	11 39.3%	2 50.0%	0 0.0%	0 -
ヒヤリハット・介護事故の防止	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 -	25 89.3%	1 25.0%	0 0.0%	0 -
費用対効果	0 0.0%	1 20.0%	0 2.5%	0 -	4 14.3%	1 25.0%	0 0.0%	0 -
業務効率化	1 50.0%	3 60.0%	0 7.5%	0 -	18 64.3%	2 50.0%	1 100.0%	0 -
テスト導入	0 0.0%	2 40.0%	1 50.0%	0 -	8 28.6%	3 75.0%	0 0.0%	0 -
無回答	0 0.0%	0 3.2%	0 5.0%	0 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
有効回答数	2	5	2	0	28	4	1	1

※①～⑧の介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット導入時に配慮した点について、「⑤見守り」では、「Wi-Fi 環境などの物理的環境の配慮」の割合が最も高かった。(各種別ごとに比較)【図表 117 04 票 問 2 (4) 介護ロボット導入時に配慮した点】

図表 117 介護ロボット導入時に配慮した点(複数回答)

(単位：施設・事業所)

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
課題分析と導入目的の明確化	1 50.0%	4 80.0%	2 100.0%	0 -	18 64.3%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
会議や委員会等を通じた職員への周知 と合意形成	1 50.0%	5 100.0%	2 100.0%	0 -	20 71.4%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%
職員を対象とした講習会やトレーニング の実施	1 50.0%	5 100.0%	2 100.0%	0 -	19 67.9%	3 75.0%	1 100.0%	0 0.0%
Wi-Fi環境などの物理的環境の配慮	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 -	22 78.6%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
機器導入による業務見直しなどの業務 環境への配慮	1 50.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 -	17 60.7%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
データの蓄積・分析	0 0.0%	4 80.0%	1 50.0%	0 -	11 39.3%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
ケアプランへの位置づけ	0 0.0%	1 20.0%	2 100.0%	0 -	4 14.3%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
機器導入・定着の効果検証	1 50.0%	4 80.0%	2 100.0%	0 -	18 64.3%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
有効回答数	2	5	2	0	28	4	1	1

※①～⑧の介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット利用時に実施している点について、「⑤見守り」では、「利用者のアセスメント」「利用者の状態と介護ロボットの性能を踏まえた検討」の割合が最も高かった。(各種別ごとに比較)【図表 118 04票 問2 (5) 介護ロボット利用時に実施している点】

図表 118 介護ロボット利用時に実施している点(複数回答)

(単位：施設・事業所)

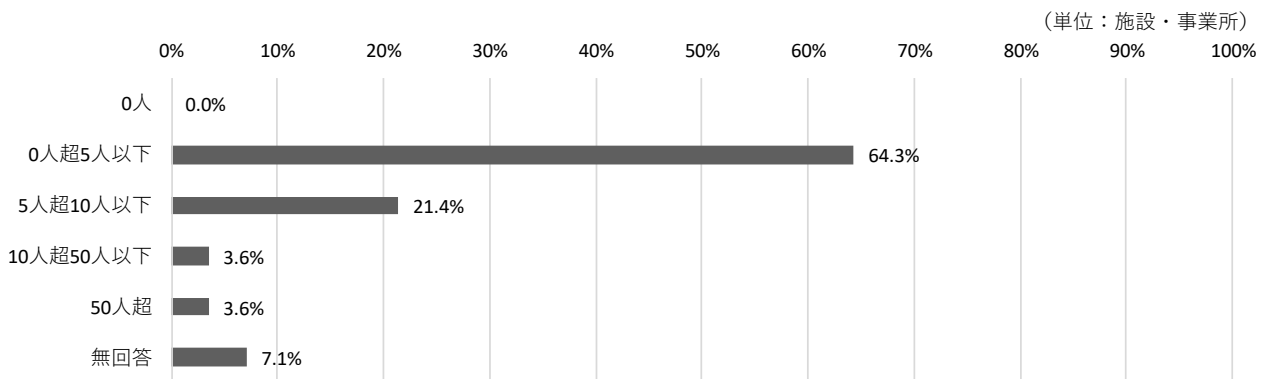
	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
利用者のアセスメント	1 50.0%	4 80.0%	2 100.0%	0 —	22 78.6%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
利用者本人の意向確認	0 0.0%	4 80.0%	2 100.0%	0 —	19 67.9%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%
利用者の状態と介護ロボットの性能を踏 まえた検討 (マッチング)	1 50.0%	5 100.0%	2 100.0%	0 —	22 78.6%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%
利用者のロボット利用計画の策定・見 直し	0 0.0%	2 40.0%	2 100.0%	0 —	8 28.6%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
利用者へのテスト利用	0 0.0%	3 60.0%	2 100.0%	0 —	10 35.7%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 —	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
有効回答数	2	5	2	0	28	4	1	1

※①～⑧の介護ロボットを導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

③ 見守り機器の活用

- 見守り機器の対象利用者数について、「0人超5人以下」が64.3%と最も割合が高く、次いで「5人超10人以下」が21.4%であった。【図表 119 04票 問3(1) 見守り機器の対象利用者数】

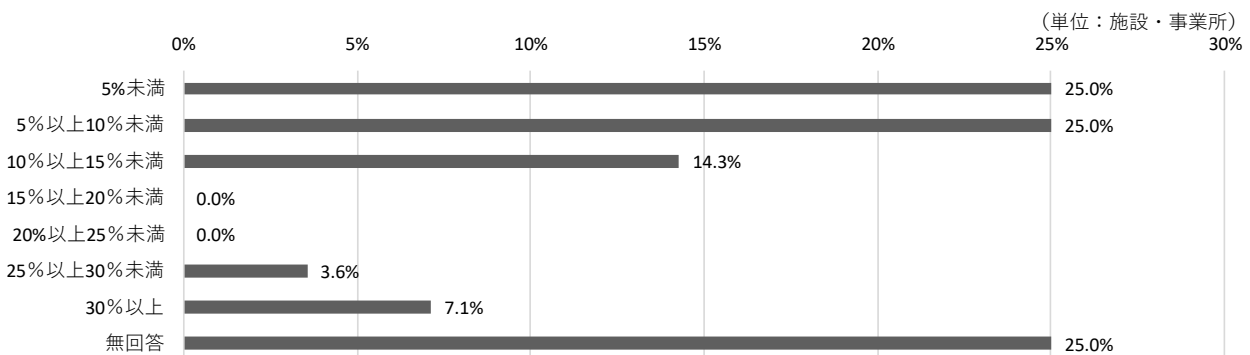
図表 119 見守り機器の対象利用者数（有効回答数=28）（単数回答）



※見守り機器を導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

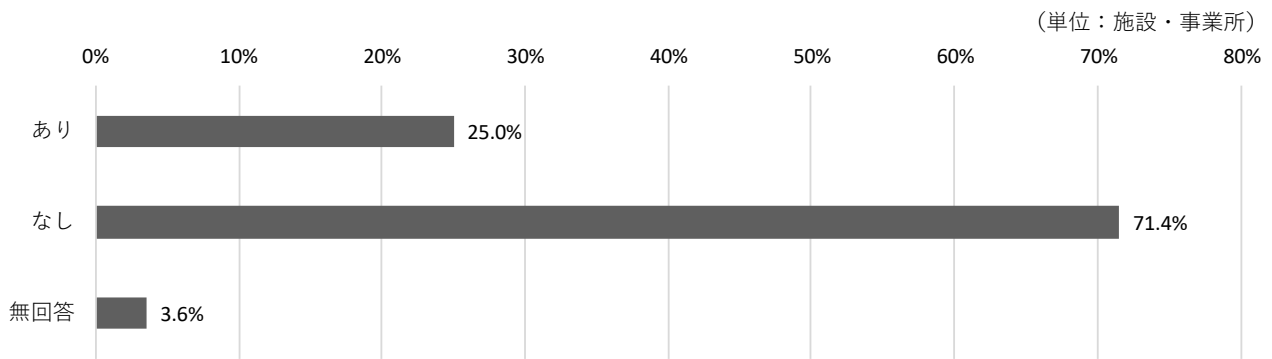
- 見守り機器の対象利用者数の割合について、「5%未満」、「5%以上10%未満」が25.0%であった（「見守り機器の対象利用者数」、「入所者数」の回答を基に分析）【図表 120 04票 問3(1) 見守り機器の対象利用者数×問1(1) ⑧入所者数】

図表 120 見守り機器の対象利用者数の割合（合計=28）



- 見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会の設置状況について、「あり」が25.0%であった。【図表 121 04票 問3 (2) ①見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会の設置】

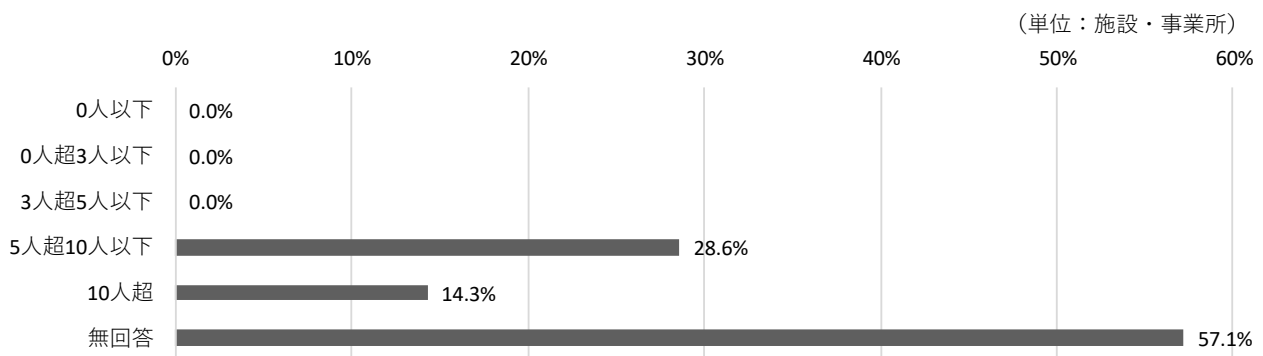
図表 121 見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会設置状況（有効回答数=28）
（単数回答）



※見守り機器を導入している施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 委員会の構成員数について、「5人超10人以下」が28.6%と最も割合が高かった。【図表 122 04票 問3 (2) ②委員会の構成員数】

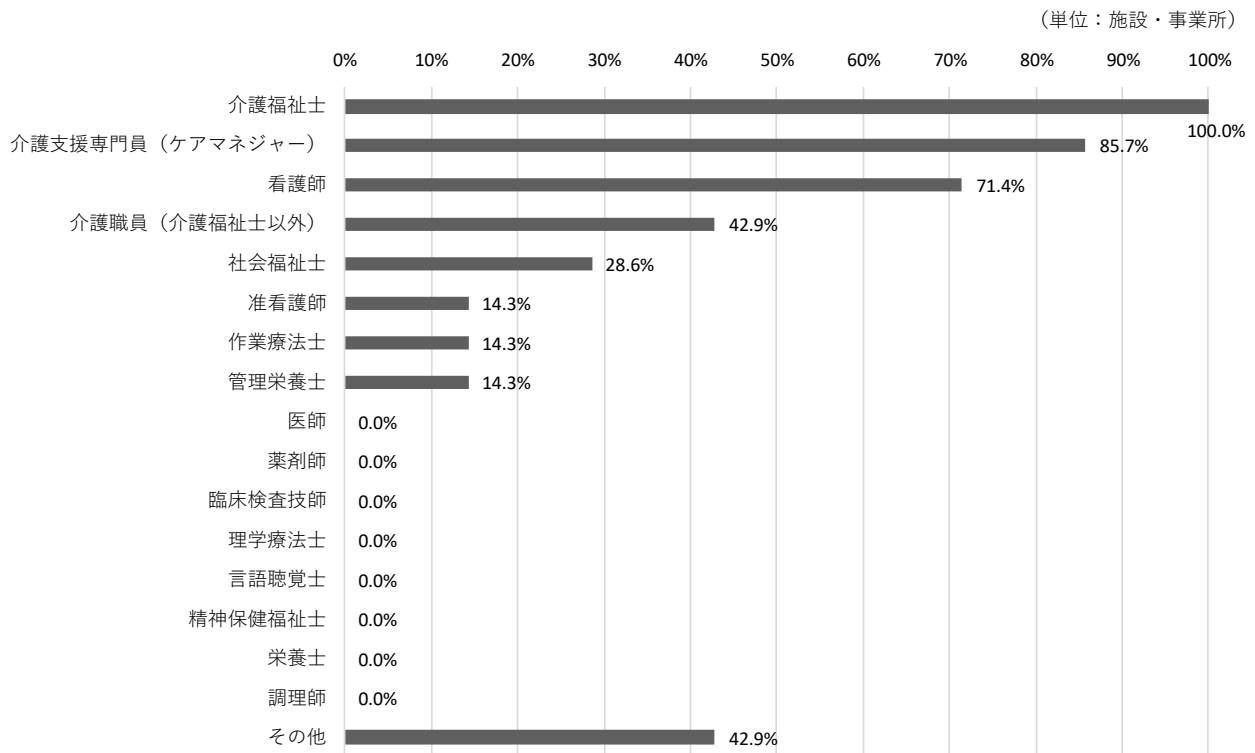
図表 122 委員会の構成員数（有効回答数=7）（単数回答）



※見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会を設置していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 委員会の構成員について、「介護福祉士」が 100.0%と最も割合が高く、次いで「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が 85.7%であった。【図表 123 04 票 問 3 (2) ③委員会の構成員】

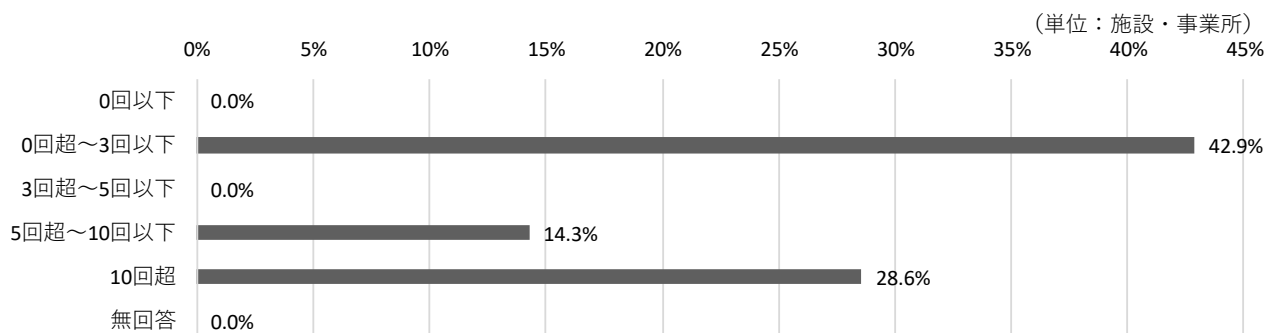
図表 123 委員会の構成員（有効回答数=7）（複数回答）



※見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会を設置していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 委員会の開催状況（年間）について、「0回超～3回以上」が 42.9%と最も割合が高かった。【図表 124 04 票 問 3 (2) ④委員会の開催状況】

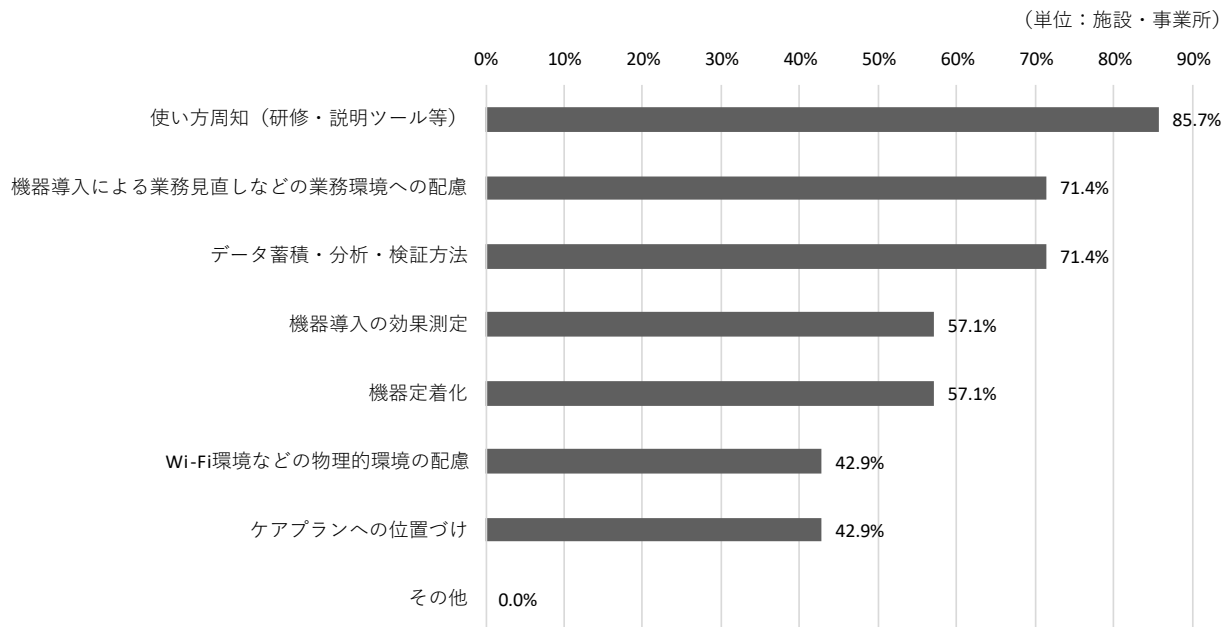
図表 124 委員会の開催状況（年間）（有効回答数=7）（単数回答）



※見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会を設置していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 委員会での協議内容について、「使い方周知（研修・説明ツール等）」が 85.7%と最も割合が高かった。【図表 125 04 票 問 3 (2) ⑤委員会の協議内容】

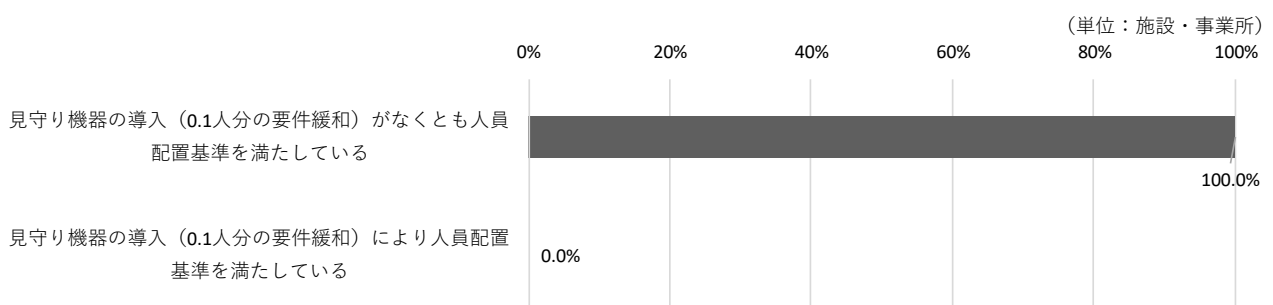
図表 125 委員会での協議内容（有効回答数=7）（複数回答）



※見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会を設置していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 人員配置状況について、「見守り機器の導入（0.1人分の要件緩和）がなくとも人員配置基準を満たしている」が 100.0%であった。【図表 126 04 票 問 3 (3) 人員配置状況】

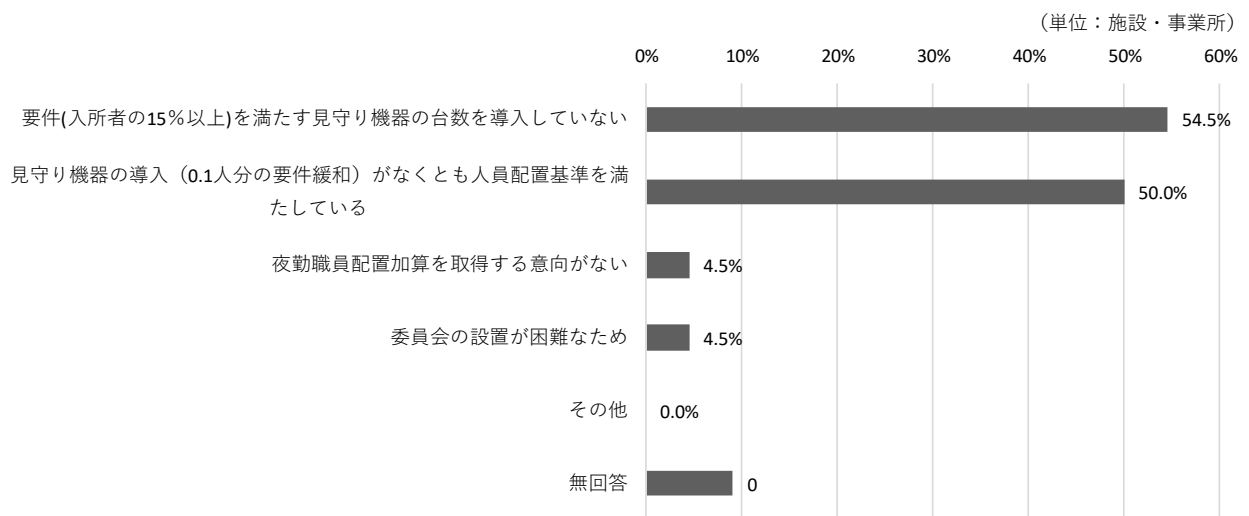
図表 126 人員配置状況（有効回答数=3）（複数回答）



※見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出「あり」「届出予定」と回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算の届出を出していない理由について、「要件(入所者の15%以上)を満たす見守り機器の台数を導入していない」が54.5%と最も割合が高く、次いで「見守り機器の導入(0.1人分の要件緩和)がなくとも人員配置基準を満たしている」が50.0%であった。【図表 127 04票 問3(4)①見守り機器の導入による夜勤職員配置加算の届出を出していない理由】

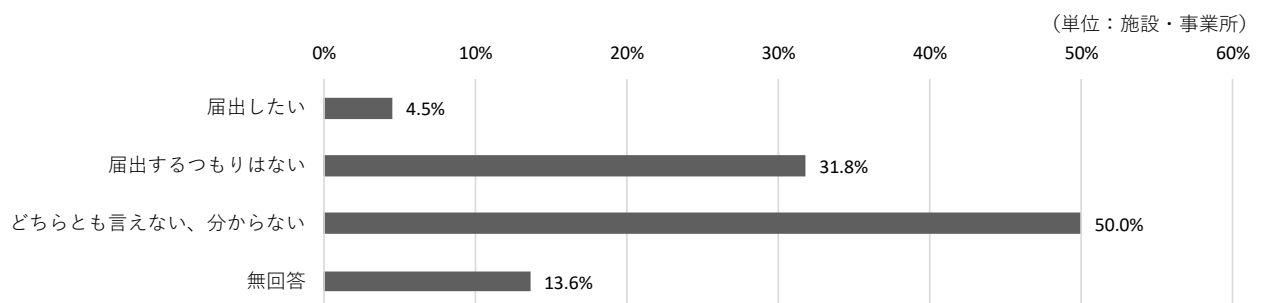
**図表 127 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算の届出を出していない理由（有効回答数=22）
（複数回答）**



※見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出「なし」を回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 夜勤職員配置加算の今後の届出の意向について、「届出したい」が4.5%であった。【図表 128 04票 問3(4)②今後の届出の意向について】

図表 128 夜勤職員配置加算の今後の届出の意向について（有効回答数=22）（単数回答）



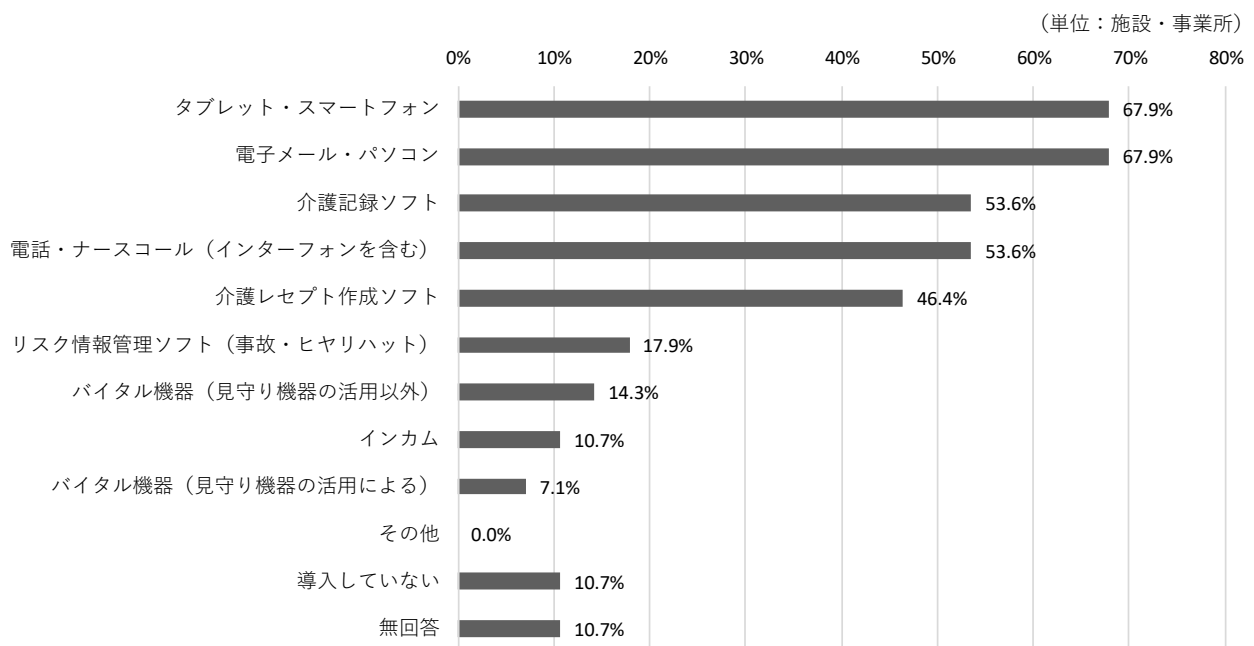
※見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出「なし」を回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

④ ICT（情報通信技術）等の導入・活用

○ 現在施設で使用している ICT（情報通信技術）を活用した機器について、「タブレット・スマートフォン」と「電子メール・パソコン」が 67.9%であった。【図表 129 04 票 問 4

(1) 現在施設で使用している ICT（情報通信技術）を活用した機器（介護ロボットと連動し得るもの）】

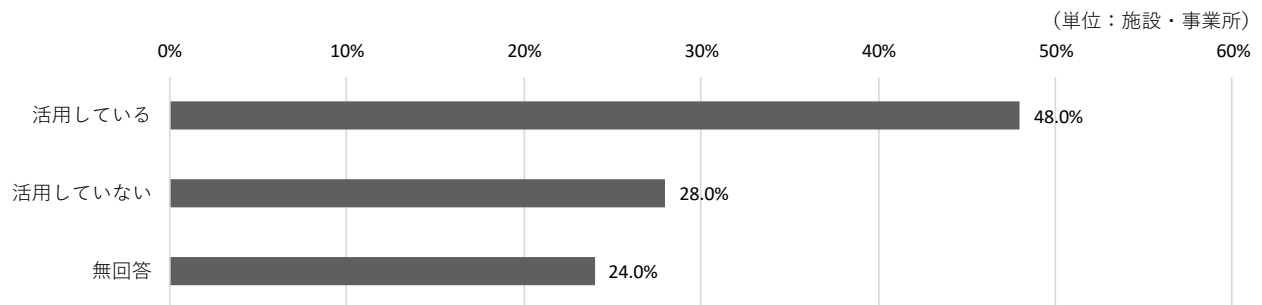
図表 129 現在施設で使用している ICT（情報通信技術）を活用した機器（介護ロボットと連動し得るもの）（有効回答数=28）（複数回答）



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- ICT 機器から得られたデータの活用状況について、「活用している」が 48.0%であった。【図表 130 04 票 問 4 (3) ICT 機器から得られたデータの活用状況】

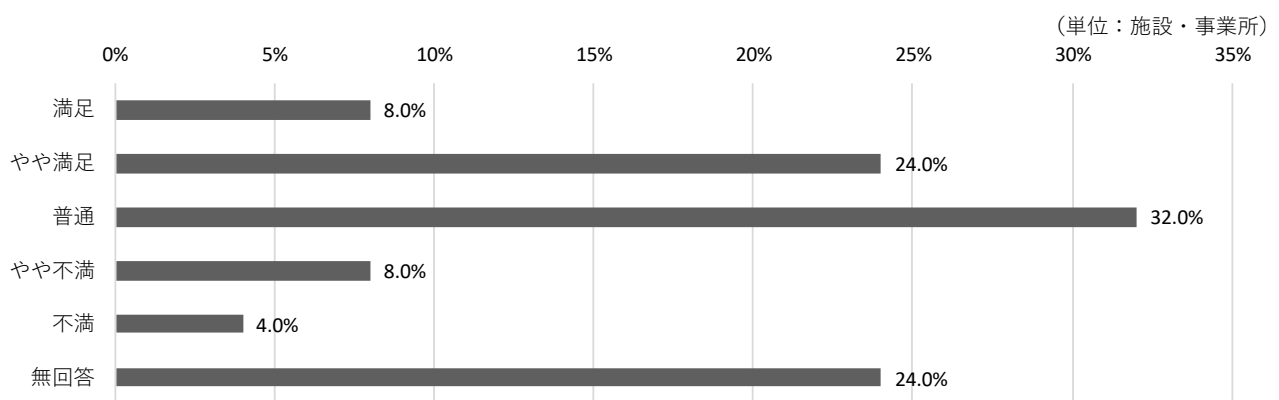
図表 130 ICT 機器から得られたデータの活用状況（有効回答数=25）（単数回答）



※ICT（情報通信技術）を活用した機器を1つでも導入していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- ICT（情報通信技術）の活用に対する満足度について、「普通」が 32.0%であった。【図表 131 04 票 問 4 (4) ICT（情報通信技術）の活用について、あなたの満足度に最もあてはまるもの】

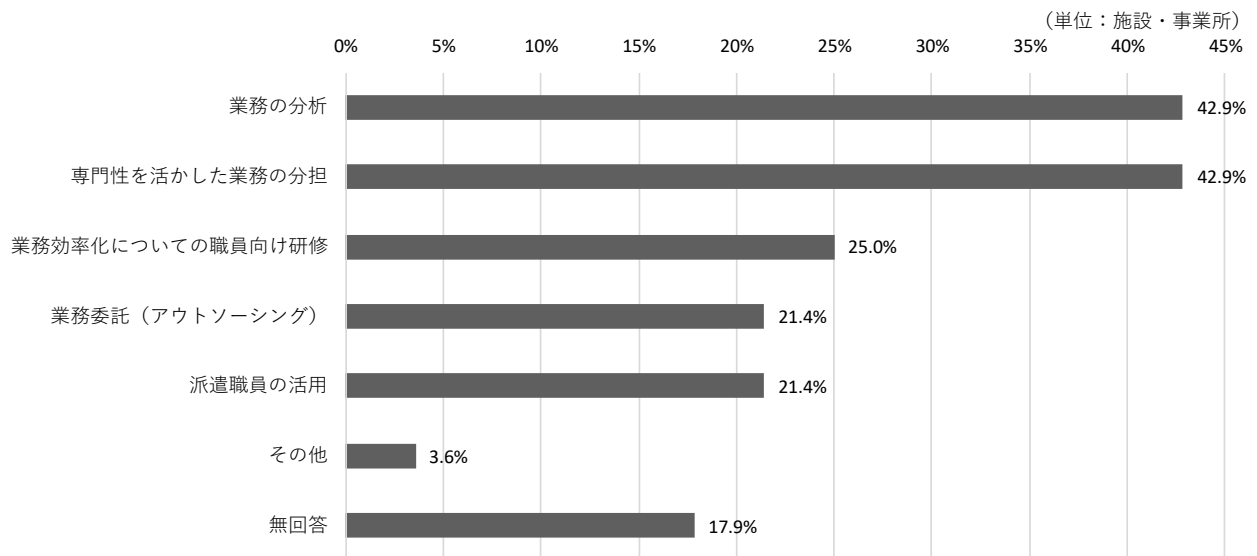
図表 131 ICT（情報通信技術）の活用に対する満足度（有効回答数=25）（単数回答）



※ICT（情報通信技術）を活用した機器を1つでも導入していると回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 介護ロボット・ICT の活用以外に介護の質の向上や業務効率化に取り組んでいることについて、「業務の分析」と「専門性を活かした業務分担」が 42.9%と最も割合が高かった。【図表 132 04 票 問 4 (6) 介護ロボット・ICT の活用以外に介護の質の向上や業務効率化に取り組んでいることについて教えてください】

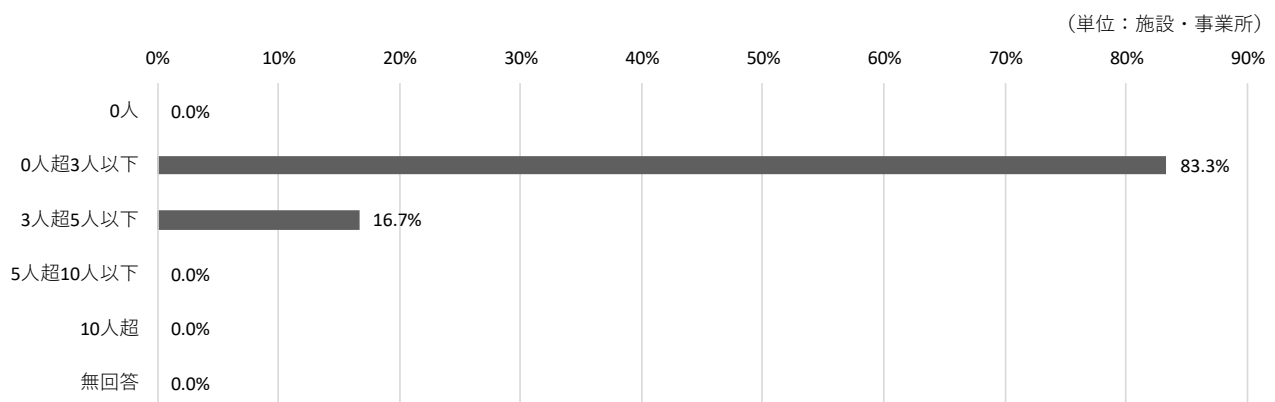
図表 132 介護ロボット・ICT の活用以外に介護の質の向上や業務効率化に取り組んでいること
(有効回答数=28) (複数回答)



※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

- 派遣職員の活用人数について、「0 人超 3 人以下」が 83.3%と最も割合が高かった。【図表 133 01 票 問 3 (6) 派遣職員の活用人数】

図表 133 派遣職員の活用人数 (有効回答数=6) (単数回答)



※問 3 (6) 「派遣社員の活用」を回答した施設・事業所の回答を有効回答数とした。

⑤ 今後の介護ロボットのさらなる導入について

- 今後の介護ロボットの導入意向について、「導入したい」との回答では、「②移動支援（非装着型）」「⑤見守り」が共に 35.7%と最も割合が高かった。【図表 134 04 票 問 5 今後の介護ロボットのさらなる導入について】

図表 134 今後の介護ロボットの導入意向（有効回答数=28）（複数回答）

（単位：施設・事業所）

	①移乗支援 (装着型)	②移乗支援 (非装着型)	③移動支援	④排泄支援	⑤見守り	⑥コミュニ ケーション	⑦入浴支援	⑧その他
導入したい	3 10.7%	10 35.7%	4 14.3%	3 10.7%	10 35.7%	5 17.9%	5 17.9%	0 0.0%
検討中	6 21.4%	5 17.9%	3 10.7%	6 21.4%	4 14.3%	6 21.4%	3 10.7%	2 7.1%
導入しない	2 7.1%	1 3.6%	4 14.3%	3 10.7%	0 0.0%	1 3.6%	2 7.1%	1 3.6%
無回答	17 60.7%	13 46.4%	18 64.3%	16 57.1%	14 50.0%	16 57.1%	18 64.3%	25 89.3%
有効回答数	28	28	28	28	28	28	28	28

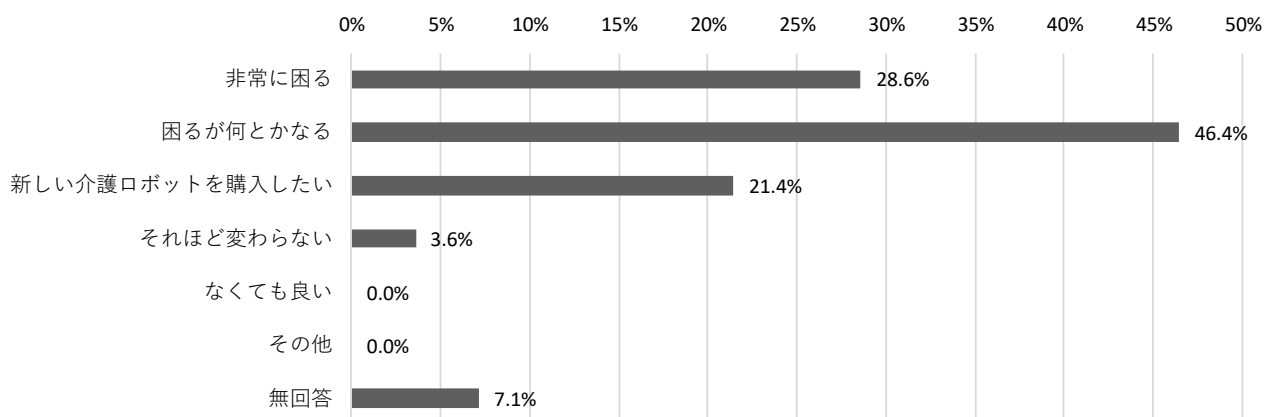
※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

⑥ 現在使用している機器に対する考え

- 現在使用中の介護ロボットが使用できなくなった場合に感じることにについて、「困るが何とかなる」が 46.4%と最も割合が高く、次いで「非常に困る」が 28.6%であった。【図表 135 04 票 問 6 現在使用中の介護ロボットが使用できなくなった場合（製造中止 等）どう感じますか。】

図表 135 現在使用中の介護ロボットが使用できなくなった場合に感じることに（有効回答数=28）（複数回答）

（単位：施設・事業所）



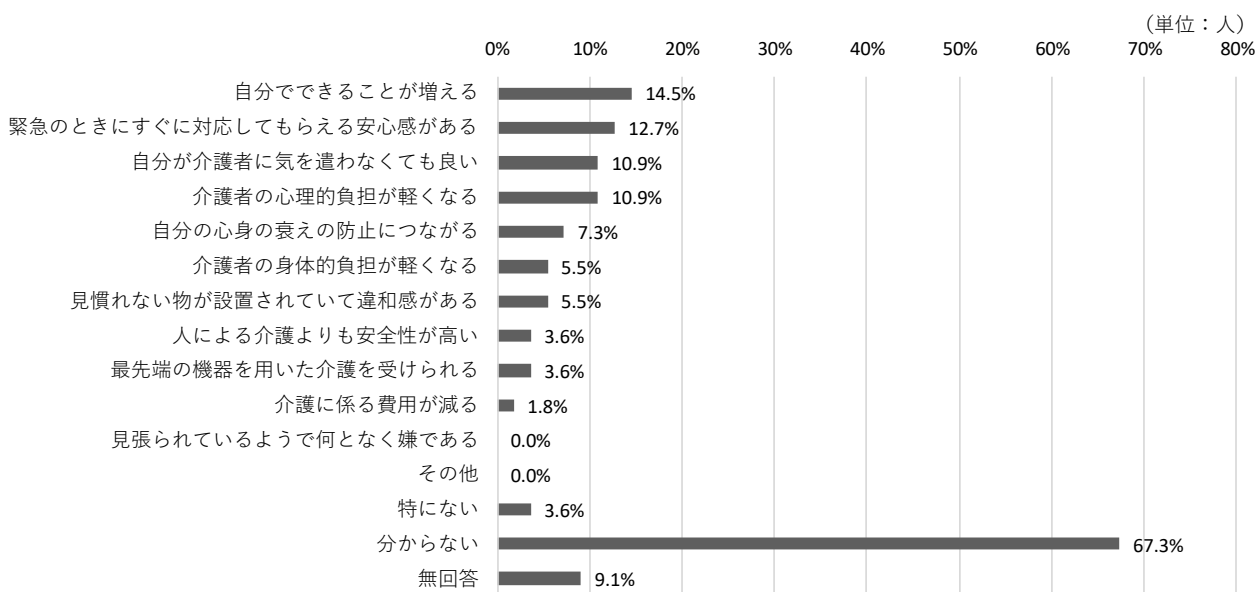
※全施設・事業所の回答を有効回答数とした。

(5) 利用者調査（訪問調査）

① 利用者の対する効果

- 導入されている機器について感じることにについて、「自分でできることが増える」が 14.5%と最も割合が高く、次いで「緊急のときにすぐに対応してもらえる安心感がある」が 12.7%であった。【図表 136 05 票 1. (1) 導入されている機器について、あなたはどのように感じますか】

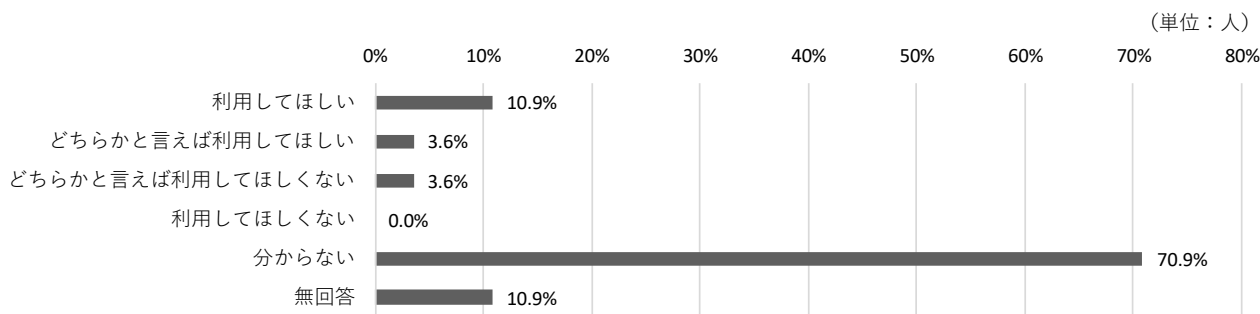
図表 136 導入されている機器について感じる事（有効回答数=55）（複数回答）



※全利用者の回答を有効回答数とした。

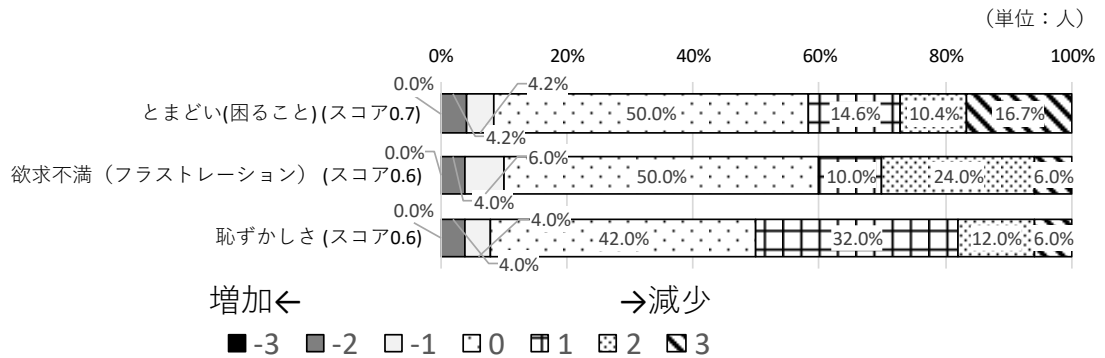
- 今後の機器利用意向について、「利用してほしい」が 10.9%と最も割合が高かった。【図表 137 05 票 1. (2) あなたは施設で介護を受ける際に、今後も導入されている機器を利用してほしいですか】

図表 137 今後の機器利用意向（有効回答数=55）（単数回答）



※全利用者の回答を有効回答数とした。

【マイナス要素】



【有効回答数】

項目	-3~3の回答	無回答	有効回答数
能力 (生活の大切なことをうまくできる)	49	6	55
生活の満足度(幸福感)	50	5	55
自立度	50	5	55
様々な生活場面もどうにか対処できる	49	6	55
日課を処理する効率	50	5	55
自分を好ましく感じる(自尊心)	50	5	55
生産性 (たくさんのごとができる)	48	7	55
安心感	48	7	55
自分が世の中の役に立つ (有用性)	49	6	55
自信	50	5	55
知識を得ることができる	49	6	55
仕事や作業がうまくできる	49	6	55
生活がとてうまくいっている	50	5	55

項目	-3~3の回答	無回答	有効回答数
もっといろいろなことができる(有能性)	50	5	55
QOL(生活の質)	50	5	55
自分の能力を示すことができる (パフォーマンス)	49	6	55
活力 (パワー)	50	5	55
したいことが思い通りにできる	49	6	55
チャレンジしたくなる	50	5	55
活動に参加できる	49	6	55
新しいことがしたくなる	50	5	55
日常生活行動の変化に適応できる	50	5	55
チャンスを活かせる	50	5	55
とまどい(困ること)	48	7	55
欲求不満 (フラストレーション)	50	5	55
恥ずかしさ	50	5	55

※全利用者の回答を有効回答数とした。

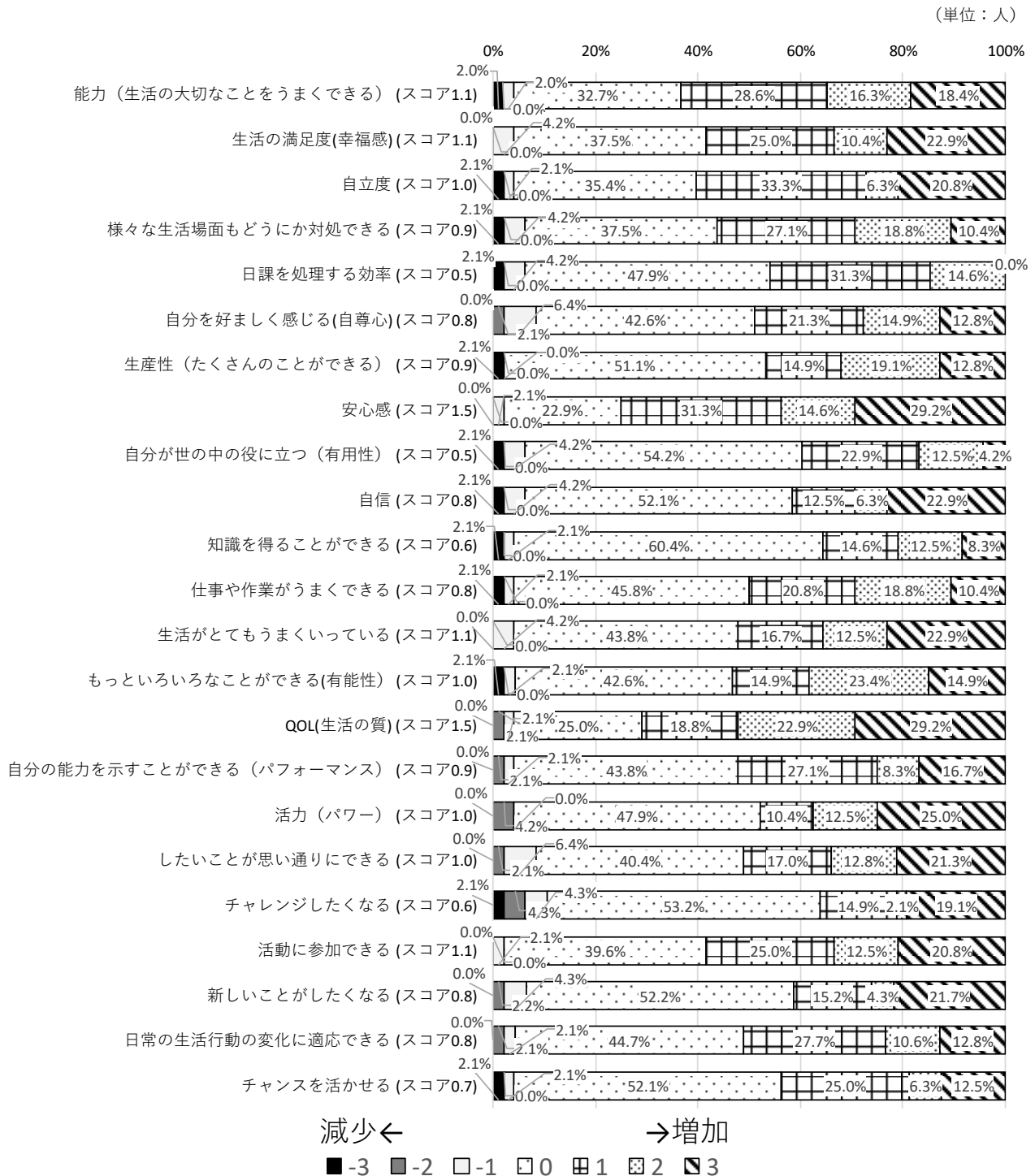
※各項目の割合は、無回答を除く回答数 (-3~3 の回答) に対する割合を算出した。

※福祉用具心理評価スケール (PIADS 日本語版) : 福祉用具を使うことで利用者自身がどのように変化したかを 評価するスケール。26 項目で構成され各項目は-3 から+3 までの 7 段階のスケールで得点化される。

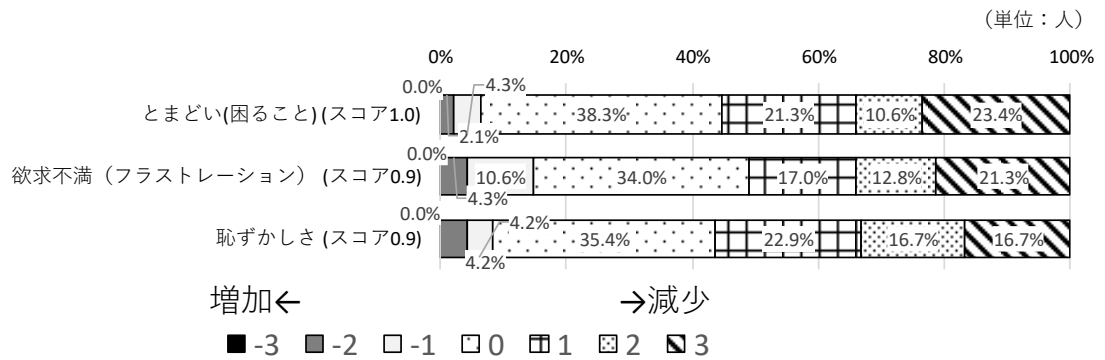
- 職員から見た機器を使うことによる利用者の気持ちの変化について、福祉用具心理評価スケール (PIADS 日本語版) では、すべての項目においてスコア (平均値) がプラスであった。【図表 139 05 票 2. (2) 施設職員から見て、今回導入した機器を使うことによって、対象者の気持ちがどの程度変化したか】

図表 139 職員から見た機器を使うことによる利用者の気持ちの変化 (単数回答)

【プラス要素】



【マイナス要素】



【有効回答数】

項目	-3~3の回答	無回答	有効回答数
能力 (生活の大切なことをうまくできる)	49	6	55
生活の満足度(幸福感)	48	7	55
自立度	48	7	55
様々な生活場面もどうにか対処できる	48	7	55
日課を処理する効率	48	7	55
自分を好ましく感じる(自尊心)	47	8	55
生産性 (たくさんのごとができる)	47	8	55
安心感	48	7	55
自分が世の中の役に立つ (有用性)	48	7	55
自信	48	7	55
知識を得ることができる	48	7	55
仕事や作業がうまくできる	48	7	55
生活がとてうまくいっている	48	7	55
もっといろいろなことができる(有能性)	47	8	55
QOL(生活の質)	48	7	55
自分の能力を示すことができる (パフォーマンス)	48	7	55
活力 (パワー)	48	7	55
したいことが思い通りにできる	47	8	55
チャレンジしたくなる	47	8	55
活動に参加できる	48	7	55
新しいことがしたくなる	46	9	55
日常生活行動の変化に適応できる	47	8	55
チャンスを活かせる	48	7	55
とまどい(困ること)	47	8	55
欲求不満 (フラストレーション)	47	8	55
恥ずかしさ	48	7	55

※全利用者の回答を有効回答数とした。

※各項目の割合は、無回答を除く回答数 (-3~3 の回答) に対する割合を算出した。

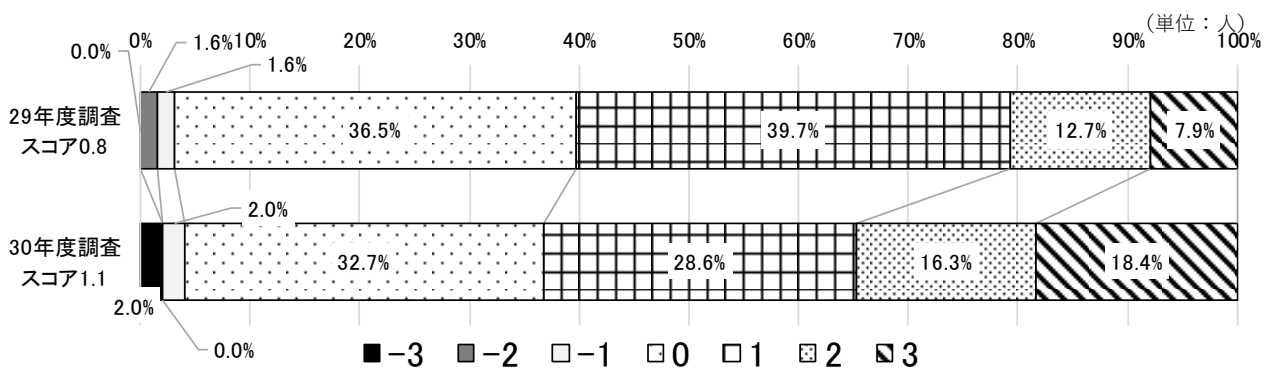
※福祉用具心理評価スケール (PIADS 日本語版) : 福祉用具を使うことで利用者自身がどのように変化したかを 評価するスケール。26 項目で構成され各項目は-3 から+3 までの 7 段階のスケールで得点化される。

② 利用者に対する長期的な効果

- 見守り機器の長期的な使用効果について、福祉用具心理評価スケール（PIADS 日本語版）では、29年度調査と比較すると、ほとんどの項目においてスコア（平均値）が改善した。

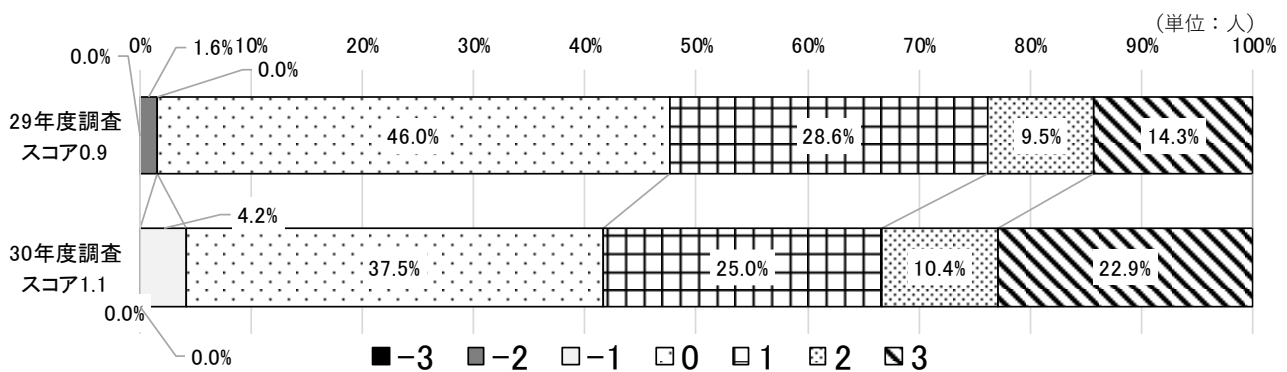
【図表 140—図表 165 05 票 2. 対象者の変化について (2) 施設職員から見て、今回購入した機器を使うことによってどの程度変化したか。】

図表 140 能力(単数回答)



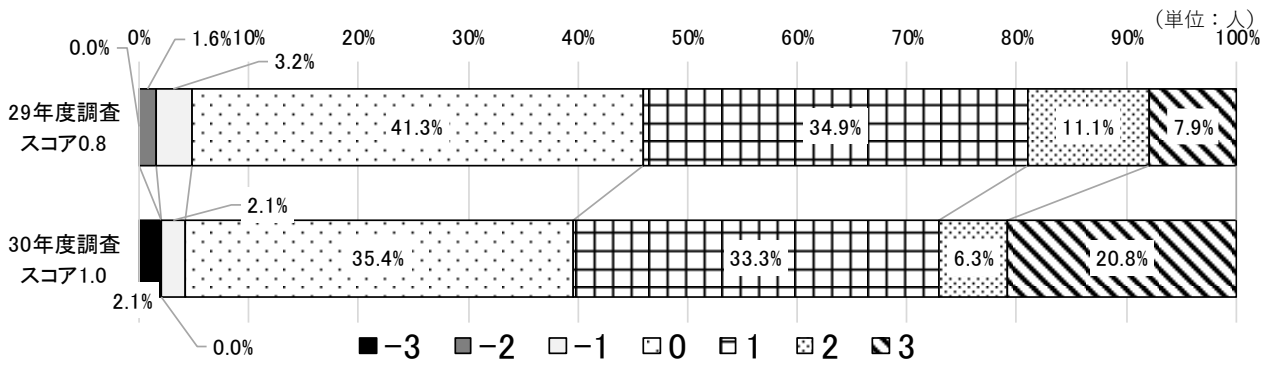
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 49 人

図表 141 生活の満足度 (幸福感) (単数回答)



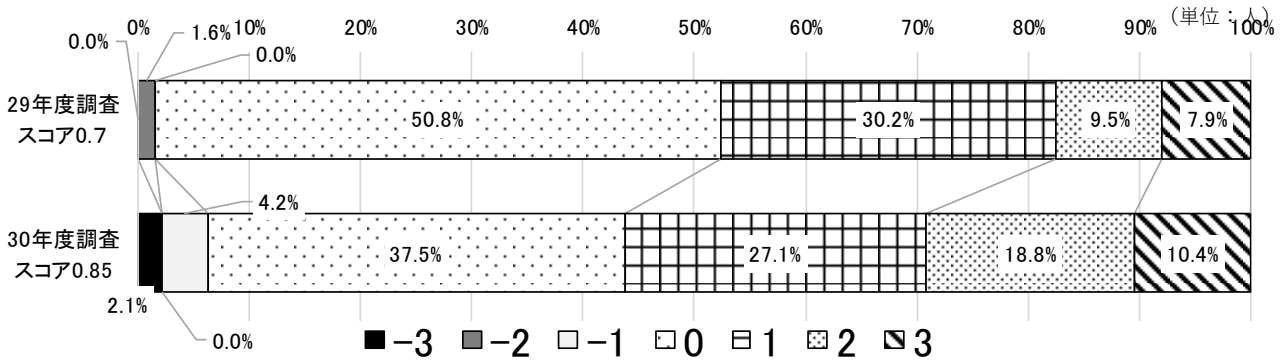
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 142 自立度(単数回答)



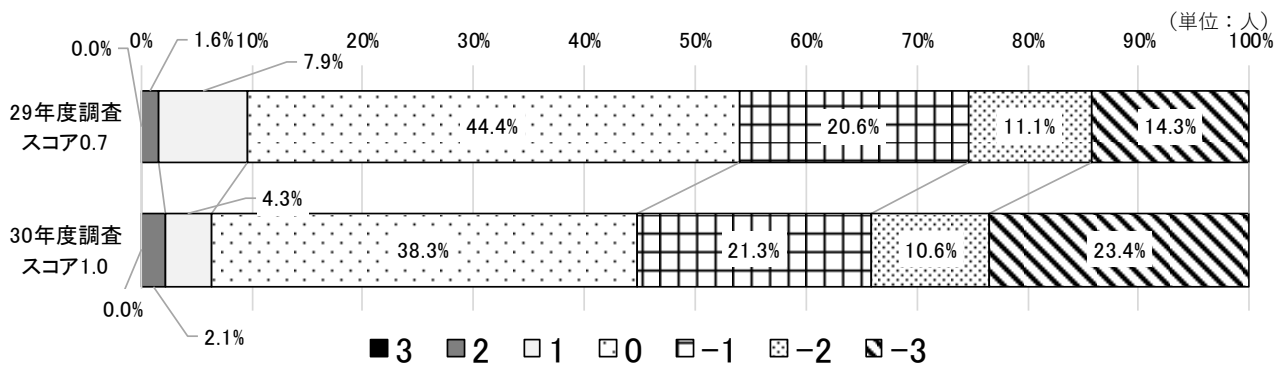
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 143 様々な生活場面もどうにか対処できる(単数回答)



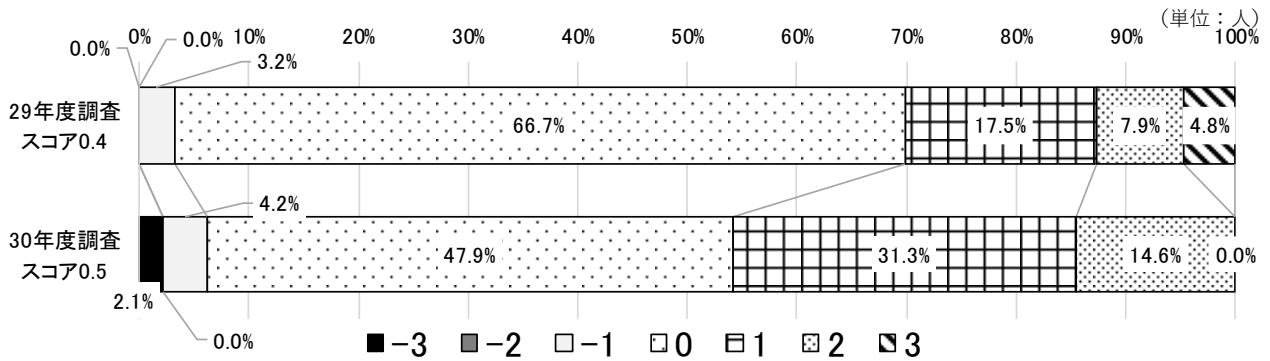
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 144 とまどい(困る事)(反転)(単数回答)



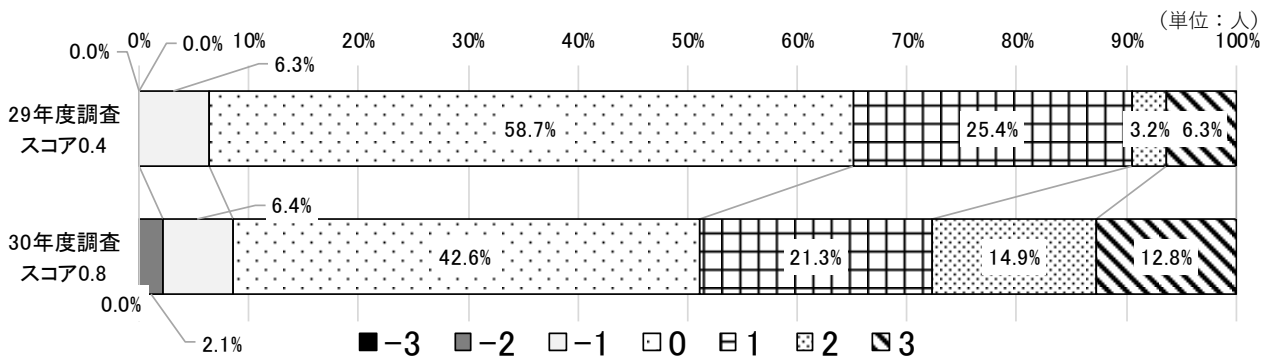
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 47 人

図表 145 日課を処理する効率(単数回答)



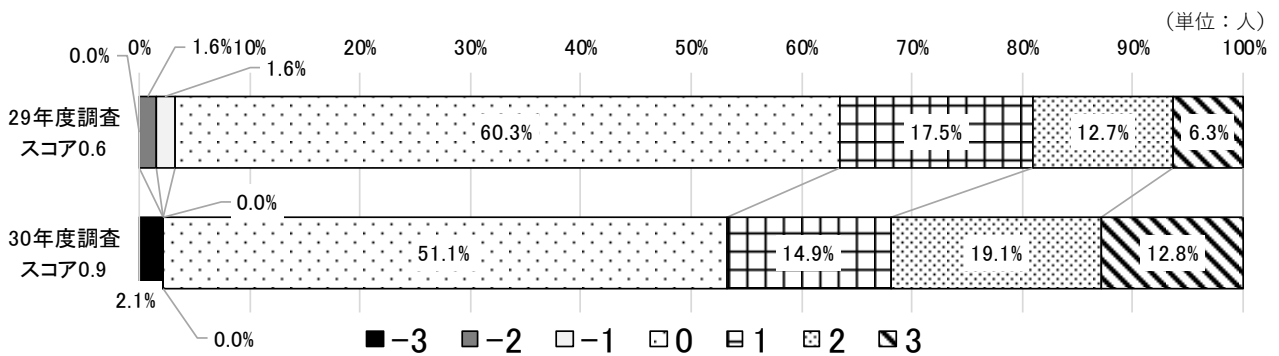
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 146 自分を好ましく感じる(単数回答)



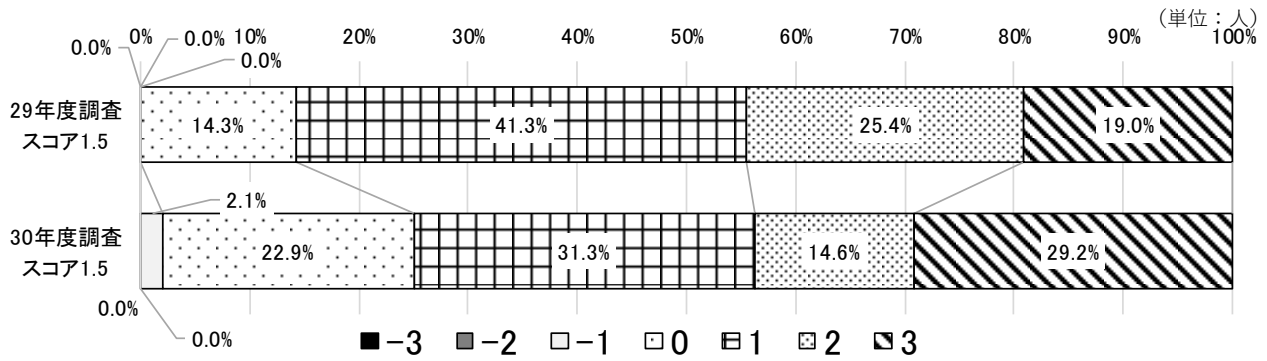
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 47 人

図表 147 生産性(単数回答)



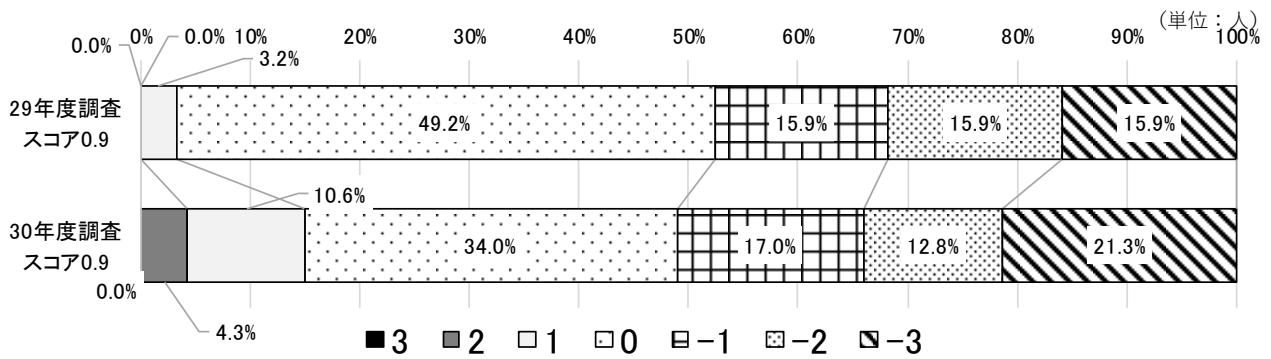
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 47 人

図表 148 安心感(単数回答)



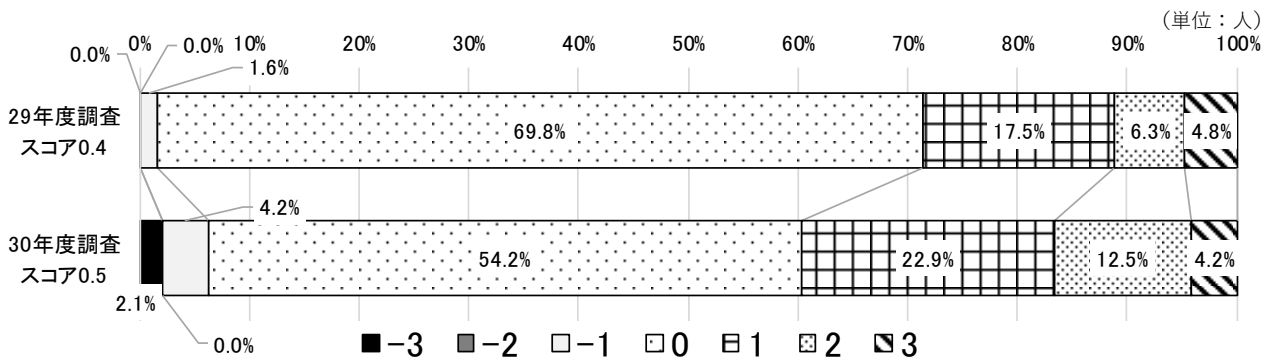
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 149 欲求不満(反転)(単数回答)



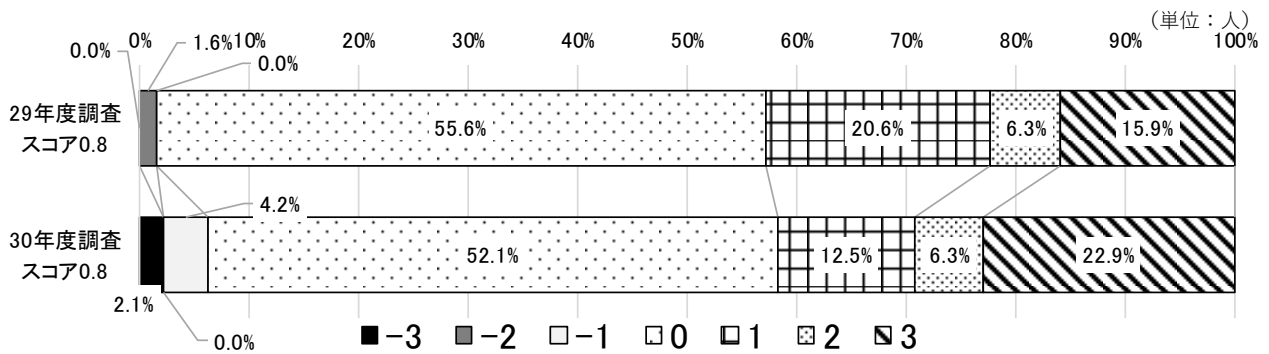
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 47 人

図表 150 自分が世の中の役に立つ(単数回答)



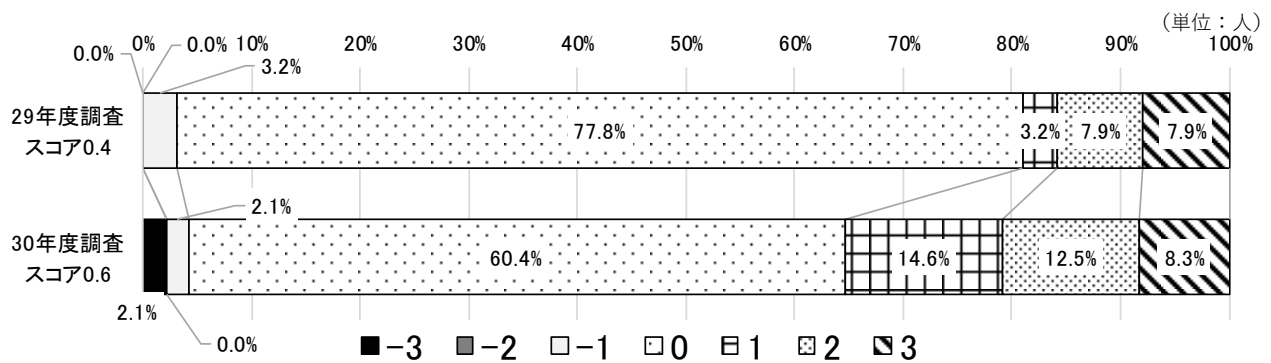
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 151 自信(単数回答)



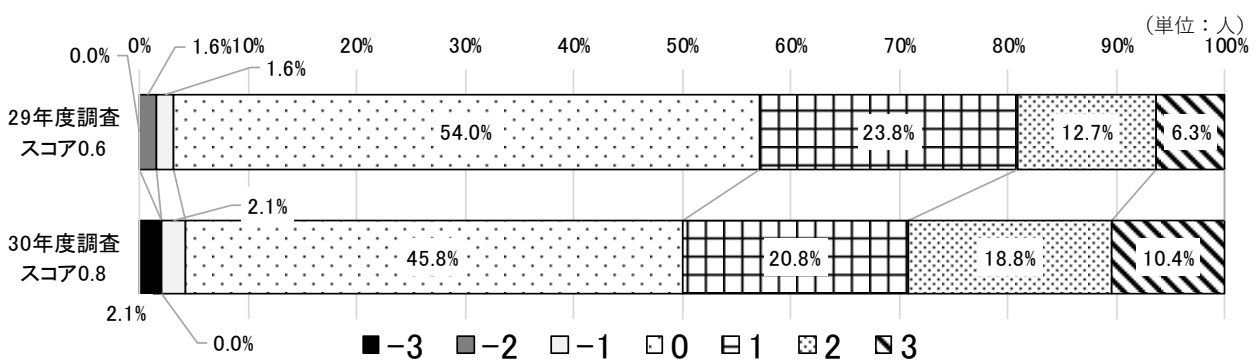
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 152 知識を得ることができる(単数回答)



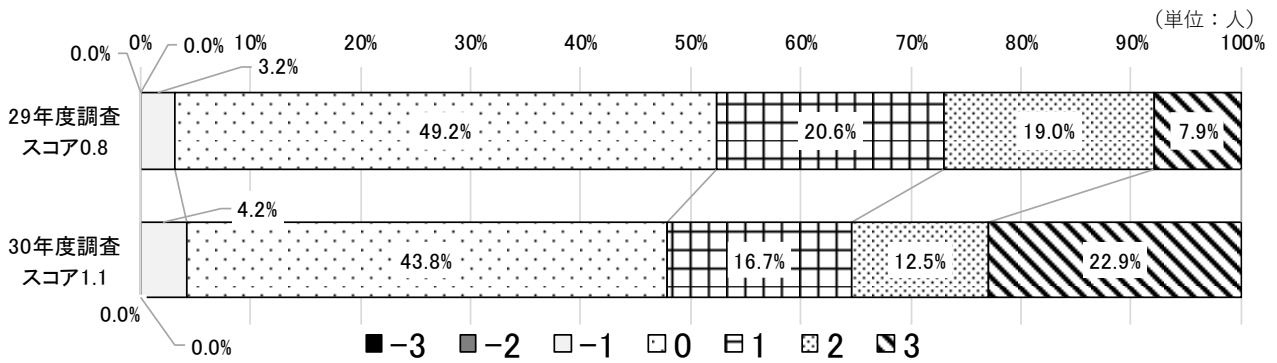
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 153 仕事や作業がうまくできる(単数回答)



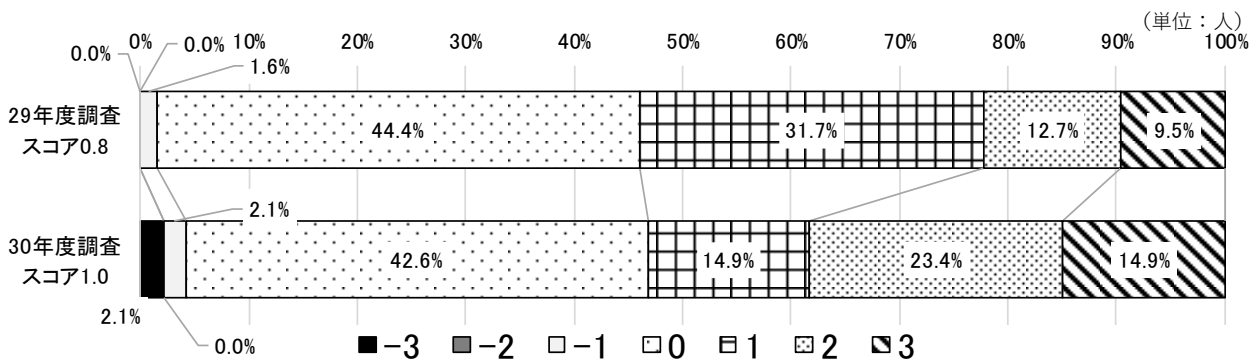
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 154 生活がとてもうまくいっている(単数回答)



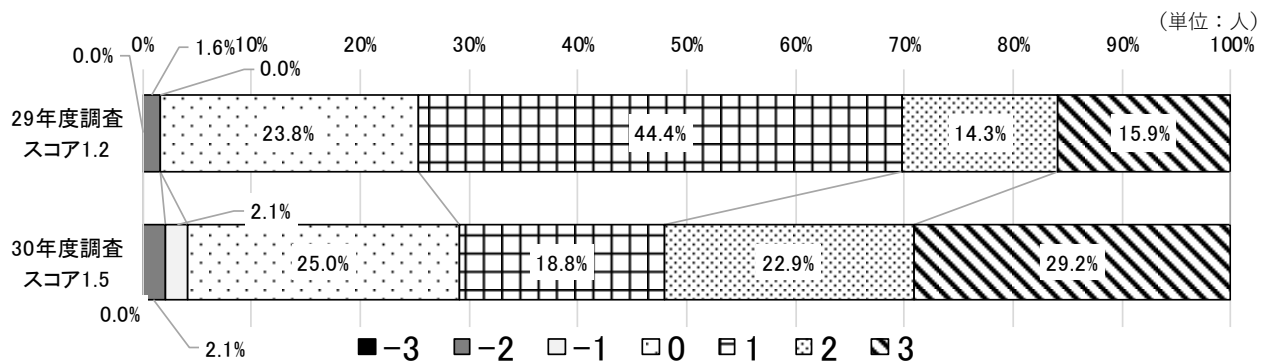
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 155 もっといろいろなことができる(単数回答)



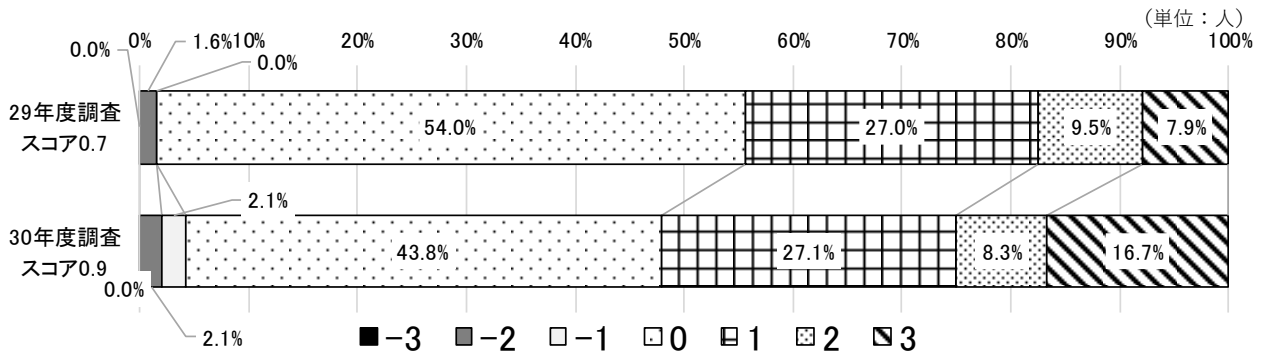
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 47 人

図表 156 QOL(生活の質)(単数回答)



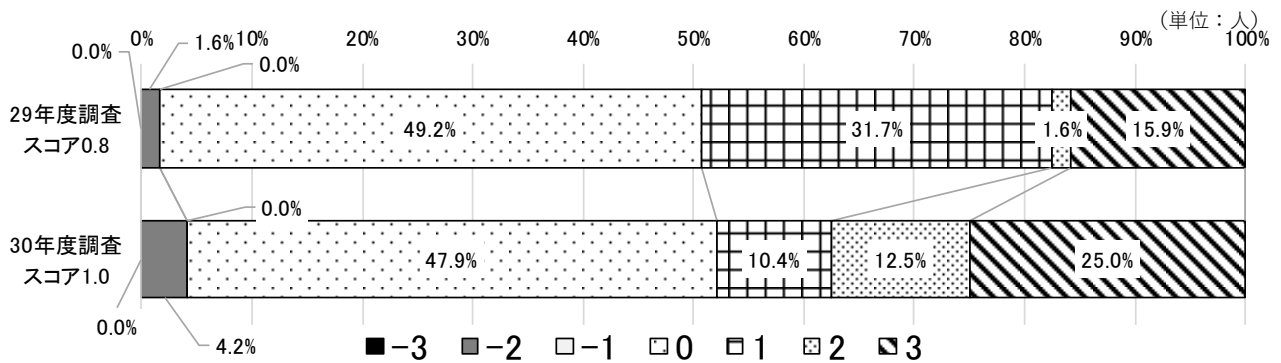
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 157 自分の能力を示すことができる(単数回答)



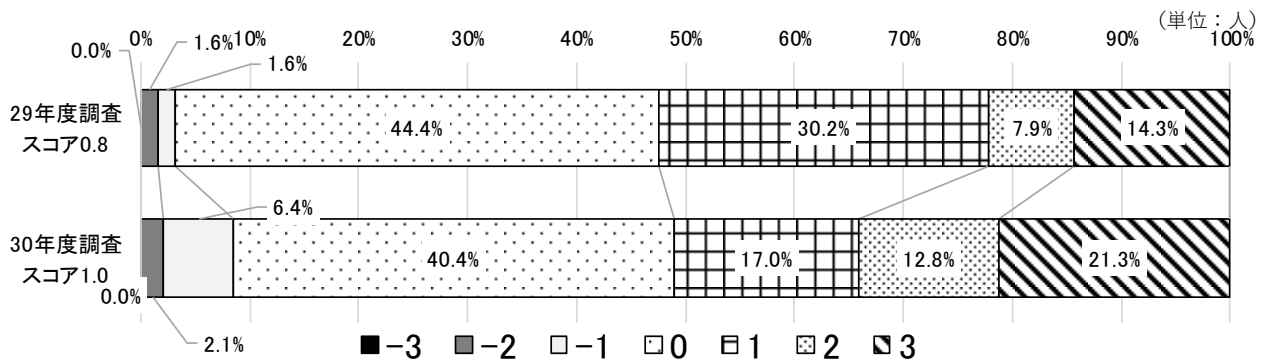
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 158 活力(単数回答)



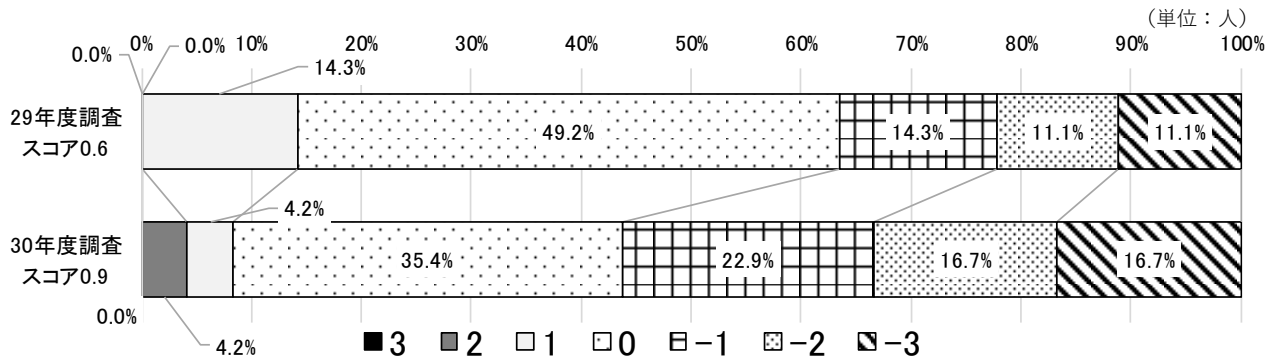
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 159 したいことが思い通りにできる(単数回答)



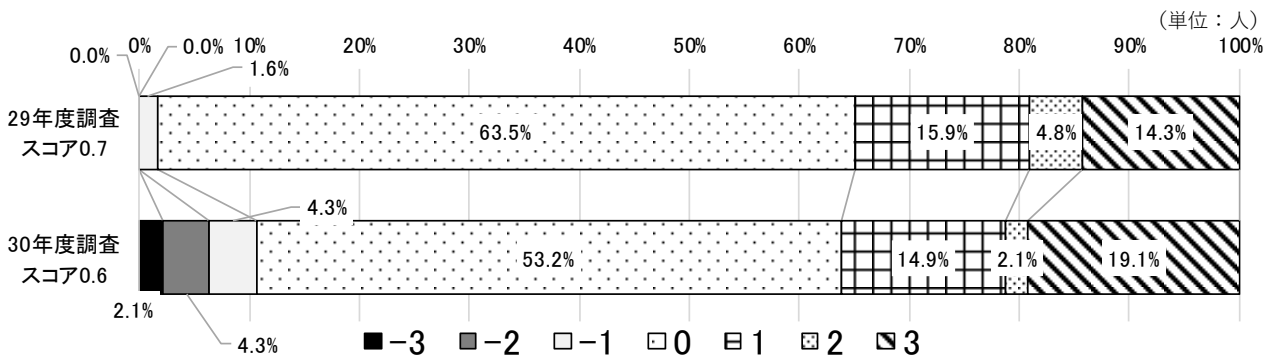
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 47 人

図表 160 恥ずかしさ（反転）（単数回答）



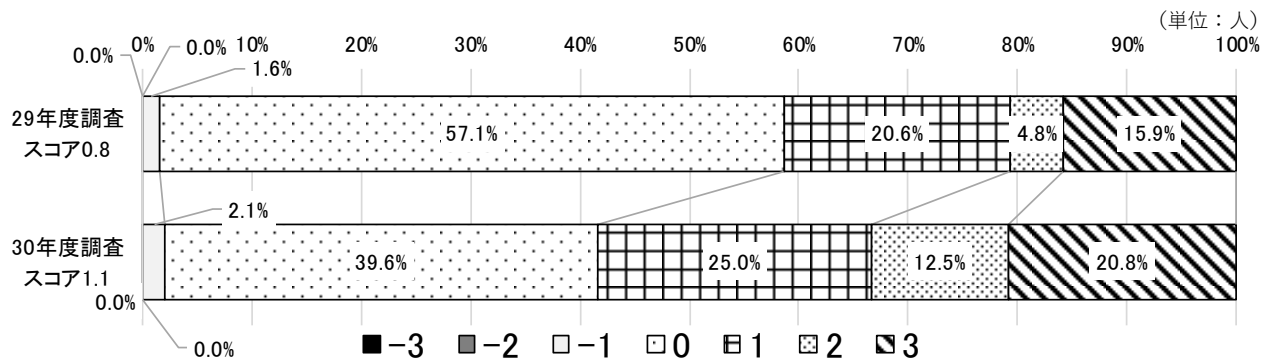
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 161 チャレンジしたくなる（単数回答）



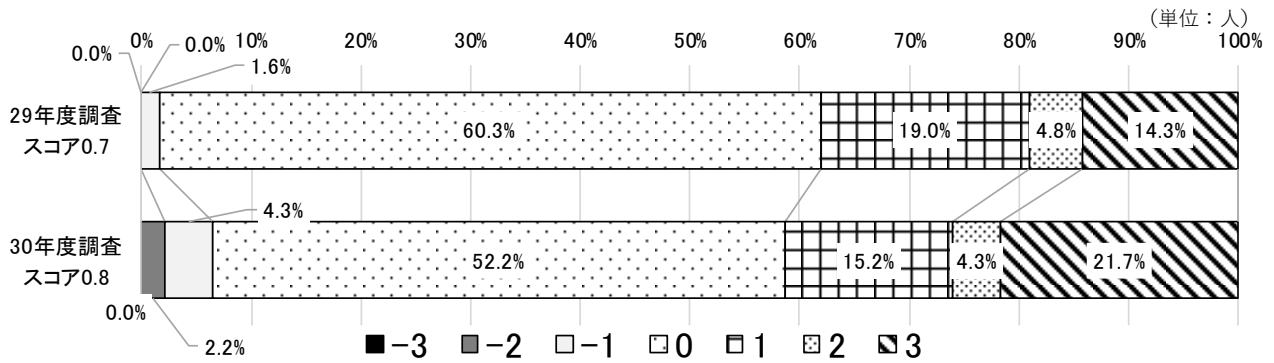
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 47 人

図表 162 活動に参加できる（単数回答）



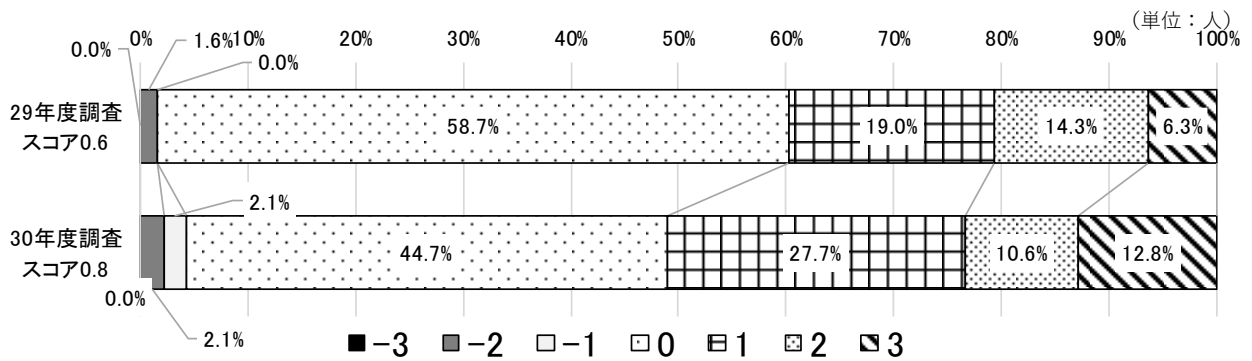
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

図表 163 新しいことがしたくなる(単数回答)



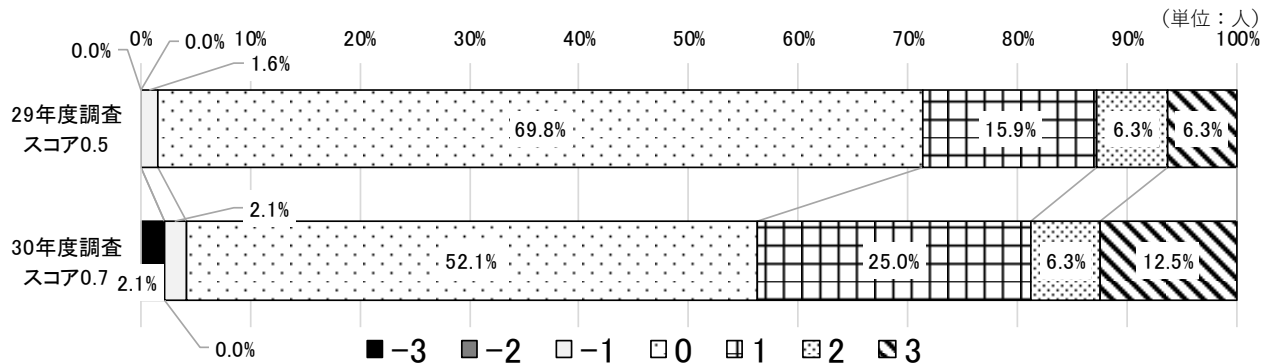
※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 46 人

図表 164 日常生活行動の変化に適応できる(単数回答)



※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 47 人

図表 165 チャンスを活かせる(単数回答)



※有効回答数：29年度調査 63 人、30年度調査 48 人

※福祉用具心理評価スケール (PIADS 日本語版)：福祉用具を使うことで利用者自身がどのように変化したかを評価するスケール。26項目で構成され各項目は-3から+3までの7段階のスケールで得点化される。

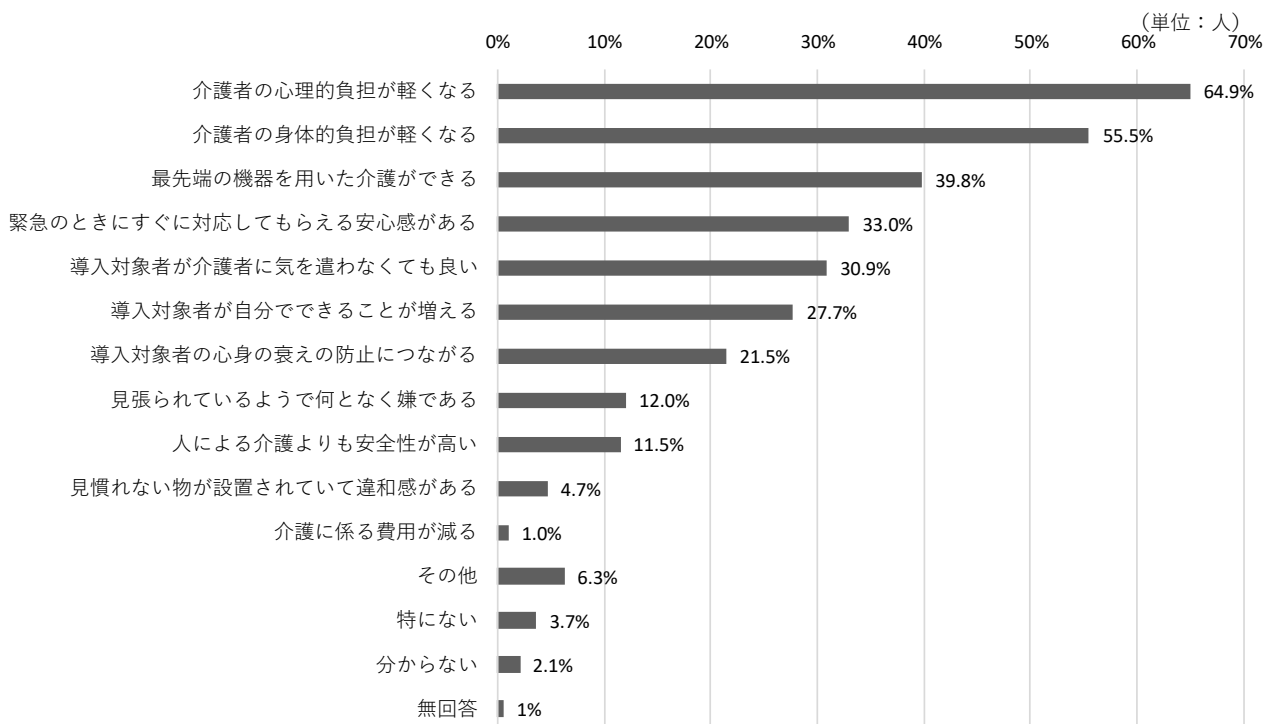
※29年度調査：平成29年度「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」(厚生労働省)調査

(6) 職員調査（訪問調査）

① 職員に対する効果

- 職員から見た見守り機器に対する印象について、「介護者の心理的負担が軽くなる」が64.9%と最も割合が高く、次いで「介護者の身体的負担が軽くなる」が55.5%であった。【図表 166 06票 1. (1)導入されている機器について、あなたはどのように感じていますか。】

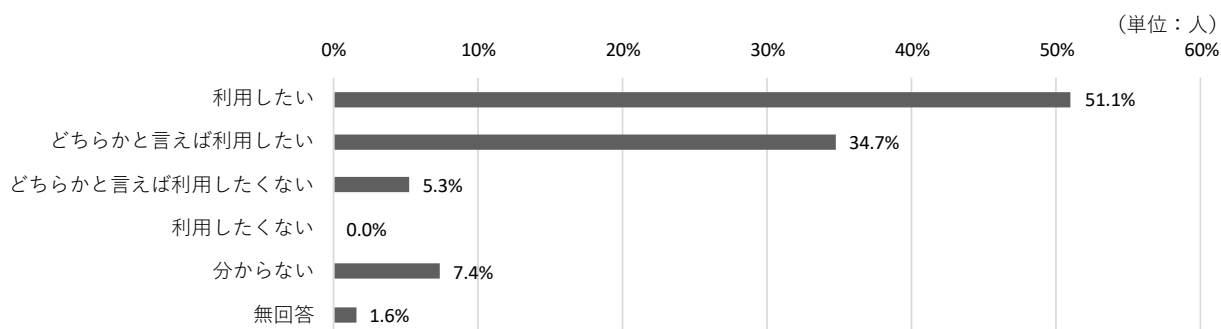
図表 166 職員から見た見守り機器に対する印象（有効回答数=191）（複数回答）



※全職員の回答を有効回答数とした。

- 職員の見守り機器に対する今後の利用意向について、「利用したい」が51.1%と最も割合が高く、次いで「どちらかと言えば利用したい」が34.7%であった。【図表 167 06票 1. (2)あなたは施設で介護業務をする際に、今後も導入されている機器を利用したいですか】

図表 167 職員の見守り機器に対する今後の利用意向（有効回答数=190）（単数回答）

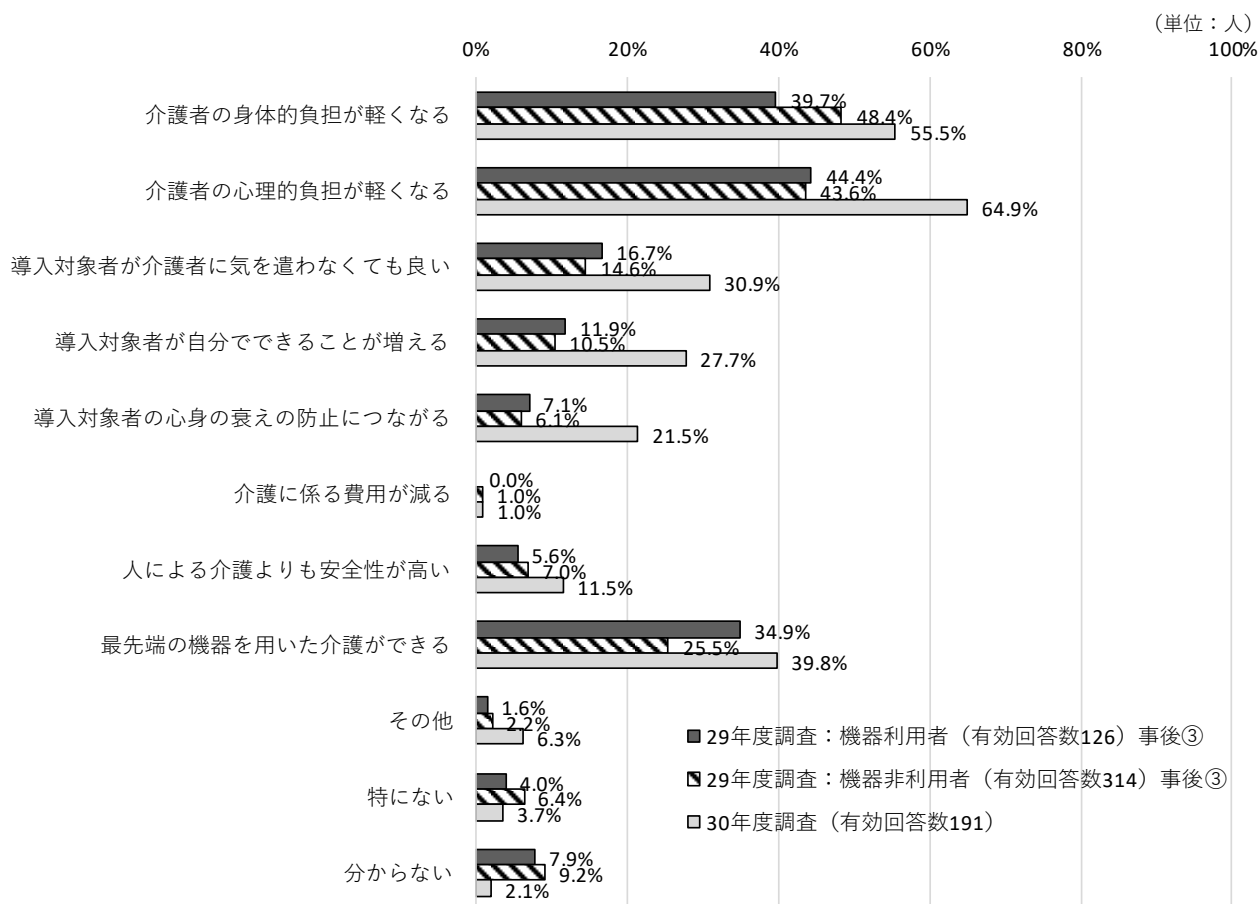


※全職員の回答を有効回答数とした。

② 職員に対する長期的な効果

- 使用している介護ロボットに対するイメージについては、「介護者の身体的負担が軽くなる」「介護者の心理的負担が軽くなる」などの項目について改善した。【図表 168 06 票 1. (1) 導入されている機器について、あなたはどのように感じていますか。】

図表 168 使用している介護ロボットに対するイメージ（29 年度調査との比較）（複数回答）



※29 年度調査については、すべての実証研究期間において夜勤回数が 3 回以上（平均週 1 回以上）の職員を機器利用者、それ以外を機器非利用者としている。

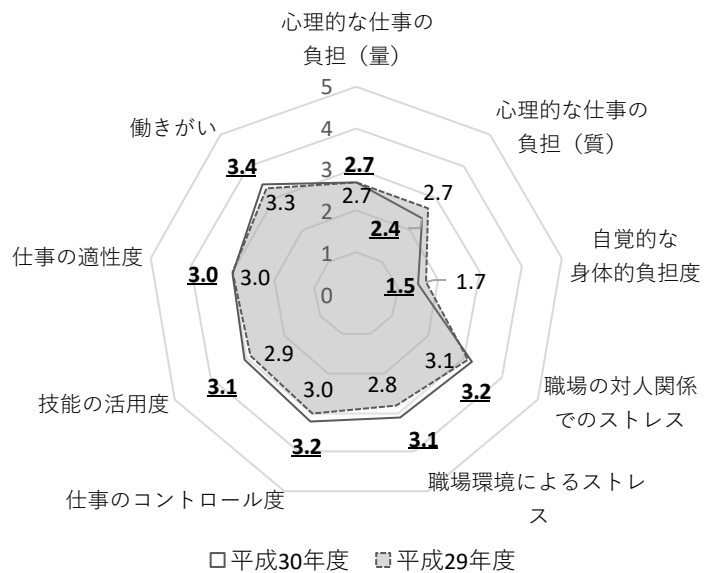
※29 年度調査では、実証研究期間に 3 回の調査を行っており、3 回目（事後③）の調査数値で比較した。

※30 年度調査については、夜勤回数を把握できないため有効回答数全数の調査数値で比較した。

※29 年度調査：平成 29 年度「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」（厚生労働省）調査

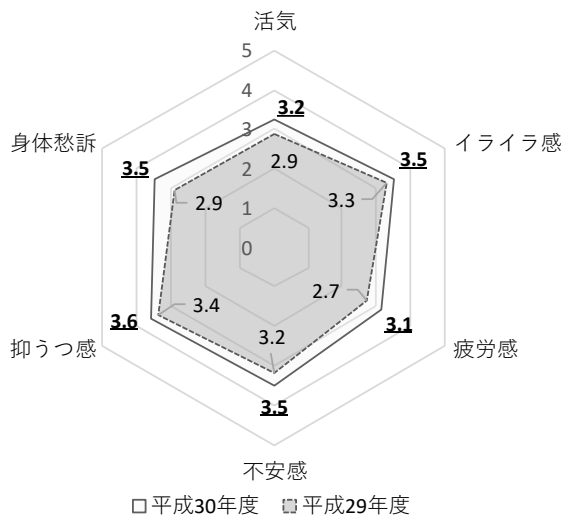
- 「職業性ストレス簡易調査票 (57 項目)」による職員のストレスでは、29 年度調査から 30 年度調査の期間に、大きく変化した項目はなかった。【図表 169、図表 170、図表 171 06 票 2. あなたご自身のこと】

図表 169 職員のストレスの原因と考えられる因子 (29 年度調査との比較) (単数回答)



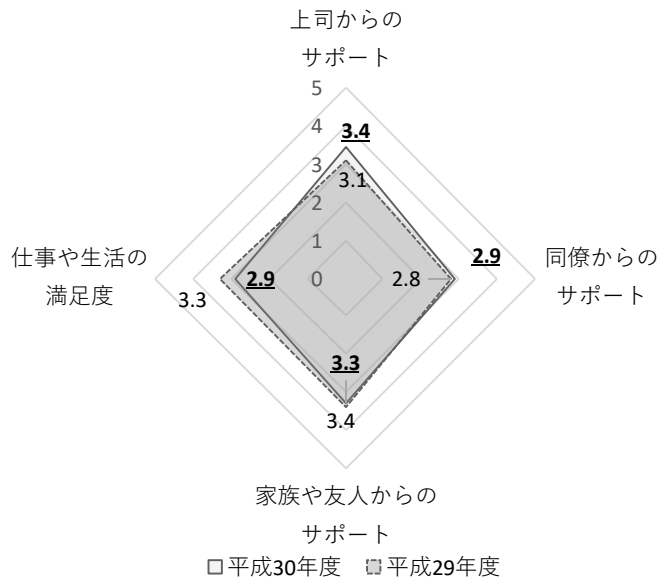
※厚生労働省が改正労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度において推奨している「職業性ストレス簡易調査票 (57 項目)」で把握した各項目の点数を素点換算表に当てはめ、5 段階評価の評価点を出した。
 ※グラフは、中心に近いほどストレスが高いことを示している。
 ※29 年度調査結果 (機器導入後) の平均値と 30 年度調査の平均値を比較した。
 ※29 年度調査の有効回答数 471 人、30 年度調査の有効回答数 132 人であった。
 ※29 年度調査：平成 29 年度「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」(厚生労働省) 調査

図表 170 職員のストレスによっておこる心身の反応（29年度調査との比較）（単数回答）



※厚生労働省が改正労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度において推奨している「職業性ストレス簡易調査票（57項目）」で把握した各項目の点数を素点換算表に当てはめ、5段階評価の評価点を出した。
 ※グラフは、中心に近いほどストレスが高いことを示している。
 ※29年度調査結果（機器導入後）の平均値と30年度調査の平均値を比較した。
 ※29年度調査の有効回答数471人、30年度調査の有効回答数132人であった。
 ※29年度調査：平成29年度「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」（厚生労働省）調査

図表 171 職員のストレス反応に影響を与える他の因子（29年度調査との比較）（単数回答）



※厚生労働省が改正労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度において推奨している「職業性ストレス簡易調査票（57項目）」で把握した各項目の点数を素点換算表に当てはめ、5段階評価の評価点を出した。
 ※グラフは、中心に近いほどストレスが高いことを示している。
 ※29年度調査結果（機器導入後）の平均値と30年度調査の平均値を比較した。
 ※29年度調査の有効回答数471人、30年度調査の有効回答数132人であった。
 ※29年度調査：平成29年度「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」（厚生労働省）調査

3. 参考資料

(1) ヒアリング調査結果概要

ヒアリング調査結果概要

見守り機器の導入目的

- 夜間の不要な訪室を減らせることに期待したため。
- 利用者の転倒防止や転倒した際の原因を分析できると考えたため。
- 利用者のアセスメントから見守り機器が有効と考えたため。
- 職員の身体的・精神的負担軽減を期待したため。
- 画像で確認できることやシルエット表示により、利用者のプライバシーに配慮しながら見守ることができるため。
- 睡眠の質向上、行動確認、安否確認等の活用を期待したため。
- ナースコールを使用できない利用者があるため。
- 展示会で職員が見守り機器を見て、要望があったため。

介護ロボットの導入プロセス

- 定期的なアセスメント会議の中で、利用者の課題等を洗い出し、課題を解決するロボットや機器を選定し、リーダーから経営層に申し出ることで導入に至った。
- 職員が展示会などに訪問して情報収集を行い、興味のあるロボットについてメーカーに問い合わせた。検討の結果、1ヶ月程度のテスト導入を行い問題なかったため導入に至った。
- 委員会を立ち上げ、マニュアル作成チーム、テストチーム、アンケートチーム組成し、各視点で検討を行い、介護ロボットのテスト導入・施設内で最終検討の結果、導入に至った。

介護ロボットの導入に中心となった職員

- 施設長などの介護部門の責任者と、現場リーダーである介護職員が中心となって進めた。
- 無線 LAN 環境の導入は事務職やシステム関連担当者が、見守り機器の選定は理学療法士が進めた。
- システム担当と施設長を含めた3名でプロジェクトチームを組成して検討・導入を進めた。
- 委員会メンバーが中心となり進めた。

見守り機器と利用者のマッチング

- 夜間の活動量が多い利用者を、見守り機器の対象者と考えている。
- センサーマットでは対応できない、ベッド上での動きが激しい利用者を中心にマッチングしている。
- 利用者の入居前の事前アセスメントと、チェックリスト（施設自作）で判断している。
- 転倒リスクの高さや訪室への拒否感から選定し、現場のミーティングで決定する。
- 事前情報が少ない利用者や、転倒リスクの高い利用者に優先して利用している。
- 転倒の頻度が増えた際に、現場の会議で対象者を決める。
- 毎月の職員会議・カンファレンスで情報共有し、対象者を決定している。
- 夜間に活動量が多く、下肢筋力が弱いなどが原因で転倒リスクが高い方を対象にしている。

現場職員等のニーズ

- 現場職員と管理職のニーズに大きな違いはなかったが、職員一人一人にロボット導入の意義を浸透させることには時間を要した。
- 管理部門は、利用者と職員のトラブルなどの対策として考えており、全ての居室に見守り機器の導入を考えていた。しかし、現場職員は、見守り機器によるアラートなど一度に確認や対応できる人数に限界があるため、必要な対象者のみに設置する方が良いと考えている。
- 職員に対するアンケート調査を行い、導入に対する不安の解消に努めた。
- 利用者のプライバシーや個人情報について心配する意見があった。
- サービスを提供している姿が、映像で残ってしまうことに対する不安があった（職員の監視になるのではないか）。
- 年齢が高い職員は、ロボットや IT 機器に対するアレルギー反応があった。
- 端末の連携がうまくいかず、スマートフォンを 2 台持ち歩かなければならない状況に対する抵抗もあった。

見守り機器に慣れるまでの期間

- 使い方自体は簡単であり、1 回の夜勤で慣れる。
- 3 カ月くらいはかかった印象である。
- 1 度説明会を開いた後、1~2 回使用すれば、使い方に慣れた。

見守り機器の定着化に向けた取り組み

- 導入当初だけ使い方の説明会を実施した。その後は現場職員の中で使い方について共有した。
- 使用することに問題ない職員が中心になり、使い方を教えていくことで定着していった。
- よく問い合わせのある事項について、マニュアル作成した。

見守り機器の導入効果

- 見守り機器の導入後、利用者の転倒件数が激減した。
- 転倒回数の減少や体力面・精神面での職員負担軽減に期待しており、その効果はあったと感じている。
- 危ない状況に駆け付けることができるようになり、部屋の中で起きる転倒事故を未然に防げるようになった効果が一番大きい。
- 転倒リスクが減ったことにより、結果として日中に活動する利用者が増えた効果があった。
- 利用者のパターン把握ができるようになり、介護の質の向上につながった。
- 利用者の行動が把握できるため、従前はおむつをしていた利用者が尿意を示す動きを察知し、トイレ誘導や支援を行うことで、おむつを取ることができた。
- 夜間で不要な訪室が減ったため、職員の身体的・精神的な負担軽減につながった。利用者側も夜間に訪室されないことで、睡眠時のストレスが減ったと感じている。
- 画像で確認することにより、本当にリスクが高い時を判別して対応できるようになった。
- 緊急時の優先順位がつけられるようになった。
- ロボット導入により、介護の方法について現場で議論する文化が生まれた。

- 利用者の活動を把握できることで、眠りの質の分析などアセスメントができる点と遠隔で室温調整が出来る点がよかった（室温調整のため入室すると利用者を起こしてしまう）。
- もし事故が起こった場合も、事故原因の検証ができることで、介護の質の向上にもつながる。
- 昼間の見守りなど、当初想定していたよりも広い用途に活用できており、効果を感じている。
- ナースコールを鳴らすことに抵抗がある利用者もいたが、コールをしなくても来てくれるようになったと感じたため、見守り機器導入後は必要な時にはきちんとコールをしてくれるようになった。
- 利用者の状態（生体反応）を確認できるようになり、看取りで活用できるようになった。

見守り機器に関する利用者や家族からの評価

- 現場職員がタイミングよく訪室することに利用者が驚いていた。
- 利用者家族に、夜間の行動等を共有・説明することで、必要性等を踏まえた説得ができた。
- 事故の予防や虐待防止の観点から、家族は安心感を持っている様子である。
- シルエットで確認することによりプライバシーに配慮している点を説明すると、監視ではないと納得してもらえる。説明の仕方が重要だと感じる。

見守り機器の利用者の範囲

- 現状の使い方であれば、利用者全体に対して1割程度に導入されていれば十分である
- 1台のスマートフォンで同時に確認できるのは3~5名であるため、利用者もその範囲が良い。
- 全ての利用者に導入すると、アラームが鳴った場合の優先度を決められなくなる。機器のレベル（リスクに応じた反応など）が上がれば全部導入することも可能だと思う。
- 機器の特性に合う人や、見守り機器を必要とする方に使うべきであり、全員には必要ない。既存の介護ロボットは、対象となる利用者を限定してしまっている印象を受ける。

見守り機器の介護報酬への反映方法

- 施設全体の利用者に対して、15%の利用者に使用することは、見守り機器の費用が高いため困難である。基準をクリアするためには、機器のコストダウンが必要である。
- 夜勤は2人以上の配置が必要であり、減らすことはできない。そもそも夜勤が負担と感じて離職する職員も多い。
- 費用対効果が合わないので、もう少し条件を緩くしてほしい。

介護ロボットと連携している ICT 機器

- スマートフォン2台が見守り機器と連動しており、画像の確認が可能である。
- 管理システムの連携について業者と協力し開発した。スマートフォンで記録し、食事量の情報と連携し、他職員と共有している。

見守り機器の利用で起きたトラブル

- Wi-Fiの通信障害が原因でセンサーが作動せず、転倒事故が起きたことがある。
- 設定の問題で、発報しない・誤発報などのトラブルがあった。

- 接続不良による映像の乱れが生じたが、メーカーに問い合わせすぐに現場で対応してもらえた。
- アラートが鳴りすぎることに慣れてしまうことで、本当に転倒した時に見過ごしてしまうのではないかという不安がある。
- 使用している中で、ヒューマンエラーによる誤作動が起きている。

介護ロボットによる人材確保への影響

- 採用に対する良い影響はあると思う。名前は知っていたが実際に使用している場面は見たことがないという学生が多い。
- ロボットが導入されているという状況が、職員確保に有利に働くと思われる。
- 介護ロボットを当施設の魅力として求職者にアピールしている。
- 応募してくる学生は興味がある様子である。
- 実際の決め手は、働きやすさになると思うので、ロボットを導入していることで働きやすいという印象は与えられると思う。
- 介護業界がそれほどロボットについて浸透していないため、導入していることを宣伝しても採用への効果はないと思う。

他施設からの見学

- 頻繁に見学に来ている（月に2～3回）。
- メーカーや卸業者が見学に来ている。
- 法人グループ内の職員が見学に来たことがある。

介護ロボットメーカーのメンテナンス体制

- メーカーのフットワークは軽く、連絡すればすぐに来てくれるので不安には感じていない
- 導入当初は年に2、3回来ていたが、最近はトラブルもなくあまり来ていない。
- 頻繁ではないが、定期的に連絡を取り合っているので問題ない。
- 電話でしっかり対応してくれるが、現場訪問による不具合対応までは対応してもらえない。
- 電話によるサポートが日中しか対応していないため、メインの使用時間である夜間には対応してもらえない。

見守り機器や他の介護ロボットの追加導入の意向

- 効果は高かったので追加導入したいが、費用面が課題。
- 導入の容易さ、見守りの業務の人員不足に起因する事故予防の観点から、見守り機器に対する要望が大きい。
- ナースコールと連動する見守り機器の追加導入を検討している。
- ベッドの入れ替えに合わせて、見守り機器の導入を検討したい。
- 移乗機器は現場からのニーズが高く、検討している。
- 利用者のコミュニケーションが増えることで良い効果を与えていると考えているため、コミュニケーションロボットで良いものがあれば導入したい。
- ロボットありきでは考えていない。介護現場から利用者ニーズを踏まえ、必要性を訴える声がある。

あがってきたら考えたい。

- 常勤職員の年齢層が高いので、追加導入しても普及しづらいと感じる。

見守り機器の仕様（機能や形状）による導入の課題

- 専用の Wi-Fi 等の環境構築する必要があり、設置費用の負担がかかった。
- 設置型のため、部屋移動（特にショートステイでニーズがあるため）ができないことが支障になっている。
- 起動までに時間がかかる。
- 初期設定のみならず、設定変更のたびにメーカーに依頼する仕様になっているため、運用上設定変更しないようにしている。
- 発報に関する設定や調整の手間がかかる。
- 見守り機器専用の端末（PC やスマートフォン）になっており不便である。
- 太陽光が赤外線センサーに反応すると画像が見えなくなる仕様となっており、日中の明るい場所では使うことができない。そのため、昼夜逆転している利用者で使うことができない。
- スマートフォンなどの携帯端末とナースコール用の端末と 2 台持ちになっており、煩雑である。
- 録画時間が短く、事故やヒヤリハットの瞬間をとらえていないことがある。

見守り機器や他の介護ロボットの普及に向けた課題

- 導入費用が高額のため、対象者を限定した導入になる。
- 導入にあたり、Wi-Fi 敷設などの環境整備の投資が必要になる。
- 介護ロボットの持ち運びや移動に時間がかかる。
- 試用貸出やリース・レンタルなど購入以外の方法があると導入しやすい。
- 利用者の状態が変わる場合が多く、導入後に使用しなくなることが想定されるため、柔軟な契約方法があると導入しやすい。
- 管理者と現場職員の意識の乖離があるとうまくいかない。

見守り機器に要望する追加機能

- 呼び出しコールなどと連携し機能を 1 つにまとめられると良い。
- バイタルの確認は重要である。
- 介護記録システムと連動できるようになれば業務負担の軽減につながる。画像が文章化されて記録されることが理想。見守り画像が記録として貼り付けられるようになると良い。
- ナースコールと連動すると優先順位が付けづらくなるので、別にした方が良い。
- 過去のデータ保存により、経時的な比較ができる機能がほしい。

今後の介護ロボットに対する期待や要望

- 誤動作の少なさなど、機器としての信頼性（精度）を上げてほしい。
- 見守り機器で介護の内容について、客観的な分析ができるのではと期待している。特に排泄加算について、根拠を示すことができるようになることに期待している。
- バイタル情報も分かるようになれば、ただの転倒か体調の変化なのか分かるようになると思う。

- 準備と片付けに時間がかかると感じているので、もっと早く（気軽に）使えるものがほしい。
- 録画機能については、事故発生時の原因分析で役に立つことに期待している。
- デバイスやデータが機器ごとに管理されているので、1台に集約されるようになってほしい。
- 介護ロボットの導入費用が安くなると、補助金の活用により普及が進むのではないかと感じている。効果に対して、導入費用の負担が大きすぎると感じている。
- 在宅でも使えるような小型化やコストダウンに期待したい。歩行補助などの介護ロボットが在宅でも使えるようになれば、その後の施設入所時にも抵抗なく介護ロボットを使った介護を受け入れられるのではないかと感じる。
- ADLが高い方に介護ロボットを使うと、ADLが下がってしまうことを懸念している。
- ICTとロボットの連携により、業務時間を短縮できれば、残りの時間で介護者にしかできない利用者へのサービスにあてたいと考えている。
- 見守り機器の導入により、見守り機器の導入を前提とした介護のあり方に代わっていくのではと期待している。
- 介護ロボットの活用により、介護職員が利用者に関わる時間をしっかりとれるようになってほしい。職員の中には、学校で学んだ介護のあり方と、現場での仕事のギャップに失望して辞めてしまう人もいる。
- 例えば、レンタルやリースでも効果はあると思う。機器を手軽に試すことができる環境を作った方がよい。

今後見守り機器の導入を検討している施設への助言

- 見守り機器の利用者を変えることができるように、持ち運びができる機器の方が使いやすいと感じる。
- 地域によっては無線LANの電波環境が悪いところがある。実際に、安定して電波が入るまで3カ月くらいかかった。
- 見守り機器と既存マットの規格（横幅のサイズ）が違う可能性があるため、導入時には注意が必要。
- 見守り機器を利用するためのネットワーク導入費用がかかることも考慮する必要がある。
- 管理者と現場の意見に乖離があると導入は難しい。日ごろから密な関係を構築しておくことが必要である。
- 利用者とのマッチングをしっかりと行い、本当に必要な利用者に適応しないと、お試しで導入した場合、現場からロボットは不要ではないかという意見が出てしまう。
- 購入前に、対象となる利用者をピックアップし、利用方法について十分検討しておく必要がある。
- 導入しても機能を十分に活用できていないケースもあるので、研修など、習熟に向けた取り組みは継続的に必要である。
- 見守り機器の操作に慣れるまでに、時間を要する職員が多いことは留意する必要がある。ただし、2カ月もあれば慣れてくるので、導入時だけの問題である。
- 介護ロボットに頼りすぎることはよくないため、介護ロボットをどのように受け入れてもらい、どのように使用するかの職員の意識づけが重要である。

- 介護ロボットに関する情報が足りていない施設が多いと感じるため、しっかりと情報収集することが重要である。
- 職員に展示会に出席させるなど、最新の情報に触れさせておくことで、変化に対する理解を高めおくことも重要である。

(2) 調査票

平成30年度 介護ロボットの効果実証に関する調査研究
 介護ロボットの導入などの実態に関する調査
 介護老人福祉施設等（施設票）

介護サービス施設・事業所ごとの介護ロボットの導入、活用及び効果の実態を把握するために、ご協力をお願いいたします。

- 調査の目的
 - この調査は、平成30年度介護報酬改定（社会保険審議会介護給付費分科会）等をふまえて、介護ロボットの効果実証に関する調査研究に活用する情報を収集することを目的としています。
 - ご回答にあたりましては、同封しております「記載要領」に「介護ロボット製品一覧」を参照の上、ご記入ください。
 - 2018年10月3日時点での情報をとご回答ください。

問1【施設基本情報】 貴施設の基本情報についてお伺いします。

(1) 基本属性

①事業所名			
②連絡先	ご記入者：	()	-
③施設種別 (あてはまるものに○を付けてください)	貴施設の代表電話番号：	()	-
④開設主体/ 関連法人で 経営している 施設の有無 (あてはまるものすべて に○を付けてください)	1. 介護老人福祉施設	2. 地域密着型介護老人福祉施設	有 / 無
	3. 介護老人保健施設	4. 介護療養型医療施設または介護医療院	有 / 無
	5. 特定施設入居者生活介護	6. 地域密着型特定施設入居者生活介護	有 / 無
	7. 認知症対応型共同生活介護	8. 短期入所生活介護	有 / 無
	1. 診療所		有 / 無
	2. 病院		有 / 無
	3. 訪問介護		有 / 無
	4. 訪問看護		有 / 無
	5. 介護老人福祉施設		有 / 無
	6. 地域密着型介護老人福祉施設		有 / 無
	7. 介護老人保健施設		有 / 無
	8. 介護療養型医療施設または介護医療院		有 / 無
	9. 特定施設入居者生活介護		有 / 無
	10. 認知症対応型共同生活介護		有 / 無
11. 小規模多機能型居宅介護		有 / 無	
12. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護		有 / 無	
13. サービス付き高齢者向け住宅		有 / 無	
14. その他 ()		有 / 無	

⑤介護報酬上の届出 (あてはまるものに○を 付けてください) ※介護老人福祉施設、 地域密着型介護老人福祉施設、 短期的小規模介護福祉施設、 短期入所生活介護に限る	(介護老人福祉施設) 介護福祉施設サービス費 1. 従来型個室 2. 多床室 3. 従来型個室 4. 多床室 (地域密着型介護老人福祉施設) 地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護費 9. 従来型個室 10. 多床室 経過的地域密着型介護老人 福祉施設入所者生活介護費 11. 従来型個室 12. 多床室 (短期入所生活介護) 単独型短期入所者生活介護費 17. 従来型個室 18. 多床室 併設型短期入所者生活介護費 19. 従来型個室 20. 多床室	ユニット型介護福祉施設サービス費 5. ユニット型個室 6. ユニット型個室の多床室 ユニット型経過的小規模介護福祉 施設サービス費 7. ユニット型個室 8. ユニット型個室の多床室 ユニット型地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護費 13. ユニット型個室 14. ユニット型個室の多床室 ユニット型経過的地域密着型介護老人 福祉施設入所者生活介護費 15. ユニット型個室 16. ユニット型個室の多床室	単独型ユニット型短期入所者生活介護費 21. ユニット型個室 22. ユニット型個室の多床室 併設型ユニット型短期入所者生活介護費 23. ユニット型個室 24. ユニット型個室の多床室
	⑥介護加算 (あてはまるものに○を 付けてください) ※介護老人福祉施設、 地域密着型介護老人福祉施設、 短期入所生活介護に限る	1. 夜勤職員配置加算 (介護福祉施設サービス) a. (I)イ b. (I)ロ c. (II)イ d. (II)ロ e. (III)イ f. (III)ロ g. (IV)イ h. (IV)ロ (短期入所生活介護) a. (I)イ b. (II)イ c. (III)イ d. (IV)イ (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護) a. (I)イ b. (I)ロ c. (II)イ d. (II)ロ e. (III)イ f. (III)ロ g. (IV)イ h. (IV)ロ 2. その他 ()	⑦見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出 ※介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設、短期入所生活介護に限る ⑧調査対象日時点の入所者(入居者)数 ⑨定員数

(2) 職種別の従事者数

※介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設、短期入所生活介護に限る

医師	人	作業療法士	人
薬剤師	人	言語聴覚士	人
看護師	人	精神保健福祉士	人
准看護師	人	介護支援専門員(ケアマネジャー)	人
社会福祉士	人	管理栄養士	人
介護福祉士	人	栄養士	人
介護職員(介護福祉士以外)	人	調理師	人
臨床検査技師	人	その他()	人
理学療法士	人		

問2 介護ロボット導入・活用状況

介護ロボットの導入・活用状況についてお伺いします。

※介護ロボットの詳細につきましては、同封しております「介護ロボット製品一覧表」をご覧ください。

(1) 導入の有無(どちらかに○を付けてください)

1. 導入している
2. 導入していない

※問2(1)で「2. 導入していない」と回答した方は問2(1.7)まで進んでください。

問2(1)で「1. 導入している」と回答した方にお伺いします。(問2(2)～(1.6)まで)

※介護ロボットの詳細につきましては、同封しております「介護ロボット製品一覧表」をご覧ください。

(2) 導入した介護ロボットの種類(施設に導入しているすべての介護ロボットを記載してください)

製品コード	導入数	導入時期	製品コード	導入数	導入時期
(ア)	台	年 月 年 月	(キ)	台	年 月 年 月
(イ)	台	年 月 年 月	(ク)	台	年 月 年 月
(ウ)	台	年 月 年 月	(ケ)	台	年 月 年 月
(エ)	台	年 月 年 月	(コ)	台	年 月 年 月
(オ)	台	年 月 年 月	(サ)	台	年 月 年 月
(カ)	台	年 月 年 月	(シ)	台	年 月 年 月
製品名()			製品名()		
メーカー()			メーカー()		

(3) 介護ロボット購入・リース時の費用負担方法(あてはまるものすべてに○を付けてください)

製品コード	国・県・市 町村の助成/補助		国・県・市 研究協力に よる助成/補助		国・県・市 研究協力に 町村の助成/補助		その他 ※()に記載 してください	
	成	補	成	補	成	補	成	補
(ア)	()	()	()	()	()	()	()	()
(イ)	()	()	()	()	()	()	()	()
(ウ)	()	()	()	()	()	()	()	()
(エ)	()	()	()	()	()	()	()	()
(オ)	()	()	()	()	()	()	()	()
(カ)	()	()	()	()	()	()	()	()
その他	()	()	()	()	()	()	()	()

(4) 介護ロボット導入のきっかけ・目的(あてはまるものすべてに○を付けてください)

	① 移乗支援(装着型)	② 移乗支援(非装着型)	③ 移動支援	④ 排泄支援	⑤ 見守り	⑥ ケーブルレス通信	⑦ 入浴支援	⑧ その他
きっかけ								
目的								

上記の項目(1～14)以外のきっかけ・目的があれば記載してください。

① 移乗支援(装着型)	
② 移乗支援(非装着型)	
③ 移動支援	
④ 排泄支援	
⑤ 見守り	
⑥ コミュニケーション	
⑦ 入浴支援	
⑧ その他	

(5) 介護ロボット導入時に配慮した点(あてはまるものすべてに○を付けてください)

	① 移乗支援(装着型)	② 移乗支援(非装着型)	③ 移動支援	④ 排泄支援	⑤ 見守り	⑥ ケーブルレス通信	⑦ 入浴支援	⑧ その他
1. 課題分析と導入目的の明確化								
2. 会議や委員会等を通じた職員への周知と合意形成								
3. 職員を対象とした講習会やトレーニングの実施								
4. Wi-Fi環境などの物理的環境の配慮								
5. 機器導入による業務見直しなどの業務環境への配慮								
6. データの蓄積・分析								
7. ケアプランへの位置づけ								
8. 機器導入・定着の効果検証								

01_施設票

上記の項目(1~8)以外に配慮した点があれば記載してください。

① 移乗支援(装着型)	
② 移乗支援(非装着型)	
③ 移動支援	
④ 排泄支援	
⑤ 見守り	
⑥ コミュニケーション	
⑦ 入浴支援	
⑧ その他	

(6) 介護ロボット利用時に実施している点(あてはまるものすべてに○を付けてください)

	① (移乗支援 装着型)	② (移乗支援 非装着型)	③ 移動支援	④ 排泄支援	⑤ 見守り	⑥ コミュニケーション	⑦ 入浴支援	⑧ その他
1. 利用者のアセスメント								
2. 利用者本人の意向確認								
3. 利用者の状態と介護ロボットの性能を踏まえた検討(マッチング)								
4. 利用者のロボット利用計画の策定・見直し								
5. 利用者へのテスト利用								

上記(1~5)以外に実施している点があれば記載してください。

① 移乗支援(装着型)	
② 移乗支援(非装着型)	
③ 移動支援	
④ 排泄支援	
⑤ 見守り	
⑥ コミュニケーション	
⑦ 入浴支援	
⑧ その他	

(7) 介護ロボットに関連したヒヤリット・介護事故発生件数とその対応

(ア) 導入前後のヒヤリット・介護事故発生件数(1か月あたり)
(導入前後半年の状況をもとに記入してください。)

	導入前	導入後
1か月あたり()件	1か月あたり()件	()件

(イ) 介護ロボットに関連したヒヤリット・介護事故の発生の有無

1. 発生したことがある 2. 発生したことはない

※(イ)で「2. 発生したことはない」と回答した方は(エ)まで進んでください。

01_施設票

(イ)で「1. 発生したことがある」と回答した方にお伺いします。(問2(7)(ウ)~(エ)まで)

(ウ) 直近で発生した介護ロボットに関連したヒヤリット・介護事故の内容について

①ロボット種別	①移乗支援(装着型) ②移乗支援(非装着型) ③移動支援 ④排泄支援 ⑤見守り ⑥コミュニケーション ⑦入浴支援 ⑧その他
②機器の誤操作やヒヤリットなどの種類	1. 機械の誤作動 2. Wi-Fiなどの電波環境などによる誤作動 3. 職員による誤操作 4. 利用者による誤操作 5. 機器を過信したために起きた機器の誤操作やヒヤリット 6. その他
③具体的な内容	
④どのように対処したか	

(エ) 介護ロボットに関連したヒヤリット・介護事故の発生を未然に防ぐために取り組んでいること

ハード面 (機器の性能、構造)	
ソフト面 (利用者や介護者との運用)	

(8) 介護ロボット導入の効果実証(タイムスタディやアンケート等)について

1. 実施している 2. 実施していない 3. 分からない

※問2(8)で「2. 実施していない」「3. 分からない」と回答した方は問2(1.3)まで進んでください。

問2(8)で「1. 実施している」と回答した方にお伺いします。(問2(9)～(12)まで)

(9) 介護ロボット導入の効果実証(あてはまるものすべてに○を付けてください)
(施設内の委員会や検討会等で効果測定を行っている場合は、その対象期間をもとに記載してください)

実証期間	① 移乗支援(装着型)		② 移乗支援(非装着型)		③ 移動支援		④ 排泄支援		⑤ 見守り		⑥ ケーブルコミュニケーション		⑦ 入浴支援		⑧ その他	
	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月
実証開始時期																
実証終了時期																

実証方法

1. タイムスタディによる導入前後での比較	
2. アンケート	
3. その他	
4. 職員の身体的・精神的負担の軽減	
5. ヒヤリハット・介護事故件数	
6. 夜間居室の訪問回数	
7. 介護時間	
8. 要介護状態	
9. 障害高齢者の日常生活自立度	
10. 認知症高齢者の日常生活自立度	
11. その他	

実証による導入効果 (外部者を含む) に共有している

有 / 無 / 有 / 無 / 有 / 無 / 有 / 無 / 有 / 無 / 有 / 無	有 / 無
---	-------

問2(9)の「実証方法」で「3. その他」に○を付けた方にお伺いします。

(10) 実証方法(その他の実証方法について記載してください)

① 移乗支援(装着型)	
② 移乗支援(非装着型)	
③ 移動支援	
④ 排泄支援	
⑤ 見守り	
⑥ コミュニケーション	
⑦ 入浴支援	
⑧ その他	

問2(9)の「実証に用いたデータ」で「1.1. その他」に○を付けた方にお伺いします。

(11) 実証に用いたデータ(その他のデータについて記載してください)

① 移乗支援(装着型)	
② 移乗支援(非装着型)	
③ 移動支援	
④ 排泄支援	
⑤ 見守り	
⑥ コミュニケーション	
⑦ 入浴支援	
⑧ その他	

問2(9)の「実証による導入効果」で「有」に○を付けた方にお伺いします。

(12) 導入効果(「有」を選んだ理由を記載してください)

① 移乗支援(装着型)	
② 移乗支援(非装着型)	
③ 移動支援	
④ 排泄支援	
⑤ 見守り	
⑥ コミュニケーション	
⑦ 入浴支援	
⑧ その他	

問2(2)で「製品コード20～50.56(見守り機器)」を記載した方にお伺いします。(問2(13)～

(16)まで)

(13) 見守り機器の対象利用者数

入所者数のうち () 名で見守り機器を利用
見守り機器の導入前後での人員配置(利用者:職員(介護・看護職員))

()	()
導入前	導入後(2018年9月)

(14) 「見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会(以降「委員会」とする)」の実施状況

① 委員会の設置(どちらか○を付けてください)	あり
② 委員会の構成員数	() 人
③ 委員会の構成員(あてはまるものすべてに○を付けてください)	1. 医師 2. 薬剤師 3. 看護師 4. 准看護師 5. 社会福祉士 6. 介護福祉士 7. 介護職員(介護福祉士以外) 8. 臨床検査技師 9. 理学療法士 10. 作業療法士 11. 言語聴覚士 12. 精神保健福祉士 13. 介護支援専門員(ケアマネジャー) 14. 管理栄養士 15. 栄養士 16. 調理師 17. その他 ()
④ 委員会の開催状況	約 () 回 / 年

⑤ 委員会での協議内容 (あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 使い方周知 (研修・説明ツール等)	
2. Wi-Fi 環境などの物理的課環境の配慮	
3. 機器導入による業務見直しなどの業務環境への配慮	
4. データ蓄積・分析・検証方法	5. ケアプランへの位置づけ
6. 機器導入の効果測定	7. 機器定着化
8. その他 ()	

問1 (1) ので「あり」又は「届出予定」を選択した方にお伺いします。

(15) 人員配置状況 (どちらかに○を付けてください)

1. 見守り機器の導入 (0.1 人分の要件緩和) がなくとも人員配置基準を満たしている
2. 見守り機器の導入 (0.1 人分の要件緩和) により人員配置基準を満たしている

問1 (1) ので「なし」を選択した方にお伺いします。

(16) 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算の届出

① 夜勤職員配置加算の届出を出していない理由 (あてはまるものすべてに○を付けてください)	1. 夜勤職員配置加算を取得する意向がない 2. 見守り機器の導入 (0.1 人分の要件緩和) がなくとも人員配置基準を満たしている 3. 要件(入所者の 15%以上)を満たす見守り機器の台数を導入していない 4. 委員会の設置が困難なため 5. その他 ()
② 今後の届出の意向について (最もあてはまるものに○を付けてください)	1. 届出した 2. 届出するつもりはない 3. どちらとも言えない、分からない

問2 (1) の回答内容に関わらず、すべての方にお伺いします。

(17) 介護ロボットを導入して感じた課題、もしくは介護ロボットを導入していない理由 (あてはまるものすべてに○を付けてください)

	① 移 装 支 援 (装 束 型)	② 移 装 支 援 (非 装 束 型)	③ 移 動 支 援	④ 排 泄 支 援	⑤ 見 守 り	⑥ ケ ー ミ ュ ニ ケー シ ョ ン	⑦ 入 浴 支 援	⑧ そ の 他
1. 導入費用が高額								
2. 有効性を感じない(期待できない)								
3. 利用者の安全面に不安								
4. 職員の安全面に不安								
5. 機器に関する情報が少ない								
6. 準備・片付けに時間がかかる								
7. 機器のメンテナンスが大変								
8. 機器を活用した業務改革が必要								
9. 機器の誤作動が不安								
10. 研修や使い方の周知が必要								
11. 機器の操作が難しい								

上記 (1~11) 以外の理由がなければ記載してください。

① 移 装 支 援 (装 束 型)
② 移 装 支 援 (非 装 束 型)
③ 移 動 支 援
④ 排 泄 支 援
⑤ 見 守 り
⑥ コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン
⑦ 入 浴 支 援
⑧ そ の 他

問3 【ICT (情報通信技術) 等の導入・活用】

ICT (情報通信技術) を活用した機器の導入状況についてお伺いします。

(1) 現在施設で使用している ICT (情報通信技術) を活用した機器 (介護ロボットと運動し得るもの) (あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 介護記録ソフト	7. バイタル機器 (見守り機器の活用による)
2. 介護レセプト作成ソフト	8. バイタル機器 (見守り機器の活用以外)
3. リスク情報管理ソフト (事故・ヒヤリット)	9. 電話・ナースコール (インターフォンを含む)
4. タブレット・スマートフォン	10. その他 ()
5. 電子メール・パソコン	11. 導入していない
6. インカム	

ICT (情報通信技術) を活用した機器を1つでも導入していると回答した方にお伺いします。

(問3 (2) ~ (4) まで)

(2) 介護ロボットと運動しているもの (あてはまるものすべてに○を付けてください)

	① 移 装 支 援 (装 束 型)	② 移 装 支 援 (非 装 束 型)	③ 移 動 支 援	④ 排 泄 支 援	⑤ 見 守 り	⑥ ケ ー ミ ュ ニ ケー シ ョ ン	⑦ 入 浴 支 援	⑧ そ の 他
1. 介護記録ソフト								
2. 介護レセプト作成ソフト								
3. リスク情報管理ソフト (事故・ヒヤリット)								
4. タブレット・スマートフォン								
5. 電子メール・パソコン								
6. インカム								
7. バイタル情報 (見守り機器の活用による)								
8. バイタル情報 (見守り機器の活用以外)								
9. 電話・ナースコール (インターフォンを含む)								
10. その他 ()								

平成30年度 介護ロボットの効果実証に関する調査研究
介護ロボットの導入などの実態に関する調査
介護老人福祉施設等 (利用者票)

介護サービス施設、事業所などの介護ロボットの導入、活用及び効果の実態を把握するために、ご協力をお願いいたします。

- 調査の目的
 - この調査は、平成30年度介護報酬改定（社会保険審議会介護給付費分科会）等をふまえて、介護ロボットの効果実証に関する調査研究に活用する情報を収集することを目的としています。
- 対象者：本人のヒアリングのうえ、職員（担当者）が回答ください。
- 2018年10月3日時点での情報をもとに回答ください。

問1 利用者ご自身についてお伺いします。

年齢	() 歳
性別 (どちらかに○を付けてください)	男性 女性
要介護状態 (いづれかに○を付けてください)	要支援1 要介護2 要介護3 要介護4 要介護5 自立 J1 A1 A2 B1 B2 C1 C2 不明 自立 I IIa IIb IIIa IIIb IV M 不明
障害高齢者の日常生活自立度 (現在の状況に○を付けてください)	
認知症高齢者の日常生活自立度 (現在の状況に○を付けてください)	
利用者が使用している機器 (あてはまるものをすべてに○を付けてください)	1. 移乗支援(装着型) 5. 見守り 2. 移乗支援(非装着型) 6. コミュニケーション 3. 移動支援 7. 入浴支援 4. 排泄支援 8. その他 ()
記入した職員の連絡先 氏名： ()	貴施設の代表電話番号： () - ()

問2 使用している介護ロボットについてお伺いします。
使用している介護ロボットについて、利用者様ほどのように感じていただけますか。
(対象者本人に聞き取りをいたして、あてはまるものをすべてに○を付けてください)

	① 認知 支援 型	② 非 装 着 型	③ 移 乗 支 援 型	④ 移 動 支 援 型	⑤ 見 守 り	⑥ コ ミュ ニ ケー ション	⑦ 入 浴 支 援	⑧ 排 泄 支 援	⑨ その他
1. 自分が介護者に気を遣わなくても良い									
2. 自分の心身の衰えの防止につながる									
3. 転倒が減る (しひばら、座り込み等のチャリット含む)									
4. 睡眠の質が高まる (またまた睡眠、覚め、眠剤減)									
5. 排泄の失敗が減る									
6. 人による介護よりも安全性が高い									
7. 職員から見守られている安心感が高まる									
8. 緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある									
9. 最先端の機器を用いた介護を受けられる									
10. 職員からの干渉・制止が減る									
11. 見張られているようで何となく嫌である									
12. 見慣れない物が設置されている違和感がある									
13. 準備・片付けに時間がかかる									
14. その他									
15. 特になし									
16. わからない									

問3 介護ロボットの導入が、利用者にと与えた影響についてお伺いします。

(1) 使用している機器 (利用者が使用している機器が複数ある場合は、もっともよく使う機器に○をつけてください)

1. 移乗支援(装着型) 2. 移乗支援(非装着型) 3. 移動支援 4. 排泄支援
5. 見守り 6. コミュニケーション 7. 入浴支援 8. その他()

(2) 施設職員からみて、(1)で選択した機器を使うことにより、利用者にと与えた影響をもっとも良く表すものを、それぞれ1つずつ選んで、○をつけてください。

	← 減らしたと感じる	増加したと感じる →
1. 能力 (生活の大切なことをうまくできる)	-3 -2 -1 0 1 2 3	
2. 生活の満足度(幸福感)	-3 -2 -1 0 1 2 3	
3. 自立度	-3 -2 -1 0 1 2 3	
4. 様々な生活場面もどにか対応できる	-3 -2 -1 0 1 2 3	
5. とまどい(困ること)	-3 -2 -1 0 1 2 3	
6. 日課を処理する効率	-3 -2 -1 0 1 2 3	
7. 自分を好ましく感じる(自尊心)	-3 -2 -1 0 1 2 3	
8. 生産性 (たさんのことができる)	-3 -2 -1 0 1 2 3	
9. 安心感	-3 -2 -1 0 1 2 3	
10. 欲求不満 (フラストレーション)	-3 -2 -1 0 1 2 3	
11. 自分が世の中の役に立つ (有用性)	-3 -2 -1 0 1 2 3	
12. 自信	-3 -2 -1 0 1 2 3	
13. 知識を得ることができる	-3 -2 -1 0 1 2 3	
14. 仕事や作業がうまくできる	-3 -2 -1 0 1 2 3	
15. 生活がともまういている	-3 -2 -1 0 1 2 3	
16. もっといろいろなことができる(有能性)	-3 -2 -1 0 1 2 3	
17. QOL(生活の質)	-3 -2 -1 0 1 2 3	
18. 自分の能力を示すことができる (パフォーマンス)	-3 -2 -1 0 1 2 3	
19. 活力 (パワー)	-3 -2 -1 0 1 2 3	
20. したいことが思い通りにできる	-3 -2 -1 0 1 2 3	
21. 恥ずかしさ	-3 -2 -1 0 1 2 3	
22. チャレンジしたくなる	-3 -2 -1 0 1 2 3	
23. 活動に参加できる	-3 -2 -1 0 1 2 3	
24. 新しいことが楽しくなる	-3 -2 -1 0 1 2 3	
25. 日常の生活行動の変化に対応できる	-3 -2 -1 0 1 2 3	
26. チャンスを活かせる	-3 -2 -1 0 1 2 3	

出典：福祉用具心理評価スケール (PIADS 日本語版)

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。
記入済の調査票は、施設までめて返信封筒に入れ、**11月30日まで**にご返送ください。

平成30年度 介護ロボットの効果実証に関する調査研究
 介護ロボットの導入などの実態に関する調査
 介護老人福祉施設等（職員票）

介護サービス施設・事業所ごとの介護ロボットの導入、活用及び効果の実態を把握するために、ご協力をお願いいたします。

- 調査の目的
 - > この調査は、平成30年度介護報酬改定（社会保険審議会介護給付費分科会）等をふまえて、介護ロボットの効果実証に関する調査研究に活用する情報を収集することを目的としています。
 - ご回答にあたりましては、同封しております「記載要領」を参照の上、ご記入ください。
 - 2018年10月3日時点での情報をとにご回答ください。

問1 あなたについてお伺いします。

(1) あなたの有する資格・経験年数・役職について（あてはまるものに○をつけてください）

1. 医師	2. 薬剤師	3. 看護師	4. 准看護師
5. 社会福祉士	6. 介護福祉士	7. 介護職員(介護福祉士以外)	8. 臨床検査技師
9. 理学療法士	10. 作業療法士	11. 言語聴覚士	12. 精神保健福祉士
13. 介護支援専門員(ケアマネジャー)	14. 管理栄養士	15. 栄養士	
16. 調理師	17. その他()		
経験年数 () 年	役職	1. リーダー	3. 役職なし
		2. サブリーダー	4. その他()
連絡先	回答者氏名:	貴施設の代表電話番号: () - ()	

問2 介護ロボットの導入・職員の利用状況についてお伺いします。

(1) 介護ロボットの導入・職員の利用状況について、あてはまるものに○をつけてください。

	導入	利用頻度※					導入時から継続利用	今後の継続利用の意向
		高	低	他	5	5		
1. 移乗支援(装着型)	有 / 無	1	2	3	4	5	有 / 無	有 / 無
2. 移乗支援(非装着型)	有 / 無	1	2	3	4	5	有 / 無	有 / 無
3. 移動支援	有 / 無	1	2	3	4	5	有 / 無	有 / 無
4. 排泄支援	有 / 無	1	2	3	4	5	有 / 無	有 / 無
5. 見守り	有 / 無	1	2	3	4	5	有 / 無	有 / 無
6. コミュニケーション	有 / 無	1	2	3	4	5	有 / 無	有 / 無
7. 入浴支援	有 / 無	1	2	3	4	5	有 / 無	有 / 無
8. その他()	有 / 無	1	2	3	4	5	有 / 無	有 / 無

※利用頻度の目安 1:ほぼ毎日使用 2:週に4~5日使用 3:週に2~3日使用 4:週に1日使用 5:その他 ()

(2) あなたが担当するおおよその利用者数(1勤務あたり)(過去1ヶ月の状況をもとに記入してください)

日勤の時間帯	夜勤の時間帯
人	人

(3) 上記のうち、介護ロボットの利用者数

	日勤の時間帯	夜勤の時間帯
1. 移乗支援(装着型)	人	人
2. 移乗支援(非装着型)	人	人
3. 移動支援	人	人
4. 排泄支援	人	人
5. 見守り	人	人
6. コミュニケーション	人	人
7. 入浴支援	人	人
8. その他	人	人

(4) あなたがロボットを利用するおおよその時間(1勤務あたり)(過去1ヶ月の状況をもとに記入して下さい)

	日勤の時間帯	夜勤の時間帯
1. 移乗支援(装着型)	時間	時間
2. 移乗支援(非装着型)	時間	時間
3. 移動支援	時間	時間
4. 排泄支援	時間	時間
5. 見守り	時間	時間
6. コミュニケーション	時間	時間
7. 入浴支援	時間	時間
8. その他	時間	時間

問3 職員や施設業務の変化(定性的な変化)について教えてください。(あてはまるもの全てに○)

	① (移乗支援(装着型))	② (移乗支援(非装着型))	③ 移動支援	④ 排泄支援	⑤ 見守り	⑥ コミュニケーション	⑦ 入浴支援	⑧ その他
1. 気持ちに余裕ができる								
2. 身体的負担(体の痛みなど)の軽減								
3. 精神的負担(ストレスなど)の軽減								
4. 利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる								
5. 訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)								
6. 利用者の行動パターンが把握できる(排泄、夜間行動)								
7. 事故原因分析の参考情報にできる								

03_職員票

	① (移乗支援 装着型)	② (移乗支援 非装着型)	③ 移動支援	④ 排泄支援	⑤ 見守り	⑥ コミュニケーション	⑦ 入浴支援	⑧ その他
8. 優先順位の判断ができる (同時コールの発生、他の利用者の介護中)								
9. 利用者のペースに合わせた介護ができる (予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)								
10. 訪室の前に心の準備ができる								
11. 見守り以外の業務・休憩等が分断されない								
12. 休憩時間を確保することができる								
13. 必要以上に利用者を見に行くこととなる								
14. 走って訪室することが減る								
15. 機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える								
16. 訪室回数計が減る								
17. 機器の初期設定・微調整が煩雑である								
18. 想致端末の扱帯が煩雑である								

問4 職員から見た利用者の生活の変化（定性的な変化）について教えて下さい。（あてはまるもの全てに○）

	① (移乗支援 装着型)	② (移乗支援 非装着型)	③ 移動支援	④ 排泄支援	⑤ 見守り	⑥ コミュニケーション	⑦ 入浴支援	⑧ その他
1. 介護者に気を遣わなくても良い								
2. 心身の衰えの防止につながる								
3. 転倒が減る(しりもち、座り込み等のヒヤリット含む)								
4. 睡眠の質が高まる(まとまった睡眠、寝覚め、眼別減)								
5. 排泄の失敗が減る								
6. 不穏行動が少なくなる								
7. 人による介護より安全性が高い								
8. 職員から見守られている安心感が高まる								
9. 緊急時にすぐに対応してもらえる安心感がある								
10. 最先端の機器を用いた介護を受けられる								
11. 職員からの干渉・制しが減る								
12. 見張られているようで何となく嫌そうである								
13. 見慣れない物が設置されていて違和感がある								
14. 準備に時間がかかる								
15. その他								
16. 特になし								
17. わからない								

03_職員票

問5 使用している介護ロボット導入の満足度についてお伺いします。（あてはまるものに○を付けてください）

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
① 移乗支援(装着型)					
② 移乗支援(非装着型)					
③ 移動支援					
④ 排泄支援					
⑤ 見守り					
⑥ コミュニケーション					
⑦ 入浴支援					
⑧ その他					

問6 介護ロボットに関してご意見をお願いします。【自由記載】（気付き・課題意識等）

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。
記入済の調査票は、返信用封筒に入れ、**11月30日まで**にご返送ください。

平成30年度 介護ロボットの効果実証に関する調査研究
介護ロボットの導入などの実証に関する調査
実証施設ヒアリング（施設票）

介護サービス施設・事業所ごとの介護ロボットの導入、活用及び効果の実態を把握するために、ご協力を願います。

- 調査の目的
 - この調査は、平成30年度介護報酬改定（社会保障審議会介護給付費分科会）等をふまえて、介護ロボットの効果実証に関する調査研究に活用する情報を収集することを目的としています。
- ご記入にあたりましては、同封しております「記載要領」と「介護ロボット製品一覧」を参照の上、ご回答ください。
- 2018年10月3日時点での情報をもとにご回答ください。
※前回ヒアリング時に向いましたご意見を事前に転記しております。

問1【施設基本情報】貴施設の基本情報についてお伺いします。

(1) 基本属性

① 事業所名		
② 連絡先	ご記入者： 貴施設の代表電話番号：() -	
③ 施設種別 (あてはまるものに○を付けてください)	1. 介護老人福祉施設 2. 地域密着型介護老人福祉施設 3. 介護老人保健施設 4. 特定施設入居者生活介護	有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無
④ 開設主体/ 関連法人で 経営している 施設の有無 (あてはまるものすべてに○を付けてください)	1. 診療所 2. 病院 3. 訪問介護 4. 訪問看護 5. 介護老人福祉施設 6. 地域密着型介護老人福祉施設 7. 介護老人保健施設 8. 介護療養型医療施設または介護医療院 9. 特定施設入居者生活介護 10. 認知症対応型共同生活介護 11. 小規模多機能型居宅介護 12. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 13. サービス付き高齢者向け住宅 14. その他 ()	有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無 有 / 無

⑤ 介護報酬上の届出 (あてはまるものに○を付けてください) ※介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設、短期入所生活介護に限る	(介護老人福祉施設) 介護福祉施設サービス費 1. 従来型個室 2. 多床室 ※介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設、短期入所生活介護に限る ユニット型介護福祉施設サービス費 5. ユニット型個室 6. ユニット型個室的多床室 ユニット型経過の小規模介護福祉施設サービス費 7. ユニット型個室 8. ユニット型個室的多床室 (地域密着型介護老人福祉施設) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護費 9. 従来型個室 10. 多床室 経過内地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護費 11. 従来型個室 12. 多床室	ユニット型地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護費 13. ユニット型個室 14. ユニット型個室的多床室 ユニット型経過内地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護費 15. ユニット型個室 16. ユニット型個室的多床室 (短期入所生活介護) 単独型短期入所者生活介護費 17. 従来型個室 18. 多床室 併設型短期入所者生活介護費 19. 従来型個室 20. 多床室 単独型ユニット型短期入所者生活介護費 21. ユニット型個室 22. ユニット型個室的多床室 併設型ユニット型短期入所者生活介護費 23. ユニット型個室 24. ユニット型個室的多床室
⑥ 介護加算 (あてはまるものに○を付けてください) ※介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設、短期入所生活介護に限る	1. 夜勤職員配置加算(介護福祉施設サービス) a. (I) <input type="checkbox"/> b. (II) <input type="checkbox"/> c. (III) <input type="checkbox"/> d. (IV) <input type="checkbox"/> e. (III) <input type="checkbox"/> f. (III) <input type="checkbox"/> g. (IV) <input type="checkbox"/> h. (IV) <input type="checkbox"/> 2. その他 ()	(短期入所生活介護) a. (I) <input type="checkbox"/> b. (II) <input type="checkbox"/> c. (III) <input type="checkbox"/> d. (IV) <input type="checkbox"/> e. (I) <input type="checkbox"/> f. (I) <input type="checkbox"/> g. (II) <input type="checkbox"/> h. (II) <input type="checkbox"/> i. (III) <input type="checkbox"/> j. (III) <input type="checkbox"/> k. (IV) <input type="checkbox"/> l. (IV) <input type="checkbox"/> (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

⑦ 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算届出※介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設、短期入所生活介護に限る	あり	なし	届出予定
⑧ 調査対象日時点の入所者(入院者)数			人
⑨ 定員数			人

(2) 職種別の従事者数

※介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設、短期入所生活介護に限る

医師	人	作業療法士	人
薬剤師	人	言語聴覚士	人
看護師	人	精神保健福祉士	人
准看護師	人	介護支援専門員 (ケアマネジャー)	人
社会福祉士	人	管理栄養士	人
介護福祉士	人	栄養士	人
介護職員 (介護福祉士以外)	人	調理師	人
臨床検査技師	人	その他 ()	人
理学療法士	人		

問2 【介護ロボット導入、活用状況】

介護ロボットの導入、活用状況についてお伺いします。

※別紙の「介護ロボット製品一覧」を参照していただき、ご記入ください。

(1) 施設に導入している介護ロボットの種類 (施設に導入しているすべての介護ロボットを記載してください)

製品コード	導入数	導入時期	製品コード	導入数	導入時期
(ア)	台	年 月 月	(キ)	台	年 月 月
(イ)	台	年 月 月	(ク)	台	年 月 月
(ウ)	台	年 月 月	(ケ)	台	年 月 月
(エ)	台	年 月 月	(コ)	台	年 月 月
(オ)	台	年 月 月	(カ)	台	年 月 月
(カ)	台	年 月 月	(シ)	台	年 月 月
製品名 ()	台	年 月 月	製品名 ()	台	年 月 月
メーカー ()	台	年 月 月	メーカー ()	台	年 月 月

(2) 介護ロボット購入・リース時の費用負担方法 (あてはまるものすべてに○を付けてください)

製品コード	自己負担 成/補助	国・市 町村の助 成/補助	研究協力 による助成 /補助	その他 ※()に記載 してください	製品 コード	自己 負担	国・市 町村の助 成/補助	研究協力 による助成 /補助	その他 ※()に記載 してください
(ア)					(キ)				
(イ)					(ク)				
(ウ)					(ケ)				
(エ)					(コ)				
(オ)					(カ)				
(カ)					(シ)				
その他					(その他)				

(3) 介護ロボット導入のきっかけ・目的 (あてはまるものすべてに○を付けてください)

きっかけ	1. 理事長 (経営者) の判断	① 移 動 支 援 型	② 移 動 支 援 型	③ 移 動 支 援	④ 排 泄 支 援	⑤ 見 守 り	⑥ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	⑦ 入 浴 支 援	⑧ そ の 他
目的	2. 施設長 (現場責任者) の判断								
	3. 現場職員からの要望								
	4. 導入に関して助成・補助があった								
	5. メーカーの営業活動								
	6. 実証研究への協力								
	7. 利用者の負担軽減								
	8. 職員の負担軽減								
	9. 職員の確保								
	10. 職員の離職防止								
	11. ヒヤリット・介護事故の防止								
	12. 費用対効果								
	13. 業務効率化								
	14. テスト導入								

上記の項目 (1~14) 以外の目的があれば記載してください。

① 移乗支援(装着型)	
② 移乗支援(非装着型)	
③ 移動支援	
④ 排泄支援	
⑤ 見守り	
⑥ コミュニケーション	
⑦ 入浴支援	
⑧ その他	

(4) 介護ロボット導入時に配慮した点（あてはまるものすべてに○を付けてください）

	① 移乗支援 (装着型)	② 移乗支援 (非装着型)	③ 移動支援	④ 排泄支援	⑤ 見守り	⑥ コミュニケーション	⑦ 入浴支援	⑧ その他
1. 課題分析と導入目的の明確化								
2. 会議や委員会等を通じた職員への周知と合意形成								
3. 職員を対象とした講習会やトレーニングの実施								
4. Wi-Fi 環境などの物理的環境の配慮								
5. 機器導入による業務見直しなどの業務環境への配慮								
6. データの蓄積・分析								
7. ケアプランへの位置づけ								
8. 機器導入・定着の効果検証								

上記の項目（1～8）以外に配慮した点があれば記載してください。

① 移乗支援(装着型)	
② 移乗支援(非装着型)	
③ 移動支援	
④ 排泄支援	
⑤ 見守り	
⑥ コミュニケーション	
⑦ 入浴支援	
⑧ その他	

(5) 介護ロボット利用時に実施している点

	① 移乗支援 (装着型)	② 移乗支援 (非装着型)	③ 移動支援	④ 排泄支援	⑤ 見守り	⑥ コミュニケーション	⑦ 入浴支援	⑧ その他
1. 利用者へのアセスメント								
2. 利用者本人の意向確認								
3. 利用者の状態と介護ロボットの性能を踏まえた検討（マッチング）								
4. 利用者のロボット利用計画の策定・見直し								
5. 利用者へのテスト利用								

上記（1～5）以外に実施している点があれば記載してください。

① 移乗支援(装着型)	
② 移乗支援(非装着型)	
③ 移動支援	
④ 排泄支援	
⑤ 見守り	
⑥ コミュニケーション	
⑦ 入浴支援	
⑧ その他	

問3 見守り機器導入による効果や変化についてお伺いします。

(1) 見守り機器の対象利用者数

入所者数のうち（ ）名で見守り機器を利用	
見守り機器の導入前後での人員配置（利用者数：職員数（介護・看護職員））	
導入後（平成30年9月末実績）	
（ ）：（ ）（ ）：（ ）	

(2) 「見守り機器を安全かつ有効に活用するための委員会(以降「委員会」とする)」の実施状況

① 委員会の設置 (どちらかに○を付けてください)	あり	なし
② 委員会の構成員数	() 人	() 人
③ 委員会の構成員 (あてはまるものすべてに○を付けてください)	1. 医師 2. 薬剤師 3. 看護師 4. 准看護師 5. 社会福祉士 6. 介護福祉士 7. 介護職員(介護福祉士以外) 8. 臨床検査技師 9. 理学療法士 10. 作業療法士	1. 言語聴覚士 1. 2. 精神保健福祉士 1. 3. 介護支援専門員 (ケアマネジャー) 1. 4. 管理栄養士 1. 5. 栄養士 1. 6. 調理師 1. 7. その他 ()
④ 委員会の設置開催状況	約()回/年	
⑤ 委員会での協議内容 (あてはまるものすべてに○を付けてください)	1. 使い方周知(研修・説明ツール等) 2. Wi-Fi 環境などの物理的環境の配慮 3. 機器導入による業務見直しなどの業務環境への配慮 4. データ蓄積・分析・検証方法 5. ケアプランへの位置づけ 6. 機器導入の効果測定 7. 機器定着化 8. その他()	

問1 (1) ⑦で「あり」又は「届出予定」を選択した方にお伺いします。

(3) 見守り機器の導入状況

① 人員配置状況 (どちらかに○を付けてください)	1. 見守り機器の導入 (0.1 人分の要件緩和) がなくとも人員配置基準を満たしている 2. 見守り機器の導入 (0.1 人分の要件緩和) により人員配置基準を満たしている
------------------------------	--

問1 (1) ⑦で「なし」を選択した方にお伺いします。

(4) 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算の届出

① 見守り機器の導入による夜勤職員配置加算の届出を出していない理由 (あてはまるものすべてに○を付けてください)	1. 夜勤職員配置加算を取得する意向がない 2. 見守り機器の導入 (0.1 人分の要件緩和) がなくとも人員配置基準を満たしている 3. 要件(入所者の15%以上)を満たす見守り機器の台数を導入していない 4. 委員会の設置が困難なため 5. その他 ()
② 今後の届出の移行について (最もあてはまるものに○を付けてください)	1. 届出したい 2. 届出するつもりはない 3. どちらとも言えない、分からない

(5) 導入した機器への慣れ

導入機器に慣れ始めた時期	導入時に困ったことや感じたこと
管理者 月経過頃	
介護者 月経過頃	
利用者 月経過頃	
その他 月経過頃	

(6) 機器導入による介護負担の変化

項目	前回ヒアリング調査時 (平成 29 年 8 月頃) (昨年度の内容を記載)	現在
機器を用いた見守り全般	良い点 課題	
居室訪問	定時訪問回数の変化 随時訪問回数の変化	(昨年度の内容を記載)
排泄介助	居室訪問時間の変化 排泄支援 (随時対応) の変化 排泄支援 (定時対応) の変化	(昨年度の内容を記載)
業務全般	対象者へのケア 職員の見守り業務時間の変化 職員の業務内容・領域変化の可能性 休憩等の時間・仮眠時間の変化	(昨年度の内容を記載)
負担感	身体的負担 心理的負担	(昨年度の内容を記載)

(7) 利用者の生活の質の維持・向上

項目	前回ヒアリング調査時 (平成 29 年 8 月頃) (昨年度の内容を記載)	現在
ヒヤリット事例・介護事故	件数の変化 内容の変化	(昨年度の内容を記載)
対象者とのコミュニケーション	コミュニケーション時間の変化 コミュニケーション内容の変化	(昨年度の内容を記載)

項目	前回ヒアリング調査時 (平成 29 年 8 月頃)	現在
対象者の夜間生活行動・心理状態	対象者の夜間生活行動の変化	(昨年度の内容を記載)
	対象者の不穏行動・症状の変化	(昨年度の内容を記載)
対象者への負担	機器利用に伴う対象者への負担	(昨年度の内容を記載)

(8) 施設運営・管理面の変化

	前回ヒアリング調査時 (平成 29 年 8 月頃)	現在
管理面	機器導入に伴う管理の変化	(昨年度の内容を記載)
	機器導入に伴うマニュアルの変更	(昨年度の内容を記載)
経営面	機器の価格に関するご意見	(昨年度の内容を記載)
	介護ロボット導入に関する経費コストの捉え方の変化	(昨年度の内容を記載)

(9) 今後の機器利用促進に向けた課題とその理由

	課題	理由
機器の操作性		
機器の誤作動		
機器のメンテナンス		
研修や使い方周知		
その他		

問4 [ICT (情報通信技術) 導入・活用]

ICT (情報通信技術) を活用した機器の導入状況についてお伺いします。

- (1) 現在施設で使用している ICT (情報通信技術) を活用した機器 (介護ロボットと運動し得るもの) (あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 介護記録ソフト	7. バイタル機器 (見守り機器の活用による)
2. 介護レセプト作成ソフト	8. バイタル機器 (見守り機器の活用以外)
3. リスク情報管理ソフト (事故・ヒヤリハット)	9. 電話・ナースコール (インターフォンを含む)
4. タブレット・スマートフォン	10. その他 ()
5. 電子メール・パソコン	11. 導入していない
6. インカム	

- (2) 介護ロボットと運動しているもの (あてはまるものすべてに○を付けてください)

	① 移動支援 (看護型)	② 移動支援 (非看護型)	③ 移動支援	④ 非排他型	⑤ 見守り	⑥ コミュニケーション	⑦ 入浴支援	⑧ その他
1. 介護記録ソフト								
2. 介護レセプト作成ソフト								
3. リスク情報管理ソフト(事故・ヒヤリハット)								
4. タブレット・スマートフォン								
5. 電子メール・パソコン								
6. インカム								
7. バイタル情報(見守り機器の活用による)								
8. バイタル情報(見守り機器の活用以外)								
9. 電話・ナースコール(インターフォンを含む)								
10. その他 ()								

- (3) ICT 機器からのデータの活用内容
ICT 機器から得られたデータの活用状況 (どちらかに○を付けてください)

1. 活用している ; 2. 活用していない

[1. 活用している]を選択した方は、具体的な取得データの内容について記載してください。

例) バイタル情報 (呼吸・脈拍数など)

[1. 活用している]を選択した方は、具体的な活用方法について記載してください。

(4) ICT (情報通信技術) の活用について、あなたの満足度に最もあてはまるものに○を付けてください。

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

上記を選んだ理由について記載してください。

--

(5) ICT (情報通信技術) を活用した機器を導入していない理由

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

① 介護記録ソフト	② 介護レポート作成ソフト	③ リスク情報管理ソフト	④ タラシド・マシナオン	⑤ 電子メール・パソコン	⑥ インカム	⑦ バイタル情報 (見守り機器の活用以外)	⑧ バイタル情報 (見守り機器の活用による)	⑨ その他 ()
1. 導入費用が高額								
2. 有効性を期待できない								
3. 利用者の安全面に不安								
4. 職員の安全面に不安								
5. 機器に関する情報少ない								
6. 準備・片付けに時間がかかる								
7. 機器のメンテナンスが大変								
8. 機器を活用した業務改革が必要								
9. 機器の誤作動が不安								
10. 研修や使い方の周知が必要								
11. 機器の操作が難しい								

上記 (1～11) 以外の理由があれば記載してください。

① 介護記録ソフト
② 介護レポート作成ソフト
③ リスク情報管理ソフト
④ タブレット・スマートフォン
⑤ 電子メール・パソコン
⑥ インカム
⑦ バイタル情報(見守り機器の活用による)
⑧ バイタル情報(見守り機器の活用以外)
⑨ 電話・ナースコール(インターフォンを含む)
⑩ その他 ()

ICT (情報通信技術) を活用した利用機器の導入に関わらず、ご回答ください。

(6) 介護ロボット導入、ICT 活用以外に介護の質の向上や業務効率化に取り組んでいることについて教えてください。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 派遣職員の活用 () 人 4. 専門性を活かした業務の分担
 2. 業務委託 (アウトソーシング) 5. 業務効率化についての職員向け研修
 3. 業務の分析 6. その他 ()

問5 今後の介護ロボットのさらなる導入について教えてください。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

① 移乗支援 (装着型)	② 移乗支援 (非装着型)	③ 移動支援	④ 排泄支援	⑤ 見守り	⑥ コミュニケーション	⑦ 入浴支援	⑧ その他
導入したい	導入しない	検討中					

問6 現在使用中の介護ロボットが使用できなくなったりした場合 (製造中止 等) どう感じますか。(あてはまるものに○を付けてください)

1. 非常に困る (業務内容・体制の変更が生じる) 4.それほど変わらない
 2. 困るが何とかなる 5. なくとも良い
 3. 新しい介護ロボットを購入したい 6. その他 ()

問7 介護ロボットに関してご意見をお願いします。【自由記載】(気付き・課題意識等)

--

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

05_実証施設 (利用書票)

(介護ロボットを使った介護を受ける利用者に贈答品を贈ります)

施設管理番号	34_016	対象者ID		記入月	月
--------	--------	-------	--	-----	---

1. 見守り機器について (対象者本人に贈答品をお送りします)

- (1) 贈り物に添えられている機器について、あなたはそのように感じますか。(あてはまるものをすべてに○を付けてください)
- 1 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 2 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 3 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 4 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 5 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 6 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 7 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 8 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 9 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 10 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 11 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 12 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 13 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい
- 14 自分が介護者に喜ぶ姿を遠くまで見てほしい

2. 対象者の変化について

- (2) あなたは贈答品で介護を受ける際、今後も導入されている機器を利用してほしいですか。(贈らなくてもいいものを○を付けてください)
- 1 利用してほしい
- 2 どちらかと言えば利用してほしい
- 3 どちらかと言えば利用してほしくない
- 4 利用してほしくない
- 5 分からない

3. ロボット導入後の対象者に贈る贈答品

- (1) 導入されている機器を使ってみると、対象者の気持ちや行動が変化しましたか、本人に贈答品が欲しいですか、その程度をもっとお送りしてほしいものを1つ選んで、○をつけてください。
- 例示は、(1)能力について、機器を利用しない場合は「0」にし、それと比べて能力が向上したと感じられる場合は「3」に○をつけて下さい。26項目すべてにご回答ください。
- ただし、どうしてもわからない場合は「0」に○をつけて下さい。

	減少したと感じる	増加したと感じる					
1 能力 (生活の大切なことを覚えてくれる)	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 生活の満足度(幸福感)	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 自覚度	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 様々な生活場面もついでに外遊できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 とまひ(固ること)	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 日課を無理する効果	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 自分を好ましく感じる(自尊心)	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 生産性 (たくさんのがたができる)	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 安心感	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 欲求不満 (ワズレラッシュ)	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 自分が世の中の役に立つ (有用性)	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 自覚	-3	-2	-1	0	1	2	3
13 知識を得ることが出来る	-3	-2	-1	0	1	2	3
14 仕事や作業が求めている	-3	-2	-1	0	1	2	3
15 生活がだてもまわっている	-3	-2	-1	0	1	2	3
16 もっといろいろなことが出来る(有能性)	-3	-2	-1	0	1	2	3
17 QOL(生活の質)	-3	-2	-1	0	1	2	3
18 自分の能力を示すことができる (パワーアップ)	-3	-2	-1	0	1	2	3
19 活力 (パワー)	-3	-2	-1	0	1	2	3
20 したいことが思い通りにできる	-3	-2	-1	0	1	2	3
21 恥ずかしさ	-3	-2	-1	0	1	2	3
22 チャレンジしたくなる	-3	-2	-1	0	1	2	3
23 活動に参加できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
24 新しいことが出来る	-3	-2	-1	0	1	2	3
25 日常の生活行動の変化に順応できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
26 チャンスを活かせる	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) 施設職員からみて、今回導入した機器を使ってみると、対象者の気持ちや行動が変化しましたか、その程度をもっとお送りしてほしいものを1つ選んで、○をつけてください。

	減少したと感じる	増加したと感じる					
1 能力 (生活の大切なことを覚えてくれる)	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 生活の満足度(幸福感)	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 自覚度	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 様々な生活場面もついでに外遊できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 とまひ(固ること)	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 日課を無理する効果	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 自分を好ましく感じる(自尊心)	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 生産性 (たくさんのがたができる)	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 安心感	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 欲求不満 (ワズレラッシュ)	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 自分が世の中の役に立つ (有用性)	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 自覚	-3	-2	-1	0	1	2	3
13 知識を得ることが出来る	-3	-2	-1	0	1	2	3
14 仕事や作業が求めている	-3	-2	-1	0	1	2	3
15 生活がだてもまわっている	-3	-2	-1	0	1	2	3
16 もっといろいろなことが出来る(有能性)	-3	-2	-1	0	1	2	3
17 QOL(生活の質)	-3	-2	-1	0	1	2	3
18 自分の能力を示すことができる (パワーアップ)	-3	-2	-1	0	1	2	3
19 活力 (パワー)	-3	-2	-1	0	1	2	3
20 したいことが思い通りにできる	-3	-2	-1	0	1	2	3
21 恥ずかしさ	-3	-2	-1	0	1	2	3
22 チャレンジしたくなる	-3	-2	-1	0	1	2	3
23 活動に参加できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
24 新しいことが出来る	-3	-2	-1	0	1	2	3
25 日常の生活行動の変化に順応できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
26 チャンスを活かせる	-3	-2	-1	0	1	2	3

3. ロボット導入後の対象者に贈る贈答品

- 以下の説明は自由記述になります。
- (1) 介護ロボット導入に伴う利用態様についてのワズレの変化
- (2) 介護ロボット導入に伴う利用態様によってのワズレの変化
- (3) 介護ロボット導入に関する自由記述 (気づき、課題意識等)

06_裏証無敵 (職責票)

(介護業務に従事している職員が記入してください)

施設管理番号	34_016
対象者 ID	
記入月	月

平均的かつ利用時間(勤務日 1日あたり)(過去 3 週間の状況をもとに記入してください)

あてはまる番号に○をつけてください。

1. 導入されている機器について、あなたはどのように感じていますか。(あてはまるものをすべて○をつけてください)

- 導入対象者が介護者に気を配らなくても良い
- 導入対象者が自分でできることが増える
- 導入対象者の心身の負担の防止につながる
- 介護者の身体的負担が軽減される
- 介護者の心理的負担が軽減される
- 介護に係る費用が減る
- 人による介護よりも安全性が高い

(2) あなたは無敵で介護業務をする際に、今後も導入されている機器を利用したいですか。(最もあてはまるものを○をつけてください)

- 利用したい
- どちらかと言えば利用したい
- どちらかと言えば利用したくない
- 利用したくない
- 分らない

2. あなた自身のことについて

(1) あなたの仕事についてうかがいます。(最もあてはまるものを○をつけてください)

	そうだ	まあそうだ	ややらう	ちがう
1 非常時にみんなの仕事をしなければならない	1	2	3	4
2 時間内に仕事を処理しきれない	1	2	3	4
3 一生懸命かなければならぬ	1	2	3	4
4 かなりの注意を集中する必要が有る	1	2	3	4
5 高度の知識や技術を身につけなければならない	1	2	3	4
6 勤務時間外も仕事のことを考えていることが多い	1	2	3	4
7 かなり大変な仕事だ	1	2	3	4
8 自分のペースで仕事ができる	1	2	3	4
9 自分で仕事の進捗や方法を把握することができる	1	2	3	4
10 職場の仕事の妨げに自分の意見が反映できる	1	2	3	4
11 自分の技能や知識を仕事で使うことが少ない	1	2	3	4
12 私の職場内で業務のしんどいところがある	1	2	3	4
13 私の部署と他の部署と仕事が合わない	1	2	3	4
14 私の職場の雰囲気は良好である	1	2	3	4
15 私の職場の作業環境(照明、温度、換気など)はよい	1	2	3	4
16 仕事の内容は自分にあっている	1	2	3	4
17 働きたい仕事だ	1	2	3	4

(2) 最近 1 か月間のあなたの状態についてうかがいます。(最もあてはまるものを○をつけてください)

	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
1 元気がいなくなる	1	2	3	4
2 元気がつくばいだ	1	2	3	4
3 生き生きする	1	2	3	4
4 怒りを覚える	1	2	3	4
5 内心満足したい	1	2	3	4
6 イライラしている	1	2	3	4
7 よく眠れた	1	2	3	4
8 元気がいい	1	2	3	4

	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
9 だるい	1	2	3	4
10 気がつかない	1	2	3	4
11 不安だ	1	2	3	4
12 無気力	1	2	3	4
13 ゆうつだ	1	2	3	4
14 何をやるのも面倒だ	1	2	3	4
15 物事に集中できない	1	2	3	4
16 気がつかない	1	2	3	4
17 仕事の手がつかない	1	2	3	4
18 悲しむ	1	2	3	4
19 元気がある	1	2	3	4
20 体のふしんが軽い	1	2	3	4
21 頭が重かったり頭痛がある	1	2	3	4
22 肩が痛い	1	2	3	4
23 腰が痛い	1	2	3	4
24 目が覚める	1	2	3	4
25 動悸や息切れがある	1	2	3	4
26 無量の機会が悪い	1	2	3	4
27 食欲がない	1	2	3	4
28 便秘や下痢をする	1	2	3	4
29 よく眠れない	1	2	3	4

(3) あなたの周りの方々についてうかがいます。(最もあてはまるものを○をつけてください)

次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか?

	非常に	かなり	多少	全くない
1 上司	1	2	3	4
2 職場の同僚	1	2	3	4
3 配偶者、家族、友人等	1	2	3	4

あなたが話したとき、次の人たちはどのくらい傾いてくれますか?

1 上司	1	2	3	4
2 職場の同僚	1	2	3	4
3 配偶者、家族、友人等	1	2	3	4

あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか?

1 上司	1	2	3	4
2 職場の同僚	1	2	3	4
3 配偶者、家族、友人等	1	2	3	4

(4) 満足度について (最もあてはまるものを○をつけてください)

	満足	まあ満足	やや不満足	不満足
1 仕事に満足だ	1	2	3	4
2 業務生活に満足だ	1	2	3	4

3. ロボット導入後の関係する点について

以下の説明は自由記述になります。

- 介護ロボット導入に伴うあなたのライフの変化
- 介護ロボット導入に伴うあなたのマイメンの変化
- 介護ロボット導入に関する自由記述 (気づき、課題、期待等)